

- qet:di/ səməmə:ɬ pa:ga taqə:an/ pa:ga
女(の) 作る 橋(を) 寝所 橋の
- ² ba:raɯ mussa taqə laqə rissennaɯ mussa
上(へ) 行く 寝る 子(は) 男(の) 行く
- ³ taqə laqə məqə:di/ bəbi:jan musa taqə/
寝(に) 子(は) 女(の) 夕(日暮) 行く 寝(に)
- ⁴ məgəre:bɯ tsə:man pə:rai bə:bɯ na/
早朝(夜明) 朝 炊く 母(は) 彼等の
- ⁵ ginno laqə ma dijan balai/ taji tsəmə:bɯ
何處 子(は) (間投詞) 晝 晝 見よ 射る(を)
- ⁶ hi:daɯ/ te:jal ba:lai taqə:ɬən laqə/ sa:ji
太陽(の) (間投詞) 晝に 寝る 子(は) 行く
- ⁷ təmɬtɬi mə-ekkan ham pə:rai/ dijan
起し(に) 食べる (助) 炊く 晝
- ⁸ ba:lai/ mahata nə-əppah/ muša di tə-
晝の (行く)我々は 島(へ) 行く (助)
- ⁹ mɬtɬi di/ moa namo inɬi tɬtɬi dijan/
起す (助) 何故に 汝等(は) ない 起き 晝
- ¹⁰ inɬi kilɬ gə:lo tɬ:ɬən ni/ hamɯwa laqə ni/
(否定)能(?) 動く 起きる 此 何故に 子 此
- ¹¹ hamɯwa laqə taqə/ mowa inɬi tɬtɬi/
何故に 子(は) 寝る 何故に ない 起き
- ¹² ɬa:hai mitta tikkoh/ laqə han/ mowa
来れ 見(に) 少し 子(を) (助) どんな
- ¹³ ba:lai ɬikko/ ma/ tsə:da laqə/ saan
晝の (間投詞) (間投詞) (間投詞) 子 行くところ
- ¹⁴ demooi ba:ga təmɬtɬi/ niɬi skappah be-
握りに 手(を) 起す 此 附着する 腹
- ¹⁵ rah/ soku:da mlə:wa təlamawai ta tikkoh
其故に 呼ぶ 試みん 我々は 少し
- ¹⁶ kəmə:ɾɾt laqə niɬi/ ma/ niɬi mkakappah
切り割るを 子を 此 (間投詞) 此 附着する
- ¹⁷ dessaini tikkoh ja:ɬi/ lɬppa:ɬai ta han/
持ち来れ 小 刀を 依頼する 我々は (助)
- ¹⁸ tikkoh han/ hamɯwa namɯ di/ inɬi
少し (助) 如何なるや 汝等 ない
- ¹⁹ reppaɯ/ ma tsə:da di ɬiko/ taləp kəmə:ɾɾt
返事し (間投詞) (間投詞) (助) (間投詞) 試みる 切り割
- ²⁰ ɾɾt ja:ʔana ɬhhaɬ pku:ɬɬas/ laqə nakkah
るを 恐らくない(否定) 息を吹き返さ 子 悪い

1. pa:ga 橋型の小屋(地上3-4米の高さ)、「青年集會所」の
一形式。未婚青年の寝所 (taqə:an) なり。
taqə:an taqə-an <taqə 寝る, -an 「場所」。
5. taji ta-i <mita 見る。「命令法」。
6. sa:ji ta-i <musa 行く。
9. moa =hamoa
10. kilɬ kila?
tɬ:ɬən <tɬtɬi 起る。

作った橋の上へ男の子は寝に行つた
女の子は寝に行つた、夕方寝に行つた、
夜明に母は御飯を炊いた「御天道様か
出てるのにまア子供は何處にゐる
んだらう、陽が射して来たぢやないか、
オヤオヤ子供はまだ寝てるよ、起し
て御飯を食べる事にしよう、晝になつ
ちやつた、私達は島へ行かなくちや、起
しに行きませう、明るくなつたのに御
前さん達は どうして起きないのかい、
起きようと身動きもしなんだね、此
の子はどうしたんだい、どうして寝て
ゐるの、なぜ起きないの、一寸と子供を
見に行くことにしよう、どうしたこと
なんでせう、まア、驚いたね御前さん達
は、手を取つて起しませう、お腹がくつ
ゝいてゐるわ、それちや[人]呼んで此
の子を切り離すやうに一寸やつてみ
ませう、まア、くつゝいてますから小刀
を持つて来て下さい、お願ひします、一

12. ɬa:hai <me:daɬ 来る, -ai 「命令法」。
13. saan sa-an <musa 行く。
14. skappah 比較. mkakappah.
17. dessai:ni <madis 持参す, des-an (場所) -i (命令)。
19. reppaɯ 「言ふ」 mreppaɯ ini の時は語根を用ふ。
taləp <talam.
20. pku:ɬɬas <ɬɬas 息。

- ¹ da/ kərettɯn ki:da di/ mahe:ɬɯ kəmə:ɾɾt/
(助) 切られるもの 其 (助) 終る 切りを
- ² hoqqəl kanna di/
死ぬ すべて (助)

寸、お前さん達は どうしたの、返事しな
いわ、まア驚いたね、切つて見ませう多
分命がありますまい、仕様のない子供
達だ、切つてゐた、切り終つた、二人共死
んだ。

1. kərettɯn <kə-mə:ɾɾt 切る。

VIII

ブヌン語

語法概説

及び本文

ブスン語語法概説

I. 分 布

ブスン語は主として臺中州, 其他高雄州, 花蓮港廳, 臺東廳下に住するブスン族 (17,926 人昭和五年調) の用語にして, 臺中州下のブスン族は千卓萬蕃, 卓社, 達啓, 竟加蕃 (或は卡社蕃), 丹蕃, 轆蕃, 郡蕃に分類せらる (蕃族調査報告書等), 言語地理的に見れば北部方言 (カンタパン蕃, 卓社蕃, 卡社蕃), 中部方言 (丹蕃, 轆蕃), 南部方言 (郡蕃) の三類に分つを妥當とす。高雄州, 臺東廳のブスン族 (所謂高山蕃或はシブクン蕃) の言語は南部方言系統にして花蓮港廳のブスン族には中部方言南部方言錯綜す, 三方言の別は音韻變化に明瞭に現はる。

北部方言	中部方言	南部方言
q	q	x/ɣ
k	k	k
h	h	(消失)
ts	s/ʃ	s/ʃ [註]
ʃ	ʃ	ʃ [註]
l	l	l

[註] s と ʃ との區別は中部方言に於て若干混亂す, 南部方言に於て其混亂更に甚しく, 北部方言の如く明瞭に二者を辨別する語意識無きが如し (參照: 南部方言 I イバホ社)

調査は臺中州下ブスン族に於てなせしものにして, 北部方言は卡社蕃タマロツン [tamaɔowan] 社, 中部方言は轆蕃人倫 [landun] 社, カトグラン [katopulan] 社, 丹蕃丹大社 [asapdepad], 南部方言は郡蕃イバホ [ivaxo] 社, 郡大社 [asapdeppad] に於て資料採録せり。

II. 音 韻

1. 母音, [i], [ɪ], [e], [a], [o], [ɔ], [u], [ə], [u].
 1. [i], [ɪ], [e] 及び [o], [ɔ], [u], の相換することあり, [i], [u] は各々基本母音第一號及び第八號より可なり廣し。
 2. 弱音化, 人倫方言, 南部方言は a>ə の弱音化あり。s/ʃ の後の u は u に中音化することあり。(人倫方言)
 3. 重母音, [ai], [au], [ei], [ou]. 重母音の相互同化及び更に進み單音化すること

あり。ai>aē>aē>e aū>aū>o eī>eī

4. 子音, 兩唇音 [p], [β], [w], [p], [b], [m]; 唇齒音 [v]; 齒音 [θ], [ð], [d]; 齒齶音 [t], [d], [s], [ʃ], [l], [r], [ɹ], [ɹ], [ts], [ts], [n]; 硬口蓋音 [j]; 軟口蓋 [k], [g], [ŋ]; 懸垂音 [ʔ]; 聲門音 [h], [ʔ]

- [b], [d], ブスンの b, d, は各調音部の閉鎖と共に聲門を閉じ、開放と共に聲門を開く二重調音なり。[d]は反轉音傾向あり(特に辯蕃に於て甚しく[d]と記載するを妥當とす)。
- [d], 舌端は齒裏に當り、舌尖は齒の先に出づ、舌端と齒と接觸の壓力の差により [t], [l], [ð] の三種の響を生ず。接觸甚しく密着するときは [t] となり、一部間隔生ずるときは側音的となり [l], 緩き時は [ð], 辯蕃には [t], [l] の響比較的多く、郡蕃には [ð] の響比較的、此音は音節の終音のみに存在す。
- [v], [β], 話者に依り [β] を用ふれども、主として兩唇的 [v], 然れども摩擦少なく始音に於て母音的 [u] に近きことあり。vale > uale [命令、願望] の助辭は aβ となること多し(イバホ社)。
- [F], [o], [u] の前の [h], [x] は始音に於て [F] 下に變ずることあり。Futton 猿(人倫社), Fomma [鳥](イバホ社)。
- [x], 北部方言中部方言 [q] は南部方言に於て [x] に變化す。而して [x] は音節の終音に於て其調音部位を後退せしむ。(適當なる實驗をせざれば其部位の認定困難なれども、恐らく懸垂音ならん。今假りに [x] にて記號す)。
- [s], 中部南部方言 [s] は、缺齒のため氣息側方よりも漏洩し、擦音的効果多くなり、[s] の響に近き一種特別の音を作る。
- 終破裂音, 終音の破裂音は無破裂的(但し原文には表音せず)。
- 音節切斷, 音節の切目甚しき場合あり, [ʔ] 或は [ʔ] を以て示せり。tinu-un, paʔav, nipʔav.
- 揚音, A, 最後の音節に来ること多し: dabos 酒, sakūt 美仔, bananād 男, B, 最後より第二の音節に来るものあり: dānum 水, xolʔbo 毛, C, 最後或は最後より第二の音節に来るものあり: bunun / b̄unun 人, kana / toppin / kana / toppin 終了せり(上例はイバホ社方言)。

III. 形 態

- 反覆, mudadaan 歩く <daan 道, tutuda 極めて眞實なる <tuda 眞實, atikkis

極少 <atikkis 少。

- 接頭辭, ma-, mi-, min-, mu-, moŋ-, maī-, ta- taī-, ti-(tin-), tunu-, tana-, pa-, pin-, i-, iši-, la-(la- 南部方言), matši-, patši-, ka-, mit-, take-, malan-, mako-, maki-, pat-, sale-, mal-, kal-, tal-, kau-(ko-), sau-(so-) 等。

上記の接頭辭中語原上複合接辭に屬す疑あるものあれども今假りに接頭辭に分類す。

kau-, sau- は前置詞と見るも可なり。

- 挿入辭, -in-
- 接尾辭, -an, -un, -in.
- 複合接辭, mapa-(ma+pa), maka-(ma+ka), mini-(m-in-i), maiŋ-(maŋ-) (ma+iši), miŋ-(mi+iši), piŋ-(pi+iši), pini-(pi-in), pina-(pi-na “處”), pana-(pa+na), paŋ-(pa-iši), paka-(pa+ka), (i)šin-(iŋ-in), tiŋ-(ta+iši), -anin (an+in), -unin (un+in) 等。

IV. 品 詞

- 動詞, [分詞形]接尾辭は -an 及び -un にして、述語動詞として用ひらる。例 šidaun a boŋpo [頭は取ルモノ即ち「頭を取る」]。「過去」は挿入辭 -in- 或は接尾辭 -in を以て示す。「未來」を示す助辭として na あり。
- 冠詞, ブスン語の接綴詞の結辭は又冠詞的結辭として用ひらる、本質的には a (南部方言 xāi), e は純粹の結辭にして、as, is は冠詞なりしならん。然し現今のブスン語に於て兩者の區別明瞭ならず、又名詞に常に冠詞を附せず可なり、任意的なれば、純粹の冠詞と稱し難し、故に茲には冠詞的結辭として分類することにせり。冠詞的用法を舉れば、
 - 主格を示す: tsaivanin a take atso [犬糞は與へられし物](タマロツン原文10第644頁10行), minuʔunin viŋviŋ as qolʔbo [髪は尾に成れり](タマロツン原文11第645頁13行), maðav aŋ binanawad [女は恥かし](丹大原文19大632頁20行), tuppā aŋ bowan [月は云ふ](イバホ原文3第655頁16行)。
 - 與格、對格等を示す: kombojen iŋ taŋso [茅原へ入れり](タマロツン原文12第646頁10行), pindaŋue e poklav [芋蟲を起せよ](タマロツン原文1第638頁2行), maasik es boqəvan [庭を掃く](タマロツン原文10第644頁9行), tanuʔale ke saðoʔso [サツソを招待す](カトグラン原文6第599頁7行), kalat iŋ tunuhilan [腰巻に喰附く](丹大原文19第633頁4行), su:lan buŋpo mas iŋxalidapan [頭は木

豆汁を以て注がる(イバホ原文8第663頁5行),

	北部方言	中部方言	南部方言
1. 主格:	as (a) (at)	as	aş
2. 與格對格其他: (e) is		is (e/ke) ¹⁾	maş ²⁾

(註) ① 母音の後に於て ke. 他の方言に於ても同様の現象あり得べき筈なれども集められたる原文にかゝる ke の例未だなし。
② 高雄州のシブケン蕃には is の形あり。

3. 代名詞, 代名詞には方言的差異可なりあり。中部方言カトグラン社の代名詞を主體として其主なるものを畧記す。

1. 人稱代名詞

	第一人稱	第二人稱	第三人稱
單數 主格	1. ðakko 2. ðakkuḡ 3. saak	şoo / soo soowaḡ aşo	sija { ~te 此處 ~ta 共處 ~ðaiða 遠方
頭格	1. naak 2. inaak (私のもの)	şoo işoo	nija

複數

(對話者を除く)	單, 複共に用ひらる	多數の場合
主格	1. ðammi moo 2. ðammiḡ moowaḡ 3. saam saamo	naite 此處 (naiton 共處, naita 遠方) maḡke 此處 (maḡkon 共處, maḡka 遠方)
頭格	1. naam mo 2. inaam imo	inaite (inaiton inaita) inaimaḡke (inaimaḡkon, inaimaḡka)

(對話者を含む)

主格	1. ata 2. itaaḡ 3. ata / atta
----	-------------------------------------

頭格	1. mitta 2. imita
----	----------------------

2. 指示代名詞

此	dike	共	dikon
---	------	---	-------

[處]の副詞は指示代名詞として用ひらるゝ。

ite (南部方言 saentsin) 此處, 此。 ita (南部方言 saentsa) 共處, 共。 ðaiða あすこ, あすこにあるもの。

4. 接辭 to, 修飾語と被修飾語は結辭なしに結合し得。 tave lumaḡ [家の屋根], 修飾語は後置せらるゝこともあれば又前置せらるゝこともあり, maðaiḡ lumaḡ [大なる家結辭 to を以て結合すること多し, bantaş to tanufo [足の指] (イバホ原文3第654頁17行), atikkis to bunun [極少の人] (カトグラン原文6第598頁15行), 修飾語は先行することもあれば, 後に來ることもあり (多くの例は先行), obon to tomad [熊の體] (イバホ原文6第660頁18行), lumaḡ to atikkis [小なる家] (カトグラン原文6第598頁16行)。

to は代名詞と共に用ひらるゝことあり, isija to bananad [其の男] (イバホ原文4第658頁3行), ni [否定], ka [禁止]と共に用ふ, ni to antala [受けず] (イバホ原文4第658頁3行), ka to maun [食す勿れ], tuppa [云ふ]と[云ひし事柄]を結ぶ爲めに用ふ, tuppa bunun to [人は何々と云ふ] (カトグラン原文11第624頁19行)。

5. 接續詞的接辭, 接辭 a (ka), xai, at, e は接續詞として用ひらる。

1. [主題][條件]を示す, sija binana²ad a maqaḡjo sija pinainok bunun [其女は其男の上衣を盗む] (丹大原文3第618頁7行), ma²e maşaşoḡ²hoðaḡ a [若し貧乏なれば] (丹大原文5第620頁11行), maşa [aniḡ²avanin xai [洪水になりし時] (イバホ原文2第652頁2行), muşauxen niḡ²av at [洪水の退きし時] (イバホ原文2第652頁12行)。

2. [理由]を示す, laḡat e haḡða lato [皮衣ある故に都合良し] (タマロワン原文9第643頁10行), matalişkaḡ e atikkis [小なる故に速し] (丹大社原文6第621頁15行), ka²aun e ukka xabis [女陰無き故に不要] (丹大社原文2第668頁10行)。

南部方言は xai at と xai 及び at を結合して用ふことあり, 冠詞的接辭は總て接續詞的に用ひられ, 冠詞か接續詞か判別し難き場合あり。蒐集せる資料中に現はる接續詞的接辭を挙げれば,

	北部方言	中部方言	南部方言
1. [主題]	a / ka ¹⁾ at	a / ka ?	xai at (aş)
2. [理由]	e	e / ke ¹⁾	e

註 1) 母音の後に於て ka, ke,

6. 接尾辭的助辭,

1. 北部方言タマロワン社に於ける調査に依れば, -a, -e, -au/-au¹⁾の三種の[命令]を示す助辭あり, 各々其意味を異にし, -aは對照物の「遠く」にある時, -eは對照物の「近き」にある時, -auは「一般的」「未來」の場合に用ひらる, -a > itta 其處, -e < itte 此處より發生せるものと考へらる。

{	šadoa	(其處を)見よ
{	šadoe	(此處を)見よ
{	šadoaū	見張をせよ
{	kaūna	(自己の食器にある物を勧め)食べよ
{	kaūne	(相手の手に食物を入れ)食べよ
{	pakaūnaū	(留守中家畜に飼料を與へることを頼む時)食せよ
{	taŋqaia	(近くに無き品物を)盗め
{	taŋqaiē	(現に目前にある品物を)盗め
{	tanua?e	(現に話しつつある事を)聞け
{	tanu-aū	(これより話す事を)聞け

註1) タマロワン -au/-au > 丹大社 -ar, イバホ社 -ar/ab.

2. -aŋ 「繼續」を示す, 三方言共此助辭屢々用ひらる。

7. 助辭 dāū 物語中に屢々現る助辭にして, 正確なる意義未だ不明なれども自己の直接經驗にあらざる事を述ぶる時, 或は聞きし事を再び話し傳ふ時に dāū を用ふものの如し。

1. 中 部 方 言

1. 轡蕃(カトグラン社)
(katogulan)1. lanig'avan
洪水

6. ma:q nam maɬadɛŋɔad a / maɬnahaan
(註) 我々の 先祖は (結) より
7. lamoppān munuhaan tansimmok ta /
(地名) 社寮 まで (地名) 轡大社附近地 其處の
8. lakowan ɬau ihaan ilokaŋ ta / haida
ある時に (助) に於て (地名) 其處 存在する
9. maɬaiŋ ivot / sijata laqkut ɬanom / oppa
大きな 蛇 彼れは 止める 水 其故に
10. lanig'avanin / ukka'in šadowan ɬalaq /
洪水になつた なくなつた 見えること 土地
11. ma:q aɬam a muɬbaje munuhaan sav-
我々は 逃げる に 新高
12. jeq si:n hinoqādan ta / ukka tilas kaunun
山 及び 轡社大山 なし 穀物 食物である
13. a / taltaɬ'a titte ma?on / haida ɬau haan
許り 肉 食ふ 存する 於て
14. savjeq ta šappod / sija takehaan hinoqa-
新高山 其處 火 彼等 の人々 轡社大
15. ɬan ta maskalun e kulpa / pašida šappod
山 其處 命ず (結) 墓に 取らす 火

1. 洪 水

- 私達の先祖が, ラモガンから タンシ
モツクに移つた頃の事ですが, 大蛇が
イロヤンに住んで居て, [河の]水を堰止
めたので, 洪水になつて, 地面が見えな
くなつてしまつた。
私達は新高山と轡社大山に逃難し
たが, 食べる穀物がなくて, 肉許りを食
べてゐた。新高山に火があつた。轡
社大山の人々は墓に命じて, 新高山に
火を取らせにやつたが, 水を漕つたの

採録期: 昭和五年八月。

口授者: カトグラン社 (katogulan) pajan tannapimma
(男, 當時推定 65 歳)

復讞及説明者: パラサゴン社 (palasagon) bijon sokul-
man (男, 當時 29 歳) pajan 原口授を bijon の復
讞に依り記録す, 説明者は可なり進歩したる日本
語の知識を有し彼の説明は信頼し得。

6. ma:q 物語の初の詞, 「さて」「…の事ありき」
maɬadɛŋɔad 比較, dɛŋɔad 大 > maɬɛŋɔad 成人, 老
人, 親。

a 結合辭, 參照, 文法 IV. 5. 主題を示す。
maɬnahaan < haan 於て。

7. munuhaan < haan 於て。
ta- < ita 其處, 「處」を示す接頭辭 i. -ta 目前に無き
地の地名にす ta を添加す。

8. lakowan 595頁 16行, lakowaŋ 原文 4, 第596頁 8行
等, lakowaŋ は本來の形にして d の同化に依り齒音
n になりしものか, -aŋ 參照, 594頁, 註17。

dāū 「想像」「不明瞭」の意的助辭 物語等の自己の經
験せざることを述べる時に屢々用ひらる『だそうだ』

ihāan i-hāan i- 「處」を示す接頭辭。

9. sijata si'a-ta (其處) 目前に居らざる人, 比較, sijate
(te 此處の) 目前に居る人。
oppa 接頭辭, 比較, moppa。

10. lanig'avanin la-nig'av-an in < nig'av 海, 湖, 接頭辭
la- 「被覆」 參照, イバホ原文 2, 第652頁, 註 1.
ukka'in ukka-in < ukka 欠く。

šadowan šado-an < šado 見る。

11. muɬbaje ɬɬbaje。

13. a ukka tilas kaunun と taltaɬ'a titte ma?on を結
合す, 「而して」位の輕き意味に譯して宜し。
taltaɬ'a < taɬ'a

14. takehaan take-haan 接頭辭 take- 「の地の人々」比
較, taketudɔ 轡社蕃人, takeisaq 何地の人。

15. e 結合詞, 參照, 文法 IV. 5. この用法は冠詞 前
置詞に類し, 「墓に對し火を取ることを命ず」
kulpa 墓は魔力を有するものと「アメン」は信ず, 暴風
雨を止むる呪文を唱ふ際に墓を焼く。

pašida pa-šida < šiða 取る, ra- 「使役」接頭辭。

- ¹ haan savjeq ta / musqo şappod kulpa e /
に於て 新高山 其處 消ゆ 火 藁 (結)故に
- ² latboq haan danum / şin salinuttad işika-
沈む に 水 而して (鳥の名) 命ぜられ
- ³ lunan şida şappod / musqo dau şappod /
た 取る 火を 消えた 火は
- ⁴ e paswaji / şin kaipiş işikalunan şida
故に 未完途中で止む 而して (鳥の名) 命ぜられる 取る
- ⁵ şappod / şin kaipiş şida / mouppa adam
火を 而して (鳥の名) 取る その故に 我々は
- ⁶ maşamo mapattad kaipiş şin kulpa /
禁忌 殺す (鳥の名) 及び 藁を
- ⁸ haıda dau taş'a kalañ / masalpo dau
有る 一 蟹 心配する
- ⁹ kalañ e bunun e lanip'avan / tuppā
蟹 (結)に對し人 (結)のため 洪水 云ふ
- ¹⁰ dau kalañ to / aša mapakahau ivut /
蟹は (結)と 欲する 開ふな 蛇と
- ¹¹ tuppā kalañ to / şoo (w)a ivut tappuş
云ふ 蟹は と 汝は 蛇は 始めに
- ¹² kalat dakko / kalatun dau ivut kalañ a /
咬め 私を 咬まれたもの 蛇は 蟹に
- ¹³ ni to matađ e maqaitqait / şin kalañ
なし (結) 死ぬ (結)故に 壓き 而して 蟹は
- ¹⁴ maqaltis ivut a / pinduşa'un maqaltis a
鍔で切る 蛇を 二個にせられたもの 鍔で切り
- ¹⁵ matađin / mattađin ivut a / musa:uqin
死んだ 死んだ 蛇 引いた
- ¹⁶ danum / oka muqnin haıda dalaq /
水 再び ある 土地
- ¹⁷ maq adam a muşoqaisin tansimok ta /
我々は 歸つた (地名) 其處の
- ¹⁸ ukka'in amin tilas e maqannojen /
無くなつた 總ての 穀物は 故に 流れた

1. musqo /sqo 變化形: musqon, isqoje, sqoje.
2. salinuttad 嘴赤色, 火を運びし説話の發生せし原因か.
işikalunan işi-kalun-an < /s/ kalun, maskalun 命
ず, 接頭辭 işi-
4. paswaji 比較. maswaji 不足す. munu'ivaqo ka
paswaji haan daan イハオ社へ行かんとせしも途中
にて中止す.
6. maşamo 慣習法により禁止せらるる行爲, 廣義の tabu.
mapattad ma-pa-ttad 殺す, mattad 死す.
kaipiş 嘴赤色.
9. to tuppā to ... と云ふ.

で、藁の火が消えた。次にシラヌツタ
ル鳥が火を取つて来るように命ぜら
れたが途中で火が消えた。次にカイ
ビン鳥が火を取つて来るように命ぜ
られた。カイビシ鳥は取つて来た。
それ故に私達はカイビシ鳥と藁を殺
してはいけないことになつてゐる。

一匹の蟹が居た。人々が洪水に逢
つてゐるので[蟹が]心配して、云ふやう
には、「蛇と闘つてみたい」「蛇君がさき
に私を咬み給へ」と蟹が[蛇に]云つた。
蛇は蟹を咬んだが堅いので死なない、
次に蟹が蛇を鍔で切つたところが、二
つに切れて死んだ。蛇が死んだので
水が退いた。再び陸地が出て来た。

さて私達はタンシモクに歸つたが、
すべての穀物は流されたため無くな

10. mapakahau ma-paka-hau? <mahau 怒る?
12. kalatun kalat-un.
13. ni to matađ 動詞と其否定詞 ni の中に結合辭 to 來
る。
14. pinduşa'un p-in-duşa-un <duşa 二, p-「使役」-in-
過去, -un 分詞。
15. matađin matađ-in, -in 過去。
16. musa:uqin musa:uq-in <musa:uq 退水す。
17. muşoqaisin mu-şoqais-in.
18. maqannojen maqanno (流る) -in

- ¹ taş'in naşsa mađoq dao şikaka hañ
一 房 粟 掛る 於て
- ² tabikunnad / mouppa maşamo malađut
(一種の藁草) その故に 禁忌 引抜く
- ³ tabikunnad e minnañ mađoq / mouppa
(一種の藁草) (結)に當り 播種 粟の その故に
- ⁴ minuva:đin bantalañ / şin minuva:đ
分離した 花蓮港下の(ブヌ)族 而して 分離する
- ⁵ takebaka / şin minuva:đ takevatan /
卡社蕃 而して 分離する 丹蕃

つてゐた。一房の粟がタビクナズ草
に引掛つてゐた。それで粟を播く時
にタビクナズ草を引抜くことは禁忌
となつてゐる。そういふ譯で(即ち食
物が缺乏したから)花蓮港廳下の[ブヌ
ン]族が私達から分れた。それから卡
社蕃と丹蕃が分れた。

2. tuppā to kana'asañ vale

- 話 射る 太陽
- ¹⁰ kanaqtoñjin lanip'avan / haan adam
終つた 洪水 に於て 我々
- ¹¹ tansimmok ta mal'asañ / maq tud'eep a
(地名) 部落を作る 其の時
- ¹² duşaan vale / muqqaiv taşa vale / moqna
二個 太陽 沈む 一 太陽 再び
- ¹³ minşamma taşa maşmuvav mabaqqais
現れる 一 甚しく 熱い
- ¹⁴ vale /
太陽
- ¹⁵ haan işikalmuttan ta mattađ ovađ'ađ /
に於て (地名) 死ぬ 子
- ¹⁶ moppa maşmuvav mabaqqais vale ka
その故に 甚だ 熱い 太陽
- ¹⁷ mattađin / maha:u tama muđaan kanaşan
死んだ 怒る 父 行く 伐つ
- ¹⁸ vale / mađas tatine ovađ'ađ / tama aqşos
太陽 連れて行く 一人の 子 携帯する
- ¹⁹ bussul / mađas tilas / pañ naşsa matmuđ
弓 持つて行く 穀物 四 房 入レル
- ²⁰ kuskus tilas / ki:b masowađ iðok / mala-
爪 穀物 後に 植う 蜜柑 粟を引つた
處に於て

2. 太陽征伐の話

洪水が終つて私達はタンシモクに
住んだ。その時代には太陽が二つあ
つて、一つが沈むと、一つが再び出て非
常に熱かつた。

イシカルムツタンで子供が死んだ。
太陽が大へんに熱かつたため死んだ
のです。父は怒つて太陽を征伐に出
掛けた。一人の子を連れ、弓を携帯し、
四房の粟を爪の間にに入れて行つた。
蜜柑の木を植ゑた後で、太陽の出る處

1. taş'in taş'a-in.
3. tabikunnad 藁草の類, 播種前に鳥より引抜くことは禁
忌, 但し播種後は差支なし.
10. kanaqtoñjin kanaqtoñ-in (過去).

11. mal'asañ <asañ, 蕃社村.
12. duşaan duşa(=)-an
16. ka 結辭, a に同じ, 但し子音の後に a の母音の後に
ka.
18. tatine 人數を示す數詞.

- 1 şoŋ haan inşommaan vale / minşomma
射つ 處で 出る處 太陽 出る
- 2 sija mapatađ ovađ'ad vale ka panaqon
其の 殺す 子を 太陽(結)時 打たれた
- 3 tama / sandfoon matta vale / oppa san-
父に 當てられた 日 太陽 その故に 當て
- 4 ōoon matta vale ka neeŋ mabaqqais /
られた 日 太陽 なし 熱く
- 5 oppa minuunin ōowan /
その故に 成つた 月
- 6 şinapun ōowan bunun / punuhaan
後を追はれた 月に 人は 迄
- 7 şipađan ta / itta dau ōamo:n ōowan
(地名) 其處 捕へられた 月に
- 8 ōunun / maaqaşijok haan jimma / oppa
人は 抜け出る 處で 手 その故に
- 9 atikkis bununa / ni: to maqto ōamo:n
小さい 人 なし 出来得 捕へられた
- 10 ōowan / sija ōowan makosija tanuŋoq
月 彼等 月 を以て 指
- 11 matonippaq mađamo /
唾を吐く 捕へる
- 12 haan baban ta palikansi:ap ōowan e
に於て (地名) 相談する 月 と
- 13 bunun / tuppa ōowan to / asa qailis
人 云ふ 月 欲す 常に
- 14 luş'an koppa ōowan minşumma / sija
祭 毎に 月 出る 彼等
- 15 bunun masaaive buwan tappaha e tolkok
人 典へる 月 織物 雞
- 16 a babo şide aso / kusajan ōau tappaha
豚 山羊 犬 を以て 織物
- 17 ta mahimma mata buwan / şađowanap
拭ふ 目 月 見られた
- 18 amin loppako tappaha ta /
昔 今 織物
- 19 ma:q to nijap panaqon vale ka / taşa
未だ…ない 撃たれた 太陽

で隠れて待つてゐた。彼の子を殺し
 た太陽が出た時に父が射た。太陽の
 目に當つた。太陽の目に當つたから、
 熱くなくなった。それでその太陽は
 月になった。

月は人をシバザンまで追ひ掛け、そ
 こで月は人を捕へたが、手の[指の]間か
 ら抜け出た。人は小さいので、月は[人
 を]捕へられなかつた。月は指に唾を
 附けて捕へた。

ババンで月と人が相談した。月が
 云ふやうには「月が出る毎に常に祭を
 行つて欲しい」。その人は月に織物雞
 豚山羊犬を典へた。月は目を布で拭
 った。其の布を今でも皆が見る。

太陽がまだ撃たれなかつた時代に

1. inşommaan inşomma-an < minşomma 出る、-an 「場所」。
 2. panaqon panaq-on < manaq 撃つ。
 3. sandfoon sandfo-on < sandfo 命申す。
 4. neeŋ ne-ep, ne (否定)の過去、-in > ep, なるも neeŋ と發音す、現論上 neen / nein。
 5. minuunin 現在 minuuni 成る。
 6. şinapun şinap-un < şinap 追ふ。

punuhaan punu-haan。
 7. ōamo:n ōamo-on < mađamo 捕ふ。
 11. matonippaq < nippaq 唾、mato- 比較 mato-qowa 吐く。
 12. palikansi:ap 比較 makansi:ap 上手なる。
 17. mahimma < jimma 手、j- > h。
 şađowanap şado-an-ap -ap 「將來への繼續」。
 19. nijap ne-ap, -ap 註 17。

- 1 tilaş pitijawun / maqto papija bunun
穀物 炊かれた 出来る 可なりの 人
- 2 ma'un / haiða bunun minu'uni huttoŋ /
食ふ ある 人 變る 猿
- 3 mađija mimpakaliva / oppa ma:q adam
多く 奇蹟 その故に 我々は
- 4 luş'an e maku'is buwan şiu moubu bu-
祭 新 月 及び 滿
- 5 wan / moppa maşihalin adam bunun /
月 その故に 良くなつた 我々は 人

は、一粒の粟が炊かれると、可なり澤山
 の人が食べる事が出来た。猿になつ
 た人もあつた。奇蹟が澤山あつた。
 私達が新月や満月の際に祭をするや
 うになつてから、私達の状態が良くな
 った。

3. bitaqol
瓢箪

3. 瓢 箪

- 9 ma:qo qabaş ukkaap tilaş a / sija ta-
昔 未だ無い 穀物
- 10 qqol pili'uni tilaş / sija akke e pinilumaq
瓢箪 代理す 穀物 その 男 嫁(男に對して)
- 11 minanuwad / muşkun maqoşba taqqol /
女 一所に 除草する 瓢箪
- 12 maşu:đ'ak taqqol a / labanaqan akke
密生する 瓢箪 間引せられた
- 13 malabut / pişitaba:un işimuit a / mişhamu
抜く(地から草を) 焼かれた 草 加へる
- 14 bitaqol mişitaba / sija binanuwad taşkun
瓢箪 焼く その 女 共に
- 15 qos'ul mund'adaan deqanin /
烟 登る 天
- 16 lakowan dau ma haiða atikis bitaqol
ある時 ある ある 瓢箪
- 17 minuhaan deqanin munasito işikuşan
天 下へ 吊された
- 18 turme / paşqailap ovađ'ad / alkokusan
糸 玩で 子 手にとられた

昔穀物が無かつた頃は、瓢箪が穀物
 の代りになつてゐた。男と嫁が一緒
 に瓢箪(高)の除草をした。瓢箪が密生
 してゐたので、男は間引をした。草を
 焼く時に、瓢箪も一緒に焼いた。する
 とその女は煙と共に昇天した。

ある時天から下界へ小さな瓢箪が
 糸にぶらさがつて降りて来た。彼女
 の子供は玩んだ。子供は瓢箪を手

1. pitijawun pitija (炊く)-un。
 papija 若干、可なりの數の pija 「幾何」の反覆形。
 5. maşihalin maşihal 「良き」の過去。
 9. ma:qo ~ ma:q
 ukkaŋ ukka-ap, ukka 欠く、-ap 参照。594頁、註17。
 taqqol bitaqol に同じ。
 10. pinilumaq p-in-i-lumaq 家に入れられし者 < lumaq 家。
 11. minanu'ad ~ binanu'ad, binanu'ad。

12. labanaqan labanaq-an 間引する處、labanaq 間引す。
 13. pişitaba:un < mişitaba 焼く。
 mişhamu / * hamu, 比較 hamu-un şo 汝を(仲間
 に)入れる。
 15. mund'adaan mun-đ'ada-an, đ'ada 上。
 17. işikuşan işi-kuş-an, işi- 具格を示す、işikuşan turme
 糸は吊下ぐ道具、糸を以て吊下げらる。比較 maşasi-
 kuş (糸にて) 吊下ぐ。
 18. alkokusan 比較 agkoş。

- ¹ ova²d²ad taqqol a d²asun taqqol munda²da
子 籠 連れられた 籠 上る
² deqanin /
天

4. ma²fa²de²ppad tanapima
先祖 タナビマ

- ³ ma²iq dao / ma²fa²de²ppad tanapima du²sa
先祖 二
⁶ dao to binanowad e bananad / ma²pa²sa²
女 男 住む
⁷ ha²n ilokoj ta / talma²dija ukka²sa² ova-
に於て (地名) 永き間 無 子
⁸ d²ad / laqowa² sanavan mataisa²q / tупpa
或る時 夜 夢みる 云ふ
⁹ dao to / asa lu²daqon haq²qil ivut a na
欲す 敵かれた 抜殻 蛇 (未来)
¹⁰ to²ova²d²adin / laqbi²jin a kusajan haq²qil
(子供が)生れた 翌日になる な以て 抜殻
¹¹ idut maludaq / tu²da to ha²id²in uvad²ad /
蛇 敵く 本當に あつた 子供
¹² du²pa²av dao ha²id²in ova²d²ada hahimma²jin /
段々と あつた 子供 五人になつた
¹³ tau ²bananad / du²sa binanuwad / moppa
三 男 二 女 新様にして
¹⁴ minpapijin tanapima /
増加した

5. ikulon
イクルン

- ¹⁷ ha²ida qa²ba²sa² nasito dalaq te / tuppawun
有る 昔 下 地 此 云はれた
¹⁸ to ikulon / ma²si²da²n dammi bunun / o²ka
同じ 我々 人間

1. d²asun mafas munda²da mun²-da²da (上), mun-, mun-ivaqo イバキ 社へ行く。
4. 「アヌン」族は氏族制度を有す。各氏族 (clan) は名稱を有す。
5. du²sa to 比較 tu²da to (11行), ni to (594頁, 9行)。
6. e binanowad e bananad 女と男。
7. ilokoj 海に近き地なりと傳ふ。
8. talma²dija <ma²dija 多。
9. lu²daqon lu²daq-on 敵かるもの <maludaq 敵く。
na 「未来」を示す助辭。
10. to²ova²d²adin to²ova²d²ad-in <ova²d²ad 子。

把ると籠箆に連れられて昇天した。

4. タナビマ姓の先祖

きて、タナビマ姓の先祖は男女の二人であつて、イロコンに住んでゐたが、永い間子供がなかつた。ある晩蛇の抜殻で〔細君を〕敵けば子供が生れるといふ夢をみた。翌日蛇の抜殻で敵くと本當に子供が生れた。段々と子供が生れて五人になつた。三人は男、二人は女であつた。そのやうにしてタナビマ姓が増加した。

5. 有尾人

昔地下にイクルンと呼ばれた者が住んでゐた。我々人間と同じであつ

- laqbi²jin laqbi²jin 「翌日」の過去。
12. hahimma²jin ha himma-(jin 五人になれり <jimma 五, ha-himma 五人, 反覆せられし音節の母音は a なるに注意せよ, papitu 七人, 類例 pa-pija <pija (595頁, 註1), jimma の j は中音に於て i>h 類例 mahimma <jimma (594頁, 註17)。
14. minpapijin min-pap-(jin <pija 幾何。
16. ikulon <ikul 尾?
17. te <itte 此處, 話者に近き處, 比較 itta 其處, tuppawun tупpa-un <tuppa 云ふ。
18. to ma²foq²las to bunun 白色の人, 形容詞と修飾語を結ぶ用法。

- ¹ ma²foq²las to bunun / ha²ida ikul / ha²ida
白色 の 人 有る 尾 有る
² ha²n şinabal ta laqaiban mu²qombo /
に於て (地名) 通路 入る
³ mutiunin bunun mundijep tantoggo /
三回した 人 赴く 訪問
⁴ laq-višan ikulun a asa dau taş²a palapan
遠い 要す 一 籠
⁵ saap palsoqon / ha²ida bunun tantoggo
松明 火の付けられたる 有る 人 訪問
⁶ saan ikulun / maşihal dau d²apijan iku-
良い 居る處
⁷ lun / pişihalun paka²un qaişiq / pişihalun
良く食はせる 飯 良くせられた
⁸ paka²un titte / muşoqqaişin dau ka /
食はせる 肉 歸つた
⁹ tупpaun ikulun to / ma²iqe mu²qnin mun-
云はれた 若し 再び 此處
¹⁰ titte(j)a / asa tupu²o / asa adam maqabin
に來る 要す 呼聲を出す 要す 我々 隠す
¹¹ ha²n nusog ikul /
に於て 白 尾

- ¹² mo²qnin bunun tantoggo ni tu tupu²o /
再び 人 訪問 呼聲を出す
¹⁴ tişqo²da ikulun kavava: mun²haan nusog /
慌てる 早く 赴く 白
¹⁵ maqabin ikul / oppa mupisqoşin ikul /
隠す 尾 その故に 折れた 尾
¹⁶ mo²qnin bunun tantoggo / tupu²ojin dau
再び 人 訪問 合圖をした
¹⁷ ka / matusqon ova²d²ad ikulon mapaka²un
いたづらをする 子 食はせられた
¹⁸ titte / masaqbitin tijan mattadin ova²d²ad /
肉 痛くなつた 腹 死んだ 子供
¹⁹ oppa ikuluna ni to ma²un qaişiq / mowa²d
何となれば 飯 のみ
²⁰ ma²un tahun / oppa ni tu mutake(j)a /
湯氣 その故に 大便をする
²¹ moppin leş²asan laqaiban musila / maha:u
似た 針にさいはれたの 入口 脱糞 怒る

たが、色が白く、尾があつた。シナバル [地名]に入口があつた。

三回我々は遊びに行つた。イクルンは遠い處にゐたから一籠の松明を燵かねばならなかつた。イクルンに遊びに行つた人があつた。イクルンの居る處は良ろしい。御飯を御馳走してくれた。肉も御馳走してくれた。歸る際に、イクルンが云ふやうには「今度此處に來る時には、合圖をして下さい、私達は尻尾を白に隠さねばならない」。

再び人間が遊びに行つたが合圖をしなかつた。イクルンは慌てゝ一目散に白のところに行つた。「そして尾を隠した。それで尾が折れてしまつた。又人間が遊びに行つた。合圖はしたが、イクルンの子にいたづらをして肉を食はせた、腹が痛くなつて子供は死んでしまつた。イクルンは御飯を食べずに「御飯の湯氣ばかりを食

2. laqaiban laqaib-an 通路 <laqai 歩く, 通る? -b- は好音 (euphony) のために發生せしものか。
3. mutiunin ma-tijn-un-in 三回なせり <tiju 三, mundijep mun-dijep <dijep 其處。
5. palsoqon <malsoq 松明に點火す。
6. saan ⇨ haan 於。

7. paka²un pa-ka²un <pa²ka²un 食す pa- 「使役」。
18. masaqbitin manaqbit 「痛し」の過去。
20. mutake mu-take <take 糞。
21. leş²asan 比較 as 針, las²as 針にてさす, munsila mun-sila 島の端へ行く <sila 島の端, mutake 脱糞す。

- ¹ ikulun tuppa to / ka:n bunun mun'itte /
云ふ 勿れ 人 此處に来る
- ² jaqluttan nusop ne maqto laqqaiban /
棄かれた 白にて 不 可能 入る
- ³ paiskatd ijepin adam ni to muqombo /
其以後 我々 行く
- ⁴ haan ikulun tantopgo /
に於て 訪問

べてゐるから。それ故に彼等は大便
をしない、肛門は針でさした穴のやう
である。イクルンは怒つて云ふやう
には、人間は此處に来てはいけない。
穴が塞がれて入ることが出来なくな
つた。それ以後我々はイクルンの處
へ遊びに行かない。

6. saðo'so
サゾソ

- ¹⁰ hinaida dau / qa:baš / tuppawun to
或る處 昔 云はれたもの
- ¹¹ saðo'so e qabiðan / ma:q dau ka / sa-
と
- ¹² ðo'so(w)a ha:n tuppawun to tilapaton ta
に於て云はれたもの (地名)
- ¹³ mal'asaŋ / ma:q dau ka / tuppawun to
住む 云はれたもの
- ¹⁴ qabiðan a ha:n ilito ta mal'asaŋ / ma:qe
に於て(地名) 住む
- ¹⁵ dau saðo'so (w)a / moppin ovað'að to ati-
似た 子供 極
- ¹⁶ tikkis to bunun / moppa amin dau lumaq
小 人 それ故 皆 家
- ¹⁷ to atikkis / ma'on dao qaisiq / pindaŋos
小 食ふ 飯 酒を作る
- ¹⁸ amin qod dau nai / nai saðo'so tappuŋ
皆 飲む 彼等 初めに
- ¹⁹ tanu'ale / ke tuppawun to qabiðan / ma:q
(酒室に)招待する
- ²⁰ dau ka pelisija dafos a / matmod tahamiŋ
代りに 酒 充滿 饗

昔、サゾソとカビザンといふ(種族が)
居た。サゾソはティラバトンといふ
地に住み、カビザンはイリトに住んで
ゐた。サゾソは子供のやうに極めて
小さい人間であつた。それで家はど
れもこれも小さいもの許りであつた。
飯も食べたし、酒を造つて飲みもした。
サゾソの方が始めにカビザンといふ
者共を招待した。酒の代りに蜂を饗
一杯に入れて置いた。カビザンが家
に入ると、サゾソは蓋を開け、戸外に出

2. ka'n 現在 ka「禁止」過去 ka-in, kaun は單なる過
去にあらずして「決定」を示す。ka mun-itte 来る勿
れ。ka-in mun-itte 来ることを禁止せり、今後断然來
る勿れ。

12. tilapaton ボアン、パチモアン附近の地。

15. atikkis <atikkis 小の反覆形。
16. lumaq to atikkis 小なる家。to を以て結合せらる形
容詞は被修飾語の後に來るを通例とすれども、此例は
前に來る。
17. pindaŋos pin-dafos <dafos 酒。比較 min-dafos
酒になる。

- ¹ a / baqosað / tonalumaq dau qabiðan a /
蜂 家に入る
- ² tumbakun toqolo ka / muðaan munata a
開けられた 蓋 行く 戸外に出る
- ³ saðo'so a sukufan saðo'so hilav / o:ka /
閉ぢられた 戸
- ⁴ kalatun amin baqisa:ða / qabiðan a mat-
刺された 皆
- ⁵ tað dau amin / na qabiðan a tatinin dao /
皆 一人になつた
- ⁶ ka qabiðan a miqomiŋ /
生きる
- ⁷ mouppa mimba:sin / qabiðan a tanu'ale
その故に 復讐した 酒室に(招待する)
- ⁸ ke saðo'so / to taŋkun dao nai saðo'so a /
共に
- ⁹ tunuhundul a iŋiqamiŋqay amin nai /
橋に乗る 中央まで 皆
- ¹⁰ saðo'so a nai qabiðan ŋippal te tatine /
側 こちら 一人
- ¹¹ ka ŋippal ta tatine matuktuk hundul / ta
側 あちら 一人 切る 橋
- ¹² oppa / mqaqalalin hundul a / ni: dao /
その故に 落ちた 橋 なし
- ¹³ saðo'so a laktan e hundul ta / maŋqanno /
放す 橋 流れる
- ¹⁴ patnaŋilan dao / haan tamba:q ŋi'iŋi ta /
陸に打ち上げられた に於て 下 橋の下(橋の下)
の下方)
- ¹⁵ auppa itta'in naiŋka mal'asaŋ /
その故に 其處に行つた 彼等 住む

て、戸を閉ぢてしまつた。カビザンは
だれもかれも蜂に刺されて、みんな死
んで、一人だけが生き残つた。
それ故にカビザンはかたきをとつ
た。カビザンはサゾソを招待した。
サゾソは一緒になつて行つた。皆が
橋を渡つて中央まで行つた時に、カビ
ザンが橋のこちら側に一人、向側に一
人ゐて、橋を切つた。橋が落ちたが、サ
ゾソは橋から手を放さずにゐたので、
流れて、シイシの下方に漂着した。彼
等は其地に行つて住んだ。

7. vaniŋ
猪

- ¹⁵ haiða qabaŋ ŋŋinanowad / qaiŋu battal
有る 昔 女 小鳥(鳥) 乗
- ¹⁶ ha:n qomma / laqbiŋin a tuppa bananað
於て 鳥 翌日になつた 云ふ 男
- ²⁰ to / na ðakkuŋ saisi qaiŋo / tuppa bina-
(未來) 私 交代する 小鳥(鳥) 云ふ

7. 猪

昔女があつた。鳥で黍の鳥追をし
てゐた。翌日夫が云ふやうには、「今度
はわしが鳥追をしよう」。妻が云うや

1. tonalumaq <lumaq 家。
2. tumbakun tumbak-un <tumbak 開く。
munata >nata 外庭。家の前方の鋪石せる場所。
3. sukufan sukuf-an <masukuf 閉づ。
4. kalatun kalat-un <kalat 刺す。
5. tatinin tatini-in <tatini 一人。
9. tunu-hundul <hundul 橋。

iŋiqamiŋqay 比較 misqay 中央。
12. mqaqalalin m(a)qalqal-in <maqalqal 落下す。
14. ŋi'iŋi 西槽大山の下方の地。

20. na 「未來」助辭、『今後は』『今度は…せん』

- ¹ nowad to / ðakkon e qauŋaan kaunan /
女 私 置き忘れられた 烟管
- ² oppa sija binanowad qaiŋpo / laqbiŋin
その故に 女 小島を島 型目になつた
- ³ tuppa bananad to / na ðakkon qaiŋpo /
云ふ 男 私 小島を島
- ⁴ tuppa binanowad to / ðakkon e qauŋaan
云ふ 女 私 置き忘れられた
- ⁵ hulus / tuppa bananad to / soo (w)a
着物 云ふ 男 汝
- ⁶ qaiŋpo / mudaanin binanowad a / kinu-
行つた 女 跡なつ
- ⁷ kinud bananad / kamijij sadon / kahaanin
ける 男 身を隠して 見る 到着した
- ⁸ qomma binanowad a minšomma vaniŋ /
島 女 出る 猪
- ⁹ paqowit binanowad / oika sadon bana-
交接す 女 見られたもの 男
- ¹⁰ nad ta / muŋoqaiŋin bananad /
歸つた 男
- ¹² sanavanin a / haiðin binanowad a /
夕方になつた 来れり 女
- ¹³ mukumutin maŋa²baŋain binanowad a /
夜になつた 寝た 女
- ¹⁴ kamijij bananad mudaan munhaan qom-
隠れて 男 赴く 島
- ¹⁵ ma / matas²e pittu painsul / muŋoqaiŋin
作る 七 石積 歸つた
- ¹⁶ bananad mulumaq maŋabaq / laqbiŋin
男 家に入る 寝る 型目になつた
- ¹⁷ a / tuppawun bananad to / ðakko hajep
云はれた 男 私 今日
- ¹⁸ qaiŋpo / tuppa binanowad to / ne: na ðak-
小島を島 云ふ 女 私
- ¹⁹ koy e / kauŋaan pattus / tuppa bananad
置き忘れられた 發火木 云ふ 男
- ²⁰ to / ni to makwa ŋoo qaiŋpo / oika mu-
なし 邪賢なする 汝 小島を島
- ²¹ ðaanin binanowad qaiŋpo a / kinukinud
行つた 女 小島を島 跡をつける

1. ðakkon 此の場合 ðakko としても宜しと説明は云ふ。
参考: ŋooŋ, namooŋ, ðammeŋ 等。
qauŋaan qauŋa-an <maqauŋa 置き忘る。
12. sanavanin <sanavan 夕。

うには「烟管を忘れて来ましたから妻がしませう」。それで女が鳥追をした。あくる日夫が云ふやうには「わしが鳥追をしよう」。妻が云ふやうには「着物を忘れて来ましたから妻がしませう」。夫が云うやうには「お前が鳥追をおやり」。妻は行つたので、夫は見えないやうに隠れて跡をつけた。女が島に到着すると、猪が現れました。女は[その猪と]戯れた。男は[共有様を]見たので、歸つた。

夕方妻が歸宅した。夜になつて妻が寝ると、夫は秘かに島に行つた。七個の石積を作つた。夫は歸宅して寝た。翌日になつて夫が云うやうには、「わしは今日鳥追をする」。妻が云うやうには「いけません、マツチを忘れて来ましたから、妻がしませう」。夫が云ふやうには「お前が鳥追をしても構はない」。妻が鳥追に行くと、夫は跡をつけて行つて見た。弓を持って行つた。

13. makumutin <makumut 夜。
maŋabaŋain <maŋabaq 寝る。
15. painsul 島を開墾する時に、地の石を島の一周に積置れたるもの。

- ¹ bananad ŋado / aŋkos buŋsol / haiðin
男 見る 弓に射つて行く 弓 有り
- ² vaniŋ / paqowit binanowad a / maha:u
猪 交接する 女 怒る
- ³ bananad / ŋiða bananad buŋsul / mundaaða
男 取る 男 弓 登る
- ⁴ ha:n painŋol / manaq vaniŋ / maha:u ðaniŋ
於て 石積 (弓で)打つ 猪 怒る 猪
- ⁵ a / asa kalat bananad / muŋ²baje bana-
欲する 咬む 男 逃げる 男
- ⁶ nad / munha:n painŋul taŋ²a / moqna
赴く 石積 一つ 又
- ⁷ manaq vaniŋ / maha:u vaniŋ / mudaan
(弓で)打つ 猪 怒る 猪
- ⁸ bananad / munha:n taŋ²a painŋul / manaq
男 赴く 一つ 石積 (弓で)打つ
- ⁹ vaniŋ / maha:u vaniŋ a / moqna bananad /
猪 怒る 猪 男
- ¹⁰ mundaan munha:n painŋul taŋ²a / manaq
(赴く) 石積 一つ (弓で)打つ
- ¹¹ vaniŋ a / mattaðin vaniŋ a / ama²un
猪 死んだ 猪 背負はれた
- ¹² bananav / mulumaq /
男 家に歸る
- ¹³ tukaunin dau ka tappusaŋ makulut la:ŋ
解剖せられた 先きに 切る 實(み)
- ¹⁴ titte / paqosilun a / ne: binanowad antasa /
肉 分配せられた 不 女 受取る
- ¹⁵ ŋilaluwan to / qos²ulan / ha:moqae tappiŋ
虚言する 煙い、 出す 涙
- ¹⁶ e pataðunin vaniŋ a / moqnan bananad /
殺された 猪 再び 男
- ¹⁷ ŋiða qattad / ha:nun vija / masaaiŋ ova-
取る 體(キモ) に載せる 蕃刀 興へる 子
- ¹⁸ ð²ad a ŋi:n tama ka kinukinuðin tina /
供 それより 父 後にせられた
- ¹⁹ maha:u tama e ni tu kavava ŋiða / as-
怒る 父 早く 取る 癩に
- ²⁰ qaðun tama / kuŋija vija / maluppa / tija:n
隠はつた 父 な以て 暴力 突く 腹

猪が現れた。妻は姦したので、夫は怒り、弓を取り、石積の上に登つて猪を撃つた。猪は怒つて、男を咬まうとした。男は逃げて、一つの石積まで行つて、又猪を射た。猪は怒つた。男はも一つの石積まで行つて射た。猪は怒つたので、又男は、一つの石積まで行つて、猪を射ると、猪は死んでしまつた。それで男は[猪を]背負つて、家に歸つた。

剖いて赤身を最初に截つて、分けたが、妻は受取らなかつた。猪が殺されたから涙が出たのを、煙いと嘘をついた。夫は又、猪を取つて蕃刀に載せ、子供に興へその後で母に興へた。早く取らないから父は怒つた。刀で妻の腹を突いたので、死んでしまつた。腹から、猪子が出た。四匹出た。奥へ行

11. ama²un ama-un 背負はる物 <mama 背負ふ。
12. mulumaq mu-lumaq 家、「歸宅す」。
13. tukaunin tuka-un-in <matuka 解剖す。(動物を)料理す。
tappusaŋ tappus-aŋ
la:ŋ titte titte 肉全體。la:ŋ (は)果物、肉の赤身、自身(脂肉) (は) ŋimmal.

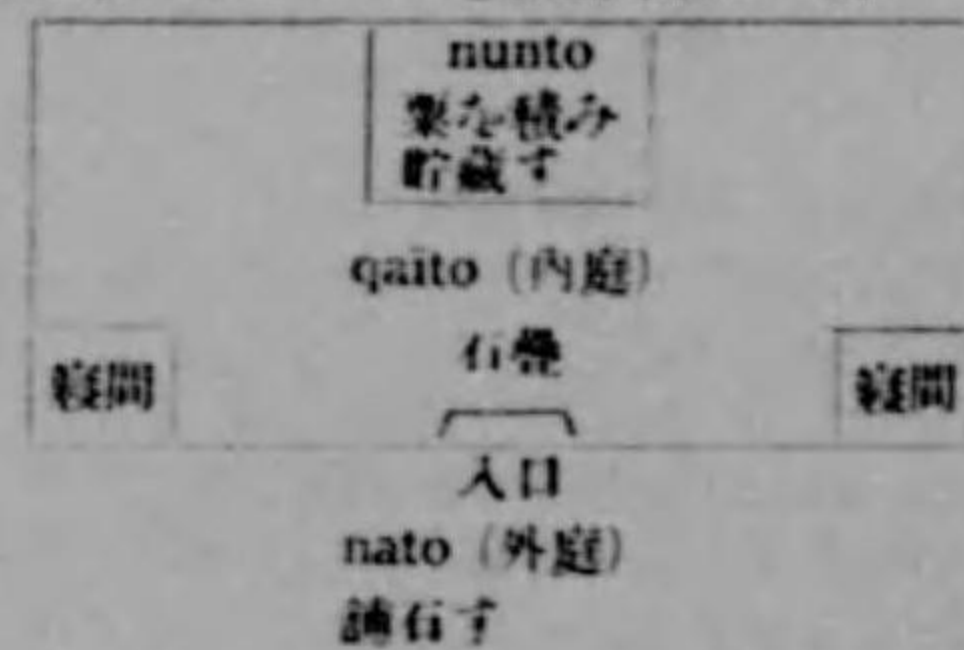
14. paqosilun <maqosil 分配す。
15. qos²ulan qos²ul-an 煙に包まれたる處、煙き状態 <qos²ul 煙。
16. pataðunin pa-tað-un-in <ma-tað 死す。
17. ha:nun ha:n-un 置くもの <haan 於て。
18. kinukinuðin kinuð-kinuð-in <kinuð 後。
19. asqaðun asqað-un <masqað.

- ¹ binanowad a / mattaḏin / oka minšomma
女 出る
- ² oqqad / mišnaha:n tijan / minšumma pat /
猪の仔 腹 出る 四
- ³ duša soppa nunto a / minu²uni vanis /
二 の方へ 家の奥 なる 猪
- ⁴ duša munha:n taḡqaito / minu²uni haḡo /
二 赴く 内庭に行く なる 豚
- ⁵ pabaḡḡad auqqad a dau to / tuppa ha:n
相談する 猪の仔 云ふ 於て
- ⁶ nuntu to / ma:q amu ka / na ta²uni
家の奥 汝等 許り(食ふ)
- ⁷ maqaišun / tuppa ha:n qaito to / ma:q
腐敗物 云ふ に於て 内庭
- ⁸ amu ka na ta²uni ekulav / paḡpun
汝等 許り(食ふ) 濁酒 其のために
- ⁹ vannis / tuppawun to ta²uni ekulav e /
猪 云はれた 許り(食ふ) 濁酒
- ¹⁰ na patviššan e / pataḡunin bunun a /
呪文 殺されたもの 人
- ¹¹ soppa nunto muḡaanin / ma:q a soppa
の方に 家の奥 行つたもの の方に
- ¹² qaito muḡaanin a / tuppawun to ta²uni
内庭 行つた 云はれた 許り(食ふ)
- ¹³ maqaišun e / na pakaunan e / maqaišun /
腐敗物 食ふ可きである 腐敗物

8. papatuši
ババトウシ

- ¹⁴ haiḡa qaabaš pakatušidag / mašmowav
有る 昔 夫婦 大變に
- ¹⁵ pakadikla pakatušidag / sija binanowad
仲が悪い 夫婦 彼 女
- ¹⁶ maqanšijap matin²un / ma: bananaḡ a
巧み 織る 男
- ¹⁷ maqanšijap manaq tummaḡ / sija binano-
巧み 射る 熊 彼 女

3. nunto, qaito. 「アメン」家屋間取の一例.



つた二匹は、猪となり、内庭に行つた二匹は豚になつた。仔共が相談した。奥へ行つた者が云ふやうには「お前達は腐つたものばかり食べる事にしたらいゝんだよ」。外庭に行つた者が云ふやうには「お前達は濁酒だけを食べる事にしたらいゝんだよ」。奥へ行つたものゝ[子孫である]猪は、殺されて、呪文を唱へられる時に、濁酒だけを食べると言はれてゐる。内庭に行つたものは、腐敗物を食へといはれたから、腐敗物だけを食ふと言はれてゐる。

8. ババト。シ鳥

昔夫婦があつて、大變仲が悪かつた。妻は織物が上手で、夫は熊を撃ち獲ることが上手だつた。妻は十枚の織布を持つてゐた。夫は十枚の熊の毛皮

4. taḡqaito taḡ-qaito. taḡ-「方へ行く」

6. ta²uni 例, ta²uni huttan 書のみを食す。

10. patviššan 猪を獲て屠殺する時に唱ふ呪文, <patviš 狩獲の獲物を豊富にす。

17. pakadikla paka-dikla < d'fikla, maḡfikla 性質の悪さ, 接頭辭 paka-「相互」

- ¹ waḡ hajḡa maš'an qabaḡ / sija bananaḡ
有る 十 布 彼 男
- ² haiḡa maš'an sappa tummaḡ / sija bina-
有る 十 毛皮 熊 彼
- ³ nowaḡ maštaan maḡdikla ni to masa²aiv
女 非常に 悪い 無 奥へる
- ⁴ bananaḡ hulus / ḡaḡuša pakniv to / ši
男 上衣 二人 自慢す 誰
- ⁵ maq a pinvai²un makaḡhav / ḡuša nai
行く 寒い に 彼等
- ⁶ munha:n savjeḡ ta / sanavanin a / vaive-
行く 新高山 夕方になる 別々
- ⁷ vaive mašabaḡ / sija bananaḡ himma
に 寝る 彼 男 五
- ⁸ sappa tummaḡ sappalan / himma sappa
毛皮 熊 敷かれた 五 毛皮
- ⁹ hilhilun / sija binanowad himma qabaḡ
掛けられた 彼 女 五 夜具
- ¹⁰ sappalan / himma qabaḡ hilhilun / maq-
敷かれた 五 夜具 掛けられた 夜中
- ¹¹ mutin a ḡuḡav makaḡhavin / sija bina-
になる 段々と 寒くなつた 彼 女
- ¹² nowaḡ ni to maḡto šitmaḡ makaḡhav a /
出来る 我慢する 寒い
- ¹³ tuppa bananaḡ to / mapatus / mapatus /
云ふ 男 發火する 發火す
- ¹⁴ ne bananaḡ mapatus a / mo:ḡnaḡ bina-
男 發火する 再び
- ¹⁵ nowaḡ tuppa to / patus / papattus / ehe
女 云
- ¹⁶ he he / tuppa ka / minu²unin qaḡam
云ふ なつた 鳥
- ¹⁷ qushaj / tuppawun ḡammi naipa qaḡam
飛ぶ 云はれた 我々 其の 鳥
- ¹⁸ to papatuši /

を持つてゐた。妻は大變意地が悪く夫に上衣を奥へなかつた。二人は互ひに自慢し合つて、どちらが寒さに負けるかと云つた。彼等二人は新高山に赴いた。夕方になると、別々に寝た。夫は五枚の熊の毛皮を敷き、五枚の熊の毛皮を掛けた。妻は五枚の夜具を敷き、五枚の夜具を掛けた。夜中になると段々と寒くなつて来た。妻は寒さに我慢出来なかつた。夫に云ふやうには「火を起して下さい、火を起して下さい」。夫は火を作らなかつたので、再び妻が云ふやうには、「火、火、を起して下さいよ！エへ、ヒ、ヒ」。そう云ふた時に、鳥に成つて飛んで行つた。我々はその鳥を「ババトウシ」と云ふ。

9. salpoš'aḡ e
サルゴシアン 及び

9. サルボシアン鳥と

- 5. pinvai²un p-in-(a)vai-un, mavai 不足す, p-in-avai 勝つ, p-in-avai-un 負く。
- 6. vaivevaive vaive 「異なる」の反覆。
- 8. sappalan sappal-an, pa-sapal (敷物を)敷く, ma-sappal (自)。
- 9. hilhilun hilhil-un, mahilhil 掛ける。
- 10. maḡmutia < maḡmut 夜中。

- 11. makaḡhavin < makaḡhav 寒き。
- 16. minu²unin minu²un(i)-in < minu²uni なる。
- 18. papatuši 褐色の鳥、嘴の先端は黄色、鳴聲は「ババトウシ、エへ、ヒ、ヒ」と聞ゆと吾人は云ふ。patus (摩擦して火を造る木製の發火器、現在は「マッチ」に意義變遷せり)による民間語原 (Volksetymologie) より發生せる説話。

qoqaišmatad
コカイシマタズ

- ² haiða qarbaş duşa pakatuşidağ / ma:q
有る 昔 二 夫婦
- ³ tatine pakatuşidağ a matad bananad /
一 夫婦 死ぬ 夫
- ⁴ ma:q tatine pakatuşidağ a puđanun ba-
一 夫婦 行かされた
- ⁵ nanad / nai đaduşa binanowad nito
夫 其の 二人 婦 なし
- ⁶ maşabaq taş'a jaqmuıt masalpo / ma:q
寝る 一 夜 悲歌する
- ⁷ paitadan bananad / şoppa luđun muđaan /
死別した者 夫 の方に 山 行く
- ⁸ ma:q laktanan bananad a / şoppa ta:ul
捨てられたもの 夫 の方に 谷
- ⁹ muđaan / đaduşa amin minu'unin qađam
行く 二人 昔 成る, 變る 鳥
- ¹⁰ tu'ija / malsalpo đau ana'anaq bananad /
鳴く 悲歌する 自己の 夫
- ¹¹ ma:q tatine şoppa luđan a tuppa to
一 の方に 山 云ふ
- ¹² qoqaišmatad / tatine şoppa taul tuppa to
一 の方に 谷 云ふ
- ¹³ salpoş'ağ / loppako amin ha:n taş'a lu-
今 昔 居る處 一
- ¹⁴ đun / ha:n taş'a taul tu'ija /
山 居る處 谷 鳴く

10. minu'uni qanuvay takesmot
成る 半成は鹿 草のある處

- ¹⁷ haiða qarbaş saşipat taş'an / şija tatine
有り 昔 四人 兄弟 其の 一人
- ¹⁸ maşmowav maqaijo / paqoit işitinna qa-
非常 好色 交接する 牝

2. ma:q ma:q は話の切と出しの助辭, ma:q —, ma:q となる時には、『一方は—, 一方は』といふ用法になることあり。
4. puđanun pu-đan-un <đaan 道。
7. paitadan pai-tađ-an 或は pa-i-tađ-an か <(ma-)tađ 死す, paitadan bananad 後家, paitadan binanowad 男やめ。
8. laktanan laktan-an, malaktan (所有せしものが) 不要になる。
10. ana'anaq ana'anak? 比較. 南部方言 ana'anak.
12. qoqaišmatad 其鳥の鳴聲は qoqaišmatad と聞ゆと云

コカイシマタズ鳥

昔二夫婦があつた。一夫婦はその夫が死に,他の夫婦は夫が[妻を]追出した。その二人の女は一晚中寝ないで歎き悲しんだ。夫に死に別れた女は山に行き,離縁になつた女は谷に行つた。二人共鳥になつて鳴いて,自分の夫のことで悲しんだ。山に行つた一人はコカイシマタズ[意味:夫は死んだが仕方がない]と云ひ,谷に行つた一人はサルボシアン[意味:心が悲しい]と云つた。今も山にゐるその鳥も,谷にゐるその鳥も[そのやうに]鳴いてゐる。

10. 鹿

昔四人の兄弟があつた。一人は大變好色であつて,牝鹿を姦した。いつ

ふ, qoqaiš 「仕方なし」 matad 「死す」。
13. salpoş'ağ 其鳥の鳴聲は salpoş'ağ と聞ゆと云ふ, (ma)salpo 「悲しむ」 (i)ş'ağ 「心」。
ha:n 「居る處」と名詞に使用せらる, ha:n taş'a luđun 「一の居る處は山」。
17. saşipat sa-şipat, şipat 「四」 反覆。
taş'an taş'a — ?
18. işitinna işi-tinna 母たる役目をする, 牝 <tinna 母, 接頭辭 işi- 「道具」。

- ¹ nuvağ takesmot / qailiř haan đapijan
鹿 草のある處 常に に 居る處
- ² qanuvay tantopno / tuppawun tina to /
鹿 訪問する 云はれた 母
- ³ muşoqaişja ka / ni: to şitala / tuppa tinna
歸りなさい なし 服従する 云ふ 母
- ⁴ milişikin to / ma:qe pişitabaan kukun le:v
考へる 若し 焼かれた 皮 麻
- ⁵ a / na muşbaje qanuvay takesmot / đor-
逃げる 鹿 草のある處 恐ら
- ⁶ qna sokđun ovad'ad / pişitabaanin kukun
く 残る 子 焼かれた 皮
- ⁷ le:va / muşbatjen qanuvay / malave amin
麻 逃げた 鹿 従つて行く 又
- ⁸ ovad'ad muşbaje / min'unin ovad'ad qa-
子 なつた 子
- ⁹ nuvağ takesmot /
鹿 草のある處
- ¹⁰ mađija qarbaş ha:n totol ta qanuvay
多く 昔 に (地名) 鹿
- ¹¹ a / pişitabaan tinna kukun le:v a muş-
母 皮 麻
- ¹² bajin amin / ukkajen amin loppako to
昔 無くなつた 昔 今
- ¹³ taş'a totol ta qanuvay takesmot /
一 (地名) 鹿 草のある處

も鹿の居る處へ遊びに行つてゐた。「お歸りなさい」と母が云つたが,聴き入れなかつた。母が考へるやうには麻の皮を焼けば,鹿は逃げて行つて,多分息子が残るだらう。麻の皮を焼いたが,息子も[鹿に]従つて逃げ去つた。そしてその息子は鹿になつてしまつた。

昔はトトルに鹿が澤山ゐるたが,その母が麻の皮を焼いたので皆逃げ去つた。今でもトトルには鹿は一匹も居ない。

11. a:q e qalom
鳥及び穿山甲

- ¹⁶ haiða qarbaş bunun e qalom / duşa
有る 昔 人 及び 穿山甲 二
- ¹⁷ munhaan maşo'işimut / paintataiv ma-
行く 草原 競争する
- ¹⁸ saşiqođ pađan / tuppa qalom to / suowağ
焼く 茅 云ふ 穿山甲 汝
- ¹⁹ bunun tappoş masaşqođ / na đakko haan
人 始めに 私 於て

11. 鳥と穿山甲

昔人間と穿山甲がゐるた。二人は草原に行つて,茅を焼く競争をした。穿山甲曰く「あなたがさきに焼いて下さい,私は茅原にゐますから」。人間が焼

2. qanuvay takesmot qanuvay 鹿或は牛, ... takesmot 鹿, take-işimot 接頭辭 take- 「住む者」 işimot 草。
3. muşoqaişja muşoqaişi (歸る)-a, -a 命令法, 其外に命令法語尾に -e あり。
şitala 比較 antala 受ける。
4. ma:qe — a 若し。
pişitabaan mişitaba (自) 燃ゆる, pişitaba 焼く, pişitaba-an 焼く處。
12. amin 氣息を強く發音すれば「總て」氣息を弱く發音すれば「亦」。

13. totol カキオソソ社の東北方の山。
17. maşo'işimut <işimut 草, 類例, maşopađan 茅原 <pađan 茅, paintataiv 比較 mintaiiv 優越す, masaşiqođ (草原の草を) 焼く, işiqud-e 焼く, işiqud-an 焼く處, 焼かるもの, masaşiqođ は「未來」の意味ある如く説明者は説明す, ma-sa-işiqođ と分解し -sa- は işiqođ の şi の反覆と解すべきか。
18. suowağ <şo 汝, sooğ の形もあり。

- ¹ paɖan ta / iʃiɖaʌanin bunun a kavava: いたので穿山甲はすばやく地面を掘
茅 焼かれた 人 早く
- ² qalom / makadkaɖ ɖalaq toɖqavin qalom / つて隠れた。人間が云ふやう「今度は
穿山甲 掘る 地 隠れる 穿山甲
- ³ kanaqtoɖpin ʃappoɖ a / minʃummajin 私だ。穿山甲によつて焼かれると、人
終つた 火 出た
- ⁴ qalom / toppa bunun to / na ɖakkuɖ / 間は焼かれてしまつて、鳥になつた。
穿山甲 云ふ 人 私
- ⁵ o:ka piʃitabaun qalom a / miʃtaʃin bunun それで鳥は焼けて黒くなつてゐる。
焼かれる 穿山甲 焼かれた 人
- ⁶ a / minuʔunin a:q / paqpun a:q mata- なつた 鳥 その故 鳥 黒く
- ⁷ qɖuppin miniʃitaba / なる 焼かれたもの

12. minuʔuni huttoɖ
なる 猿

- ¹⁰ panahi:jav moɖqomma / mulumaq pi- 人を雇つて耕作をした。[ある男が
手傳に頼む 耕作する 歸宅する
- ¹¹ tʃija ta:je / o:ka mulumaq bunun / maʔun 一足先きに歸つて里芋を炊いた。人
炊く 里芋 歸宅する 人 食ふ
- ¹² ta:je / minaʔun ta:je / o:ka matʔaqqan 々が歸宅すると[その男は]里芋を食べ
里芋 食べられた 里芋 生煮になつた
- ¹³ ta:je / maqamqam ta:je / o:ka ʃijata ma- てゐた。[その男は]里芋を食べ終へて
里芋 いごい 里芋 彼、その 咳
- ¹⁴ palaq / qo / qo / qo / o:ka mundaɖa ha:n しまつた。里芋は生煮であつたから、
なする 登る に
- ¹⁵ toqoqo / o:ka ʃijata tanna a minuʔuni ikul / いごかつた。彼はコ、コ、コと咳をした。
切株 彼、その 鎌 なる 尾
- ¹⁶ o:ka ʃijata minuʔuni huttoɖ / 木の切株に登つた。鎌は尾となり、其
彼、その なる 猿
の男は猿になつた。

II. 丹 蕃 (丹 大 社)
(asaɖ deɖnaɖ)

- 6. mataqɖuppin mataqɖup-in 黒くなれり、mataqɖo
黒色。
- 7. miniʃitaba m-in-iʃitaba 焼かれたもの、miʃitaba 焼
く。
- 10. panahi:jav manahi:jav (自)手傳に来る(人)、panahi:jav
(他)手傳に頼む。
moɖqomma <qomma 島。
- 12. minaʔun m-in-aʔun 食せしもの、<mavn 食す。

matʔaqqan <matʔq 生。

採集期：昭和五年八月。
口授者：丹大社 (asaɖ deɖnaɖ) itteki soheqqan (男、當
時推定45歳)
補助口授者：lumaʔu maɖqoqo (男、當時推定53歳)
説明者：sippal maɖqoqo (男、當時推定22歳) sippal の
復讐を筆録、説明者、日本語は未だ完全ならず。

1. 創 生 記

- 1. muɖa miqomiʃ qabaʃ 先祖の話を云ふと、平地のラモガン
始め 生れる 昔
- ² sija maɖaiɖaɖ qa:baʃ a / nano naʃito 先祖の話を云ふと、平地のラモガン
彼、其 老人、先祖 昔 下
- ³ te saan lamogaɖ ta aɖʔaɖ ʃinanowaɖ a / に女許りがゐるたが、七人だけだつた。
此の 於て (地名) 其の 許り 女
- ⁴ mowaɖ papitto dao / sija ʃanaɖaɖ a ha- 男は五人で、天から[来たものです]、先
許り 七人 彼、其 男
- ⁵ himma / maiʃnasaan deqanin ta / nano 祖は、交合の道を知らなかつた。先祖
五人 から 天
- ⁶ maɖaiɖaɖ qabaʃaɖ / ne nijap pahose / sija が交合を欲したが、交合を知らなかつ
先祖 なし 知る 交接 其
- ⁷ maɖaiɖaɖ ɖau ka / asa pahose ka / ne たから耳に入れた。快くなかつた。
先祖 欲する 交接 なし
- ⁸ nijap pahuse ɖau ka / sanun tajiɖa ta / 快くなかつたから、鼻に入れた、それか
知る 交接 入れられた 耳
- ⁹ nito masiʔhal / nano ne masiʔhal / sanun ら口に、喉の下に腔門に、快くなかつた、
良好 良好
- ¹⁰ ɖuttus a / si:n ɖulus a / saan kusʔan a [交合の道を]知らないからです。馬鹿
鼻 及び 口 喉の下
- ¹¹ haan patakejan a / ni to masiʔhal e / ni 者が云ふやうには、からだ中を突きさ
に 腔門 良好 なし
- ¹² nijap / tuppa mataula to / mimmaq a:ʃ して交合しようとしたが、交合できな
知る 云ふ 低能(者) 何になる 汝
- ¹³ ni nijap pahuse / musqa laqaiban amin いのではお前達は何の役にも立たな
なし 知る 交接 知れずに 貫通された 總ての
- ¹⁴ huɖoɖ mahuse / tuppa mataula to / na いぢやないか。馬鹿者が[又]云ふやう
身體 云ふ 低能(者)
- ¹⁵ tanamon ɖakko mahuse / sja mataula には、「私が交合をやつてみよう」。その
試みられた 私 其 低能
- ¹⁶ tanamun sam pusoq a / ni: to masiʔhal / 馬鹿者が臍の所を試みたが、良くない。
試みられた 臍 良好
- ¹⁷ ʃoppaun tambaqa ta a / ɖuɖʔav munsaaɖ 下の方へ向けると、次第に陰門には入
向けられたる 下の部分 入る
- ¹⁸ kutte / sija mataula sihalun ʃa tuttuɖa つた。その馬鹿者は本當に良い氣持
其 低能 良くなつた 本當に
- ¹⁹ a / a:ɖ a:ɖ masiʔhal tuttuɖa / luqlas になつた。「アーイ、アーイ、本當に良
良好 本當に 呼ぶ

2. maɖaiɖaɖ カトダラン、イハガ maɖaiɖeɖnaɖ.

3. saan ~ haan lamogaɖ 社寮附近。

7. asa 北方方言 asa 丹蕃は比較的良く s と s (北方方言の s と ts 参照文法 I 分布) の區別を保つ。音韻比較上 asa なるべきもの、sippal は asa と響音す。

8. sanun saan-un 居る物、saan-an 居る處、saan に於て。tajiɖa 北方方言、中部方言 tajiɖa、南方方言 tajiɖa metathesis の例。

11. patakejan pa-take-(j)an 脱糞する處 <take 糞。

12. mimmaq mi-maaq 何になる <maaɖ 何、a:ʃ 丹蕃特有の代名詞。

15. tanamon tanam-on <tanam 試む、sja sija.

16. ʃam pusoq のため同化し saan > sam.

17. ʃoppaun ʃoppa-un, maʃaɖappa に面す、ʃoppa の方に。

18. siʔhalun siʔhal-un <(ma-)siʔhal 良き、tuttuɖa <tuɖa 本當に。

- 1 mattaula duma to / itte masi'hal / itte
低能 外の(人) 此處 良好 此處
い!。馬鹿者が外の人に呼んで云ふ
- 2 masi'hal / itte masi'hal / sija manaipal a /
良好 此處 良好 其の 伶俐な(者)
やうには「此處が良い、此處が良い、此處
- 3 tanamon a tuttuða to masoŋha sija /
試みられた 本當に 痒い
が良い。利口者も、やつてみせると本
- 4 duḡḡavin nae / minṣummajen ovaḡḡad
彼等 出た 子
當に痒くなつた。次第次第に子供が
- 5 a / nano ḡaḡuṣa ovaḡḡad / ad'ad hana
二人 子 のみ 男
生れ出た。子供は二人だったが、男だ
- 6 nad /
けだつた。
- 7 sija maṣitoqqaṣ bananaḡ a / tilukkis
年上の 男 薪を取る
兄は薪採りに行つたが、弟は家に居
- 8 dau ka / sija maṣino'ba bananaḡ a /
年下の 男
た。
- 9 ilumag /
在宅
天が、文字を落した。弟は、直ぐに文
- 10 sija ḡau ḡeḡanin a / maqalal a pat-
天 落す 紋様
字を覺えた。兄が歸つて來た。弟が、
- 11 taṣan a / nano sija maṣino'ba bananaḡ
文字 年下の 男
云ふやうには「此の文字が落ちて來た。
- 12 a / muṣoo ṣaḡqaal pataṣan / haiḡin ḡao
直ぐに 知る 文字 居た、來た
覺えて下さい。兄が云ふやうには「私
- 13 maṣitoqqa sja / tuppa ḡao / maṣino'ba to /
云ふ 年下の
は覺えられない。その文字が、二分せ
- 14 qalqalan pataṣan ḡijee ka / ṣaqaal aṣ /
落された 文字 此の 知る 汝
られた時に、弟が云ふやうには「これで
- 15 tuppa maṣtoqqaṣ to / ne saak ṣaqaal /
云ふ 年上の 私 知る
私は泥を作つて、耕作に使ひませう」。
- 16 nano nae pataṣan a / paḡuṣawun ḡao
彼等 文字 二分された
兄が云ふやうには「文字は覺えられな
- 17 ka / tuppa maṣino'ba to / ite saak mataṣ'e
云ふ 年下の 私の
いから、開墾しに、山へ行きますせう」兄
- 18 ḡoḡḡoq e / na iṣikalunan moḡqomma /
泥 使はれた 耕作する
は行つた。山に行きました。二分し
- 19 tuppa maṣtoqqaṣ to / na saan saak luḡun
云ふ 年上の 私 山
た文字をラモガンで〔河に〕流してしま
- 20 ta / muḡqoqomma ke / ne ṣaqaal pataṣan /
知る 文字

4. duḡḡavin <duḡḡav 段々。
7. tilukkis ti-lukkis 採薪す <lukkis 薪。
9. ilumag i-lumag 在宅 <lumag 家。
10. pataṣan pataṣ-an <pataṣ 紋様を置く、字を書く、
pataṣan の原義は「紋様」にして、「文字」文字にて書
かれたる「蕃人旅行證明書」文字を教へる「蕃童教育
所」と意義進展す。

12. haiḡin haiḡa-in 在る様になれり、來れり <haida 在
り。
14. qalqalan <maqalal.
16. paḡuṣawun pa-ḡuṣa-(w)un <ḡuṣa に。
18. moḡqomma moḡ-qomma <qomma 畠。
20. muḡqoqomma moḡqomma の反覆。
ke e に同じ、前行音母音なる時は ke。

- 1 muḡaanin ḡdau maṣtoqqaṣ / munluḡun
行つた 年上の 山に行く
つた。
- 2 a / paḡḡanuun ḡau / paḡuṣa pataṣan saan
(水に)流された 二分した 文字
lamoḡan ta /
- 3 nano saanin dau asaḡ ḡeḡḡad banuwaḡ
行つた (地名)勝 大 社
辯大社に居た時に、洪水が出た。新
- 4 ta / lanip'avan a / musbajen ḡau ḡuma
洪水 逃げた 外の(山)
高山に逃げた人もあれば、卓社大山に
- 5 munsaan savjeq ta / sija ḡuma tunaasaan
行く 新高山 外の に行く
逃げた人もあつた。昔はマツチが無
- 6 loḡḡaḡan ta / nano ukka ṣappoḡ / e ukkaḡ
卓社大山 缺る 火 存在せず
いから火がなかつた。新高山の人々
- 7 qabasag pattus / ṣaḡoo ḡao bunun saan
マツチ 見る 人
が見ると、卓社大山に烟があつた。新
- 8 savjeq a / haiḡa ḡao titifo saan loḡḡaḡan /
新高山 烟 卓社大山
高山の人々が云ふやうには「墓よ火を
- 9 tuppa ḡau bunun saan savjeq ta / koko-
云ふ 人 新高山 墓
取つて來い。墓は火を取りに行つた
- 10 lpa ṣiḡa ṣappoḡ / muḡaanin ḡau kokolpa
取る 火 行つた 墓
が消えてしまつた。水に潜つたから
- 11 ṣiḡa muṣqon ḡau ṣappoḡ e / tomkombo
取る 消された 火 潜る
です。〔人々が〕云ふやうには「レツコレ
- 12 saan ḡanum / tuppa ḡao to / leḡḡoleḡḡo
水 云ふ (一種の鳥)
ツコよ、お前が代つて取つて來い。レ
- 13 ṣo'ojin ṣaes ṣiḡa / tuppa ḡau leḡḡoleḡḡo
汝にせし 交代 取る 云ふ (一種の鳥)
ツコレツコが云ふやうには「頭が痛い
- 14 to / ne saak maqto e masakbit bunḡo /
なし 出來り 痛い 頭
から私は出來ない。レツコレツコ鳥
- 15 moppa pinahiva leḡḡoleḡḡo maḡoḡḡolas
その故に 口實にした (一種の鳥) 白い
は頭を白くして通辭を設けたから、頭
- 16 ḡoḡḡo ka / moppa maḡoḡḡasin ḡunḡo
頭 其の故に 白くなれり 頭
が白くなつてしまつた。次にカイビ
- 17 ḡau / siḡn ḡau qaipeṣ tuppaun a / tuḡje-
(鳥の名) 云はれた 其の時
シ鳥が命ぜられた。その時から火が
- 18 epen ḡau / haiḡin ṣappoḡ / tuḡjeep ḡau
以後 有つた 火 其の時
あるやうになつた。新高山に居た時
- 19 saanan savjeq ta / malluṣikon ḡau titte /
居る 新高山 一所に住む 獸
には、獸類と一緒にあつた。鹿も山羊

1. munluḡun mun-luḡun <luḡun 山。
2. paḡḡanuun 比較. maḡḡannu 渡る。
6. tunaasaan tuna-saan ? 接頭辭. tuna- 「赴く」比較。
tuna-lumag 家に入る。
7. loḡḡaḡan カトグラン、binoḡaḡan。
14. ṣo'ojin ṣo'o-(j)in <ṣo'o 汝、類例. ṣo'ojin tilukkis

「薪採は君だぞ」-in (は「過去」より寧ろ「決定せり」の
意、「汝に爲さすことにせり」)
16. pinahiva p-in-a-hiva <(ma-)hiva だます。
17. maḡoḡḡasin maḡoḡḡas-in。
20. malluṣikon 比較. muṣikon 共に。

- 1 nano madija dao sja qanuvay / siŋe /
多く 鹿 山羊
- 2 si:n vaniŋ / tanam makulut dau ka /
猪 試む 切る
- 3 ne:jaŋ pataðun e / ukkaŋ simmad / sija
未だ-しない 殺された 未だ-ない 脂
- 4 haiða simmad a / pattaðunin / nano sija
脂 殺された
- 5 dao saan silaniŋ'av ta / leqðutan dau
河口 止められた
- 6 ivut a / minšomma dao / madaiŋ kakalaŋ /
蛇 大きな 蟹
- 7 maqaktis ivut a / moppa mušowaqain
はさむ 蛇 その故に 流出した
- 8 dao niŋ'av / moppa ukkin dau niŋ'av
洪水 湖 その故に 無くなった 洪水
- 9 asaŋ te / ma: dao qabaŋaŋ a / mašihalaŋ
- 10 asaŋ te e / mahokðavaŋ dao / moppa min-
村 不ら その故に 悪く
- 11 dikilajen dalaq e / lanin'av an qa:baŋ /
なつた 土地 洪水 昔
- 12 moppa ukkin niŋ'av a / mušoqaisin dao /
その故に 洪水 流出せり
- 13 minusba:je bunun saan savjeq ta / si:n
逃げた 人 新高山
- 14 saan doŋqaðan ta munsaan asaŋ deppad
行く (地名) 蟹 大
- 15 danuwað ta / saanin dao asaŋ deppad
社 (地名) 蟹 大
- 16 banuwað ta /
社
- 17 sija dao madaiŋað a / koðakoða ka /
先祖 仕事
- 18 laqtanan dao ovað'að / moppa antabanun
残された 子 それ故に 奪ひ取られた
- 19 dao / maduŋkav kusba:je panasaan / ta-
蟹 飛ぶ まで 大主
- 20 moqo ta / kantulunain dao / tama sija
公山 後方から(見たり), 跡をつたれた 父

も猪も澤山居た。切らうとする時に、
脂がまだ無ければ殺さない、脂があれば、殺した。河口が蛇に堰止せられて
るたが、大蟹が出て来て蛇を狭み切つ
たから、洪水が流出した。此の蕃社の
邊の洪水が無くなった。昔は、蕃社は、
不らであつたから良かったが昔の洪
水のために土地が悪くなった。洪水
が無くなったので、新高山と卓社大山
に逃げた人々は蟹大社に来て蟹大社
に住んだ。

先祖が、仕事をする時に、子供を家に
残しておいた。鷹が掴取つて、大公主
山まで飛んで行つた。父は後から見
てみると、子供が大公主山まで泣き續

5. silaniŋ'av (i)si-laniŋ'av 海にする處「河口」<lanin'av
海, isi- は早き發音に於て>si- となることあり, isi-
は「道具」を示すと共に「場所」も示す。
10. mindikilajen min-dikila-(j)en <(ma-)dikila 悪き,
min- 「に化す」。
13. minusba:je m-in-usba:je 逃げたもの <musba:je 逃

ぐ。
18. laqtan <malaqtan 閉塞其他の用事のため外出する時
同伴せず家に残し置く, 或は耕作中島に於て遊ばせ置
くを malaqtan と云ふ。
antabanun <antaban 奪取る。

- 1 šađoo ka nano tan'a dao tatapis / pana-
見る 開く 泣く ま
- 2 saan tamoqo ta / munsaan dao tama /
で 大主山 行く 父
- 3 tamoqo ta šađo ka / nano ad'aðin dao
大主山 見る 許りであつた
- 4 bantas kinuddaan maduŋqav / maharu
足 食ひ殘す 蟹 怒る
- 5 madaiŋað a askað malkatto / nano sija
先祖 槍鉢になつて 畏をかける
- 6 haiða dao bunun a / makipau sja siðaunin
人 先に行く 取られた
- 7 dao tiniskatto / maduŋqav / moppa haiðin
畏にかゝつたもの 蟹 その故に 怒つた
- 8 bunun tuppau to / maduŋqaban e mi-
人 云はれた 食
- 9 naun tiniskatto maduŋqa /
べた 蟹
- 10 si:n dao madaiŋað dau tuðeep bunun
先祖 人
- 11 kabanhil dau ka / nano madaiŋ sa kobo
建築用材を採る 大きな 棟木
- 12 siniða silulu:nin dao bunun a / ampaŋ
取つたもの 繩を掛け引く 人 迎へる
- 13 dau mataula to / asa makulu:ð e miš'avin
既能(者) 欲 早く 酒を飲んだ
- 14 duma bunun a / sija dau kobo a / mahau
外の人 棟木
- 15 a / askað dau tomkombo saan dalaq /
潜る 土地
- 16 sija kobo tomkombo a / sija daðuma
棟木
- 17 neto tomkombo a / masalpo dao ka /
心配する
- 18 tappis dau / mahimma dau puŋsul a /
泣ぶ 涙
- 19 mašaŋo: dau mimbatto / sija dau puŋsul
直ちに 化石する 涙

けてゐるのが聞えた。父は大公主山
に行つて見ると、鷹に喰ひ残された足
だけあつた。先祖は怒つてやけにな
つて畏を仕掛けた。ある男があつて、
先に行つて畏に掛つた鷹を取つてし
まつた。畏に掛つた鷹を食べたから、
『鷹部』といふ姓の人達があるやうに
なつた。

そして先祖がその時代に建築用の
材木を採りに行つた。先祖が棟木を
取つて繩で引張つて来た。ある馬鹿
者が迎へに来て[云ふやうには]、[外の
人達は酒を飲んで居ますから早く歸
つて下さい]。棟木は、怒つて、やけくそ
になつて地面を潜つた。棟木は潜つ
たが、潜れない人もあつて[其の人達は]
心配して、泣いた。涙をかむと[その人
達は]たちまちに石に成つてしまつた。

1. tatapis <tapis 泣く, 繼續を示す「反覆」。
3. ad'aðin ad'að-in <ad'að のみ。
5. malkatto mal-katto <katto 畏。
7. tinikatto t-in-i-katto <katto 畏。
8. minaun m-in-aun <maun 食す。
9. maduŋqaban アヌの氏族の一族, <maduŋqab 蟹
より轉來, -an 「に關するもの」, -an の接尾辭を取る
姓多し。

11. kabanhil ka-banhil <banhil 建築用材。
12. siniða s-in-iða <siða 取る。
silulu:nin silulu-un-in <silulu 繩を掛け引く。
13. miš'avin miš'av-in <miš'av 酒を飲む。
16. daðuma da-ðuma <ðuma 外の。
19. mimbatto <min-batto <batto 石, min- 參照。
610頁, 註10。

- ¹ a minqassal / sija dau tinuḡkombo bu-
方解石 滑つた 人
- ² nun a / nano adʔadʔin dau dalaq buḡḡo /
- ³ pa:unin ta dau dalaq saan buḡḡo ka /
滑り落ちたもの 土地
- ⁴ isaqaïn duma / muṣoqaïs dau mumba:av
何處に行つたか 外の 歸る 上を
- ⁵ ṣadʔoo to / isaqaïn duma / nano sija
外の
- ⁶ duma / minqattašin dao / nano koppin
外の 石の一種 のみへあつた
- ⁷ dao / tinuḡkombo ta / silulu kobo
引張る 棟木
- ⁸ sulumaq /
家まで
- ⁹ moppin dao / isaan asaḡ daiḡḡadʔ banu-
に於ける(人々) (地名) 辯大 社
- ¹⁰ waḡ a / moḡḡomma ḡao ka / moppa
その故に
- ¹¹ isikaliḡunin dao uvadʔadʔ e / duṣaaḡ vale /
乾枯びされた 子 二個 太陽
- ¹² moppa maha:u tama ke / isikaliḡun
その故に 怒る 父 乾枯びされた
- ¹³ ovadʔadʔ a / tuppa tama to / askaḡ kana-
子 云ふ 父 やげに 征伐
- ¹⁴ ʔasaḡ vale ke / isikaliḡun / muḡaan dau
する 太陽 乾枯びされた 行く
- ¹⁵ kanaʔasaḡ a / kakieb dau masuwaḡ idok /
征伐する 其の前に 植ゑる 蜜柑
- ¹⁶ maadaṣi dao tatine ovadʔadʔ kanaʔasaḡ a /
連れて行く 怒る 一人 子 征伐する
- ¹⁷ himma ḡau loḡqaibaḡ saan tantabanan /
五 穂 右
- ¹⁸ himma dau saan tantavile / hitolun saan
五 左 掛けられた
- ¹⁹ tajiḡa a / uladiḡan dau amin kuskus
耳 詰め込められた すべての 爪
- ²⁰ tilas / muḡaanin kanaasaḡ a / kasaanin
粟粒 行つた 征伐する 到着した
- ²¹ dao / inṣumaan vale ka / siḡa ḡau isimut
出る處 太陽 草

1. minqassal min-qassal <qassal 白色石英、黒灰色の石版石安山岩に露出せる白色の石英小礫は、漢を想起せしむ。
3. pa:unin pa-un-in <pa 滑り落ちる。
4. isaqaïn isaaq-in <isaaq 何處。

波は方解石になった。滑つた人達は、頭が土だらけになった。頭の土を拂ひ落した時に、外の人達は何處へ行つたのだらう[と考へた]。歸つて外の人達は何處へ行つたのだらうと上を見ると、堅石になつてゐた。滑つた人達だけで、棟木を引張つて歸宅した。

辯大社の人々が間鑿をしたが、太陽が二つあつたので、子供が乾枯びてしまつた。子供が乾枯びたので父親は怒つて、云ふやうには「乾枯びされたから、まゝよ太陽の奴めを征伐して呉れよう」。征伐に出掛けることとして、(出發)前に蜜柑の木を植ゑた。一人の子供を征伐に連れて行くことにして、「粟を」右耳に五穂、左耳に五穂引掛け、すべての爪に粟粒を詰めた。征伐に行つた。太陽の出る處に到着した時に、草を取つたが、直ぐに枯れた。外の草を取つたが、どれもこれも枯れてしまつ

mumba:av <mun-ba:av <ba:(a)v 上。
6. koppin kopp(a)-in <koppa のみ。
8. su lumaq su 遂、マモロワン ṣau lumaq。
11. isikaliḡunin isi-kaliḡ-un-in <(ma-)kaliḡ 乾枯す。

- ¹ a / na: muṣo iṣibulsokon / siḡa duma
枯れた
- ² isimut a / iṣibulsukun dau amin / nano
草 枯れた
- ³ si:n dao asik siḡawun a / iṣikaṣlok tudiee-
藁草 取られた 隠小屋を作る
- ⁴ pen dao / ne:ḡeḡ iṣibulsukun / haiḡin dao
枯れた
- ⁵ masmowab mabaqaïs / maipataḡ a pana-
甚しく 熱い(もの) 殺した者 (矢を)
- ⁶ qonin dao tama / nano tainasaanunin dao
打たれた 父 命申した
- ⁷ matta / musbajen dao bunun a / na da-
目 逃げた 人 捕へ
- ⁸ mo:n dau buwan a / ni:to isitala da:mon
られる 月 出来得る 捕へられる
- ⁹ e / atikis / damo:n dau ka / makasijok
小さい 捕へられる 間から抜け出る
- ¹⁰ saan tanudoḡ / moppa punippaq dau
指 その故に 唾をつける
- ¹¹ tanudoḡ mansippaḡ a / tuppa dau bowan
指 上から押へる 云ふ 月
- ¹² to / maḡaq ṣaso kalumsn manaḡ ḡakko /
如何して 汝 無茶苦茶に 矢を射る 私
- ¹³ tuppa dau madaḡeḡḡadʔ to / maha:u
云ふ 先祖 怒る
- ¹⁴ ṣa:ke / isikaliḡun so ovadʔadʔ a / moppa
私 乾枯びされた 汝 子 その故に
- ¹⁵ kanaṣaḡ saak / tuppa maḡaḡeḡḡadʔ to /
征伐する 云ふ 先祖
- ¹⁶ asa ne maha:u e / naʔ laḡat e / na saivak
怒る 我慢する 興へる
- ¹⁷ aṣi muwa / isihimma ṣo matta / adusun
汝 綿 拭はれる 目 連れられた
- ¹⁸ dau buwan a / daduṣa bunun a / munsan
月 二 人 行く
- ¹⁹ asaḡ buwan ta / pabaḡbaḡ dau to / asa
村 月 話す
- ²⁰ amo lulusʔanin / nano na ḡakko ka / taṣa
汝等 祭が行はれた 私

た。次に藁草を取つて、其の時に隠小屋を作つたところが枯れなかつた。大變に熱い者が現れて來た。殺人者は父に射られた。目に當つたから、人間は逃げたが、月は捕へようとした。然し小さいので、捕へることが出来なかつた。捕へたが、指の間から抜け出した。指に唾をつけて押へて、月が云ふやうには、「どうしてお前は無暗に私を撃つのか」。先祖が云ふやうには、「あなたが私の子を乾枯びさせたから、私は腹が立つてゐる。それだから私は征伐をするのです」。先祖が云ふやうには、「怒らするて下さい、我慢をして下さい、綿を上げますから、目を拭いて下さい」。月は二人の人を連れて、月の村に行つた。話すやうには、「お前達は祭をせねばならない。私は、一年に、十二回通過するが、七度の祭で充分である」。其の時に飯を炊いてくれたが、(我々の

1. muṣo 比較 muṣaṣo。
iṣibulsokon 比較 piṣibulsok 枯らす。
3. iṣikaṣlok 比較 iṣilok 小屋。
5. maipataḡ mai-pa-taḡ 殺人者即ち太陽 <mataḡ 死す。
panaḡonin panḡ-on-in <manaḡ 射る。
6. tainasaanunin taina-saan-un-in 接頭辭、taina-
10. punippaq pu-nippaq <nippaq 唾。

16. na na は「未來」を示すと共に「希望」を示すものの知し。マライ語 hēndak/nak の用法に同じ、'nak pērgi 『行き度し』『行かん』。saivak saiv+ak 『私』。
17. isihimma 比較 mahimma 拭ふ、iṣi-「道具」、isihimma 拭ふ道具。
20. lulusʔanin lu-lusʔan-in <lusʔan 祭る。

- ¹ punsan a / mumas²aq qaq duša aqqa
行くこと 十 及び 二 通る
- ² a / na: no maqto pitto lus³anan / dieepen
充分 七 祭事 その時に
- ³ dau pitija qaisiq a / mavaive dao to / sija
炊く 飯 異つた
- ⁴ dalaq a ludaqqon a / minšummajin dao
出た
- ⁵ mašdan takedauloq / nano isinabanin bu-
同じ 蚯蚓 殺へられた
- ⁶ wan lulus⁴an a / na itbusan dao babo e
月 祭事 謝儀として 豚
- ⁷ tolkok / tuppa bowan to / ma: maun e
雞 云ふ 月 若し 食ふ
- ⁸ išta⁵a na minšumma qaulus / nano sija
それ 首飾(の玉)
- ⁹ qaulus ta / na asa ikuma⁶ajon e lulus⁷an /
首飾(の玉) 使はれる 祭事
- ¹⁰ na: mudaanin dao ma: da: aiḡḡad a /
行つた 先祖
- ¹¹ munhaan asaḡ a / nano mašaansinhavin
村 黄色になつた
- ¹² dao / si:naowaḡ iḡuk al mudaan / na
植えた 蜜柑 時に 行く
- ¹³ tasin dau loḡqaibaḡ / anšoqaḡ / al aminun
つた 穂 食ひ残す 煮る すすめる
- ¹⁴ dau ma⁸un a / moppa paka⁹unan dau
食ふ その故に 食はしめる
- ¹⁵ buwan / haiḡa dau ma⁹naḡḡad a / tuppaun
月 有る 利口者
- ¹⁶ dau / minanaq buwan to / paita jimma
射た人 月 汚にする 手
- ¹⁷ ke / na haiḡa masi¹⁰hal qaulus / tuppa
良い 首飾玉 云ふ
- ¹⁸ manaḡḡal to / ne: saak e isinakan ma-
伶俐なる(者) 汚い 手で

1. punsan pun-sa(a)n-an, mun-saan 『赴く』の名詞形, tas'a punsan 『一廻り』即ち『一年』。

2. pitto lus³anan 「アヌシ」族は一年を十二ヶ月或は十三ヶ月に分割せる太陽天陰暦を有し、年中行事は其暦に依り正確に行はる。祭事の行はる月には丹大社カネトラン社に於て八ヶ月、カトグラン社に於て九ヶ月、本文には「七回の祭事」とあれど、八ヶ月執行す。

5. isinabanin 比較. mašinab 殺ふ。

6. itbusan i-tbus-an 謝儀として與へられしもの、itbos, timbos <i-in-bos 謝儀、貸金。

7. ma: e カトグラン ma:qe.

8. išta⁵a 比較. ište 此、カトグラン itta 其 itte 此。

ものと異つてゐて、蚯蚓のやうなものが出た。月が祭事を教へたから、豚と雞とをお禮に與へた。月が云ふやうには「もしそれ(月の作つた飯)を食べるならば首飾玉が出るだらう。その首飾は祭に使はねばならぬ。

先祖は、蕃社に參つた。出發の時に植えた蜜柑は、黄色になつてゐた。粟の穂は一つ食ひ残されてゐた。皆食べる筈であつたが、月が食べきせてくれたからです。利口者がゐた。月を射た人が、云ふやうには「綺麗な首飾玉があるから、手を出しなさい」。利口者が云ふやうには「糞をいちるのは汚いから手を出しません」。馬鹿者がゐた。

10. na: 「未來」の na にあらず。<nano?>

11. mašaansinhavin <masinhav 黄, maša-an- は「多數」を示すといふ説明を得たり、類例. maša-an-fajkad (多くの) 立つ <hajkad 立つ。

12. si:nsowad s(a)-in-sowad 植えたるもの <(ma-)sowad 植う。

13. anšoqaḡ 比較. mušoqaḡ 歸る。aminun <amin すべて。

16. minanaq m-in-anaq <manaq 射る。-in- は「受身」の場合多し、この例は「費儀」の例。paita pai-ta <ta 其。

- ¹ ri: dōo takke / haiḡa mataula / tuppaun
いちる 糞 馬鹿者
- ² ma⁹da¹⁰ḡaiḡad to / saivak as qaulus a /
先祖 汝 首飾玉
- ³ paaita jimma / nano mataula ne nijapto
汚にする 手 知る
- ⁴ ma¹¹isinaq a / paltala dan takke a / nano
汚い 手を受ける 糞
- ⁵ masisihal dau qaulus minšumma / tuppa
非常に善い 首飾玉
- ⁶ dau munaiḡal to / saive saak qaulus /
伶俐なる(者) 與へなさい 私に 首飾玉
- ⁷ nano aḡaḡin dao / qaulus taula / minšum-
許りあつた 首飾玉 悪い
- ⁸ ma al / si: n manaḡḡal / tuppa ma⁹ḡaiḡad
其時に 其の次に 伶俐なる(者) 云ふ 先祖
- ⁹ to / sija qaulus a binaliv babu e tolkok
首飾玉 交換した(もの) 豚 雞
- ¹⁰ a / sijata asa jikmajon e lulus⁷an / nano
祭事
- ¹¹ bunun lulusanin na / painva:ḡin dao
人 祭が行はれた 各自が分れた
- ¹² takebaka / tuppa dao to / paintativ atta
卡社蕃 云ふ 競争する 我々
- ¹³ lištummad / nano sija dau takebaka ma-
歌 卡社蕃
- ¹⁴ staan masli:ḡ / nano mahao takebanawad
最も 上手 辯蕃
- ¹⁵ dau ka / mastaan mašleḡ a / aškad dao
- ¹⁶ takebanuwad / masaspa:k toqqaḡis a /
辯蕃 (食物を口に押入れる 煮た芋
- ¹⁷ moppa ne:en takebaka / masleḡ listum-
卡社蕃
- ¹⁸ maḡ / na: no a:im bunun saan asaḡ banu-
我々 人 辯大社
- ¹⁹ wada / tudieep al paivad qalavaḡ / tuppa
分る タイヤル族 云ふ
- ²⁰ dau qalavaḡ ma: da: aiḡḡad to / paio dau
タイヤル族 先祖 此のものにする
- ²¹ batto di:ke na painva:ḡ / nano sija qala-
石 此の 分る タイヤ

先祖が云ふやうには「私はお前に首飾玉をやるから、手を出しなさい」。馬鹿者は汚なさを知らないから、糞を手で受けた。すると素的に綺麗な首飾玉が出て来た。利口者が云ふやうには、「私に首飾玉を下さい」。[馬鹿者の]次に利口者が[手を出した]時に、悪い首飾玉だけが、出た。先祖が云ふやうには「此の首飾は豚と雞と交換したものであるから、祭りに用ひねばならぬ」。人々が祭事をするやうになつてから、卡社蕃が分離した。我々は歌の競争をしようやないかと、云つた。卡社蕃は一番上手であつた。一番上手だつたので、辯蕃は怒つて、辯蕃は自棄になり、煮芋を[卡社蕃人の]口に押し入れたので、卡社蕃は、上手に歌へなくなつた。我々が辯大社にゐた、その時にタイヤル族が分れた。タイヤル族が先祖に云ふやうには「此の石を汝等に與へて分れよう」。彼等タイヤル族は[我々と]同

4. paltana 比較. antala 受く。

5. masisihal ma-si-sihal 其が好き <ma-sihal 好き。

9. binaliv b-in-aliv <baliv 交換す。

11. painva:ḡin 比較. minuvad 分る, paivad 分る。

19. tudieep al 其時に。

20. paio pai-so 汝のものにする。

- ¹ vap a / tasimaitas'a /
ル族 単一なり
- ² moppa moqnin nae painva:d bantalap /
その故に 再び 彼等 分る
- ³ moppa sin takebaka / moqna painva:d
それ故に その次に カ社蕃 分れる
- ⁴ taketudo ke / sin takeqoultafan / ma:qa
卓社蕃 その次に カンタバン蕃
- ⁵ bubukun a / taksisija qalavaq / nano saan
郡蕃 一所に居る タイヤル族
- ⁶ taksisi'ja takbanuwad a / moppa munitte
郡蕃 その故に 来る
- ⁷ qaqa:nup da:qav dau hai:da take aso /
狩獵する 段々に 糞
- ⁸ tal'ajan dau battal e sin ma:qo / tuppa
生やされた 黍 粟 云ふ
- ⁹ dau vatan to / masihal qan ite kakaunun /
(人名) 食物類 作物
- ¹⁰ moppa mun'itte dau vatan / tanam moq-
その故に (人名) 試みる 開
- ¹¹ qomma ka / masi'hal dau sja kakaunun /
粟
- ¹² moppa tuna'ite'en dau vatan a / du:qavin
その故に 此處に來た (人名) 漸次に
- ¹³ dau duma bunun kinu:in tuna'itte ja /
人 後
- ¹⁴ nano sija vatan taggos tuna'ite a / moppa
(人名) 始めに その故に
- ¹⁵ tuppaunin to takevatan /
丹蕃

源である。
更にタイヤル族から花蓮港ブタン族が分れた。それからカ社蕃が分れた]それから卓社蕃とカンタバン蕃が分れた。郡蕃はタイヤル族と一緒にゐた。我々は郡蕃と一緒にゐたが狩獵に此處にやつて來たところがいつの間にか犬糞のある處へ來た。黍と粟が生へてゐた。バタンといふ人が云ふやうには、「此處は作物が上等だ。バタンは此處に住んだ。すると次第に外の人も後から此處に來た。バタンが最初に此處へ來たから、タケバタン[丹蕃]と云はれた。

2. sa:do'so
サゾソ

- ¹⁵ tudije:p dau qaba:qan a:l / hai:dan sa-
其時に 昔 時に 居た
- ¹⁶ do'so a / sija sa:do'so dau ka / tanu'ale
その 招待する
- ¹⁷ mada:ai:pa:d a / sija mada:ai:pa:d mu-
祖先 祖先 行

2. サゾソ

昔、サゾソが居て、其のサゾソが、先祖を招待したので、先祖はサゾソの處に行つた。酒を飲みに行つて、酒を飲ま

1. tasimaitas'a <tas'a-。
3. takebaka カ社蕃は二回分離せる記述なるも、日授の混同せしめならん。
5. taksisija tak(e)-si-sija 其處に居る者 <sija 其、其處、take-「場所」。
7. qaqa:nup qanup 糞の反覆。
8. tal'ajan 生へる處、比較 pa-tali-sija 生やす、pa-tali-

sija 肥料。
e sin 兩者共「及び」の意、重複せるも聞きしまゝ記録す。
12. tuna'ite'en tuna'ite-en 此處に來れり <itte 此處、tuna- 參照、原文 1. 第609頁、註6。

- ¹ saan sa:do'so ta / mi:q'av a / na: mi:q'av
く 酒を飲む 酒を飲む
- ² dau ka / sija takke a:s / saan tahami:s /
糞 に 糞
- ³ tom'baqqon dau sintoq'lo ka / mada'om
開けられた 蓋 臭い
- ⁴ sja takke / sija mada:ai:pa:d a / maha:u a /
糞 先祖 怒る
- ⁵ mimba:s dazo tanu'ale / hai:in dao sa-
返す 居た、來た
- ⁶ do'so a saan vap'lad ta / mata:s'e hattal /
河 作る 橋
- ⁷ tudije:p sa:do'so tunuhattal a / sija mada-
橋を渡る 先
- ⁸ de:qad dao ka / motoktok e hattal / sja
祖 切る 橋
- ⁹ sa:do'so amin kamsiqaq a / muntonoq dau
すべて 中央に 崩壊す
- ¹⁰ hattal / sija amin sa:do'so a ma:qanno /
橋 すべて 流れる
- ¹¹ sija takse:seja sa:do'so a / maha:u e ma-
一所に居る 怒る
- ¹² qanno:jen duma / toppa duma to / a:sa
流れた 外の 云ふ 外の 欲す
- ¹³ sambot pa:sampanaq / na pa:sampanaq
早速に 戦ふ 戦ふ
- ¹⁴ mada:ai:pa:d ka / pinvaijonin dau mada-
先祖 負けた 先
- ¹⁵ de:qad / nano sija sa:do'so a / nito maqto
祖 出來得る
- ¹⁶ pavaijon / nano sija mada:ai:pa:d a /
負ける 先祖
- ¹⁷ neje:p papijaq miqommis / nano sa:do'so
如何程、澤山 生きる
- ¹⁸ a mawa:d / sa:qapat a mattad a / sa:do'so a
のみ 四人 死ぬ
- ¹⁹ haan isimo:it topqavin a moosqa matis-
草 隠れる 不明 打つ
- ²⁰ boq / nano sa:vis atitikkis sja musqa ma-
彈丸 極小 不明

うとすると、糞が、糞の中にあつた。蓋を開けると、糞が臭かつた。先祖は怒つて、お返しに招待することにした。サゾソが河の處に來た。橋を作つた。サゾソが橋を渡つた時に、先祖は、橋を切つた。サゾソは皆真中にゐたので、橋が崩れ落ちると、サゾソは皆流れた。[招待に應じて行かなかつた]仲間のサゾソは、他の[招待に應じて行つた]ものが流れたので怒つた。[行かなかつた]者共が云ふやうには、「速刻に戦ひた。先祖も戦争する事にしたが先祖は負けた。サゾソは負けなかつた。先祖には、生き残つたものは澤山なかつた。サゾソが四人だけ死んだのは、サゾソは草の處に隠れてこつそりと射撃したからです。彈丸は極めて小さく何處に當つたか判らずに先祖は、サゾソに打たれて澤山死んだ。

2. a:s 接辭。
3. tom'baqqon <(ma-)tom'baq 開く。
sintoq'lo (i)s-in-toq'lo ? <(ma-)toq'lo 蓋をす。
7. tunuhattal tunu-hattal.
8. e 對稱の如き使用。
9. kamsiqaq ka-misqaq 中央に居る <misqan 中央。

11. takse:seja taksisija.
13. pa:sampanaq 比較 manaq 撃つ。
14. pinvaijonin p-in-vai-(i)on-in 負けし者 <pavai 勝つ、接尾辭 -in と挿入辭 -in- の二重の使用、比較 pa-vai-(i)on 負く。

¹ dadaiŋpað / papija matað paşapanaqan
先祖 死ぬ
² saðo'so /

3. qanivalval
虹

- ³ haiða dao linanowað e bananað / qaba-
有る 女 男 昔
⁴ şaŋ a / nai dau ka / maqalaşa tamoqhi:ja
彼等 貧乏な 裸體
⁵ ukka pinainoq a / sija binano'að a /
無い 衣服 女
⁶ maqaijo sija pinainoq bunun / moppa
盗む 衣服 人 その故に
⁷ mað'av bananað a / tuppa bananað to /
恥しい 男 云ふ 男
⁸ miŋqanivalval saam e / mað'av saak e /
虹になる 我々 恥しい
⁹ maqaijo sja binanowað / tuppa nae to /
盗む 女 云ふ 彼等
¹⁰ ma'e luvlvan a / na ðakko mabalon
若し 暴風が吹く 私 賑き止める
¹¹ lovlov / na maha:o saam e / dijaqaes
暴風 怒る 若し
¹² tubaŋno amo ðame / ma'e mapat-no amo
悪口を云ふ 汝等 我々 若し 指さす 汝等
¹³ ðamme ka / na matoqalvaŋ jimma / sja
我々 曲る 手
¹⁴ binano'að a / maşi'hal painoqon a / ma-
女 良い 綺
¹⁵ kasappa sja / makatanhappav sija bina-
麗な 上部に居る
¹⁶ no'wað a / nito makasappa / makataŋaliq
女 下部に居る
¹⁷ nano sea bananað / nito maqaijo / moppa
男 その故に
¹⁸ binanowað makşaga e / tiniŋqaijo paino-
男 盗んだ
¹⁹ qon /

10. miŋqanivalval miŋ-qanivalval min > miŋ-(q).
13. dijaqaes 比較 dijaqai (原文6. 第621頁8行)「若し」
-s? -s < 接辭 as?
17. makatanhappav maka-tan-happav < happav s.

3. 虹

昔、女と男があつた。彼等は貧乏で衣服が無く裸でゐた。妻は他人の衣服を盗んだ。それ故に夫は恥しくて、云ふやうには「妻が泥坊をしたから、私は恥しいから、私達は虹にならう」。彼等が云ふやうには「暴風が吹けば私は暴風を賑止めよう。あなた達が私達の悪口を云へば、私達は怒る。若しあなた達が私達を指さすならば手の指が曲るだらう。」女は、良い衣服だから、綺麗であつて、[虹の]上部にゐる。男は、[衣服を]盗まず、美しくないから、下部にゐる。女は衣服を盗んだから美しい。

18. makataŋaloq maka-taŋ-aloq < aloq 下?
20. tiniŋqaijo t-in-iŋ-qaijo 盗みし者 < *qaijo. ma-qaijo 盗む, taŋ-qaijo 盗む。

4. 暴風と雪

4. lovlov sin pa'av
暴風 と 雪
² sijadao lovlov sin pa'av ta a / maibunun
暴風 と 雪 人間である
³ dao ka / moppa qabaşaq qanop dao ka /
その故に 昔 狩
⁴ sija şate a / masakbit bantaş a / tuppa
(人名) 痛い 足 云ふ
⁵ dao şate to / amajen saak e / ne makto
(人名) 背負はれる 私 出来る
⁶ mudafaan e / masakbit bantaş / aŋkajen
歩く 痛い 足 通つた
⁷ bunun a / amajen saak e masakbit
人 背負はれる 私 痛い
⁸ bantaş / ne dao iştala duma bunun /
足 承諾する 外の 人
⁹ tuppa dau şate to / ma: amo ke ne
云ふ (人名) もし 汝等
¹⁰ mama'a / na minlovlov saak / na sam-
背負ふ 暴風になる 私 必
¹¹ butoq mo lumaq mato: noq a na sin
す 汝等 家 破壊する と
¹² boŋqawun kakaunun / na minso:ma dao
折られる 作物 出る
¹³ niwuu a / tuppa dao niwun to / isaq şate /
(人名) 云ふ (人名) (人名)
¹⁴ tuppa to duma to / okkaş e na ne'n
云ふ 外の 未だ一でない なし
¹⁵ talpija haiðin / solaluwan dau duma bu-
永き 来た, 居た 嘘 外の
¹⁶ nun / sija niwun / haiðin / sija niwun
人 (人名) 来た (人名)
¹⁷ ampaş dao ka / sija şate a / minlihom-in /
迎へ行く (人名) 雲になつた
¹⁸ tuppa dao niwun to / na saan saak luðun
云ふ (人名) 私 山
¹⁹ ta / mimpa'av / saak lapa'av e / kakaun-
雪になる 霽害を興へる 作物
²⁰ un bunun / na minsoqdaşin bunun / tuppa
人 貧乏になつた 人 云ふ

暴風と雪は元は人間であつた。そのわけは昔シ+エが狩に行つたが、足が痛くて、シ+エが云ふやうには「足が痛くて、歩けないから、私を背負つて下さい」。人が通つたら、「足が痛いから、私を背負つて下さい」。[と云つたが]外の人には承諾しなかつた。シ+エが云ふやうには「あなた達が背負つてくれなければ、私は暴風にならう、そしてあなた達の家をきつと破壊し、作物を折つてしまはう」。ニオンが家から出て、云ふやうには、「シ+エは何處ですか」。外の人達が云ふやうには「まだ来ないが、間もなく到着するだらう」。外の人達は嘘をついたのです。ニオンは[シ+エの居る處へ]行つた。ニオンが迎へに行つたが、シ+エは雲になつてゐた。ニオンが云ふやうには「私は山に行つて、雪にならう、人々が貧乏になる

2. maibunun mai-bunun < bunun 人。
5. amajen ama-(j)en 背負はる者 < mama 背負ふ。
6. aŋkajen aŋkaje-(e)n 通りし者, <aŋkaje 通る。接尾辭 -in の轉來語は「受働的」にもなれば「發働的」にもなる。「他動詞」より轉來せる時は「受働的」になり、「自動詞」より轉來せる時は「發働的」になる。
12. boŋqawun boŋqa-(w)un < (mu-)boŋqa 折る。kakaunun 食料類 農作物。

14. okkaş ukka-aş.
17. minlihom-in min-lihom-in < lohom 雲。
19. mimpa'av mim-pa'av < pa'av 霽, min- > mim-, lapa'av la-pa'av < pa'av, 接頭辭 la- 參照 la-niŋ'av 洪水 < niŋav 海, 「被覆」の義。
20. minsoqdaşin min-soqdaşin 食料缺乏になれり, 貧乏になれり, 比較 maşaşoq'hoðan 空腹。

- ¹ dau niwun to / ʃa:ɛ / na: paintataiv / ata
(人名) (人名) 競争する 我々
- ² pinsoqadaŋ bunun / nano sija bunun sila-
貧乏にせしめる 人 人 始
- ³ laa maqaitbas ita ka / na paintataiv ata /
む 成む 我々(二人) 競争する
- ⁴ lovlov si:n pa'av /
暴風 及び 雪

ように、作物に、霜害を興へてやらう。]
ニオンが[夫のシ+エに]云ふやうには、
「私達は競争して、人々を貧乏にしよ
うよ。あの人達は先に私達を虐めた
から、競争して風を吹かせたり雪を降
らせたりしようよ。」

5. tilulukkis

- ⁹ tudeep dao a:l taʃtaʃʔawunan dao tilas
その時に 時に 一つづつ 穀物
- ¹⁰ pitʔija ka / anakʔanak lukkis mulumaq /
炊く 獨りで 木薪 家に来る
- ¹¹ ma:ɛ maʃaʃoqʔhoðaŋ a / na:sija dao mi-
若し 空腹、貧乏 その
- ¹² qomis lukkiʃ / si:n ne maloqloq saap
生きた 木薪 而してなし 燃える 豊穡、豊明
- ¹³ mulumaq / ma:qae abqan a / na:sija dao
家に来る 若し 満腹、富 その
- ¹⁴ mafulbulsoq lukkis / si:n maloqloq / saap
枯れた 木薪 而して 競争
- ¹⁵ mulumaq / haiða dao binanaʔað a ilumaq /
- ¹⁶ titinʔun / anoʔmanon dao / uʃilun a /
織りつゝある 引抜かれた 竹製緯糸掛
- ¹⁷ maha:u binanaʔað a / toppa binanaʔað to /
怒る 女 云ふ 女
- ¹⁸ maaʔʃo mulumaq te / nataʔa ta ma na
何故に、汝 此の 外庭
- ¹⁹ ɔamme ke / ʔanakʔanak si:ða / nasija luk-
我々 自身で 取る 木
- ²⁰ kis dao ka / maha:u wa amin dao lukkis /
薪 怒る すべて 木薪
- ²¹ si:n saap si:n kitʔa / si:n habol / mudʔaan
而して 肥松 而して 燃え残り 而して 糞(おき) 行く
- ²² dao / tuppapaʔunin binanaʔað / moppa pa-
云へり 女 その故に

5. 採 薪

粟が一粒づゝ炊かれた時代には、薪
は獨りで家に來た。貧乏な[家]であれ
ば、生薪と燃えない肥松が來た。金持
の[家]だと、枯れた薪と燃える肥松が來
た。ある女が家に居て、織つてゐた。
[薪が]緯糸掛を引抜いたので、女は怒つ
て、云ふやうには、「なぜ家の中に入つた
か。外庭に出なさい。私達自身で取
るから」。其の薪が怒つたので、他のす
べての薪も怒つた。それから肥松も、
燃え残りも、糞も。女が[その様に]云つ
たから、出て行つた。それ故に其れ以
後は人々は薪を採りに行くことにな
つた。

2. pinsoqadaŋ pin-soqadaŋ 貧乏にす。
8. tilukkis ti-lukkis <lukkis 木。

9. taʃtaʃʔawunan taʃ-taʃʔa-(w)un <taʃʔa 一。
16. titinʔun titinʔun <tinʔun 織機。
manon <maoman 抜ける。

- ¹ iʃkatdijeepen bunun tilukkis /
其以後 人 薪を採る

6. paintataiv lukkis tindʔaŋkol

- ⁴ sija lukkis qabaʃaŋ a / tuppapaʔunin aʃa
木 音 云ふ 欲する
- ⁵ paintataiv tindʔaŋkol / tuppapaʔunin dao banhil
競争 走る 云ふ 音
- ⁶ to / ne: banisa mataliʃkaŋ e atikkis / nano
柏杉 速し 小さい
- ⁷ maʃðaŋ dao tindʔaŋkol a / tuppapaʔunin dao toq-
同じき 走る 云ふ 松
- ⁸ qon to / ite saik e / na dijaqai iʃimaqae-
此處 私 若し 夜に
- ⁹ mutan amo ka na ukka palsuqqon / na
なる 汝等 缺く 燈
- ¹⁰ iʃimaqamutan amo ka / na ni makuwa /
夜になる 差支
- ¹¹ sija bantaʃ naik toktokon / palsuqqon
足 私の 切られた 燈
- ¹² muo / sija duma lukkis a / nexo masmo-
汝 外の 木 其しい
- ¹³ wab mataliʃkaŋ e / mowað pansaan taŋa-
速し のみ まで 山
- ¹⁴ daq luʔun ta / tuppapaʔunin to / tuppapaʔunin
麓 山 云ふ 柏杉 云ふ
- ¹⁵ amo to / ni: saak mataliʃkaŋ e / atikkis /
速い 小さい
- ¹⁶ simaq maʃitaan mataliʃkaŋ / nano ɔakko
誰 最も 速い 私
- ¹⁷ maʃtaan mataliʃkaŋ a atikkis / moppa
速し 小さい その故に
- ¹⁸ maqaiboŋ siqqae paʔun ta jimma ke /
屈曲する 枝 その型を 手
- ¹⁹ ɔakko mataliʃkaŋ /
私 速い

6. 木の駆競

昔、木が駆競をしたいと云つた。柏
杉が云ふやうには、「柏杉は小さいから、速
くない」。さて同時に駆け出たが、(途中
で)松が云ふやうには、「私は此處にゐる
事にする、夜になれば諸君には燈が無
いだらう。暗くなつたら、私の足を切
つて、點火しても、構はない」。外の木は、
大して速くなく、山の麓までしきや行
けなかつた。柏杉が云ふやうには、「私
は小さいから、速くない」と諸君が云つ
たが、誰が最も速かつたのですか。私
は小さいが、一等速かつたのですぞ。
枝が曲つてゐるのは「私が速いぞ」と(威
張つて)手をそんな風にしたからです。

7. ɔandan

7. 櫻

6. banisa 柏杉、高山地帯、の最高部に發生せる灌木。
8. iʃimaqamutan iʃi-maqamut-an 夜に際會したるも
の、<maqamut 夜。
9. palsuqqon palsuqq-on 火を點す物、燈 <malsioq 點
火す、i は弱音化し脱落す。

11. toktokon <matoklok 切る。
12. muo mu 「汝の」に同じ。
16. nano-a nano の「條件」を示す例、「に拘はらず」。
18. paʔun pa-un 其様にするもの <moppa 其様に。

- 1 ma: qabaşay a / tuppa dao mađaiñad
昔 云ふ 老人,先祖,親
- 2 to / aša amofaduša matinhanus na:
要,欲 汝二人 早く歸る
- 3 mabađo (qaişin mabađo) tilaş / kaunun
搦く 飯 穀物,粟 食物
- 4 şanavan a: / đaduša muđaan saan đaan
夕 行く に於て 道
- 5 ta / toʔija dao toqbisio ka / duša nae
鳴く 鶯(?) に 彼等
- 6 kilim a duğđav nae pahuse / talmađija
探す 次第に 交接 永い間
- 7 nae pahuse ka / ne işitala hoqloson a /
交接 なし 出来得る 抜かれた
- 8 şida dao, nae vija / makulut puđas a /
取る 刀 切る 男根
- 9 mitđaduša nae matađ / dušaʔun nae
二人 死す 二人一所にされた
- 10 maqaltom a / talʔaeen đandan / moppa
埋める 生やされた 櫻 その故に
- 11 maşamo bunun pişidıwa đandan e mai-
禁する,禁忌 人 機やす 櫻
- 12 bunun / moppa qailis đandan talduša
人である その故に 常に 櫻 二本
- 13 talıʔija /
生える

8. başittad
パンシツタズ

- 16 sija tuppawun to / başittad a / ne
云はれた なし
- 17 işitala iqomissan ovađʔad a / tuppa dau
出来 生やされる 子 云ふ
- 18 binanaʔwad to / manʔasiqađ saak e / mim-
女 自暴自棄になる 私 何
- 19 maaq miqomis a ukka ovađʔad / na ne:
になる 生く 欠く 子

2. na: =na.
5. toqbisio 此鳥は pahuse 「同食せよ」と鳴くと蕃人は云ふ。
7. hoqloson hoqlos-on 抜取るもの <(ma-)hoqlos 抜取る。
9. mitđaduša mit-đa-đuša 二人(死す), 比較 mit-tatao 死者三人, mit-ovađʔad 子死す, mit-mađaiñad 親死す, 接頭辭 mit- は「死者」を示す。
đušaʔun đušaʔun nae maqaltom 二人を埋む, đuʔa

昔,親が[子供に],「一足さきに歸つて, [お飯-]夕食の粟を搦きなさい」と云つたので[兄妹の]二人は道を歩いてゐると,鶯が鳴いたので,彼等二人は探してゐるといつの間にか契つた。永い間同食してゐて抜け離れなくなつたので,彼等は刀を取つて,男根を切ると,彼等二人は死んだ。二人を埋葬したところが,櫻の木が生えて來た。それで櫻は人間であつたのだから薪にする事が禁忌となつてゐる。それで櫻は常に二股になつて生える。

8. パンシツタズ樹

パンシツタズが云ふやうには,「子供を育てられない」。彼女が云ふやうには「子供を持たずに生きてゐても詰らないから,私は自暴自棄になつた。

nae maqaltom 埋む,人は二人。
12. talđuša tal-đuša 二つ-緒に <đuša 二,接頭辭 tal- 「集合數詞」類例, tal-tao 三つ-緒に, tal-tiun 三日間。
16. başittad 此木には臭氣あり。
17. iqomissan <miqomis 生く。
18. binanaʔwad başittad といふ名の女を指す。
mimmaa q mim-maaq <maa q 何, min-> mim-

- 1 saak mimpoħo q a / na mowađ saak to /
私 腐敗する のみ 私 私 は 腐り は し ない が 臭い 木 に は なら
- 2 minlukkis başit /
木になる 臭い う。

9. takedoloq
蚯蚓

- 3 tuđeep qabaşay dao / tina ke ovađʔad
其時 昔 母 及び 子
- 4 a / haiđa dao ka / qailis dau ovađʔad
有る 常に 子
- 5 tuppa to / ka: tinna lişaʔajen / na: haiđa
云ふ 勿れ 母 座席を代へられた 有り
- 6 duma / lişaʔajen a / tuppa ovađʔad bina-
外の(人) 座席を代へられた 云ふ 子 女
- 7 naʔwad to / kaat tutuđa dişaʔajen / na:
勿れ 本常に
- 8 mudaan dao ovađʔad a / sija tina ka
行く 子 母
- 9 tanamon tina işiloğqo ka / musqa dau /
試みた 座る 知れずに
- 10 minsumma saan batto ta takedoloq /
出る に於て 石 蚯蚓
- 11 mahuse dao / na: sija tina tumbaqqon
交接する 開けられた
- 12 şadoo ka / aj mađaiñ sja takedoloq / na:
見る 大なる 蚯蚓
- 13 sija tinna pişqate danum / maşijol /
沸す 水 注ぐ
- 14 haiđin şanavanin binanaʔwađa / nautonaut
有つた 夕になつた 女 故意に
- 15 binanaʔwad / işiloğqo itta a / ukka / tuppa
女 其處に 欠く 云ふ
- 16 binanaʔwad to / tina / ajnpunggolaan
女 忘れたる(もの)
- 17 naik itta baho wa / şidaajeqon / sija tina
其處に 箱 取つて下さい
- 18 mundijeep siđa a / sija binanaʔad tumba-
其處に行く 女 開けられ
- 19 qon batto şadoo ka / mattađin bananađ /
た 石 見る 死んだ 男,夫

9. 蚯蚓

昔,母と子があつた。子が常に云ふやうには「お母さん,外の人が來ても,私の座席に坐らせてはいけません。女の子[=娘]が云ふやうには「本常に坐らせてはいけません」。子が出て行つたので,母が[娘の座席に]坐つてみると,いつの間にか石の處から蚯蚓が出て來て,交合した。母は[石を]開けて見ると,「アー!大きな蚯蚓がゐたのです。母は湯を沸かすことにした。注ぎかけた。夕方女[=娘]が歸つて來て,態と共に坐つたが,[蚯蚓は]居なかつた。女[=娘]が云ふやうには「お母さんあすこに箱を忘れて來たから,取つて來て下さい」。母が取りに行つてゐる間に,女[=娘]は石を開けて見ると,夫が死んでゐた。妻は泣いた。月足らずだつた。

7. na: / na na: haiđa duma の na: は「未來」, na: muđaan dao ovađʔada, の na: は「引續き起る」事を示す「間もなく」。
11. işiloğqo işi-loğqo <(ma-)loğqo 座る。
12. batto アヌンの家屋は石疊。

15. pişqate p-is(i)-qate 湯を沸す <qate 湯, maşijol -an 形は sul-an 忘る。
18. ajnpunggolaan <mainpunggol 取る。
19. şidaajeqon <siđa 取ル, qon は命令法を丁寧にする。-je- は命令法, 類例 kauneqon 「召上り玉へ」。

- ¹ nano sija binana²wad / tanniš / nano nejaŋ
女 泣く 未だ一ぬ
- ² kanaqtoŋ abobao ta / moppa atitikkisin
完成 妊娠 その故に 小さくなった
- ³ takedoloq /
蚯蚓

から、[現今の]蚯蚓は小さくなった。

10. side
山羊

- ⁶ sija dao ma²adaipa² a / haan tonoo
先祖 に於て 断崖
- ⁷ ta / malaliŋko batto ka / sija liniŋko batto
轉ばし落す 石 轉ばし落した 石
- ⁸ ka / mabalatbalat / muvišviš muliŋko ka /
横向けになる (擬聲)
- ⁹ doŋŋu²avin dau / minsida / moppa okka
次第に 山羊になる その故に 欠く
- ¹⁰ qabaŋ side dao ka / paika²dijeepen
昔 山羊 其時以後
- ¹¹ haidin side / moppa taksasaan nae kulaan
有つた 山羊 その故に 常に居る 彼等
- ¹² ta qasivoŋ muvišviš e / moppa haan
住む その故に に於て
- ¹³ kulaan ta leŋko batto / nano side ka /
崖 石 山羊
- ¹⁴ maibatto miqomiš /
石から生ず 生命を有つ

10. 山 羊

先祖が、断崖に於て、石を落してゐた。落された石が、幾回も横向になりながら、ビシビシといふ音をたて、轉がり落ちて、次第に山羊になった。昔は山羊は居なかつたが、その後居るやうになった。ビシビシ音(=山羊)は常に崖の所にゐる、崖の處で石が轉ばし落されたから。とにかく山羊は石から生れたものである。

11. huttoŋ
猿

- ¹⁷ qabaŋ da:v palpaev a / pit²iija da:o
昔 手傳 炊く
- ¹⁸ ta:e kaunun bunun a / ne: to iŋitala
里芋 食物 人 なし 出來得る
- ¹⁹ masasak / tuppa bunun to / maŋoq²qo²daŋ
煮る 云ふ 人 空腹
- ²⁰ sja neaŋ minaun / tuppa madaipa² to /
未だ一ぬ 食べたもの 云ふ 祖先

11. 猿

昔[先祖の]カイムツが手傳に[村人]を頼んだから、人々の食物の里芋を煮たが、煮えなかつた。人々が云ふやうには、まだ食べないからお腹が空いてゐる。

- 7. malaliŋko maliŋko 「轉ばして落す」の反覆。
liniŋko l-in-iŋko <(ma-)liniŋko.
- 8. mabalatbalat <balat 横。
- 14. maibatto mai-batto.

採録期：昭和五年八月。

- 口授者：sippal maŋoqoqo (少年時代に亡父より聽聞せし物語)
- 説明者：口授者。
- 19. maŋoq²qo²daŋ maŋa²qo²daŋ / maŋoq²ho²daŋ / maŋoq²-daŋ 三種 sippal の發音に現る。

- ¹ ne to (i²ŋitala masasak / tuppa qaisol to /
出來得る 煮ゆ 云ふ (人名)
- ² otsmaŋ e matašab e maŋoq²qo²daŋin bu-
諦める (鍋を)下す 空腹になつて居る
- ³ nun / sija bunun ma²un amin a / a:ŋ
人 人 食ふ すべて
- ⁴ maqamqam sja / hai²da danom / tuppa
いごい 有る 水 云ふ
- ⁵ madaipa² to / hai²da danum ŋaŋan a / o:n
先祖 有る 水 少し前に
- ⁶ uva²ad tuto²on / tuppa amin bunun to
子 こぼされた 云ふ すべて 人
- ⁷ asa qo danum a / ukkin danum to atik-
飲む 水 無くなつた 水 少
- ⁸ kis / mušašo amin bunun qamqaman
し 引續いて すべて 人
- ⁹ amin a / aŋqus dao amin taŋa: / kikilim
すべて 手にとる すべて 鉄 探し抜く
- ¹⁰ danum / mušoo minihuttoŋin / sija inaŋqos
水 直ぐ 猿になつた 手に持つてゐる物
- ¹¹ taŋpa a / min²ikkol /
尾になる

る。先祖が云ふやうには「煮えてゐないよ」。カイソルが云ふやうには「人々は空腹になつてゐるから下すやうに諦めよう」。人々がすつかり食べると、「あゝ大變にいごい水がありますか」と人々が云つた。先祖が云ふやうには「さつきまで水があつたが、子供が零してしまつた」。皆の人が「水が飲みた」と云つたが、水が無くなつて少ししか残つてゐなかつた。相變らず皆の人は喉がいがらつほいので、各々鉄を手にして、水を探しまわつた。まもなく猿になつてしまつた。手に持つてゐた鉄は尾になつた。

12. qabos
カボス

- ¹⁷ aiven saak loqtas / toppa tina to / aša
奥へられた私 煎飯 云ふ 母 要
- ¹⁸ tilukkiš na saivan loqtas / hai²da qabos /
薪探 奥へられた 煎飯 有つた

12. カボス

「私にお焦を下さい」とすると母が云ふやうには「薪探りに行つてくればお

- 5. o:n o:n uva²ad tuto²on 『子供ニヨリ零さるもの』、o:n pot taŋqaiŋon 『本嶋人ニヨリ零さるもの』
- 6. tuto²on tuto-on <(ma-)tutu 零す, mu-tutu 零る。
- 9. kikilim ki-kilim 探し續ける。到る處を探す <kilim 探す。『反覆』を示す。
- 10. minihuttoŋin mini-huttoŋ-in > hutton 猿, mini-/min- in-aŋqos in-aŋqos 手に持つてゐるもの <aŋqos 手に持つ。
- 11. min²ikkol min-ikkol <ikkol 尾。
- 17. aiven saak loqtas qabos と云ふ名の子供の云ひし言葉。aiv-en, saiv-en, saiv-an <masa²aiv 奥ふ。aiven

及び saiven は『奥へよ』といふ「命令」に用ひ、saivan は「奥ふ」といふ「發働」に用ふといふ説明を得たり。masa²aiv の語根は /sa²aiv なければ saiven は本来の形にして aiven は s の脱落せるものならん saiven >*haiven >aiven, s>h の例 haan/saan-en は分詞接尾辭 -in にして saiven 『奥へられしもの』、saiv-an の -an は「場所」或は masa²aiv に「關係する物」を示す『奥へるもの』、-an 轉來語は「發働」的意義を有すること多き故に『奥ふ』の意に用ひ、-in の「受働」的なければ『奥へよ』の場合用ふことならん。

- ¹ tooppa qabos to / saiveŋ qatað / toopa
云ふ 膳 云ふ 焦をあげるよ。カボスは歸つて来た。
- ² tinna to / munsulan / na saivan loqtas /
母 水洗みに行く 奥へられた 焦飯 カボスが云ふやうには「膳を下さい」。
- ³ haiðin qabos / tuppa tina to / tinsa:ŋ /
有つた 云ふ 母 肥松を採つた 母が云ふやうには「水洗みに行けば、お焦をあげるよ。カボスが歸つて来た。」
- ⁴ haiðin qabos tininsa:ŋ a / tuppa tina to /
有つた 肥松を採つた 云ふ 母 母が云ふやうには「肥松を取つて来るんだよ。カボスは肥松を取つて歸へると、母が云ふやうには「家を掃けばあげるよ。カボスは考へるやうには、前のお母さんは、こんなに虐めなかつた、前のお母さんが死んだので、お父さんは再び後妻をもらつたが、大變に虐める、それでお焦をくれない。カボスは、箆を自棄に切つて、腋の下に挿し込むと、羽になつた。掃いた箆は、尾になつた。カボスは飛ばうとして、云ふやうには、「ヨハープ、ヨハープ！」。父はびつくりして、其れは何だらうと思つて、外へ出て見ると、カボスが云ふやうには、「お父さん、今度のお母さんは悪いんです、私をひどく虐めます、お焦を呉れま

1. saiveŋ <saiven
2. munsulan <hasulan 水洗場。
loqtas 鍋底に附着せる焦飯は loqtas, 側面に附着せるのは qatqat.
3. tinsa:ŋ tin-sa:ŋ <saap 肥松, tin-batto 塗照, ti-lukkis 『薪を採る』 ti-/tin- (鼻音のある形原形?)。

4. tininsa:ŋ t-in-insa:ŋ, tins:ŋ の -in- 形。
5. asiki 比較, maasik 掃く。
saivanan saivanan?
12. minpanne min-panne <panne 羽。
sin'asik (i)s(i)-in-asik 掃除に使用せし物。
15. munata mu-nata <nata 外庭。

- ¹ loqtas / ðaaen saivan qattað / ðaaen saivan
焦飯 奥へられた 膳 せん。父は、外庭で、云ふやうには「カボ
- ² loqtað / ðaaen saivan qattað / tuppa qabos
焦飯 奥へられた 膳 云ふ スよ、こちらにお出で、お焦をあげるか
- ³ to / ne'e madikila ōoo tama kiniŋnaan /
否 悪い 父 後妻 ら、こちらにお出で、膳をあげるから、こ
- ⁴ masowab paklalaŋ / sija qabos maŋimo-
甚しく 虐待する 甚しく ちらにお出で、お焦をあげるから、こち
- ⁵ wab madikila iŋi'aŋ a / tuppa tama to
悪い らにお出で、膳をあげるから、こちらに
- ⁶ ðaaen saivan qattað a / duŋŋuðarven qa-
奥へられた 膳 次第に お出で、御焦をあげるから、こちらにお
- ⁷ bos / iŋiqadadaðeen kusbaje / ōoo tama
登つた 出でなさい、膳をあげるから。カボス
- ⁸ madikila kiniŋnaan / koharv / koharv /
悪い 後妻 が云ふやうには、「いやです、お父さん、今
- ⁹ kokoharv / sija tama ka / anak'anak
父 自ら、獨りで 度のお母さんは悪いんです、大變に虐
- ¹⁰ moqaiŋots bonŋo /
首する 首 めます。カボスの心は大變にひねく
- れてゐたから、父は膳を奥へると云つたが、カボスは段々と飛び昇つた。「お父さん、今度のお母さんは悪いんです、ヨハープ、ヨハープ、ヨハープ！」。父の首はひとりでに切れ取れてしまつた。

13. qalindiŋ
カリンデシ

- ¹⁰ sija bananað qaznop a / tuppa binana-
男、夫 狩 云ふ 女、妻 夫が獵をすると、妻が云ふやうには、
- ²⁰ wað to / isaq titte / pinahiba bananað
何處 肉、獸類 馴す 夫 「肉は何處にありますか」。夫は騙し
3. kiniŋnaan k-in-iŋna-an 後に來りし者、後妻 <kiŋna 後の。
6. ðaaen <daiða 此處?
7. iŋiqadadaðeen iŋi-ka(?)-ða-da-da-en 登りし處 <daiða 上。
10. moqaiŋots maqaiŋot (首を)切る—他動, moqaiŋot 駭

13. カリンデシ鳥

首せらる。(首)切れ落つ—自動。

20. pinahiba p-in-ahiba だます。(例へば叱られし時に泣く風なす) <pahiva, mahiva だます(泣く子供に菓子やを奥へ泣く勿れと云ふが如し)。

- 1 tuppa to / okka e mimpohoq / mo:qna
云ふ 無い 腐る 再び
- 2 qanop a / tuppa to / kaunun tummad /
狩 云ふ 食べられた 無
- 3 nano binanowad kas?ap to / pinahiva /
妻 思ふ 騙す
- 4 moqua bananad qanop a / sija binanawad
再び 夫 妻
- 5 a / malbanas?i / samuqae / isipakaun e
看守する 食はせる
- 6 huttoq / sija binanawad a mahazo a / siða
猿 妻 怒る 取る
- 7 e isip?asi / lala?as?i huttoq / nanu huttoq
針 幾回も針で刺す 猿 猿
- 8 a matoqae?avin qanom lais?a?asan / sija
紫色になった 胸 針で刺した跡
- 9 bananad pinahiva toppa to / ne: mahazu
夫 騙す 云ふ 怒る
- 10 we madija paeso: titte / nano sija bina-
多く 汝に與へる 妻
- 11 nawað a / masowab mahazu e qalman
甚しく 怒る 無暗に
- 12 pakaun huttoq a / nano sija binanawad
食はせる 猿 妻
- 13 a / na ?asiqað tuppa binanawad to / ma?o
自棄になつて 云ふ 妻 汝はどしどし
- 14 laoq / qalman masa?aiv huttoq a / ne saak
(人名) 無暗に 與へる 猿
- 15 asa isoowan asiqað saak saan vapulað ta /
汝の處 汝の處 河
- 16 anak?anak kikilim kaunun / nano tuppa
獨りで 探す 食物 云ふ
- 17 valis to / nano miq?alindi? /
(人名) qalindi? になる

て云ふやうには「腐つたからありませ
ん」。再び獵に行つた時に、熊に食はれ
てしまつたと云つた。妻は考へるや
うには、それは嘘だと。又夫は獵に行
つた時、妻は看張つてゐると、猿に食は
せてゐた。妻は怒つて針を取り、猿を
幾回も刺した。猿は針で刺された針
の跡で胸が紫色になつた。夫は騙し
て云ふやうには「肉は澤山あげるから
怒つちやいけない」。妻は、猿に無暗に
食はせた事で大變に怒つた。妻は自
棄になつて云ふやうには「ラオン、あな
たはどうしたのですか。猿に無暗に
與へるから、妻はあなたの處にゐたく
ありません。自棄になつたから河へ
行つて、獨りで食物を探しませう」。ワ
リシはかう云つて、カリンデシ鳥にな
つた。

3. kas?ap 比較 is?ap 心、思考。
5. samuqae 『其時に』比較 dijaqai 『若し』。
isipakaun isip-pa-kaun 食せに使ふ(もの) < / 〱 kaun
食ふ。
7. isip?asi isip-as?i < as(i) 針、針』は isip?asi と同 as?i
とも云ふ。
lala?as?i las?as?i 『針を以て刺す』の「反覆」にして
『繰返』を示す。 las?as?i < la-as(i)-as?i < as(i) 『針』 la-

は la-nip?av の la- (第619頁註19) に比すべきもの
か。
8. lais?a?asan la-is?i-a-as(i)-an と分解すべきものか。 a-
as?i は asi の部分的反覆。
10. paeso = paes 「與ふ」 + so 「汝に」。
13. ma?o = maaq 「何」 + so 「汝」。
15. isoowan isoo+an 汝の處 (に居る)。

14. tiklas e kunkun
竹雞

- 2 sija tiklas e kunkun a / makaba? dao
竹雞 出草する
- 3 ka / sija kunkun mananaq a / sija tiklas
射た 竹雞
- 4 a / maqai?ut a / tuppa tiklas to / ina:k
首を切り取る 云ふ 竹雞 私のもの
- 5 naipa / moppa sija kunkun pinanaq a /
それ その故に 射たり
- 6 on tiklas qalavan / moppa mahazu kon-
竹雞 取られたる 其の故に 怒る
- 7 kon a / tuppa kunkun to m'im ti?iqainað /
云ふ 力む
- 8 mu?aso: nae / minloqqai e / paqaqalav
直ちに 鳥になる 取り合なする
- 9 boqpo qala?baq / moppa tuppa tiklas ina:k
首 タイヤル族 その故に 云ふ 竹雞
- 10 ina:k a / tuppa nae to ina:k a tiqohae
云ふ
- 11 tiqqohae to?ija / moppa kunkun a m? m?
鳴く その故に
- 12 tu?ija ke / ti?iqainað /
鳴く

14. 竹雞とコンコン

ティクラス[といふ男]とコンコン[と
いふ男]が出草して、コンコンが撃ち、テ
ィクラスが、首を切り取つた。ティク
ラスが云ふやうには「それは僕のもの
だ」。コンコンが撃つたのに、ティクラ
スが取つてしまつたから、それでコン
コンは怒つて、フォーム、フォームと力んで
云つた。彼等はすぐに鳥になつた、タイ
ヤル族の首を取りあひをしたから。
それでティクラスは「イナーク[私のも
の]といふ意」、イナーク、イナーク、ティ
コハイ、ティコハイ」と云ひます。それ
でコンコンは力んでフォーム、フォームと
鳴く。

15. mommo?
鶉

- 18 sija dao mommo? ka mamma? dau
鶉 (背負ひて運ぶ)
- 19 tultulan a / ma?oq?oq du?aa ka / pantu?-
石盤石 重い 置く

15. 鶉

鶉が石盤石を背負つて運んだが、そ
れが重くて、置いたので仆れた。その

採録期：昭和五年八月。
口授者：丹大社 (asaq deggad) itteki soheqqan (男、當
時推定45歳)
補助口授者：luma? mapqoqo (男、當時推定52歳)
説明者：sipoal mapqoqo (男、當時推定22歳) sippal 復
誦を筆録。説明者、日本語は未だ完全ならず。
5. minanaq m-in-anaq < manaq 撃つ、此例に於て
minanaq は『撃ちし人』即ち『發體』に使用せらる。
pinanaq, minanaq と同様の使用。
6. on 參照。原文12 第625頁、註5。

qalavan < maqalav 取る。
8. paqaqalav pa-qa-qalav < (ma-)qalav 取る。

19. tultulan アヌ族は粟を搗くに臼を用ひず、外庭を舗
せる石盤石上にて數人の女(普通は6人)各一本の杵を
手にし、交互に搗く、長さを異にせる六本の杵は六種
の高さの音を出しその杵音は極めて音樂的なり、搗く
ことを matultul、杵は tutultul (tu-tul-tul)、搗くに使
用する石盤石は tultulan (tul-tul-an)、語根 / 〱 tul-
du?aa dau sja.

- ¹ tuş dao ka mutiņkulin / mopa tişqatto'en
 仆れた それ故に 屋せられる
- ² naepa / mo'o'man dau ikol / tuppa mom-
 共れ 取り去らる 尾 云ふ 鶏
- ³ mo' to / minloqqai saak e / ukkin ikul /
 鳥になる 私 無くなった 尾

16. sojeq
ソエク

- ⁶ sija soheqqan dau ka paluşıda:ŋ e /
 (姓) 一緒に
- ⁷ maŋqoqo malqatto a / sija duma maŋqoqo
 (姓) 異な仕掛ける 外の (姓)
- ⁸ a / makıpaus heqqaiv a / maha:u dau
 先に行く (獲物を)外出す 怒る
- ⁹ suheqqan e / sija maŋqoqo a / munsaan
 (姓) (姓) 行く
- ¹⁰ suheqqan tuqqa to / muðakkowan ta /
 (姓) 云ふ 私の處に来た
- ¹¹ paqoşil tinişqatto a / sija suheqqan ma-
 分く 異にかつたもの (姓)
- ¹² ha:u (w)a / siða dau tompo / matabal
 怒る 取る 斧 切る
- ¹³ bunjo ka / tuppa dau maŋqoqo to / maşo
 首 云ふ (姓)
- ¹⁴ pataðav takðaðakko / nano sja maŋqoqo
 殺す 私の處に居る者 (姓)
- ¹⁵ (w)a / sinapun dao ka / sija soheqqan
 追はれた (姓)
- ¹⁶ a / tinasaan tapalaq taştaş ta / tuppa
 に行つた 下 瀧 云ふ
- ¹⁷ maŋqoqo to / isaq naipa / pinahıva dau
 (姓) 何處 彼 騙す
- ¹⁸ soheqqan / sisile loqai / saan tapalaq
 (姓) 眞似をする 鳥 下
- ¹⁹ taştaş ta / mansusojeq / tuppa maŋqoqo
 瀧 「スソエック」と鳴く 云ふ (姓)
- ²⁰ to / ne: naipa bunun loqqai naepa /
 人 鳥

1. tişqatto'en <tişqatto 屋す, オトシにかかる <qatto
 オトシ。
2. mommo' 此鳥は尾短く無きやうに見ゆ。鶏の類か。
6. paluşıda:ŋ 比較 maşıda:ŋ 『同じき』, palu-şıda:ŋ?
mal- (mal-qatto オトシな仕掛ける)に比較せよ。
7. malqatto mal-qatto <qatto オトシ(棒外れば重石落
ち動物を捕獲する装置)。

ために石に押へられ、尾がもぎ取られ
た。鶏が云ふやうには、尾が無くなつ
たから、私は鳥になります。

16. ソエク鳥[マンココ姓より

ソヘカン姓の出たる由來]

ソヘカン姓の先祖がマンココ姓の
人と共に異を仕掛けたところが、外の
マンココ姓の者が先に行つて[獲物を]
外づした。そのマンココ姓の者がソ
ヘカン姓の先祖の處へ行つて、俺んと
ころへ来い、異に掛かつた獲物を分け
てやるから』と云つたので、ソヘカン姓
の先祖は怒つた。ソヘカン姓の先祖
は怒つて、斧を取つて、頭を切つた。す
るとマンココ姓の人が云ふやうには、
『どうしてお前は私の仲間を殺したの
か』。そのマンココ姓の人が追掛けて
来たので、ソヘカン姓の先祖は瀧の下
に入つてしまつた。マンココ姓の人

8. makıpaus mak-i-paus <paus 先に。
10. muðakkowan mu-ðakko-(w)an <ðakko 私。
11. tinişqatto t-in-iş-qatto <qatto。
14. pataðav patað-av, -av は「疑問」の場合に用ふ、其他
「命令」の場合にも用ふ。
takðaðakko tak(e)-ða-ðakko, take- 参照, 591頁註14,
ða-ðakko は ðakko の「反覆」。
19. sojeq 黒色, 尾短, 河に好んで住む小鳥。

- ¹ uninsinna minşummajen soheqqan a /
 後刺 出た (姓)
- ² tuppa maŋqoqo to / tuppawunin amo to /
 云ふ (姓) 云はれた 汝
- ³ soheqqan / maşda:n loqqai / mansusoheq /
 (姓) 同じ 鳥
- ⁴ moppa paışkatdijeepen tuppawun to so-
 その故に 其以後 云はれる
- ⁵ heqqan /
 (姓)

が云ふやうには、「何處だ」。ソヘカン
姓の先祖は騙して、瀧の下で、鳥の眞似
をした。「スソエック」と鳴いた。マンコ
コ姓の人は、「これは人間でない鳥だ」
と云つた。後でソヘカン姓の先祖は
出ると、マンココ姓の人が云ふやうに
は、「お前達をソヘカンと名づけること
にする、スソエックと鳴いて、鳥のやうだ
から」それ以後ソヘカンと云はれるや
うになつた。

17. sakvaŋ
サクワン

- ¹³ sija maşaiŋað qabaş / ma'un dao puk-
 先祖 昔 食ふ 甘
- ¹⁴ lav a / nano seja binana'að a / mahaqboŋ
 酒 女 怒りほい
- ¹⁵ sja: ka / moppa miloklok ma'un poqlav /
 その故に 拒む 食ふ 甘酒
- ¹⁶ tuppa duma to / ma'unin puklav / ne:
 云ふ 外の 食べた 甘酒 なし
- ¹⁷ işıtala ma'un e maha:u / sija duma siða?
 受ける 食ふ 怒る 外の 取る
- ¹⁸ puk'lav / pahaðop mişaşod mahau sja /
 甘酒 舐めさせる 益々 怒る
- ¹⁹ toppa sija to / asqað saak minsakvaŋ e /
 云ふ 白癡となる 私 サクワン鳥となる
- ²⁰ o:n mo'o pahaðopon poq'lav / moppa
 汝等 舐めさせられた 甘酒 その故に
- ²¹ to'ijjin dau / sakvaŋ / vaq / vaq /
 鳴けり

17. サクワン鳥

昔先祖達が甘酒を呑んでゐた。怒
りほい女があつて、甘酒をどうしても
呑まうとしなかつた。「甘酒をお呑み
なさい」と外の人達が云つたが、怒つて
呑むことを承諾しなかつた。外の人
達は甘酒を取つて、指につけ口に入れ
たので益々怒つた。彼女が云ふやう
には、「いまいましい一層のこと私はサ
クワン鳥になりませう、皆さんが甘酒
を舐めさせたから」。それでサクワン

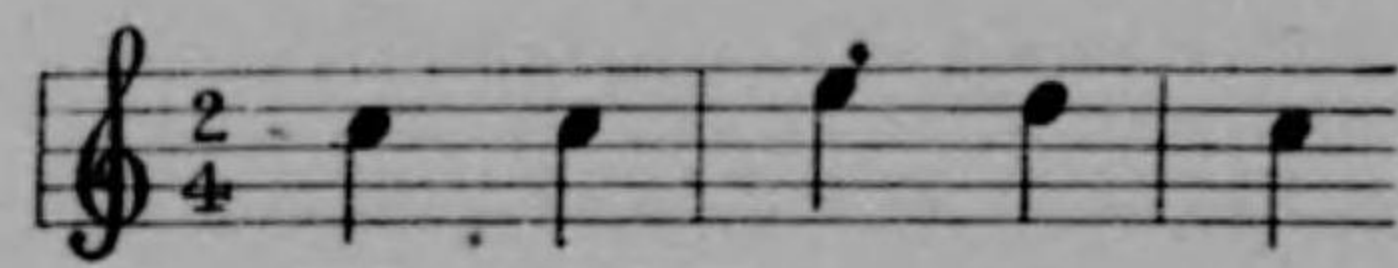
13. puklav カトグラン, ekulav.
16. ma'unin -in 形の「命令」に用ひらる例。参照, 原文12,
第625頁, 註17。

18. pahaðop mahaðop 舐む, pahaðop 舐めしむ, 比較
mahaðop 舌にて直接舐む, maðaklav 指に附けなむ。

鳥は、「ワグ、ワグ」と鳴いた。

18. ovao 青鳩

- 1 sija dao ovao ka / mama? e qainsadan
2 a / ne: tətətəda tişokno / moppa kintoħoq
3 nae ka / m-m / na?aša dao manuvaje ka /



hai ja do je he:
ハイ ジャ ド ジェ ヘー

- 10 ni: to maqto manuvavaje ke / maşoq?boq
11 sja / manuvavaje dao ka / muwađin /
14 manuvavaje / duđavin nae min?ovao ke /
15 nee to tişokno / mama? qainsadan /

19. řařaş 河の流る音

- 18 mauppa site a řida uş bananađ as /
19 binana?wađ / ađ?að bořño ka bananađ a /
20 moppa mađ'av aş bananawađ / muđaan

- 4. qainsadan 糸掛, 長さ5尺位の木柱, 6-8個の穴を有し, 織布の長短により適當の穴に棒を挿入し, 緯糸を巻く織機の附屬品.
6. manuvaje カトグラン manavai.
15. nee ne-en?

但し本篇は sippal の復誦なしに筆録せり。

18. 青 鳩

青鳩が糸掛を背負つて運ぼうとしたが, どうしても背負へなかつた。それでムームーと唸つた。運搬歌を「ハイドエヘー」と歌つてみようとしたが, 歌へなくて, 歌ふと「オゾーオ, オゾーオ」と歌ふばかりであつた。糸掛を背負つて運べなかつたから, 段々と青鳩に變じて行つた。

19. 河 の 音

男が女を娶つた。男は頭ばかりだつた。それで女は恥しく思ひ, 里に歸つた。頭ばかりの男は後から従いつた。

- 18. site minaunin sitte 『食せり』。「過去」を示すといふ説明を得たり.
sidaus řidaun iş 或は řidaun aş > řidaus? 参照.
イバホ 原文1第650頁, 註5.
aş aş は a に同じ, sippal は a を用ひ, itteki は aş を多く用ふ. aş は南部方言及び北部方言にも現る。

- 1 munsaa ulmaqoñ / kinuđ aş bananađ
2 ?ađ?að buřño / kalat e tunuhilan tunuhun-
3 řulin / sořun e binana?að a / tunuhilan a
4 moqalqalin ađ?að bořño / mařqannojen ka-
5 lat iş tunuhilan ?ađ?að buřño mařqanno-
6 jen / moppa minşummajin řařaş danum /

行つた。腰巻に咬みついて橋を渡つた。女が腰巻を解いたので頭男は落ちた。頭男は腰巻に咬みついたまゝ流れた。それ故に水がゴーゴーと云ふ音をたてるやうになつた。

III. 轡 蕃 (人倫社) (landuř)

1. niř'av 洪水

1. 洪 水

- 11 sja ibut rakrutag řanum / řiř mindajin
12 řanum / asuvaji? unin řunug / munha:nin
13 kaas / řiř řinuqađan / sja kaas řunug a
14 ařa piti?ja ka nkka řappođ / mařkarun
15 kurpa / řida řappođ řinuqađan / maka-
16 řumbod řanum / muppa muřko řappođ /

蛇が水を堰止めたので, 増水した。人々は逃難して, 東轡大山と卓社大山に行つた。卓社大山の人々は飯を炊きたかつたが火がなかつた。藝に東轡大山の火を取つて来るやうに命じた。水を漕つたので, 火が消えてしま

- 1. ulmaqoñ ulmaq-on <(mu-)lumaq 家.
2. tunuhundulin tunu-hundul-in <hundul 橋, 比較. hundul は?水の上にかけて橋. hattal 下に水無き橋.
5. iş = e.

採録期: 昭和五年七月.
口授者: 人倫社(landuř) 顔目 řioř takeskaivagan (男, 當時推定54歳.)

説明者: 岩佐氏之助氏, 伊藤保氏.
口授者の發音に於て k 及び q の區別, 語終の n 及び ř の區別明確ならず(他の二名の義人につき調査せしも同様). カトグラン社 řioř sokulman の發音を比較のため示すことにせり(カと略記す).

11. ibut カ ivut.
rakrutag カ laq-lutan 北部, 中部方言の l は人倫に於て多くの場合舌端の接觸失はれ摩擦音 ř の響を與ふ本質的(語原的)に s 1 音なれど r を以て記録せり. 但

- し語終の l は接觸ある故に l を以て記録せり.
sja ibut rakrutag řanum カトグラン社 řioř sokulman の説明に依りて, 此の語類は不當. laq-lutan ivut řanum (堰止める處は一蛇の一水) ならば宜し, 若し ivut を始に置けば sja ivut laq-lut řanum (其蛇は一堰止める者一水) となる.
mindajin min-řaj-in <mađija 多.
12. asuvaji?unin asuvaji-un-in <muřvaji 逃ぐ, カ. muřbai.
řunug カ, řunun.
13. kaas カ. qa:s.
15. kurpa 子音の前の ř は轉音 ř に變ずることあり. 例. torkok / torkok 「轡」 ř に變じ得ることハアヌン 1 音人倫方言に於て ř 音の性質を有する證.
makakumbođ カ. makakumbo.
16. musko muřqo.

- ¹ mu'kna mařkaruŋ qaipe:s / makadaða
再び 命ぜられる (鳥の名) 上
- ² kuřbaze qaipe:s / qaipe:s ansapaq řappod/
飛ぶ (鳥の名) (鳥の名) 衝へる 火
- ³ mapitijin e haiðin řappud / muřkon ka-
炊いた 有つた 火 共に
- ⁴ nuvaŋ / muřkon wanniři / muřkon siđe /
鹿 猪 山羊
- ⁵ muřkon Futuŋ / amin qaðam muřkon /
猿 すべて 鳥
- ⁶ amin ibut muřkon / sija řunuŋ tanam
すべて 蛇 人 試みる
- ⁷ tite makurut / ma:ke mařimad pataðun
毛物 切る 脂ぎる 殺される
- ⁸ ma'un / ma'ke ni tu mařma d / ni tu pa-
食ふ なし 脂ぎる 殺
- ⁹ taðun / tařa kamiřan sija ibut a taŋŋoř
される 一 年 蛇 先きに
- ¹⁰ karat karaŋ / ni karaŋ matað / min řasun
蟹 蟹 死す 返される
- ¹¹ karat ibut / poiŋurutun / muppa muřau
蛇 切斷される その故に (水が引く)
- ¹² niŋ'aw /
海, 洪水

2. bitaqqol
瓢箪

- ¹⁷ maiřnadada sja řinonawad munasi to /
上から 女 降りる
- ¹⁸ maa'dař bitaqqol / mařuwad bitaqqol /
持つて来る 瓢箪 植える 瓢箪
- ¹⁹ taqqon akke mařihal maðok / sija akke
告げる 男 良い 粟 男

1. mu'kna muřna.
makadaða <daða 上.
3. mapitijin ma-piti(j)-in <pitija 炊く.
kanuvaŋ カ. qanuvaŋ.
4. wanniři カ. va(j)iři v ~ w.
8. ma:ke 若し, カ. ma:qe.
mařimad <řimad 脂肪.
9. kamiřan カ. qamiřan.

つた。再びカイベシ鳥に命じた。カ
イベシ鳥は上方を飛んだ。カイベシ
鳥は火を衝へて来た。火を得たから
飯を炊いた。鹿と一緒にゐた。猪と
一緒にゐた。山羊と一緒にゐた。猿
と一緒にゐた。あらゆる鳥と一緒に
ゐた。あらゆる蛇と一緒にゐた。人
々は獸類を殺つてみやうとした。脂
が乗つて居れば殺して食べた。脂が
乗つてゐなければ殺さなかつた。一
年経つてその蛇が先に蟹を咬んだ。
蟹は死ななかつた。今度は(蟹が)蛇を
咬んだ。真二つになつた。それで洪
水は退いた。

2. 瓢 箪

嫁が天界から下界に来た。瓢箪を
持つて来て、瓢箪を植ゑた。良い粟だ
と男に云つた。男が見に行くと、(粟で)

10. minbasun minbasun の u の弱められたるもの。
11. poiŋurutun paig-(k)urut-un? <√kurut 切る。

17. maiřnadada maiřna-daða (上), maiřna-「より」參
照。原文3第635頁註13. maiřna-haan.
munasi to mu(n)-nařito (下) mun-「へ」
19. taqqon カ. taqqoan <taqqo 知らず。
maðok カ. maðoq.

- ¹ mintive / hammok řitaqqol / mahau akke /
見に行く でなくして 瓢箪 怒る 男
- ² řiða akke kawul / kurutun řitaqqol /
取る 男 石鎌 切られた 瓢箪
- ³ mahau řinano'wad / maqa:řivin ampukun
怒る 女 枯れたもの 集められた
- ⁴ řinanuwad řiřitaba'un / haiðin quswul /
女 焼かれた 有つた 烟
- ⁵ sia ta řinanawad maravi quswul mun-
彼 女 従ふ 烟 登
- ⁶ daða han řekanin / para'un uvad'ad naři
る に 天 残された 子 下
- ⁷ to / masasku řitaqqol turme munasi to /
に 結付ける 瓢箪 糸
- ⁸ řiða'un uvad'ad nařito ka / mundaða han
取られた 子 下に 登る に
- ⁹ řekanin /
天

3. pattařan kaabařan
文字 昔

- ¹² muřkaŋ puř pattařan kaabařan / mu-
共に 本島人 文字 昔
- ¹³ daanin maðeřad / mařnahaan ramořan
行つた 先祖 から (地名)社寮
- ¹⁴ kahanin řanum / muqalqal pattařan pa-
到着した 水 落す 文字
- ¹⁵ nahan řanum / ni aðam makansia e: /
まで 水 ない 我々 知る
- ¹⁶ maŋkanu pattařan ka řiðaun puř / haiðaŋ
流れる 文字 取られる 本島人 (今も)実在る
- ¹⁷ nam ruřako paitařan ba tu haan ramo-
我々の 今 書かれたもの 石 に於て (地名)
- ¹⁸ řan /
社寮

なくて瓢箪だつたので、怒つて、石鎌を
取つて、瓢箪を切つてしまつた。嫁は
怒つて、嫁は枯れた(瓢箪を)集めて焼い
た。烟が出て、其の嫁は烟と一緒に昇
天した。子供を下界に残して来たの
で、瓢箪を糸に結びつけて降した。下
界で子供が捉へると、天へ昇つて行つ
た。

3. 古代文字

昔は本島人と同じく(我々は)文字を
有してゐたが、先祖は社寮を出發して
水邊に到着したときに、文字を水に落
した。文字は流れて本島人に拾はれ
たから、我々は(文字が)解らなくなつた。
我々の書いた碑は今でも社寮にある。

1. hammok カ. hammoq.
3. maqa:řivin <maqa:řiv 枯れる。
ampukun <ampuk 集む。
4. řiřitaba'un řiřitaba-un <miřitaba 焼く。
quswul カ. pořol.
6. řekanin カ. řeqanin.
para'un <para 残す。
12. muřkaŋ カ. muskun.

pattařan pattař-an <pattař 杖標。
kaabařan qaabařan.

13. maiřnahaan maiřna-haan.
14. kahanin ka-haan-in 到着せり <haan に於て。
16. maŋkanu カ. maŋganu.
17. paitařan pai-tař-an <pattař 比較. mai-
社寮に現在かゝる碑文見當らず。

4. min²unin danum bunun
成つた 水 人
- ² maisnasaan ramogan / mudaan / pun-
から 社寮 行く 途中
- ³ daan piti²ja / matas²ji bannij takesiausi-
で 炊く 作る 爐脚
- ⁴ nean sidok / moppa damin bunug tuppa
姓 その故に 我々 人 云ふ
- ⁵ to kaxqai / sja bannij min-pakariva /
〔地名〕 爐脚 奇蹟を行つた
- ⁶ min-madajin / nanu pat bani² a / du²sa
増大した 四 爐脚 に
- ⁷ ma²kanu / musa:n pijatij / nanu bani² a
流れる (地名)瓶子頂 爐脚
- ⁸ ni tu isitara pinuma²un danum e / nanu
なし 出来得る 壊される 水
- ⁹ asa pasado meiki²na /
欲 見せる 子孫

4. 人が水に變じた話

社寮を出發して、途中で飯を炊くた
めに、タケシーアウシネアンと云ふ子
姓〔の男が〕爐脚を作つた。〔食べてから〕
出發したが彼は水に變つてしまつた。
それで我々ブメンはその地をカフカ
イと云ふ。その爐脚は不思議なこと
には、大きくなつた。脚が四個あつた
が、二個流れて、瓶子頂へ行つた。爐脚
は水のために破壊せられないやうに
なつてゐる。子孫に見せんがためデ
す。

5. tummad mapatas koknab
紋様を附ける 豹

- ¹⁶ sija tummad a: ta²us mapatas koknab /
熊 始めに 紋様をつける 豹
- ¹⁷ pi²siharu² mapatas / minbasin koknab
良くせられた 紋様を附ける 返した 豹
- ¹⁸ mapatas tummad / matuso²q kamkamun
紋様を附ける 熊 ふざけて 無暗に
- ¹⁹ ma²q²sq² / ma²pi²ij xoknab / musba²je /
塗る 恐がる 豹 逃ぐ

5. 熊が豹の體に紋様を附け
た話

初めに熊が豹に紋様を附けた。美
しく書いた。次に豹が熊に紋様を附
けることになつた。ふざけて無茶苦
茶に塗つた。豹は恐しくて、逃げたが、

3. bannij 石を三個立てし爐。
4. sidok カ、sidok。
5. kaxqai カ、qex-ke 濁水溪と郡大溪の合流點の少し上
流の地點、其處の河水は赤褐色なりと云ふ。
6. nanu-a 「主題」を示す。「條件」の意を含むこともあり。
参照、原文6 第621頁、註16。
7. ma²kanu カ、ma²qanun。
musa:n munsaan に同じきか？
piiatij カ、pa-tij 新高登山軌道の龍神橋の手前の停留

- 場社仔より見れば濁水溪中に二個の巨岩在り、流れ來
りし二個の爐脚なりと云ふ。
8. pinuma²un <minuma 破す。
9. pasado pa-sado <sa²do 見る。
meiki²na <ki²na 後。
17. pi²siharu² カ、pi²sihalun masihal 「良き」の「使役」形。
18. kamkamun カ、qamqamun。

- ¹ sinapun tummad manabu xoknab / tuppa
追掛けられる 熊 捕へる 豹 云ふ
- ² tummad to / pata²un as²so matuso²q ma-
熊 殺される 汝
- ³ q²sq² / tuppa xoknab to / ni tu makwa /
云ふ 豹 なし 差支
- ⁴ madamu kanuvay sakut vanis / masivire
捕ふ 鹿 美 猪 左に
- ⁵ matibusq²et / tuppa hoknab to / ma:ke
倒す 云ふ
- ⁶ na hai²in dinamu ka / maka²sq² darak
有つた 捕へたもの、獲物 引掻く 地
- maskal / ana²anak kirim dinamu / ma²un /
印をつける 自分にて 探す 食ふ

熊は追掛けて豹を捕へた。「ふざけて
塗つたから貴様を殺すぞ」と熊が云ふ
と、豹が云ふやうには、「構はないぢやな
いか。鹿や美や山猪を獲れば、左に倒
して置くから」。豹が云ふやうには、「も
し獲物があれば、地面を引掻いて印を
つけて置くから、自分で探して食べて
下さい」。

2. 北 部 方 言

I. 卡社蕃(タマロワン社)
(tamado²wan)

1. loppan minbunun
初め 人に成る

1. 人類の起源

- ¹⁵ tsija qoqot-la a minbunun qaba²sq /
その 一種の芋虫 人に成る 昔
- ¹⁶ tsija qoqotla makohi(k)ko mudadaan / ni:
その 一種の芋虫 背で 歩く ない
- ¹⁷ to mabiskau / tsi:n halohalo ka qatibij
速い 而して 糞虫 蚊
- ¹⁸ poklav pata²o / naito pindadu²e e na
メカカ 相談する 彼を 起せよ

太古芋虫が人間になつた。芋虫は
仰向けになつて歩いてゐて、速くなか
つた。糞虫と蚊と「めかか」が相談する
やうには、糞玉〔を作る〕ため奴を起さう

1. xoknab ~ koknab ブメン q 音は北部、中部方言に
保持せられ、南部方言には <x> に變化す。北、中部
方言と南部方言の區別の重大點なるが、人倫方言の
“豹” は k(q) 或は x 兩様に發音せらる。(カトグラン
社にも xoknab と云ふ人あれど良しからず一カ社、
bij² sokulman の説明)。
4. mauabu = madamu 鼻音の「位置變換」(metathesis)。
masivire 比較 tanuvile, / vile 左、豹は右手を以
て倒せし獲物を自ら食し、左手を以て倒せし獲物は食
はずと番人は云ふ。
6. darak カ、dalaq。
7. dinamu d-in-amu 獲物、<(ma-)d-amu 獲る。

- 原文註：探鐘期昭和五年九月。
口授者：タマロワン(tamado²wan)社 tsibil takesikaban
(男、當時推定41歳)。
補助口授者：likkos takemuso (男、當時推定50歳)。
説明者：柯万水、清朝時代通事の子、母は卓社ブメン人、日
本語は極めて正確。
14. loppan loppa-(a)n <loppa 今、参照、loppa ko “今”
此の用法に於て接尾辭 -an は「時」を示す。
16. makohi(k)ko mako-hikko <hikko 背、mako- 「を」
17. ka a に同じ、此の用法は「及」 以て
18. pata²o <ta²o 告ぐ、此處の「使役」の pa- は「相互」の
意を含むが如し。
pindadu²e <pindadu “起す” -e 「命令」

- ¹ dafkas tippin / pindaɖu'e e na dabo(t)s
甘い液 甘い液
- ² wajin / pindaɖu'e e poklav intsaijan
腿 欲する
- ³ paqqas / tudijepen pindaɖu'un minbunu-
目脂 其の時 起された 人に成つた
- ⁴ nin / mabiskazin mudadaan / da:qa ka-
速くなつた 歩く その故に 刺
- ⁵ laton qatibip wajin / unda'un poklav
される 蚊 腿 集められる メカカ
- ⁶ matta / in(t)saian halohalo takke /
眼 欲する 糞虫 糞

2. binanau-að tsin bananað
女、妻 及び 男、夫
min-laq²da
化石する

- ¹⁰ qabaşan haida tat'ine bananað ma'daş
昔 有る 一人 男 連れる
- ¹¹ binanau-að tsija / mundaða binoqa'dan /
妻 その 登る 卓社大山
- ¹² pantsaan binoqa'dan / muntamba:k daan
到着する 卓社大山 下に行く 道
- ¹³ bananað aša poŋpaus binano-að / moppa
男 欲 先に行かせる 妻 その故
- ¹⁴ haida kavijal bananað tsija / aša palan-
有る 友達、情人 男 その 欲 同行す
- ¹⁵ (t)san kavijal tsija / kilao aša poŋpaus
情人 その 其の故に 欲 先に行かせる
- ¹⁶ binanau-að / ne işitala binano-að moŋpaus /
妻 承諾、出来 妻 先に行く
- ¹⁷ aša poŋpaus bananað tsija / ot-o:nun
欲 先に行かしめる 男 その 追付かれる
- ¹⁸ kin-kinu:ð / mina-uppin naeŋka minu-unin
後から来た人 その儘になつた 彼等 成れり
- ¹⁹ laq²da /
岩

1. dabo(t)s ts ~ s, s 音に関してはタマロワン方言は北部方言と中、南部方言の中間地帯。
9. minlaq²da < laq²da 岩。
12. pantsaan pan-tsaan < tsaan 於て、muntamba:k < tamba:k 下方、妻の後方より行く、moŋpaus 先に行く”の「使役」。
13. poŋpaus 比較、中、南方言 taŋpaus / taŋpaus “始め”、* / ŋpaus。
14. malantsaan 一緒に行く < tsaan “於”、malan- 比較、paluşıda:ŋ “一緒に”丹大社原文16 第630頁、註6。

ちやないか、腿の甘い汁(を吸ふ)ため起
そうちやないか、「めかか」は目脂が欲し
いから起さうちやないか。其時起さ
れて人間に成つた。歩くのが速くな
つた。それ故に蚊は腿を刺し「めかか」
は目の前に集り、糞虫は糞を欲する。

2. 妻と夫が石に化する
話

昔一人の男が妻を連れて、卓社大山
に登らうとした。卓社大山に著いた。
道を譲つて妻を先に行かさうとし
た。情婦があつたから、その情婦と同
行したくて、妻をさきに行かせたかつ
たのだつた。妻はどうしても先に行
かうとせずに、夫をさきに行かせやう
とした。後から来た人達に追ひつか
れて、彼等は岩になつてしまつた。

17. ot'o:nun ot'o:n-un < ot'on 行き過ぎ、越す。
18. mina²uppin < mina²ppa 其儘 になる < moppa 其儘に。
minu²unin laq²da 卓社大山に二個の巨石あり、此夫婦の化石せるものなりと傳ふ、上方の岩は女、下方の岩は男、下方の岩に白色の環状紋あり、男の腹輪(アヌの男子は木製の腹輪を使用す)なりと説明す、狩獵に出づる時、此岩を見ることは禁忌なり、見れば死すと云ふ、歸獵の際、銃を以て一度叩き其後見ることを得。

3. paintataiv waɖulað
競争 河

- ² tsaan qalabaɖ ta haida dalaqa tupp-
に於て北蕃、タム族 有り 地 云はれ
- ³ wun to maiva:ð / ittajin tuppawun to
た 合流點 其處一なり 云はれた
- ⁴ tsima²ata tappos ka(t)saan niŋ-av / tsija
誰 我々 先に 赴く 海 その
- ⁵ makatsaan take²bakha tsijata tappos /
の方に行く 卡社 彼 先に
- ⁶ şadowanin a tsijata tappos e tut-man
見た 彼 先に 我慢する
- ⁷ makatsaan maðikila / ma²dona maðaiŋ
の方に行く 悪い 悪い 大
- ⁸ waɖu-lað makatsaan qalavaɖ e / kilim iş
河 北蕃、タム族 探す
- ⁹ matsihal laqqaiban /
良い 通路

4. nijan matað a lutbo
不 死 身

- ¹⁰ tuppawun tuppawun dao / haida paış na
云ふ 狩獵 有る 敵
- ¹¹ kana-a(t)saŋ / mun(t)saan talukan qaqa-
攻める 行く 獵小屋 獲る
- ¹² nop / pataðun a qaqaŋop haðun kuşkuş
殺される 獲る のみ 爪
- ¹³ şida malaş-tummad a / loq-las to nijan
取る 敵首歌 叫ぶ 未だ一ぬ
- ¹⁴ (t)saak matað / nautnaut malaş-tommad
私 死ぬ 無効、徒らに 敵首歌
- ¹⁵ nijan matað / moŋnan mapatað / (t)sija
未だ一ぬ 死ぬ 再び 殺す その
- ¹⁶ kuşkuş oqna-un şida malaş-tummad / loq-
爪 再び 取る 敵首歌 叫ぶ
- ¹⁷ las nautnaut malaş-tummad nijan matað /
徒らに 敵首歌 未だ一ぬ 死ぬ

3. 河の競争

北蕃にマイバツといふ地がある。
我々の中の誰が先きに海に行くかと
其處で(河共が)云つた。卡社の方へ行
く者が先きになつた。見ると彼は悪
い處を我慢して通つたから先きにな
つた。北蕃の方へ行く大きな河は良
い通路を探がしたから遅くなつた。

4. 不死身

獵に行く時、敵が攻めて来たさうだ
といふ話だつたので、獵小屋に行つて
[敵を]捕へやうとしてゐた。捕へて殺
して爪だけ取つて敵首歌を歌ふと、己
はまだ死なないぞと叫んだ。折角敵
首歌を歌つたのに死ななかつた。爪
を又取つて敵首歌を歌ふと、折角歌つ
たのにまだ死なないと叫んだ。更に

2. tuppawun tuppawun (w)un 云はれるもの < tuppawun 云ふ。
3. ittajin itta-(j)in < itta 其處、副詞 itta も過去 -in を取り得。
4. katsaan ka-tsaan < tsaan 於て、ka-「状態」、katsaan “到着す”。
5. makatsaan maka-tsaan < tsaan, maka-「方向」。
6. şadowanin şado-(w)an-in < şado 見る。
8. waɖu-lað ~ waɖulað。
8. iş kilim iş matsihal laqqaiban “良い通路を探す”。

kalat iş tunuhilan “腰巻に喰ひつく”(丹大社原文19 第633頁、4行)、此等の例に於て iş は結辭よりも寧ろ「對格」の冠詞の如き作用をなす。説明者は iş は日本語の「の」に當ると説明す。

14. haðun 比較、ad²ad のみ。
15. nijan ni-(j)an 未だ一せず。
18. oqna²un oqna-un < moŋna 再び。

- ¹ oqna-un a maqaiḡut suḡaunin a buḡḡo / 再び 臍首す 取られた 首 臍首して首を取つたが體はまだ死ななかつた。その後で首を切つた切口に野菜汁を掛けた。又木豆汁を掛けたがまだ死ななかつた。芋汁を掛けたが死ななかつた。又黒豆汁を掛けたら、その時黒豆汁が掛けられたので、死んだ。人々が隠れると、頭のない體も[一緒に]隠れた。不思議なので逃げると、體も逃げた。人々が家に入ると、體も家には入つた。御飯を食べやうと人が云ふと、御飯を食べませうよと真似て云つた。
- ² nijāḡ mataḡ a lutḡo / paḡskatdijeepen 未だ一ぬ 死ぬ 體 其後
- ³ tsulan ṣaḡulavan qainiḡutan / moḡna 注ぐ 野菜の煮た汁 臍首せし處 再び
- ⁴ tsulan ṣaḡulavan kaleḡaḡan nijāḡ mataḡ / 注ぐ 野菜の煮た汁 木豆 未だ一ぬ 死ぬ
- ⁵ tsulan in-hutanan nijāḡ mataḡ / moḡna 注ぐ さつまいもを煮た汁 未だ一ぬ 死ぬ 再び
- ⁶ tsulan hainatan baino taḡḡon / tudjeepen 注ぐ 汁 豆 黒 その時
- ⁷ mattaḡ / tsulanun imbainowan baino taḡ- 死ぬ 注がれる 豆汁 豆 黒
- ⁸ don / toḡkabin a bunun / toḡkabin a 隠る 人 隠る
- ⁹ lut-bo / maṣḡajea e pakalibaʔan / muṣḡajea 體 逃げよ 不思議なこと
- ¹⁰ amin lutḡo / munlumaḡo bunun a / mun- 入る 體 家に入る 人 家に
- ¹¹ lumaḡo lutḡo / minaḡkaḡa matultul / ma- 入る 體 立上る 粟を搗く 粟
- ¹² tultul tuppa amin lut-bo / tuppa bunun を搗く 云ふ すべて 體 云ふ 人
- ¹³ to ma-un a qaisiḡ / sisile tuppa to ma-ona 食ふ 飯 真似る 云ふ 食べよ
- ¹⁴ qaisiḡ / 飯

5. ṣuḡkahivhiḡ
シユンカヒブピア

- ¹⁵ haḡḡa tuppawan to ṣuḡkahivhiḡ / aḡa-aḡa 有り 云はれる [地名] 許り
- ¹⁶ binanau-aḡ / maitaṣa a(t)ṣaḡ / mundaḡa 女 すつかり 村 登る
- ¹⁷ ta've kalihiv-hivun / hiv-hiv at' po: tsiḡa / 屋根 風にあてられる 風 女陰 その

3. qainiḡutan qa-in-iḡut-an (首の)切つた處、切口 < maqaiḡut 臍首す。-in- 形 q-in-iḡut-an とならざるところを注意せよ。
5. inhutanan in-hutan-an <hutan さつまいも、類例: imbainowan 豆汁 <baino 豆。
9. muṣḡajea muṣḡajea+a, -a 「命令」。
pakalibaʔan pakaliba-an 不思議なること、比較 min-pakariva 奇蹟ななす、語根 pakaliva or *liva. pakalibaʔan の b は v 宜しからん。

5. 風を孕む話

シユンカヒブピアといふ處があつ

て、一村中女許だつた。屋根に登つて風に當ると、風が女陰を吹いて、子供が

13. ma-ona maon-a -a 参照、註9。

16. ṣuḡkahivhiḡ ṣuḡka- 利用す、hivhiḡ 風。
17. aḡa-aḡa 中部方言、ad'aḡ。
18. maitaṣa mai-taṣa 總べて <taṣa 一。
19. kalihiv-hivun kali-hivhiḡ-un <hivhiḡ 接頭辭、kali- 比較 muloḡ 破壊す(自)、paloḡḡon 破壊せらるもの、kaliloḡḡon 打ち破るもの。
at aṣ を使ふも宜しといふ説明あり。

- ¹ dappijan ova-aḡ (t)ṣaan tijaḡ / matsa 入る 子 に 腹 若し 腹には入る。もし女の子であれば、差支へないが、もし男の子だと、引裂かれ、つひに死ぬ。
- ² binanau-aḡ ova-aḡ a ni: to makwa / ma- 女 子 不 差支 若
- ³ tsa bananaḡ a / ṣiṣiḡṣiḡun paḡaḡalaḡ / し 男 裂かれる 引張る
- ⁴ muṣu:n mattaḡ bananaḡ at ova-aḡ / 終ひに 死ぬ 男 子

6. atso
犬

- ⁷ maṣḡabaḡ bunun a pahutse / tuppa 寝る 人 交換する 云ふ 人間が寝て交合してゐるときに、外の人
- ⁸ duma to mindaḡkaḡa moḡḡomma / ne 外の(人) 起きよ 耕作する 不 の人が起きて働きなさいと云つても、
- ⁹ ṣiṣitala mindaḡkaḡ e: paṣiḡiq-ten / tuppa- 能 起る 密着せる 云はれ 抜けないから起上れなかつた。人間
- ¹⁰ wunin to hovaivun as puḡas paṣiḡija だ 交換する 陽物 彼のものにする 陽物を犬のものにし、犬の陽物を人間
- ¹¹ atso / puḡas atso paṣiḡija bunun / laḡat e 犬 陽物 犬 彼のものにする 人 都合が良い 問のものと交換しよう云つた。[犬
- ¹² ni: to moḡḡomma / paṣkatdijeepin pa- 耕作する その後 換は働かないから都合が良い。交換し
- ¹³ hovaivunin ne-im paṣiḡiq-tin / as bunun 交換された 不 密着せる 人 してから人間が交合しても抜けないと
- ¹⁴ pahuhutse / いふことがなくなつた。
- ¹⁵ tudijeep maḡamo qanuvāḡ / muṣoqaiṣin 其後 捕へる 鹿 歸つた 其時代に[人々が]鹿を獲つた。犬が
- ¹⁶ a tun-paḡauṣ atso taḡo to maḡamo 先になる 犬 告げる 捕へる まきに歸つて「俺が鹿を獲つたのだ。
- ¹⁷ qanuvāḡ / naut-naut manuvavai mammaʔ 鹿 甲斐がない 運ぶ 背負ふ 鹿を背負つて運んで歸つてくるぞ。」
- ¹⁸ qanuvāḡ mun-lumaḡ tuppawunin atso to / 鹿 歸宅する 云はれた 犬 と云つたが甲斐がなかつた。「運んで
- ¹⁹ naut-naut manuvavai / ina:k dina:mo 甲斐がなし 運ぶ 私のもの 獲物 来るが、獲物の鹿は俺のものだ」と犬が
- ²⁰ qanuvāḡ / paṣkatdijeepin kulutun as 鹿 その後 切られる 云つたが徒勞であつた。それから犬

1. dappijan, dappi-iḡan <(ma-)dappi 寄れる。
3. ṣiṣiḡṣiḡun, ṣi-tsiḡṣiḡun 引裂かるもの <(ma-)tsiḡṣiḡ 裂る。
4. bananaḡ at ova-aḡ. 「男の子」此 at は中部、南部方言の結辭 a と同じき作用。
10. h. vaivun. <mahuvaiv 交易す、交換す。

paṣiḡija. pa-i-tsiḡa <i-tsiḡa 「彼のもの」
13. ne-im. ne-in >ne-im p のため。
14. pahuhutse. pahutse の「反覆」。
15. taḡo. 「告ぐ」、takko 「赴」、k と q の區別に注意。
17. mammaʔ. 「荷物を背負ふ」、mama 「舌」により區別す(丹大社方言に於ても同様)。
19. naut-naut. 徒勞、誰も犬の言葉を信する者なしの意。

- ¹ mamma atso / maha:u e moḡpaus taqḡo /
舌 犬 怒る 先に なる 告ぐ
² kulutun as mamma / paḡskatdijeeḡin nijin
切られる 舌 その後 なし
³ makan(t)ḡijap ḡbaḡḡbaḡ atso /
出来得る、判る 話 犬

の舌が切られた。先に歸つて云つた
ので怒つて、舌を切つた。それから犬
は話が出来なくなつた。

7. pun-ijul
ブンイユル

- ⁶ ha:bun maepa sinapin at^o atso^o / muḡaḡo
追出させる 彼 追ひかけり 犬 終ひに
⁷ moḡhav at^o atso / kilimunin / kilim atso
行跡不明なる 犬 探された 探す 犬
⁸ to^oavev / laḡnsan^o laḡnsan^o loḡon to^oavev /
呼ぶ に沿ひて行く 山の稜線 呼ぶ
⁹ mun^odaḡa lukkis to^oavev / he he he tutut
登る 木 呼ぶ
¹⁰ tu-tut / muḡoojin minloḡqai / tuppawun
終ひに 鳥となる 云はれた
¹¹ to pun-ijul /

ある人が[犬に獲物を]追出させると
犬は追ひかけて、つひに犬は見えなくなつた。探した。呼んで探した。稜
線に沿うて歩いて呼んだ。木に登つ
て探した。へへへ、トトット、トトット。
つひに鳥になつた。ブンイユル鳥と
云ふ。

8. tsalpoḡi-aḡ
ツァルポシヤン

- ¹⁵ (t)ḡijata ḡiḡawun bananaḡ / ne iḡitala
彼 取られる 男 不 承諾
¹⁶ ḡiḡan(n) bananaḡ / mo^obaḡtsin aḡin ḡiḡau(n)
男 代へた 恨み^oつた
¹⁷ bananaḡ / tsi:n bananaḡ a mimbaḡtsin ne
男 面して 男 代へた 不
¹⁸ aḡa / matsalpo e ne ḡaunin bananaḡ /
欲しがる 悲し 不 欲し^oられた 男
¹⁹ tuppḡin to tsalpoḡi-aḡ / aḡin ḡiḡau n a
云つた 悲しい
²⁰ makantsijap tin-un / aḡin ḡiḡau n bana-
上手である 織る 男
²¹ naḡ / tin-un kulij pataḡan / daḡa iḡitave
織る 胸當 紋様のある 上 屋根に於て

8. ツァルポシヤン鳥

彼女は嫁に行くことになつたが、嫁
に行かうとはしなかつたが[心]を代へ
て嫁に行くことにした。男に復讐し
て貰はなかつた。男に振られたので
悲しくなり、「悲しいです。織物が上手
だつたからお嫁に行きたう御座んす、
お嫁に行き度う御座んす」と云つた。

9. tutut tutut. アヌ族の犬の呼び方。
11. pun-ijul. 此の鳥は食はず(老人は食ふことあり)。
15. ḡiḡawun bananaḡ. “男の取る者” 即ち “嫁す”。
16. mo^obaḡtsin. *√bats mimbaḡtsin, kaunabaḡts, imbaḡ-

tsunin.
aḡin. aḡ(a)-in <aḡa 欲す。
19. tsalpoḡi-aḡ tsalpo-iḡi-aḡ 悲しき心。
21. iḡitave. iḡi-tave <tave 屋根, iḡi-「場所」。

- ¹ iḡitakunav kauna (t)saan bananaḡ / ka-
投げられる まで に 男
² una^oba:(t)s matakonan bananaḡ / tsoḡqais
返す 投げる 男 返す
³ daḡa tave / toppaun to imbaḡtsumin ma-
上 云はれる 返された
⁴ taknav at kulij pataḡan qauna daḡa
胸當 紋様のある まで 上
⁵ tave / ne aun e bananaḡ / tsalpoḡi^oaḡin /
悲れる 男 悲しくなつた
⁶ minu^ouni tsalpoḡi^oaḡ to loḡqai /
成る 鳥

紋様入胸當を織つて、屋根の上に登つ
て男に投げつけた。男は投げ返した。
屋根の上に返した。云ふやうには「屋
根の上まで紋様入胸當を投げ返した
ぞ」。男に振られたので、悲しくなつて、
ツァルポシヤンといふ鳥になつた。

9. tu(t)s
トゥス

- ⁹ tупpa to maḡaḡo ni: tu tinu-un hclus
云ふ 何故、汝 不 織る 布製上衣
¹⁰ naak / tупpa binana^owaḡ to / laḡat e ha-
私^oの 云ふ 女 都合^o良い 有
¹¹ iḡa lato^o / tsi^oma^oata mamaḡan muntsaan
皮製上衣 誰 我 勇気がある 行く
¹² pa^oav / muḡaan ne makwa / muḡaanin
雪 行く 不 差支 行つた
¹³ naeta mun(t)saan luḡun biḡnoḡaḡan /
彼等 行く 山 卓社大山
¹⁴ katsamin pa^oav / tuppḡin to binanawaḡ
到着した 雪 云つた 女
¹⁵ tutsan nanaḡ / tuts tuts tuts / tупpa
犬を起す 犬 云ふ
¹⁶ bananaḡ ḡaḡo^oe tsi^oma^oata mamaḡan /
男 見よ 誰 我 勇気がある
¹⁷ kaunun kaḡhav aḡ binanau-aḡ / muḡo:
逢ふ 寒氣 女 直ちに
¹⁸ minu^okoppots / minu^ouni loḡqai /
小さくなる 成る 鳥

9. トウス鳥

「何故御前は俺の上衣を織つて呉れ
ないのか」と[夫が]いふと、妻が云ふやう
には「皮衣があるからいゝでせう」。「雪
のある所へ行くと二人のうちで誰が
勇気があるだらうね」。「行きませう、
構ひませんわ」彼等は卓社大山へ行つ
て、雪[のある處]に到着した。妻が云ふ
やうには「あなた、火を起して頂戴、トッ
ツ、トッ、トッ」夫が云ふやうには「二
人のうちで誰が勇気があるかを見な
さい」。妻は寒氣に逢つて、直ちに小さ
くなり、鳥になつた。

1. iḡitakunav. 比較 mataknav, matakonan. 語根は *
takon ? iḡitakunav <iḡitakun+av, mataknav <
matakun+av と分解すべきものか? -av に關し参照
丹大社 pataḡav (丹大社原文16, 第630頁 註14)。
5. tsalpoḡi-aḡ. 此の鳥は見る、食ふこと共に禁忌。
9. maḡaḡo. <maaḡ aḡo.

15. tutsan, tuts-an <(mapa-)tuts 火を起す, √tuts,
nanaḡ. <bananaḡ 暑氣, 愛稱。
tuts. “火を起せ”の意。これより tuts と云ふ鳥が生
れしといふ民間語原的傳説。“トッ”鳥は高山の寒い
所に好み住むこともこの傳説の motiv と關係あり。
此鳥は食ふことを禁忌とす。

10. ſiqqois
シッコイス

- 2 mataðin a tina / mintinalo / moqna
死んだ 母 孤兒となる 再び
- 3 kiqna binanau-wað tama tsija / maſkalun
後の 女 父 その 命ぜられる
- 4 muntsulan / maqſimav a muntsulan na
水を汲みに行く 熱心なる 水を汲みに行く
- 5 tsaivan loqtas / miqqaſimav manahiv na
興へる 焦飯 熱心になつた 喜んでやる
- 6 tsaivan loqtas / moqnan muntsulan na
興へる 焦飯 も一度 水を汲みに行く
- 7 tsaivan loqtas na kanaqtoſpin / itsiq kana
興ふ 焦飯 終つた 何處
- 8 ti:na loqtas / moqnan maasik es ʔboqða-
母 焦飯 も一度 掃除する 庭
- 9 van / kanaqtoſpin a maasik es boqðavan /
終つた 掃除する 庭
- 10 tsaivanin a take atso / mudaan mudipalan
興へた 糞 犬 行く 隣家
- 11 ſiða ban-ban minuʔuni pane / tudijeepen
取る 糞 成る 羽 その時
- 12 tanam kusbaje / mutsoqaiſaſ moqna kus-
やつてみる 飛行 歸る 再び 飛
- 13 ba:je / punðaða qabo / moqna kusbaje
行 上まで 棟 再び 飛行
- 14 punðaða talunaſ / loq-la(t)ſan tama tsija /
上まで 竹 呼ぶ 父 その
- 15 mawun qattað / lapat e ne haiða kaunun
食ふ 膽 都合が良い 不有 食はれる
- 16 daða ta qattað / ne aſa mutsoqaiſ muna-
上で 膽 不飲 歸る 下
- 17 ſito na tsaivan take atso / lapat e na
興ふ 糞 犬 都合が良い
- 18 untsoqaiſun naſito te ſiðaa tulkok / liſ-
歸る 取る 雞 首
- 19 qaiqut buqpo tsaan hilav tama tsija /
が切れる 首 に於て 門 父 その

2. mintinalo. <tinalo 孤兒。
4. muntsulan. mun-tſulan <tſulan 水を注ぐ。
7. itsiq kana. “何處に在るか”, kana は無くとも宜しといふ説明なければ、疑問の場合に用ふる副詞的助辭?
8. es ~is.
16. daða ta. “あの上” 比較 nasito te “この下”。

10. シッコイス鳥

母が死んだので、孤兒になつた。父は再び後妻を(娶つた)。水を汲みに行くやうに言附けられた。「一生懸命に水を汲めばお焦を上げます」[と母が云つたから]お焦がもらへると思つて一生懸命喜んでやつた。「済めばお焦をあげるからもう一度水汲みに行つていらつしやい」[と母が云つた]。「お母さん、お焦は何處にありますか」。「今度は庭を掃くんですよ」。庭の掃除が終つた時に、犬の糞が興へられた。隣家へ行つて糞を取つた。それが羽となつた。その時飛んでみた。も一遍歸つて飛んだ。棟の上まで飛んだ、今度は竹の上まで飛んだ。「膽を食べなさい」と父が叫んだが、「家に歸らなくともいゝです、空で膽を食べますから。下へ歸りたくありません犬の糞をくれますから。下へ歸つて雞を取るから具合がいゝです」。門の處で父の首

mutsoqaiſaſ. mutsoqaiſ-aſ 今一度歸る <mutsoqaiſ 歸る。
18. liſqaiqut. ma-qaiqut (首を)切る. mo-qaiqut 鷄首せらる様になる. liſ-qaiqut 自然に首切れる。

が取れてしまつた。

11. miqqaſunav
鹿になる

- 4 qabaſaſ maðaðaaiqað a / makduſa ovað
昔 先祖 二人一緒に 子
- 5 tsija / matq:ðam / patimpalawa:ð pan-
その 狩獵に行く 別れた 立寄
- 6 tuſbut tama tsija mulumaq / altalaan a
らむに、直に: 父 その 歸る 待つ
- 7 nkkaʔaſ mulumaq muſoqaiſun kilim /
未だない 歸る 歸る 探す
- 8 kattaanin qomma a / ſadoo as kinaunan
到着した 鳥 見る 食はれたもの
- 9 maðoq / maðqas maʔun / samoqa tsija
栗 何 食ふ 豈圖らんや その
- 10 ova:ð minuʔuni qanuvav / aſibai-un tsaan
子 なる 鹿 追ひ出される に於て
- 11 ſila qomma / tudijeepen ſadowan minuʔunin
(鳥の) 糞 鳥 その時 見る なつた
- 12 to qanuvav aſ ovaʔað maðaðaaukaſ lino-
鹿 子 その儘 括つて
- 13 qoſan qolbo / minuʔunin viſviſ as qolbo /
下ぐ 髪 なつた 尾 髪
- 14 paiſkatdijeepen haiða tuppawun to qa-
それ以後 有り 云はれた
- 15 nuvaſ /
鹿

11. 鹿になつた話

昔先祖が、親子二人連れで、獵に行つて、別れて父はまつすぐに歸宅した。待つてゐたがまだ歸宅しないから探しに引返した。鳥に到着した時に、栗の食つた跡を見た。何が食べたんだらう。豈圖らんや子供が鹿になつたんですぞ。[鹿は]鳥の糞へ追ひ出されました。その時に子供が鹿になつてゐる髪が相變らずお下げになつたまゝであつて、その髪が尾になつてゐるのを見た。それ以後鹿といはれるものがあるやうになつた。

12. a:q kokhoſ qalʔom
鳥 山猫 穿山甲

- 18 qabaſaſ a: / kokhoſ e tsin a:q qalom /
昔 山猫 及び 鳥 穿山甲
- 19 paintataiv tſimaʔata ne miſitaba / piſitaba-
競争する 誰れ 我々 不 焼く 焼かる

12. 鳥と山猫と穿山甲

昔、山猫と鳥と穿山甲が、我々のうちで誰が茅原で焼かれても焼けないか

4. makduſa. mak-duſa 二人一緒に <duſa に。
5. matq:ðam. 犬を連れざる狩獵. qanop 犬を連れたる狩獵。
patimpalawa:ð. 比較 minawa:ð 別る。
8. kinaunan. k-in-aun-an <kaun.
9. maðqas/maaðqas. <maað “何” maað+qa+aſ? maaðqas maʔun “食する者は何”, maaðqas na ðasun “持參する物は何”, maaðqa のみの例, maaðqa ðig-galan “隣にあるものは何”。

samoqa. samoqa tsijata taqqaio “豈圖らんや彼は食なせり”,
13. viſviſ. 卡社方言は ikol “尾”を余り用ひず <maviſviſ “左右に振る”,
18. kokhoſ e tsin a:q. e tsin は順復 (Pleonasm), e も tsin も “及、而して”,
19. piſitabaʔun. piſi-taba-un 焼かれる者, piſi-taba 焼く <miſi-taba 燃ゆるもの *V-taba.

- ¹ un tsaan padan / asa itsaan makambaba
に於て 茅原 歌 に於て 草の生茂した
- ² taso / tsin kokhoj a tappos moqombois
燃かれたる 及び 山猫 先に 中に入る
事のない茅原
- ³ taso / pišitaba un is aq is qalom /
燃かれたる 穿山甲
事のない茅原
- ⁴ mišiltis mišutsuwab mišitaba as kok-
火傷す 甚しく 焼く 山
- ⁵ hoj / (t)saisan is aq / tsin kokhoj mi-
猫 交代せられる 鳥 山猫 の
- ⁶ mba:(t)s pišitaba aq / mištaqdoj a aq
番になる 焼く 鳥 黒くなる 鳥
- ⁷ mišpiqqa mišitaba / tsaisan is qalom ma-
跛になる 焼く 交代せられる 穿山甲 知
- ⁸ kantsip qalom makais da laq / uqkombo an
る、出来う 穿山甲 掘る 地 入る
- ⁹ is qalom / kanaqtojin makai / tudeepin
穿山甲 終つた
- ¹⁰ loqla(t)s to pišitabavin e kombojen is
呼ぶ 焼き給へ に入った
- ¹¹ taso / imbatson is aq pišitaba / kana-
燃かれたるこ 代られる 鳥 焼く 終
事のない茅原
- ¹² qtojin mišitaba / minsumajin is qalom
つた 焼く 出た 穿山甲
- ¹³ loqla(t)s / loqla(t)sin at qalom / ma: moppa
穿山甲 その故に
- ¹⁴ (t)sa:ke mattamašsal paq nitmišitaba /
私 強い 焼けない

13. mašamojin mašas
禁ぜられた 同伴する
binanau wad qanop
女 狩獵

1. itsaan, i-tsaan i-「場所」
2. moqombo, moq-qombo 内に入る <qombo 内。
3. pišitaba un is aq is qalom. 初めの is は「動作主」を
示し「に依りて」、次の is は接続詞的にして「及び」
といふ意。as は「主格」を示す、mišitaba as kokhoj
「山猫は燃す」、qisitaba un is aq as qalom とすれ
ば「穿山甲は鳥に依り焼かる」。
4. (t)saisan. <matsais 交代す。
5. mištataqdon miš-taqdon <(ma-)taqdon 黒き、接頭
辭 mis-「になる」、mišpiqqa 「跛になる」、比較 is-
piš-
6. makais, makai is.
7. imbatson, mimba:ts 代る。
8. minsumajin is qalom, minsumajin as qalom とし

を競争した。茅の生へ茂つてゐる茅
原でやることにした。山猫が最初に
茅原に入り、鳥と穿山甲が火をつけた。
山猫はひどく火傷して焼けた。鳥が
代つた。山猫が鳥を焼く番になった。
鳥は黒くなり跛になつて焼けた。穿
山甲が代つたが穿山甲は地面を掘る
事を知つてゐた。穿山甲がは入つた。
掘るのが終つた時茅原に入つたから
火を附けて呉れと叫んだ。今度は鳥
が火をつけた。焼け終つたときに穿
山甲が出て来て叫んだ。穿山甲が叫
んだ「どうです、我輩は強いから焼けは
しないだらう！」。

13. 女を狩獵に伴ふことが
禁ぜられた由來

- でも宜し、is を用ふれば minsumajin の意強く、as
を用ふれば qalom の意強くなると考ふ、説明者は is
の方は「未來」の意味を含むと云ふも信じ難し。
13. at. =as.
ma:. 相手の注意を惹く間投詞。
14. paq. 軽き疑の意を表す助辭、「恐らく」「多分」。
nit. =ni: to.

採録期：昭和五年七月。
口授者：マモワソ社 tu'ai takesikaban (男、當時推定
年齢55)
説明者：柯万水。
口授者の口授を説明の復誦せしめ記録、文體は説明者のもの
に近し、各語の發音は口授者の其により訂正す。

- ¹ takemadaipadaq haiša dafuša tas an
先祖の時代に 有る 二人 兄弟
- ² tatine bananau-wad tatine bananaš / qa-
一人 女 一人 男 狩
- ³ nop uldušan tas an tsija qonol / undo?
獵 二人一所に 兄弟 その 出會ふ
- ⁴ wan qanuvay / tsija bananaš tappos ma-
鹿 その 男 先きに 射
- ⁵ naq sansipattun manaq šabas / qalqvan
る 四回やれり 射る 外れる 手に取る
- ⁶ tas an tsija binawad buttsul / manaq
一回 その 女 弓 射る
- ⁷ qanuvay / taiša-on isibiqluttun bujo
鹿 一つを用ひられる 切られる 頭
- ⁸ tsutso / tainabiqluttun isidoš as bujo
乳 切られた (弓の)弦 頭
- ⁹ tsotso / mušo o mata amin binano wad /
乳 直ちに 死ぬ も 女
- ¹⁰ paškatišjeepin mašamojin mašas binana-
それ以後 禁ぜられた 連れる 女
- ¹¹ wad qanop / pušo on pidjeep mantsoqtsoq
狩獵 直ちに 其處に 挿す
- ¹² as buttsol / pantsotsoq tsaan dalaq /
弓 挿す に 地
- ¹³ tsin panaq as koš / mušo o tališija /
面して 射る 矢竹、矢 芽が出る

先祖の時代に二人の兄弟があつて
一人は女一人は男であつた。兄弟二
人が獵に行つて待伏せをしてゐると、
鹿に出會つたので、兄が先きに四回射
たが當らなかつた。妹は一回弓を取
つただけで鹿を射た。一遍やつただ
けです。乳首が切れた。弓の弦で乳
首が切れた。直ぐに妹も死んだ。そ
れ以後女は獵に連れて行く事を禁ぜ
られた。直ぐに弓を其處に挿した。
射た矢も地に挿された。間もなく芽
が出た。

14. tap av
タンバブ

- ¹ haiša qabaš tuppawun to tap av / ma-
有る 昔 云はれる
- ² štaan mašain to bunun / itsaan boqqaiv
甚しく 大 人 に於て (マフラス) (マフラス)
- ³ kanatsaan mahulaulan taša kaintsaqaan /
まで (地名) 一 歩
- ⁴ minatsaan mahulaulan ta kanatsaan ha-
から (地名) まで
- ⁵ b paqqot kantsaqa / madadaukaq maqai-
(地名) 歩 その儘 引込む
- ⁶ toj av kaidapanan tap av /
踏んだ處

14. タンアブ

昔タンアブと呼ばれる巨人がゐた。
武界からマフラウラン迄一足[で歩い
た]。マフラウラスからハビバコツト
迄一足[で歩いた]。タンアブの踏んだ
處は引込んだまゝになつてゐる。

1. takemadnipadaq, take-madaipad-ag <madaipad 先
祖、take- に住む人々、-ag 「時代」を示す。参照。
qabaš-ag 昔々。
2. uldušan. <(u)ša 二、比較 ul-tinain-an 一人在り、
ul-tatan-an 三人在り、ul-šapat-an 四人在り、ul-
an ある人数の存在を示す。
3. sansipattun. <šapat 四、比較 taiša-on 一回、šam-

pusanun 二回、santiunun 三回、san-un 「回数」を
示す。
qalavan. <(ma-)biqlut 手に取る。
4. isibiqluttun. <(ma-)biqlut 切る。
採録期、口授者、説明者は原文1に同じ。
16. tap av, taylau と云ふ。

3. 南 部 方 言

1. 郡 蕃 (イバホ社) (ivaxo)

1. işibukun 郡 蕃

- xabaşan ʔina:m bunun maşa lauppaş
mixomiş xai / şija biʔtaxol aşi muxalxal
mişinaada ʔexanin / pananaşito maupa
moaooʔađo biʔtaxol tipbuşgal / auppa min-
şumma bunun duşa inigađax /

採録期：昭和五年八月。
日授説明者：イバホ(ivaxo)社 bukkun palabe (男、當時24歳)。

補助説明者：郡大社(casaş dengad) xaiju takesişibanan (男、當時14歳)

bukkun 及び xaiju は蕃童教育所卒業生、共に日本語は不完全、説明に多大の時間と労力を要せり。
bukkun の母は樽蕃カトラン社より来る。Iを1と間々發音する外に樽蕃方言の影響無きが如し。

調査と収録期に當り故老を使雇するを得ざりしため止むを得ず青年を使用せしむ bukkun は若年なるに拘らず比較的傳承を知り又知らざることは夜間故老に臨問し調査者に報告する方法も執れり。
s と ş. アヌン語音組織上[s]と[ş]の區別あれど、缺齒のため[s]は[ş]の響に近づく兩者を調査者にとり聴取辨別するに甚だ困難を覺ゆ。且又、話者自身に於ても發音意識の差別薄弱となり、被調査者に依り其發音を異にすることあり。此の事實は既に中部方言に於て認められ、南部方言に至り甚しく、bukkun に於て缺齒の爲兩音の明瞭なる發音區別無く又兩音の明瞭なる語意識無きが如し(二三の他の蕃人につき調査せしも同様)一例へて同一の語を或時は[s]或時は[ş]に發音し何れを正しとするかと尋ねるも區別出來ず。又[s]とか[ş]とかの區別をせし場合も北部方言と比較するときに一致せざることも多し(文法一を参照せよ)。但し不思議なる事實は、xaiju(缺齒せず)の發音に於て[s]の[s]の區別あり而してその區別は北部方言に一致する處多し。xaiju の説明に依れば成人は缺齒のため兩音の區別困難なるのみならず、又區別を強いてせず、子供は兩音の區別せず、即ち兩音の區別の無きは成人の發音、區別の有るものは子供の發音なり。自身の[s][ş]の區別は、兄の未だ缺齒せざるときに見に假しものなりと、未だ調査材料不充足にして斷言し得ざるも、音韻の古形老人層に殘留する一般の言語音韻現象に反し、小年層に殘留する特殊「缺齒」の人工的原因と少年語と成人語との差別發生の言語社會學的原因に依

1. 郡 蕃

昔我々人間が始めて生れた(物語をすれば)瓢箪が天から下へ落ちて、瓢箪が搖ぎ割れ人が二人内から出た。

る)の事象と云ふべきものか。本文書換は bukkun の發音に依れり。原文1に現はる[s][ş]に關し、bukkun, xaiju の北部方言、タマロワン方言の三者の比較對照を試みて次に附す。

- (s) と (ş) の差異 (A. xaiju B. タマロワン發音)
xabaşan (A. ş B. ş), mixomiş (A. s B. ts),
şija (A. s B. ts), aşi (A. s B. ts),
tipʔbuşgal (A. s B. ts), minşumma (A. ş B. ş),
taşʔa:n (A. s B. s), tavşʔuva:đin (A. s B. ts),
tuşkun (A. ş B. ts), toşaşuşi (A. s, s B. ts, ts),
maşlin (A. ş B. ts), maşlin (A. s B. s),
tuşaşuşi (A. s, s, s B. ts, ts, ts), maşta:n (A. s B. ts),
jukkuş (A. s B. ts), imʔbaşuşi (A. s, s B. ts, ts),
amoş (A. s B. ts), şişuşi (A. s, s, s B. ts, ts, ts),
ʔdav (w) aş (A. s B. ts), maiş (A. s B. ts),
xa:ʔbaş (A. s B. ts), maşxaiş (A. s, s B. ts, ts),
masişiva (A. s B. ts), şjamo (A. s B. ts),
şijin (A. s B. ts), mapaka:ʔbaş (A. s B. ts),
maş (A. s B. ts), şavaai (A. s B. ts),
işikauppa (A. s B. ts), işiʔbukkun (A. s B. ts),
maʔdaşyas (A. s B. ts), maşmowab (A. s B. ts),
şjasiʔbinad (A. s B. ts), maşitaşin (A. s, s B. ts, ts),
maşişoupa (A. s, ş B. ts, ts), aşa (A. ş B. ş),
aş (A. s B. ts).

- 6. xabaşan xabaş-an 比較 xabaş-an-aş 丹大社 xbaaş-an -an 「分詞、接尾辭」-aş 「繼續」接尾辭。
[aupaş] [aup(a)-aş] -aş 「繼續」接尾辭は「時代、時期」を示すことあり。比較 xabaş-an-aş 類語。tagpaş, kitgab.
7. xai 南部方言特有。北部、中部方言 a に當る。at と併用し xajat となることあり。
muxalxa 自動詞。maxalxa 落す(他動詞)。
8. mişina- 中部方言。maşina- より
pana- まで、中部方言 pun-

- 1 şja biʔtaxaol bananad maş pişpad /
2 mappadapşi naijadax xai / mimpapişin
3 ovađ / aiða pişpad / aiða bananad / ovađ
4 taşʔa:n / pişpad maş bananad xai / mapa-
5 dappi tavşʔuva:đin naijadax / minʔmala
6 başin bunun / maşa işija mailab xabiðan
7 to na min-uvad maş işixalavaş / tuşkun
8 toşaşuşi / mouppa maşinuvaive aş minu-
9 ʔuni işixalavaş xai / tutagaş nai toşaşuşi /
10 ni tu maşlin / tuşaʔaişi inam madadaaş-
11 pađ tusaşuşi xai / maşlin amuşi şişuşun /
12 işixalavaş / ʔina:m şida / mouppa maşa
13 antamavin tsin şija mailav to / moxnaʔ
14 minuvađ maş bantalaş maşişxailaadaş /
15 na minʔuni bantalaş / toxna tuşaşuşi ni
16 to maşlin / tuşaşin inam tuşaşuşi xai /

瓢箪の男と女は夫婦になり、子供が澤山になつた。兄弟には、女もあれば、男もあり、女と男は、夫婦になつて子供が生れた。人間が澤山になつた。マイラブ、ハビゼンの地に於てタイヤル族と別れようとした時に、一緒に歌つた。別れた者はタイヤル族となり、彼等は先に歌つたが、下手だつた。我々の先祖は後について歌つたが、上手だつたため(一部の者は)タイヤル族に連れて行かれた。マイラブの山手に來た時に、バンタランと別れた。[即ち]別れて、バンタランになつた。も一度歌つたが、下手だつた。我々は後について歌ふと、素的に上手だつた。バンタランになつたものは、我々の先祖を連

- 1. şja şja/şija 於て、元來 şija は「其處、其處にあるもの」の意味。「其處に於て」は i- なる「處」を示す接頭詞となり işija となる。「於て」といふ前置詞的用法には işija を用ふることは理論的ならば其例比較的少く反つて şija の方多し。işija の i- の弱化するものと考ふべきか(接頭辭 işi- は屬々 şi- と弱音化すること参照せよ)比較。中部方言 saan/haan 参照。註 11.
masi 中部、北部方言 işi に當る。用法同様。
pişpad mal(u)şpişpad の略形。アヌン終音 ad < 共通臺灣語 ai 例。matad 死 < *matai, tummad 無 < *tumai -ad は「生物」を示す擬似接尾詞 madaiş 大 > daigad 老人, ovađ / ovađ-ad (中部方言) 子供 bananad 男, ałowad 鼠。
4. mappadapşi mapa- 「相互」。
5. minʔmalabasin min-malabas-in < malaba 澤山。
6. işija i-şija 参照。註 1.

- xabiðan 埔里附近、給美崗。
7. na na minʔuvad 將に分離せんとせし時 na 「未來」「希望」「引續き起る事」を示すに用ふ助辭。参照。原文5註1第659頁註4. na
maş ~işixalavaş より、maş (中、北 iş) は主格以外の格 (oblique cases) を示す故に、動詞により適當に譯す必要あり。
işixalavaş 接頭辭 işi- 「住人」都族を示す。işibukun 郡蕃、此用法に於て take- と同じ、takebaka 社蕃、takebanuwad 標蕃、
tuşkun 比較。muşkun 一緒に。
9. tutagaş tagpaş の反覆?
11. şişuşun < maişuşu 結合す。
15. toxna 比較。moxna sixna.
16. maşlin 上手といふ説明。類語。makansijap 巧なる。maşijal 良き、maşlin は歌の場合に用ひらるに依り美聲といふ意味?。

- ¹ mašta:n mašlin / auppā aš minbantalān
最し 上手 バンタランになる
- ² xai / sixna šišo:s maš inam madafeppad /
も一度 怒るを 我々の 先祖
- ³ šišo:sšiši bantalān / labato² lukkiš tomo-
結合する バンタランを 投げる 木 アカ
- ⁴ kun / maš inam to madafeppad / auppā
ザ 我々の 先祖
- ⁵ imbašusi² inam to madafeppad / labato
返す 我々の 先祖に 投げる
- ⁶ tsig xaiḍaḡan amoš taepataḍun / šixanna
此處 木豆を その故に 殺された 再び
- ⁷ aš iḡbantalān šišo:š iḡḍa / auppā xaḡun
バンタランは 連れ 取る 怒る
- ⁸ inam madafeppad / toppa ḍa(w)aš iḡba-
我々の 先祖は 云ふ バン
- ⁹ n²talān to / ni to makwa e nai piḡpa-
タランは 構はない 入れら
- ¹⁰ ḍaxun sja² / ḍavaḍ inam buḡḡo / na mi-
れるもの に 負袋 我々の 頭
- ¹¹ piḡjax mo² xo² dabos / auppā minuvaḍin
柄杓 汝等の 飲む 酒を
- ¹² maš ḍammi ban²talān / auppā maiš ma-
バンタラン 時
- ¹³ kavaši inam madafeppad xaḡbaš maš
戦ふ 我々の 祖先 昔 と
- ¹⁴ bantalān / ni tu toppa to ukka šiniḍa
バンタラン 不 云ふ 無し 取つたもの
- ¹⁵ buḡḡo / mašxaiḡiḡ maḍiḡa šidaun amin maš
首 毎日 多く 取られたもの すべての
- ¹⁶ (iḡi)xaḡavaḡ / auppā ni: nai xajap paḡna-
タイヤル族 彼等 解する 話
- ¹⁷ nuto / mašiliva paḡnanuto xai sjamo /
相違する 話 其故
- ¹⁸ košilatān savajaši inam to madafeppad
當然 勝つ 我々の 先祖
- ¹⁹ xaḡbaš / aupa malalabaš xaḡavaḡ e / na-
昔 澤山 タイヤル族 のみ
- ²⁰ nuto² naštanaḡ / maša minuvaḍ kouman
(2=非常に) 最し 時 別れる 少

れて行つた。バンタランはブヌンを連れて行く時に、我々の先祖にアカザの木を投げた。我々の先祖は仕返しをした。こちらへ木豆を投げたために死人があつた。又バンタランは我々の仲間を連れて行つたから、我々の先祖は怒つた。バンタランは云つたといふことだ、我々の首が首袋に入れられても、又あなた方が柄杓で酒を飲んで構はない、そこでバンタランは我々と別れた。我々の祖先はバンタランと戦へば、必ず首を取つた。タイヤル族[の首]も毎日澤山取つた。彼等は話が解らず話が異なるから、我々の先祖が非常に多数のタイヤル族に對し勝つのは當然である。別れる時に我々ブヌン族は少人数であつた。それから次第に別れた。[別れた]卓社蕃、卡社蕃、丹蕃、轉蕃は、常に争つた。卓社蕃、卡社蕃、丹蕃の三者が同盟し、轉蕃、郡蕃

5. imbašusi imbašun + iḡ? 参照。丹大社原文19. 第632頁註18。
6. taepataḍun taepataḍ-un (木豆を投附けられ)殺さる者 <patāḍ 殺す、接頭辭 tai-/tae- 當る、衝突 taipataḍun (石を投ぜられ) 殺されし者 原文4 第657頁註13. taiḡiḡixḡḡḡḡ 命申す 原文3 第654頁註10.

9. piḡḡaḍaxun piḡḡaḍa(-un 内に入れるもの <ḡḡḡḡ(-un) 内。
12. maiš 若し比較、中部方言 ma:ae.
14. šiniḍa s-in-ida 取りしもの。
17. sjamo /manpašamo 其故に taḡḡaxo xai samo ḍamoun 盜む故に捕へらる。

- ¹ inam bunun / uppa šijin maša min²un-
我々 ブヌン族 其後 時 次第に
- ² un- minvaḍ / maš takitudo takibaka
別れる 時 卓社蕃 卡社蕃
- ³ takivatan takibanuwad xai / mašimuwab
丹蕃 轉蕃 常に
- ⁴ mapavaḡun / mina²taḡ takitudo takibaka
争ふ 三人一緒になる 卓社蕃 卡社蕃
- ⁵ takivatan / minadusa takibanuwad maš
丹蕃 二人一緒になる 轉蕃
- ⁶ iḡibukun / mapaka:baš maš naita do xai /
郡蕃 戦ふ と 彼等
- ⁷ savajan takevatan takebaka taketudo
負ける 丹蕃 卡社蕃 卓社蕃
- ⁸ savaai aš takibanuwad maš iḡibukkun /
勝つ 轉蕃 及び 郡蕃
- ⁹ mapaxaḡun takbanuwad maš iḡibukun
争ふ 轉蕃 郡蕃
- ¹⁰ xai / saḡvaijan takbanuwad / iḡikauppa
負ける 轉蕃 のみにせられる
- ¹¹ kaimin bunun / maša mappakarvašaḡ xai /
我々 人 時 戦ふ
- ¹² nanu to ḍammi iḡibukkun maš takbanu-
のみ 我々 郡蕃人 及び 轉蕃
- ¹³ waḍaš / mašitaan savaai / madafeppad
最し 勝利す 先祖
- ¹⁴ xaḡbašan / mašḍaḡḡiḡ amin / luppa ka ḍau
昔 同じであつた 今
- ¹⁵ to / ukkin mapakavaše / ta²aḍin amin /
無かつた 戦争 聞いた すべての
- ¹⁶ ito maḍaḡxaš tamoy to xaliḡa / ukkin
共 (2=) 巡査 帽子 話 無かつた
- ¹⁷ mašmowab mapaxaḡun / uppa mumba-
新様な 戦争 下へ行
- ¹⁸ baxen / taiḡsiḡuḡ sjašibinad / muḡtaipak
つた 臺中 州知事 臺北へ行く
- ¹⁹ sija sjašibinad ḍeppad / mašitašin maši-
に (2=) 總督に 常に
- ²⁰ šoupa kaimin bunun / aša ta²aḍa itu
我々 人 要する 聞く 其の
- ²¹ lippon to xaliḡa /
日本の 話

の二者が同盟して、彼等と戦つたが、丹蕃、卡社蕃、卓社蕃は負け、轉蕃、郡蕃は勝つた。轉蕃と郡蕃と戦ひ轉蕃は負け、我々、即ち郡蕃と轉蕃のみは戦ふ時に最も良く勝つた。先祖は皆同様であつた。今は、戦争は無く日本の巡査の命令を聽く、その様に戦争が無くなつたから、平地へ下り臺中へ行き州知事[に會ひ]、臺北へ行き總督に[會つた]。我々ブヌンは日本の命令を聽かねばならぬ。

4. minataḡ mina-/min-.
7. saḡvaijan savai-an 負ける, savai 勝つ。
8. aš 此 aš は xai と同じき用法。
16. maḍaḡxaš tamoy 本州即ち巡査のこと、セテク蕃社方

言 tanaḡ tunuḡ 赤き頭即ち日本人の表現法に比較すべし。勳務警察官の帽子の赤線より來りし語。
18. sašibinad 頭長。

2. lanip²avan
洪水

- ² kaimin bunun xaxbaş maşa lanip²avan
我々 人 昔 時 洪水
- ³ xai / şa ivutaş laş²ut / vaxlaş deppad
其 蛇 塞ぐ 河 大
- ⁴ auppa lanip²avanin amin dalax / maşa
斯くて 洪水になつた 全 地 時
- ⁵ lanip²avanin xai / minsoxdaşin koppa mi-
洪水になつた 食料が缺乏する 皆
- ⁶ nixomis / mauppa sja kakalaş maş ivut
生物 其故 其 蟹 と 蛇
- ⁷ mappaxauğun / taşş² dau ivut kalat /
争ふ 始 咬む
- ⁸ ikko ni tv. maxato kalatun / auppa ma-
私 不 能 咬まる 故に
- ⁹ xaitxait / mimbaş kakalan makjimma
堅い 蟹 手を用ひて
- ¹⁰ maxaltiş / kuş²anun max²mpaeiğlut / to-
切る 一回 切る (長いものを) 旗
- ¹¹ da to²(tođinto) mattad ivut deppad / auppa
實 死 蛇 大 斯の如き
- ¹² kanaşijin / muşauxen niğ²av at manaş-
理由 減水した 海、洪水 喜悅す
- ¹³ kalin amin minixomis / maşa lanip²av-
る 全 生物 時 引續洪水
- ¹⁴ canağ xai / idadaða şija tuğko deppad sa-
高き處 於て 山 大 新
- ¹⁵ çjax / mudinu:n saentşa amin minizomis /
高山 集 共處へ すべて 生物
- ¹⁶ auppa ukka şappad xai / taşş² kokulpa
故に 無 火 始めに 墓
- ¹⁷ şida şappad / tun-niğ²av moşxo şappod /
取る 火を 海を渡る 消ゆ 火

1. lanip²avan [a-niğ²av-an <niğ²av 海、湖、接頭辭 [a-「被覆」の意, [apa²avan 雪に被はる <pa²av 雪, lađippo] 埋めらる。
2. minixomis m-in-ixomis 生命あるもの、生物 <(mi-)xomis 生命ある。
3. laş²ut laş²ut <*₁ / ut, pe[laş²utan daan lukis 木道を塞ぐ(木道に横はり通行を妨害す), işi²utan xainisi 狐等に栓をす, işi²ut-an 栓 [aš- は [a- と關係?
7. mappaxauğun mapa-xauğ-un 互に争ふ <(ma-)xauğ 怒れる, mapa- 相互。
9. makjimma <jimma 手 比較 カトグラン社原文2第594頁 註17. mahimma <jimma. mak-「道具」を示す、を用ひ mak-bantas 足を以て。
10. kuş²anun <taş²a-

2. 洪 水

我々の先祖の時代洪水があつた[話であるが、蛇が大河を塞いだため地上すつかり洪水になつた。洪水になつた時、すべての生物は食料缺乏を來した。それ故蟹と蛇は争ひ、始め蛇が咬んだ。「堅いから、私は咬まれない」。蟹が代つて蟹で切つた。一度に切つた。大蛇は本當に死んだ。その理由により、洪水は減じ全生物は喜悅した。洪水の最中に大山なる新高山の高所に其處に總ての生物が集つた。火が無かつたから、始めに墓が火を取ることになり、洪水を渡つたが火が消えた。ハハビン鳥が代つて火を取ることになり、飛んで行つたから消えなかつた。食物がなく肉のみを焼いて食べた。

12. kanaşijin kanaşija 其の理由の「過去」形, kanaşija <kana (より) -şija (其)? muşauxen <muşau].
13. lanip²avanag [a-niğ²av-an-ağ. lanip²avan は幾々と増水す, lanip²avanag は現に増水したるといふ説明を得たり。前者 (-an) は動作過程を、後者 (-ağ) 繼續せる一定の状態を示すものか。
14. idadaða i-da-daða daða 上方の反覆辭に「處」を示す i- 接頭辭の附きたる形。
17. tun-niğ²av 海を渡る, tun-haul 河を渡る, 接頭辭 tun- は「通過」 muşxo işi²xowav şappod 火を消せ işi-xo-av 消されてあれ -av「命令助辭」*₁ / xo.

- ¹ şajış xaxapiş şida şappad / auppa kuşbaij
代理する (鳥の名) 取る 火を 故に 飛翔する
- ² at ni to muşxo / auppa ukka kaunun xai /
不 消 故に 無 食物
- ³ kauppa tşitş²i tunun maun / maiş ma²?
許り 肉 焼く 食ふ 捕へ
- ⁴ damo tşitş²i xai / ka²aun kamaşikit maş
る 肉を 不 小 及び
- ⁵ matokula²ad patađun / sja masimox aş
獲せた 殺される 肥えた
- ⁶ patađun maun / maşa ukkin niğ²av xai /
殺される 食ふ 時 無くなつた 洪水
- ⁷ manaskalin muşoxaşin tşinvaşvaş mun-
喜び 歸つた 諸方へ 向ふ
- ⁸ şija koppa dałaxan / maşa muşoxaşin xai /
すべての 土に 時 歸つた
- ⁹ mak²uni batto muğFomma amin pailašo²?
使つて 石を 耕作する 如く
- ¹⁰ on / şığxaili mas tulan /
刀 及び 斧

獸を捕へる時には、小なるものや獲せたものは殺さず、肥えたものが殺され食べた。洪水が無くなつた時、すべての地になつた處へかなたこなたへと喜び勇み歸つて行つた。歸つて刃及び斧の様に石を以て耕作した。

3. kana²asağ vale
征伐 太陽

- ¹² ina:m bunun xabaşan / maşa ukkan
我々 人 昔 時に 欠ける
- ¹⁴ bo²an xai / ukka şanavān / bo²an maş
月 無 夜 月 及び
- ¹⁵ vali xai / taşa²an maşa tu²di:pağ xai / ma-
ll 兄弟 時に 以前 時
- ¹⁶ iş mağxōmma maxaşimāv / auppa ukka
に 耕作する 勤勉に 故に 無し
- ¹⁷ şanavān / maiş ?ittag-pāda / şija xutton
曉 時に 低い 石垣
- ¹⁸ maşava / xai / mala²itad / maiş maxaşimāv
寝る 怠慢者 勤勉なる者

3. 太陽征伐

先祖の頃、月が無く、夜が無かつた。月と日は、昔は兄弟であつた。夜がないから一生懸命に耕作をした。石垣の下に寝る者は、怠け者で、勤勉な者は石垣の上で寝た。其時太陽は二個あつた。父と母は耕作をしてゐた。山

2. ka²aun <ka 禁止, ka²av / ka²ab 爲す勿れ, ka to tağxaijo 盜む勿れ。
6. ukkin ukka 欠く、無、の過去分詞形。
8. dałaxan dała / 土, dałaxan 土地, -an 形は具體的、限定的。
9. mak²uni mak-「道具」參照、註5, -uni 比較, min²uni になる min- 例, minbunun 人になる。 muğFomma ~ muğxomma <xomma 品。

採録期、口授者、説明者、原文1に同じ。
補助口授者：イハボ社 anno palabe (老人、年齢不詳)。

部審評の第六月 [minto]-to- masxaujus] (部審カネトワ
ン曆の第七月 [buwan maşoqaulus]) の満月の夜より前
年の首飾祭の後に生れし子供に對し首飾を附する儀式—首
飾祭「masxaujus」—を行ふ。
14. as buwan maş vali xai に連結す, as の冠詞的用法
參照, 655頁, 註13。
15. tuđi:pağ tuđe:p-ağ 時期。
17. ittag-pāda / i-tag-pāda / <pađax / 内, itag-pāda /
屋根の下, i- 處, tan / tana- 方向。
şanavan şanavan 夕暮, labijan 夜。

- ¹ xāi / tana²apab xōtton / auppa dusaŋ
の上に 石頭 故に 二個
- ² tu²de:p valē / ukkaŋ bowan / amoŋ moŋ
其時 太陽 無い 月 其故 耕
- ³ xomma tama maš tsinā / našto:n sja
作する 父 と 母 下す に
- ⁴ da²lah / mapasaŋpal sja xa:šipan / paša-
地 敷く 其の 山羊皮 寝附
- ⁵ haŋan ova:d / amoŋ min²uni šišiu:naš /
けさる者 子は 爲る 蝸蝸に
- ⁶ mai²uva:d / auppa aišxali:vun / auppa
死んだ子は 故に 括られたもの 故に
- ⁷ mašalpō² tsina maš tamā / moupa mat-
悲しむ 母 と 父
- ⁸ *kaki:jev / tama madanoh iōokāt / mdaan
出發する 父は 植ゑる 蜜柑を 行く
- ⁹ kaušija inšumaan valē manā / mak²unue
へ 出る場の 目の 射る を使ひ
- ¹⁰ bušsul mana / amuš taimišixanŋōŋ /
弓 射る 命中す
- ¹¹ tanaška:un mattā / auppa mako²uni kułali
右 目 その故に を使つて ぼろを
- ¹² majimmae / auppa ne:n šadō / taša ma-
手にて拭ふ 見えなくなつた 一 目
- ¹³ ta / amoŋ sja buwan mađamo bunun /
月 捕へる 人
- ¹⁴ mak-jimma mađamo xai / makasi:jo sja
手にて 捕へる 抜ける に於て
- ¹⁵ tanudo / mun-appāv / kaan-dappaanan
指 出現する 踏まれたもの
- ¹⁶ dau bunun sija minanaxāi / ma:kaš-jo /
人は 射し者 抜ける
- ¹⁷ sja / bantaš tō tanudō / moppa mdaanin
足の 指より 行つた
- ¹⁸ bunun mušoxaiš sja lumma / xai / ka-
人 歸る に 家
- ¹⁹ ntuļu-nan bo²an ta:xāo (palnanuto) / aup-
従はれる 月に 云ふ
- ²⁰ pa maša panaxun bunun buwan xāi /
射られたもの 人に 月は

1. dusaŋ vale dusa vale と云ふも宜しといふ説明。此場合 -an の用法不明。
3. našitovn <našito 下。
4. pašabaxan pa-šaba-an <(ma-šaba) 疑る。
6. mai²uva:d 死せる子、類例、maitama 亡父、maitš'na 亡母、mai- 「過去の状態」を示す mai-bunun 元人間なりしもの、元故亡。
aišxali:vun maxajiv lukiš 木枯る、xajivun 枯るゝも

羊皮を地に下し敷いて[子供を寝かせた]、日干になつて、子供は死んで蝸蝸に變じた。母と父は悲しみ[太陽征伐に]出發した。父は蜜柑を植ゑた。太陽の出る場所へ行き射つた。弓にて射つた。右の眼に當つた。ボロにて拭うたが、一眼は見えなくなつた。[その太陽は月になり]その月は人を捕へようとした。手にて捕へようとしたが、指から抜け出た。射つた人は踏み押しへられたが、足の指から抜け出て、人は歸途に就いたが、月は人に射られて、太陽は出ず暗かつた。食物は無く、薪は無く人々は困つた。射た人は歸つたが、暗黒の中を歩いた。行つてゐる脰は、初めに石を投げ若し草に當れば、他の處へ又石を投げ、若し道に當れば、前進した。前に投げた時[水を植ゑる]、雉仔に當つた雉仔は水を植ゑてゐたから投石したことを怒つた。山羊は

の、masixajiv 枯る、*xajiv
10. taimišixanŋōŋ <mišixan 中央、tai-mišixan-ŋōŋ (on?)、tai- 「當る」
11. tanaška:un 比較、tanaviji 左、tana- 「方向」
14. makasi:jo 通り抜ける、pakašioxan トンネル。
15. kaandapaanan 過去、kandapanin。
16. minanaxai minana / xai, m-in-ana / <mana / 撃つ、

- ¹ mađumđum ukka valē minšummā / aup-
暗い 無 目 出る 故に
- ² pa me(-di amin bunun / ?ukka ?kaunun /
困却する すべての 人 なし 食物
- ³ ukka lukkiš / pišidun / auppa maša mu-
なし 薪 燃される
- ⁴ šoxaišaš minana / xāi / kan-mu-?mut?mut
帰宅する 射られた者 暗黒
- ⁵ mdaaān / amoš maiš mdaaan xāi /
行く 時 行く
- ⁶ tašuŋun labato maiš šando? išimut xāi /
初めに 投げる もし 當る 草に
- ⁷ luško:n šip-labato / maiš šandv:nin daan
移されたもの 投げた石は もし 當つた 道に
- ⁸ xāi / makadije:pin mdaaān / maša labato
向うへ 行く 投す
- ⁹ daan xāi / šanduun sakkūt / šjā mašuwad
道 命中したもの 雉仔 彼 植ゑる
- ¹⁰ dānūm / auppa xauŋun sakut tō labato-
水な 道 怒る 雉仔 投石し
- ¹¹ wane / auppa mađāno / dānūm / auppa
たことが 植ゑる 水
- ¹² xauŋun sakkūt ma:īd-la / xāi / tsintuš²-a? /
怒る 山羊 叫ぶ 明るなる
- ¹³ auppa minšummin vale / aš buwan xāi /
出た 目 月
- ¹⁴ maša xabašanaŋ xai / valle amin / maša
時 昔 目 すべて
- ¹⁵ min²uni buwan xāi / kan²tułlūn / mašina-
爲る 月に 従ふ 敷へる
- ¹⁶ ōā / maš išiļu-ān / tuppa aš bowan to /
につき 祭事 云ふ 月
- ¹⁷ ka to ma²un madaboše: na unšoħxada-
勿 食ふ 甘い(もの) 食料缺乏
- ¹⁸ paŋ / auppa maša mušoxaeišin aš / mina-
時 歸つた 射た
- ¹⁹ na / valle xāi / kała:šin dau iōok / auppa
人 太陽を 結實した 蜜柑

怒つて鳴聲を挙げると太陽が出て明るくなつた。月は昔、太陽に外ならぬ。月になつた時に[人の跡を附けて]來て、祭をすることを教へた、月の云ふやうには、「甘味物を食す勿れ、是に反すれば饑饉來らん」太陽を射た人が帰宅した時には蜜柑は實を著けてゐた。二人の兄弟が後に残されてゐた。一人は利口者、一人は馬鹿者、二人は云はれた。「糞を手を受けよ」利口者は臭いから手で受ける事を欲しなかつた。馬鹿者は手に受けると、首飾が現れた。利口者は欲しくて、次に手にて受けると、腔門から悪い首飾が出た。月が云ふやうには、「今後祭をせねばならぬ。新月になつた時に祭をせねばならぬ。満月には、子供の祭をせねばならぬ。其時以來我々ブソン族は、首飾祭日に於て祭事をする。満月に當り祭をし

3. pišidun 過去、pišidunin. išiřuwav šappod 火を附けよ、*iřu.
6. tašuŋun <tašu 始め。
7. luško:n <lušow 他の處は移す。
9. mašuwad dānūm 雉仔の小便せし處より水湧出づと信ず、即ち湧水は雉仔の植ゑしものと彼等は云ふ。
12. tsintuš²-a? 過去、tsintušijin なければ語尾の a は結辭の at?.

13. aš 句の初めに使ひられたる特殊の例。正に buwan の主格冠詞の如き使用法、参照、653頁註14、文法 IV、2。
15. masina:va 敷ふ、išinava 敷ふ事、masi- <ma+išij? 能動的、iši- 道具。
16. išiļuš²an <luš²an 祭る、祭。
17. unšoħ-xadaŋan 比較、minšoħdaŋin 食料缺乏になりし。
19. kała:šin <aš 實、kała-?

- ¹ daɸuʂa ʂipkoʔarvan taʂ-a:n xāi / mataikiloʂ
二人 後に残されたもの 兄弟 利口
- ² taʂa / mataula taʂa / tuppauŋ daɸuʂa
一人 馬鹿 一人 云はれる 二人は
- ³ to / patalaav takkē / amoʂ ne-a:ʂ mataiki-
手に受けよ 糞な 不 利口者
- ⁴ laʂ / aʂʂa mapatalaē kuʔisina / auppā sija
欲す 手に受ける 臭き その
- ⁵ mataula mapatalā / amuʂ xaulu:ʂi munʔa-
馬鹿者は 手に受ける 首飾 出現する
- ⁶ pāv / auppā taxað ās mataikilaʂ / amoʂ
欲する 利口者は
- ⁷ puʂaiʂun jimma mapatala xai / makuwaŋ
次に 手にて 受ける 悪い
- ⁸ xauluʂi mūn-ʂomma / sija to:xō / auppā
首飾 出る に於て 腔門
- ⁹ paʂ-katoɸijé:p / taxowan ma:ʂ bowan to
其後 云ふこと に依つて 月
- ¹⁰ aʂʂa mauppā boʔan maiʂ lo:ʂi-án / maiʂ
欲する 其故に 月 祭 時
- ¹¹ maxaiŋilaŋ bowan xāi / aʂʂa luʂ-anin /
細くなる 月 要 祭をした
- ¹² maiʂ maoʔmoʔ bowan xai / luʂ-an ova-d /
満月 月 祭 子供
- ¹³ maeiʂ bowan paʂxauluʂa-nin / auppā paʂ-
若し 月 首飾を附ける 其
- ¹⁴ katdije:p / kaimin bunun luʂuʂi-án / maiʂ
後 吾々 プヌン族は 祭事をする もし
- ¹⁵ ni to maoʔmoʔ bowan luʂ-an xāi / matað
不 満月 月 祭 死ぬ
- ¹⁶ ova-d / maiʂ maoʔmoʔ bowan luʂ-an xāi /
子 若し 満月 月 祭
- ¹⁷ na mexō:mmiʂ ova-d / auppā aʂā maʂi-
生きる 子 其故 遵守
- ¹⁸ ʂouppā maɸaiŋpaðan xabaʂaŋ to / iʂilulu-
する 先祖 昔 の 祭
- ¹⁹ ʂi-an /
事

4. piŋpað maʂ vanniši
女 と 猪

1. ʂipkoʔarvan iʂi-in-koʔav-an? iʂikouavan 後に残さる者, masikoav 後に残す, *_vkoav, masi- 註20, ʂiŋ- 参照 註16.
3. patalaav patala (上より落ちるものな手或は他の物にて) 受く, <*_vtaja isitaja, antaja.

なければ、子供は死ぬ。満月に當り祭をすれば、子供は長生する。其故祖先の祭事を遵守する必要がある。

4. 女 と 猪

11. maxaiŋilaŋ <xaiŋil 新月形。
13. paʂxauluʂanin paʂ-xauluʂ-an-in 首飾を附せり <xauluʂ 首飾, paʂ- は maʂ(i) (655頁註15)の使役形。

- ¹ ina:m madaɸaiŋpað xabaʂan xai / maʂa
我々の 先祖は
- ² mapaxouʂad vanniši / auppā mixaiŋp
交る 猪と 鳥追をする
- ³ maɸok dao xai / aʂʂa miŋkatʂine mixai-
業 欲する 鳥追を
- ⁴ poje / auppā paxouʂab vanniš / tuppauŋ
する 交る 猪と 云ふこと
- ⁵ dao iʂija: to bananað / na ðakko muʂaiʂ
彼女の 夫の 欲する 私 交代する
- ⁶ mundije:p mixaiŋpo / ni tu ʂtalla maɸuʂ-
其處へ行く 鳥追に 不 承諾 女
- ⁷ piŋpað e / auppā aʂa paxouʂab / amoʂ
欲する 交る
- ⁸ kantolu:nan bananað ʂaxo xai / manda-
後に従はれ 男に依つて 打振る
- ⁹ lo viʂviʂ tavok koiʂ xai / vaʂikadije:p
ひらひらと(?) [註] 細き (音) 来る
- ¹⁰ vanniš / liʂ-ʔamma pakʂinatagkinnud ma-
猪は 乗る 後方より
- ¹¹ xu:ʂab / auppā kuttunin xai / maʂin-labi-
交る 翌日になれり 夜明前に
- ¹² jan mabananað mun-dije:p maluda(oboʂ /
男は 其處へ行く 打つ 置きたる服, 馬車)
- ¹³ amoʂ vaʂikaɸije:p vanniš / auppā taepaʂ-
(音) 来る 猪は 投げもの
- ¹⁴ duwun labatoʔ / auppā ʂinapuʂ vanniš aʂ
石 追ふ 猪は
- ¹⁵ mabananað xai / iʂinadadaða ʂija ʔpainsul
男を 登る 彼 積石
- ¹⁶ labato / maitao dao painʂoɸ iʂilabato at /
投ぐ 三個 積石 投げもの
- ¹⁷ tai-pataðunin / auppā amaunin kauɸumah
殺されたもの 運ばれたもの 家へ

我々の先祖は、猪と交つた。栗の鳥追をする時には、獨りで鳥追をすることを欲した。それは猪と交らんがためです。彼女の夫が云ふやうには「今度は私が鳥追に其處へ行かう」と交りたから、女は拒んだ。男は後を附けて行つて見ると、[女が]小さいタボクを振ると、猪が向うからやつて来て女の背に乗り交つた。そこで其翌日男は夜明前に其處へ行つて皮衣を叩いた。すると猪は向うからやつて来た。そこで石を投げた。猪は男を追ひかけた。彼は積石に登り[その石を]投げた。三個の積石が投げられると、[猪は]殺された。それで[猪が]家へ運ばれると、妻は泣いた。「私の夫は何故に殺したんだらう!」其の夫により[彼女に]肉が與

- 採録期：昭和五年八月。
口授説明者：イバホ (ivaxo) 社 bukkun palabe (男, 當時21歳)。
補助説明者：郡大社 (asaŋ ðeŋgað) xaiju takesitsibanan (男, 當時14歳)
2. mapaxouʂab mapa- 「相互」。
 4. paxouʂab = mapaxouʂab.
 6. ʂtalla <iʂitaja, iʂi は si と弱化すること多し, 参照。
 8. kantolu:nan kantoluŋ 先に行く, kantoluŋan 後に従はる。
 9. viʂviʂ 左右に振る。
 - tavok プヌン婦人の腰衣。
 - vaʂikaɸije:p vaʂika-dije:p 向ふより来る, aʂika-dije:p 向うに於て <dije:p 向ふ, 顔語, ðaiða かなた, dije:p より少し遠き處。

10. liʂ-ʔamma <mammaʔ 背負ふ? pakʂinatagkinnud pakʂina-tag-kinnud 後方より <kinnud, pakʂina-tana-pauʂ 前方より <pauʂ 前。
11. kuttunin kuttun-in 翌日 <kuttun 明日, maʂinlabijan 夜明前鶏鳴時頃, labijan 夜。
13. taepaʂɸun *_v/ du, ta- 参照, 650頁註6。
15. iʂinadadaða iʂi-na-da-daða <ɸada 上部, iʂi- 「處」 -na- 「位置」? ðadaða 反覆形, iʂinadadaða 飛び登る, kaunadaðaða 攀登る, iʂinaʂito 飛び降る, kaunaʂito 次第に降る。
- painsul 参照, カトグラン, 原文7第600頁註15。
17. tai-pataðunin 参照, 原文1第650頁註6, amaunin ama-un-in <mamaʔ 背負ふ, kauɸumaɸ kau- 「方向」の方へ行く。

- 1 xai / tappis piṅṅad / aj pataḍav nak
泣く 女 何故に殺す 私の
- 2 bananaḍ iṣ / auppa saevan dao na^u to
夫 奥へ入るもの のみ
- 3 iṣija to bananaḍ tṣitsi xai / ni to anataḷa /
其 男 肉 不 受取る
- 4 auppa thanawun maṣa:aiṅ / peṣainun sija
再びせられる 奥ふ 置かれるもの
- 5 ḍuṣ-ḍuṣ ṣiṅxaili maṣa-ajev / ka²-aun ṣiḍaun /
尖端 刀 奥ふ 不 取れるもの
- 6 auppa kiṣ-laupa-an tṣibok-lab xai / mataḍ
突刺される 腹 死ぬ
- 7 amos mun-appav aoxad / mamaṣ-an aoxad
現はる 猪の仔 十匹 猪の仔
- 8 xai / duṣa mattaḍ masa kiṣ-laupaan /
二 死ぬ 突刺される
- 9 auppa vavau mixomiṣ / mapavaaḍ dao
八匹 生く 分れる
- 10 kaūtainunto ṣaṣipat / as mis-vanniṣi / ṣaṣi-
タイヌント方へ 四匹は 猪になる 四
- 11 pat maṣa-uppa sija ilav aṣ(i) min-uni
匹 出る 戸 成る
- 12 babo ṣale-aṣaṅ /
豚 家飼の

5. piṅṅad to ovaḍ mini-uni
女の子 成る
kokowav
鳶

- 16 xabaṣanay xae / ṣija mini²uni kokowav
昔 彼は 鳶る 鳶
- 17 xai / itto ael-taṅṅuṣan to ovaḍ / auppa
其 先妻 の子 その故に
- 18 mo(-na mabananaḍ ṣiḍa piṅṅad xai /
再び(す) 男は 取る 女を
- 19 maxaitas dao kiniṅ-na:n maḷus-piṅṅad /
虐待す (22) 後妻

1. pataḍav -av は主として「命令」「願望」の助辭なるが「疑問」のときにも用ひらる。
2. iṣ 輕き接續詞的用法 而して saevan <masaiv.
4. uṅanawun <mo(-na 再び.
posainun pa-sain-un 比較 sain+ṣin 此處。
8. kiṣ-laupaan kiṣ-laupa-an <laupa 突き挿す、接頭辭 kiṣ- kiṣ-bonanan 槍を以て突き刺す <bonan槍、kis-には「道具」の意あれば <iṣi-? kiṣ <k(a)+iṣ(i)?
10. tainunto カトグラン 原文7. 第602頁 註3.
12. ṣale-aṣaṅ <aṣaṅ 畜社、接頭辭 ṣale-「飼育す」例。

へられた。[妻は]受取らない。其故に再び奥へた。刀の先に付けて奥へた。取らなかつた。腹が突刺されると、死んで猪の仔が出た。猪の仔は十四であつたが、二匹は突刺された時に死んだ。それ故に八匹が生きた。分れて四匹は[家の奥]へ行き、猪になつた。四匹は戸から出て家畜の豚になつた。

5. 繼子鳶に化す話

昔々、ある男が妻を再び娶り、後妻は先妻の子をいぢめたため、其先妻の子が鳶になつた。父の留守の時は、叩かれ捕られ飯も食べさせてもらへなかつた。其故に泣いた。彼の父が薪を

ṣale-babo 豚の番なす、ṣale-xanuvay 牛を飼ふ。

17. ito 説明者は二種の解釋を與へたり； 1) isaitsa 其處の 2) ある (a certain) (原文9 第964頁、註19)。ito は i-to と分解すべきものにして、to はカトグラン指示代名詞 naiton 其人々の ton に比すべきものか。ael-taṅṅuṣan 比較 mail-taṅṅuṣ.
19. maxaitas -un 形、kaxaitasun、kiniṅnaan k-in-iṅna-an 後にせられし者 <kiṅna 後、比較 migna も一回、mekiṅna 子孫。

- 1 mmaṣ itto ael-taṅṅuṣan to ovaḍ / auppa
其 先妻 の子 その故に
- 2 maiṣ ukka dau tama xai / luḍax'o:n ka-
時に 無い 父 叩かれた 捕
- 3 mutun ka²aun pakaunan xaiṣiṅ / auppa
められた 無 食はせる 飯を その故に
- 4 na taṅṅiṣin / auppa masa telukiṣ da:o
泣いた その故に 時に 探薪する
- 5 tama iṣija xai / pu²akaḍan uvaḍ piṅṅad
父が 彼の 虚言せられたものの子 女に
- 6 to / na saivan kat-kat dabos / na paka-
奥へたもの 焦飯 粟酒 食はせ
- 7 wunan xaiṣiṅ / auppa tuppa dao ṣija ma-
るもの 飯 其故 云ふ 其
- 8 luṣ-piṅṅad kinniṅ-na:n to / aṣikav luma(-
(2-) 後妻 掛けよ 家を
- 9 aṣikav na:ta / kanah-topṅin dau ma²aṣik
掛けよ 敷石庭を 終了した 掃除
- 10 xai / tuppa piṅṅad ovaḍ to / saevavinik
云ふ 女に 子は 私に奥へよ
- 11 kad-kad maṣ xaiṣin / ka²anunan dau
焦飯 及び 飯 相變らず無い
- 12 saivan / tuppaun dau to niṅaṅ / aṣikavaṅ
奥へるもの 云つた 未だ一せず 引續き掃くよ
- 13 patulkokan / aṣikav luma(- to babo /
雞小屋を 掛けよ 家 豚の
- 14 auppa kana(-topṅin xai / toppa aṣ piṅṅad
時 終了 云ふ 女に
- 15 uvaḍ to / aṣin xaiṣiṅ maṣ kad-kad / ka-
子は 渡さる 飯 及び 焦飯 食
- 16 wunun ko auppa kana(-topṅinan ma²aṣik/
はれるもの 私の 故に 終了した 掃く
- 17 ka²awun dao saevan / auppa ṣiḍa aṣik
無 奥へるもの それ故 取る 箒
- 18 iṣiṅinsoop ṣija toxo / paḍuṣawun tok-ban /
挿入したものの 彼の 腔門 二つにした 圓形竹製の箕
- 19 jah²-tṣiḍun ṣija kusuwan / mataida:ḍin
挿したものの 膝下 飛上り

探りに行つた時に、繼母は子に嘘をついて、粟のお焦を上げませう、御飯を食べさせませう、そして後妻は云ふやうには、「家を掃きなさい、石庭を掃きなさい掃除が終ると、子は繼母に云ふやうには「お焦と御飯を頂戴、まだ遣りませぬ。[まだですよ、雞小屋をも掃きなさい。豚小屋を掃きなさい。]終つた時に、子は繼母に云ふやうには「御飯とお焦を頂戴、掃除が済んだから私は食べます、遣りません。それで箒を取りお尻に挿し、圓箕を二つに切り、腋下に挿し、飛上り空を翔けた。高くへ昇つた時に、「ココワープ」と云つた。彼のお祖母さんは、「お歸りよ、山羊の皮衣を縫つてあげますから」と云つた。子は繼母に「チーナタホワシユ」と云つたので、後妻は仰いで見ると、頭が切れた。

1. mmaṣ =maṣ 「對格」を示す。
2. luḍax'o:n <maḷuḍa(- 叩く、kamutun <makamut 捕る。
4. na 「引續き起る動作」参照、丹大社原文9 第623頁、註7. telukis / tiḷukis, ti-ḷukis (水、薪) 接頭辭 ~ ti- 「採取」、tin-saay 肥料を探る、tin-batto 石を探る場合は tin-。
8. aṣikav aṣik+av (命令の助辭) <maṣik 掃く。
10. saevavinik saiv-av (命令願望) -inik (私に)。
11. ka²anun dau ka²anay dau, d の同化により ḡ>n

ka²a-un-aṅ.
12. aṣikavaṅ aṣik-av-aṅ av 「命令」-aṅ 「繼續」。
13. patulkokan pa-tulkok-an <tulkok 雞、pa- 「從後」-an 「場所」。
14. aṣ 「女に云ふ」 aṣ より maṣ の方言し。
15. aṣin aṣ(i)-in 渡さるもの <aṣi 手渡す、asi paṣado-wavinik 私に渡し見せよ。
18. iṣiṅinsoop <maḷinsoop 挿入す。
19. jah²-tṣiḍun <maḷjah²-tṣiḍ.
mataida:ḍin mata-i-ḍaḍa-in 或は ma-tai-ḍaḍa-in ?

- ¹ kaušba-ai / tuppa to kokowarv / auppa
飛翔する 云ふ 鷹 時
- ² işikaxoxon / tuppa dao tšina xo:faš išija
高さ處 云ふ (2=)祖母 彼の
- ³ to / mu:šoxaiša na išitaxaeško šide /
歸れ 私に歸はれる 山羊
- ⁴ tuppa dao piṅṅad ova:d to / tšin:ataxo-
云ふ 女に 子は
- ⁵ wal / auppa malimamaṅxa / piṅṅad kin-
それ故 仰ぐ (2)後妻は
- ⁶ niṅ-nan mašivid xai / mubaiṅ-ut buṅṅu /
見る 切れ取つた 顔が

6. tummaḍ mas oknav
熊 と 豹

- ⁰ tummaḍ mas ok-nav xabašan xai / ma-
熊 と 豹は 昔
- ¹⁰ ifunun / auppa masa minu?uni tummaḍ
人である 時 爲る 熊
- ¹¹ mas ok-nav xae / mapa-tuppa dao to ši-
と 豹に 互に話す
- ¹² ma? taṅṅus maḍanav / tuppa dao oknav
誰 始め 顔を洗ふ 云ふ 豹
- ¹³ to / ḍakko taṅṅoš / ši?av maḍoho-još xa-
私は 先に爲す にせよ 白き 灰
- ¹⁴ ho / as išixoxoš piši-alav matataš / auppa
に 塗る 良く 紋様を
- ¹⁵ kanah-topṅin oknav xai / tuppinn dao
終了した 豹は 云つた
- ¹⁶ tummaḍ to / ḍakuwavin xošxošin / auppa
熊は 私にして下さい 塗られるものは
- ¹⁷ xošxošanin xai / ši?a-un xonnoṅ išixoxoš /
塗られた にせられる 木炭 塗られるものは
- ¹⁸ oboṅ to tommaḍ / kāuppaun dao / va:o
體に 熊の 許りにす 肩
- ¹⁹ as xošxošan maḍo(-)las / auppa tuppa dao
塗られるものを 白く 云ふ
- ²⁰ tummaḍ to / a:je: mataxadonṅ / xauṅun
熊は あー 眞黒 怒る

2. işikaxoxo <kaxoxo 高さ iši-「處」
3. mu:šoxaiša mušoxaiš 歸る a「命令」の助辭。
ištataxaiško iši-taxaiš 縫はる物 <(ma-)taxaiš 縫ふ、
-ko 私の二重母音 ai は >ae>/e となることあり。
4. tšinataxowa 鷹の鳴聲, tšina 母, xowa 破衣, 母よ,
着物は切れたり といふ意。
5. malimamaṅxa maji- 比較 kali-
6. mašivit 観察す, šado 見る。

6. 熊 と 豹

熊と豹は昔は人であつた。熊と豹になる時に、「誰れが先に顔を洗ふか」と互に話した。豹が云ふやうには「私が先にします。白い灰をもつて、きれいに紋様を塗つて下さい」。豹は終つた。熊は云ふやうには「私に塗つて下さい」。塗つたが、熊の體に木炭が塗られた。肩だけ白く塗つた。熊は云ふやうには、「アー眞黒だ」。熊は怒つたが、豹が云ふやうには「立腹しないで下さい。鹿や其他のすべての獸を君に食べさせることにするから」。熊は見、豹は

13. ši?av sija-av 其れにせよ? 例、「何を與へん」と問われしとき siav suje「金にせられたし」比較 ši?a-un「それにせらる」
14. išixoxoš iši-xoxoš 塗りに使用するもの、塗料 <(ma-)xoxoš 塗る。
piši-alav pišial+av, pišial 良くす <mašial 良き。
16. ḍakuwavin ḍaku-av-in.

- ¹ tummaḍ xae / tuppa dao ok-nav to ka to
熊は 云ふ 豹 勿れ
- ² xauṅun e / na iši-damukwaš xanuvaṅ /
怒る 私は汝に食はせるもの 鹿は
- ³ amin kauppa tšitši / tummaḍ xae ma-
總ての 他の 獸は 熊は
- ⁴ šitoxaš / oknav xai maš-noba / tasa:n
兄 豹は 弟 兄弟
- ⁵ naija dao xabašan /
彼等は 昔

弟、昔は彼等は兄弟であつた。

7. lov|lov xo:dan mas pa?av
風 雨 と 雪

- ⁰ xabašanṅ dao xae / lov|lov mas xo:dan
昔 風 と 雨
- ⁹ pa?av xai / maitas?an tatao / auppa ma-
雪は 兄弟である 三人 互に
- ¹⁰ paku:nev dao to / ši:ma mastaan mata-
自慢する 誰は 最も 強
- ¹¹ maša:aḍ katta tatao / tuppa dao xo:dan
我々 三人(2等) 云ふ 雨は
- ¹² to / nito makwa laṅṅatšj e na lu:bus
不 困却 安心する 故に 謙す
- ¹³ amin dalah / tuppa dao lov|lov to / ḍakko
すべての 地を 云ふ 風は 私は
- ¹⁴ taṅṅus e mastaan matamaša:aḍ / na ho:xa-
最初 故に 最も 強い 私の折
- ¹⁵ soṅko amin kauppa lukkiš / maš išimut
るもの すべて 他の 木 而して 草
- ¹⁶ lumah to funun / auppa kanah-topṅin
家 人の 時 終了する
- ¹⁷ lov|lov xai / ši:n xo:dan sa:jiš tuppa to /
風は 次に 雨は 交代する 云ふ
- ¹⁸ na tonoxoṅko lut-dun amin kauppa da-
私の落すもの 山 すべての 他の
- ¹⁹ lah / auppa na min-madijen ?danum /
地 それ故に 増大する 水は
- ²⁰ tu:ša ḍao to / muntūnoh lut-dun / auppa
眞實に 崩落する 山は 時

7. 風と雨と雪

昔は、風と雨と雪は、三人兄弟であつた。我々三人のうちで誰が一等強いかと、自慢しあつた。雨が云ふやうには「平氣だすべての地を濡らすから安心だ」。風が云ふやうには「俺は最も強いから一番だ。俺はすべての木や草や人家を破壊する」。風が終ると、次に雨が交代して云ふ。「俺は山やすべての地を崩す。そして洪水になる。本當に山が崩れるんだぞ」。雨が終つた時に、次に雪が云ふ。「お前達は初めに自慢したが、すべての草が死ぬ、又俺は山の高い處で最も美しい、から俺は一等だ」。

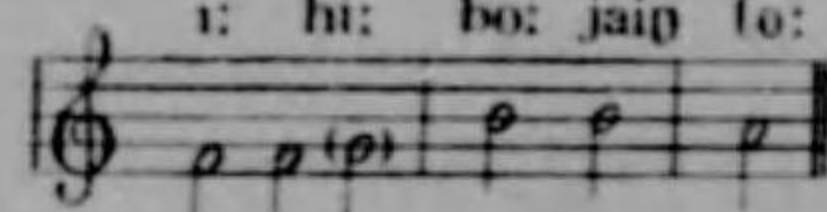
2. išidamukwaš iši-damu-ku-aš, ḍamu>maḍamu 捕獲す, ku 私, aš 結辭。
9. maitas?an mai-「前の状態」元は兄弟なり。mapakunev <makunev 自慢す。
11. katta <ita 我々(話相手を含む)。
12. laṅṅatšj 安心す, 都合良し。(病氣)治る laṅatšjin (病氣

治れり) ママロワン laṅat.
14. ho:xašoṅ ko <maboxaš 折る k のたろ -on>-on-
18. tonoxoṅ ko tonoxon 崩し落すもの, 比較 tonox 断崖, muntūnoh 崩る, matonox 崩す, maitonox 崩れ断崖になる。
19. minmadijen min-madija)-in <madija 大。

- ¹ kanah-tonjin xozdan xai / sin tупpa pa'av
終了する 雨は 次に 云ふ 雪
- ² to / mo tappo^o maku:niv / aупpa đakko
汝等 初め 自慢する 私は
- ³ mastaan e / matta:đ amin iřimut / mas-
最後 故に 死ぬ すべての 草は 最
- ⁴ taan saekin manawađ đadađa řija lut-
も 私 美しい 高處 その
- ⁵ duntan /
山に於て

8. xanivalval
虹

- ⁶ xabařan đao xai / min(i)^ouni xanivalval
昔 爲る 虹に
- ⁷ miř^oav xai / mapaxaun / aупpa patřiř-
酷晒する者 喧嘩する者 切られ
- ⁸ tu:ban đao ito tatsini tanudo / aупpa
たもの その 一人の 指は
- ⁹ mudaanin dao maitřiř-tob xai / tупpa dao
去る 切る人は 云ふ
- ¹⁰ ař patřiř-toban to tanudo / to / mah-top
切られた人は 指の 可能
- ¹¹ saekin mimba:ř aупpa nijař matađ / o /
私は 返す まだ-こい 死 繰返
- ¹² onaun dao matřiř-to jimma patři:ma:n
へされる 切ること 手を 五回
- ¹³ mabukbuk řija boho-top / aупpa tупpa
切る その 関節を その故 云ふ
- ¹⁴ dao ař patřiř-tuban tanudo / to / nijař
切られた人は 指の まだ-こい
- ¹⁵ saekin matađ / aупpa xaiř-uttonin buřpo /
私は 死 それ故 切られたもの 顔は
- ¹⁶ kan(u)-kanun dao řija đawad / aупpa
入れたもの その 首袋
- ¹⁷ iřijanin tařoxan mařaba^o xai / kaxu:đař
に於て 獵小屋 寝る 歌ふ
- ¹⁸ dao tупpa to / i: hi: bo: jaiř to:
云ふ i: hi: bo: jaiř to:



4. řija lutdun tan tan 比較 中部方言 ta. 向う, あすこ
9. patřiřtuban pa-třiřtub-an 切らる處 <matřiřtub 切
る。
12. mařton mařton? <mařto mařton maun 食して差
支なし。

8. 虹

昔々、酷晒せる者が喧嘩して虹となつた。その一人の指が切られた。切つた人が立去らうとすると、指を切られた人が云ふやうには「己は未だ死なないから己は復讐が出来る」。指の關節を五回繰返して切つた。指の切られし人は云ふやう「私はまだ死なない、それ故に頭が切られ、首袋に入られた。獵小屋に寝て、頭を切つた人は歌つて曰く、「I-hee-boo-ya-into」歌を終へてから、その殺人者が云ふやうには「己は最も強い、奴の首を取り、奴が話せぬやうにしたから」ところが頭は相變らず話した。頭に木豆の煮汁を注

14. patři:ma:n patři:jima-an <jimma 5.
17. xaiřutonin xaiřut-on-in <ma-xaiřut 切る。
18. kan-kan 容る, k-in-an-kan 容れしもの isi-kankan 容器, kan-kan-un 容れるもの。
19. iřijaanin i-řija-an-in, 現在 i-řija 或は i-řija-an. 例, iřija/iřijaan řippun xaimařot 品物は日本にあり。

- ¹ aупpa kanah-tonjin kaxu:đař xai / tупpa
時に 終了した 歌 云ふ
- ² dao řija maipatađ to / đakko mastaan
その 殺人者は 私は 最も
- ³ matamařa:đ e / xaiř-uttonin ko buřpo /
強い 故に 私の切りたるもの 顔は
- ⁴ aупpa nin pařnanuto / amos pa:řnanuto-
其故に 無かつた 話 相變らず話す
- ⁵ wař buřpo / aупpa su:řan buřpo mas
顔は 注がれた 顔は
- ⁶ iřxalidařan / ma:řđa-ukkan pařnanuto /
木豆汁 繼續せられた 話は
- ⁷ aупpa sulanin iř-řařlavan xai / nin pa-
それ故に 注がれた 菜の汁は 無かつた
- ⁸ řnanuto / aупpa tупpa ař / maisul to /
話 云ふ 注ぐ人は
- ⁹ mattađin saija / aупpa ku^ounijař dao
死んだ それは
- ¹⁰ xořbo madamo / muskun kogađa^o řija
髪を 捕へる 共に は入る その
- ¹¹ đanum / aупpa pař-kat-đije:p mini^ouni
水 其後 爲る
- ¹² xanival-vala:ř řija mařbuřpo / mini^ouni
虹に 首の男は 爲る
- ¹³ řija^oavas řija bunun aiđanař oboř / aупpa
河首に その 人 有る 體の
- ¹⁴ mařamo mapat-no^o xanival-val e / na: miř-
禁忌 指さす 虹を
- ¹⁵ taaba jimma / na kiř-pulaan / mais mapat-
焼ける 手は 火傷するもの 若し 指さ
- ¹⁶ no xanival-val xai / mařamo piřan-řanun
す 虹を 禁忌 眞直にせられる
- ¹⁷ tanudo / ni tu makwa mais pixot-mu:n
指は 不 困却 圓くせられる
- ¹⁸ mapat-no / ařija madi-ul řađowana xai /
指さす その 赤き 見えるものは
- ¹⁹ mařaidař / ař mařaiballa xai / mai^ouni
血である 茶色は 爲る
- ²⁰ iřxalidařan to đanum / ař mařařlawa
木豆汁 の 水が 青色

いだが話を續けた。それで青菜の煮汁をかけたところが話さなくなつた。注いだ人が云ふやうには「奴は死んだ」ところが(頭は)その髪毛で(頭を)切つた人を捕へ、一緒に水に入つた。其後首の男は虹になり、體のある男は河のゴ-ゴ-云ふ音になつた。それ故に虹を指さすことは禁ぜられてゐる。手が焼け、火傷するから、虹を指さすならば、指を眞直にしてはいけない。握拳にして指せば構はない。赤く見えるものは、血である。茶色は、木豆汁が變じたものである。青色は、青菜の汁が變じたものである。雨が降ると種々の(色になつて)見えるが、先祖に従ひ、指さすことは禁忌である。

4. pařnanutowař pařnanuto (話す) -ař (繼續).
7. iřsařřavan iř-sařřav-an 菜の汁 <sařřav 野菜, in-hutan-an 薯汁, 類例 iřbabowan 豚の汁, iřtořkokař 雞の汁, ař-「米粟の煮湯」 ař-pa:đ 米の煮湯 <pa:đ 米, ař-mađoř 粟の煮湯。
9. ku^ounijař maku^ouni を以て, -an 形。

10. kogađa^o kau-pađa^o kau-「の方に」 pađa^o 内。
16. piřanřanun pi-řanřan-un 眞直にせられるもの, <ma-řanřan 眞直なる。
18. ařija ař řija.
19. mařaidař <xaiřař 血, mai 参照, 原文7 第661頁 註9。

- ¹ xai / mai²uni in³saŋ-lavan / auppa vaive-
音楽計は 種々
- ² vaive ſadowan mais xodanana / auppa
な 見える 若し 降雨
- ³ maſaamo mapad-ro e / maſiſauppaŋ xa-
禁忌 指さす 従ふ
- ⁴ baſan to madadep⁵pad /
昔の 老人に

9. asaŋ deppad iſinadaſaan
社 舊 上より来る
dexanin
天

- ⁸ xabaſan masa muxaalxai dexanin xai /
昔 落下する 天
- ⁹ panasiſija asaŋ deppad / xabaſan dao ma-
其處へ 村 昔 昔
- ¹⁰ dabep¹¹pad xai / taſito luma(moŋxamma
先祖 一個の 家 耕作する
- ¹¹ mapalabato kokolpa / paſaxainan patai-
互に投げ合ふ 墓を 玩弄せられる 投げ又
- ¹² baſabas / mapala-batto / amus ſadowan
投げ返す 互に投げ合ふ 見られるもの
- ¹³ dexanin / auppa xaupun dexanin ma-
天に 怒る 天 落
- ¹⁴ xaſxai dao dala(/ maſnaſadaſa sija
下する 地を 上より 其
- ¹⁵ dexanin tan / ladip¹⁶po(/ auppa taſa¹⁷un
天 に於て 埋没する 開かれるもの
- ¹⁶ dao bumma to dunun ipada(sija dala(
外の 人 下 その 地
- ¹⁷ tatappiſ / auppa maſamo kaimin bunun /
泣く 禁忌 我々 アヌ族
- ¹⁸ matusxoŋ kokolpa / maſamo mapatade na
悪戯する 墓に 禁忌 殺す
- ¹⁹ xaupun dexanin / auppa ito dexanin to
怒る 天 天の
- ²⁰ ſinaepok aſſ kukulpa / na xaupun amin
養ふもの 墓 怒る すべての

6. asaŋ deppad 現在は郡大社を asaŋ deppad と稱す、郡
藩の「舊社本社」の意、此物語に出づる asaŋ deppad
はイハ本社と郡大社の中間郡大溪の向側の地、其地に
舊社ありと云ふ。
iſinadaſaan iſi-na-da-da-an 到着の地 <daan 道、
daſaan 歩く、比較 panadaſaan 到着す(iſinadaſaan
「到着し永久に留まる」場合、panadaſaan は「再び出發
することある」場合。

9. 天より来るアサン、デ
ンガズの話

昔天がアサン、デンガズへ落ちた。
昔祖先の頃、軒の家(の人々)が耕作を
してゐて墓を投げ合つた。投げたり
投げ返したりしてもてあそんだ。天
は怒つて天から土地を落し(その人々
を)埋めた。地の下に泣いてゐるのを
外の人に依り聞かれた。墓に悪戯を
することは我々ブヌンの禁忌である。
天は怒るから禁忌である。墓は天の
飼育するものである。人が墓を殺せ
ばすべての雷も怒る。我々ブヌンは
墓に悪戯をしない。もし墓に悪戯を
すれば死ぬ。地の到着した處はアサ

9. pana-sija 接頭辭 pana-sija 「到着」 sija 其處、類例、
pana-dijep 向へ到着す、pananaſito 降る。
11. mapalabato mapa-labato mapa- 「相互」
taibaſbaſ < / bax 返す、tai- 参照、原文 1. 第650
頁註6。
15. ladip¹⁶po(接頭辭 la 参照、591頁註10。
19. ito 参照、原文 5 第658頁註17。
20. sinaipok s-in-aipok 家畜 <saipok 養ふ。

- ¹ bil-va mais mapatađ bunun kukulpa /
雷 もし 殺す 人 墓
- ² auppa ukka kaimin bunun mutusxoŋ
無 吾々 人 悪戯する
- ³ kukulpa / mais matusxoŋ kokolpa xai / na
墓を もし 悪戯する 墓を
- ⁴ matađ / aſ iſinadaſaan da:la(xai / tuppa-
死す 到着した處 地 名づけら
- ⁵ wun to asaŋ deppad / sim taſa tuppaunin
れた 次に 一の 名づけられた
- ⁶ to maideſanin to dala(/ masa ipada(dao
天であつた 地 下
- ⁷ sija dala(xai taſ-mas-a:n maſaba(at /
地 十日間 寝る
- ⁸ ukkin tađawun tappiſ /
無くなつた 聞かれ 泣聲

10. ałowad
鼠

- ¹¹ inam bunun xabaſan sija minu¹²uni
我々の アヌ 昔 時 爲る者
- ¹³ ałowad xai / maloitađ / auppa kaimin
鼠に 怠惰な者 其様に 我々
- ¹⁴ bunun xabaſanaŋ xai / taſa tſilaſ poxa-
人 昔 一 穀 鍋に入
- ¹⁵ đacun / minſuwak mitmod sija poſ-a /
れられる 増加す 充てる に 鐵鍋
- ¹⁶ auppa iluma(malaſitađ / mapit¹⁷-ſija pi-
其様に 在家 怠惰なる者は 炊く 多
- ¹⁸ mađijun dazo puxađavun tſilaſ / amoſ
くはす 鍋に入れるものは 穀の 其故
- ¹⁹ minſuwak mit-muđ sija luma(/ auppa
増加 充滿する に 家 新しくして
- ²⁰ a(atſiđun maluſ-pippad sija xotton xai /
押附けられる 女は に 石壁
- ²¹ minu²²uni ałowad / auppa maſa mit-muđin
なる 鼠 新しくして 時 充滿した
- ²³ sija luma(xaiſiſ xai / kaunun da:v amin
に 家 飯 食ふ すべて
- ²⁴ vanno / tummađ / oknab / ſibvs / iſixo:ſ
蜜蜂 熊 豹 砂糖黍 副食物
- ²⁵ mawun xai / maſa mawun dao ſibuſ maſ
食ふ 時 食ふ 砂糖黍 及び

7. taſmas-a:n <mas'an 10.
10. ałowad 中部北方方言 qamutiſ 郡藩普通語の ałowad

ン、デンガズと云はれてゐる。又一つ
の名は「天であつた地」その地下に十
日間寝たときに泣聲が聞えなくなつ
た。

10. 鼠

昔人間の怠け者が鼠になつた。昔
我々人間は一粒の粟を鍋に入れると
増えて鐵鍋一杯になつた。怠け者が
家に居て、鍋に粟を澤山入れて炊いた。
すると家に増加充滿し、女は(充ちた飯
のため)石壁に押附けられて、鼠になつ
た。飯が家に一杯になつた時、蜜蜂、熊
[肉]、豹肉、砂糖黍を、副食物として食べ
た。砂糖黍と砂糖を食へた時は、未だ
[飯を]平げなかつた。豹肉、熊[肉]、枇杷、
蜜蜂を食へた時、其時飯を食へ終へた。
其故に我々は鐵鍋に柄杓一杯(の粟)を

は丹大社に於て狩獵禁忌語となる。
18. a(atſiđ 二物の間に挟まる。

- ¹ kamašija xai / nijaŋ aminun mawun
砂糖 未だ…しない 不¹ 食ふ
- ² maša mawun oknab tummad vanno litto
時 食ふ 豹 熊 蜜蜂 枇杷
- ³ xai / tudijepin ik-aminun xaišij mawun /
其時 終る 飯を 食ふ
- ⁴ auppa kanašijin kaimin loppa ka dau /
その故に 我々 (2)現在
- ⁵ bunun / maiš taša pe²kat-nul poxaðavun
人 も 柄杓 入れるもの
- ⁶ šija pul-a xai / nitto minšoosi auppa /
に 鑊鍋 不 増加
- ⁷ šiŋxol xabašan kauppa paka-šo(ðan) /
副食物に¹ 昔 其故に 貧窮する
- ⁸ auppa kanašija kaimin bunun ni to ma-
斯くて 故に 我々 人 不
- ⁹ wun maðaboš maiš luš-an e / na minšo-
食 甘いものを 時 祭 (後に)
- ¹⁰ hoðan / maštaan mašamo aš tummad
貧窮する 最も 禁忌 熊
- ¹¹ maiš oknab vanno / auppa aminun xaišij
及び 豹 蜜蜂 その故に すべて 飯
- ¹² maša mawunin tummad maš xoknab /
時 食べた 熊 及 豹

11. uttoŋ
猿

- ¹³ ina:m bunun xabašan šija min²uni uttoŋ
我々の 人 昔 其 爲る者は 猿に
- ¹⁴ xai / makuðoš auppa muškun da:o bunun
意地地い人 と共に 人
- ¹⁵ mapawunxomma xai / amoš kaujumah
共に耕作する 時 屋内に入る
- ¹⁶ takbanuwað mataŋav ta'e maun / auppa
辨蕃 撮食する 里芋を 食ふ
- ¹⁷ anašitunin maun xai / šija kaunun tak-
抑された 食ふ 其 食ふものは 辨
- ¹⁸ banuwað to maitaŋav maš mad-ah / amoš
蕃の 撮食した もの 堅い

1. kamašija 本嶋語、甘蔗。
aminun amin (すべて) -un.
3. ik-aminun 接頭辭 ik- は「食ふ事」に關係ある如く
思はる。例, ik²moxos 辨當な食ふ <moxos 辨當,
ik¹aan 食物の容器。
7. šiŋxol (i)si-(i)n-xol.
pakasoxoðan * / ʔoxoð 食料缺乏、貧困。
10. mašamo ブヌン族は收穫期に於て其等を食ふことな

入れても増加しない。といふのは昔
[上記のものを]副食物としたからです。
さう云ふ譯で[現在]貧窮してゐるので
す。それだから我々ブヌンは貧窮し
ない様[食料]缺乏しないやうに[祭]の時
は甘いものを食べない。熊と豹と蜜
蜂は最も忌む。熊と豹を食べた時飯
が無くなったから。

11. 猿

吾々先祖の猿になつた人は、食心坊
の男です。人々と共に山で働いてゐ
たが、その[食心坊]辨蕃の男は屋内に
入つて里芋を鍋の中から撮食した。
[鍋を]卸して食べる時に、撮食した辨蕃
の男の分前はまだ煮えないものであ

禁止さる。其慣習の説明説話なり。

17. mapawunxomma mapa (相互) -(m)un-xomma. mo-
xomma 耕作す。
kaujuma) kau-juma) (家), kau- 參照, 原文4, 第657
頁註17.
19. anašitunin anašit(o)-un-in <našito 下。

- ¹ iknab-toppin da:o takbanuwað maun xai /
終了した 辨蕃 食ふ
- ² kaɭabun pašmu:dan mundada²aða šija lu-
振かれた 喉は 登る に
- ³ mah / tuppa da:u to / ʔr / o: / amu:š mi-
家 云ふ 斯の如く
- ⁴ n²unin uttoŋ / šinapun da:u na madamo
爲れり 猿に 追はる (2=)捕へようとする
- ⁵ xai / ni to štaɭa damuŋi matališikan /
不 可能 捕へられる 速いから
- ⁶ makadaða šija lukkiš pašnušošunšoš
上に 於て 木 飛び移る
- ⁷ mudadaan / uppa xaɭmaŋ-unin ni to
歩く 故に 中止する 不
- ⁸ madamo / makðuš¹ xaišamo auppa mi-
捕ふ 意地地い 當然 斯の如く
- ⁹ nu²uttoŋ /
猿と化す

つた。辨蕃の男が食べ終ると喉を搔
いて屋根に登り「ク。ー、オー」と云つ
た。その様にして猿になつた。捕へ
ようとて追ひかけたが速くて捕へら
れなかつた。木から木へと飛び移つ
て歩いた。それで捕へるのを止した。
食心坊は猿になるのは當り前です。

II. 郡 蕃 (郡 大 社)
(asaŋ deŋŋað)

1. ikoɭon
イコジョン

- ¹⁴ aiða ikoɭon ipadah dala(tšin / ni to
有る の下に 此の 土地 不
- ¹⁵ mawun xaišij / tawun kaunun / ni to
食 飯 嗅ぐ 食物を 不
- ¹⁶ mawun tšitsi / mapus-wut patakejan /
食 肉 小 腔門
- ¹⁷ kaimin xa:baš xai / ukka:naŋ pa:ð auppa
我々 昔 未だ無い 米 其故に
- ¹⁸ kaupada(šija ikoɭon tantoppo / ša:do pa:l
下へ行く に 訪問 見る 米
- ¹⁹ xai / taŋxaijo / taŋpoš bananað maxabin
盗む 始めに 男 匿す
- ²⁰ pa:ð šija xattaš / amu:š kiɭimus ikoɭon
米 に 陽物 それ故 探す

1. 地 下 人

此の世界の下にイコジョンがある。
飯を食べない。食物を嗅ぐのである。
肉も食べない。腔門は小さい。祖先
はまだ米が無かつたからイコジョン
へ遊びに行き、米を見て、盗み、始めに男
が米を陽物に匿した。するとイコジ
ョンは探し、見出してイコジョンは取

1. ina¹-toppin 接頭辭 ik- 參照, 原文10 第666頁註3.
ikna(toppin 食ふ事を終了せり。

採録期: 昭和五年八月。
口授者: 郡大社 (asaŋ deŋŋað) [anixo paɭidavan (男, 老
人, 年齢不詳)

説明者: 郡大社 xaiju takesiŋšibanan.
14. dala(tšin tsin 此處, 比較 tan 其處, 向う。
16. patakejan pa-take(i)-an 糞を出す場所, 腔門 <take
糞。
20. kiɭimus kiɭimun + aš? 參照. mimbašus 原文
632頁註18.

- ¹ xai / iduwan at šiṣoxaisus ikulon / auppa
見出される 返す それ故
- ² Šaiši piṣṣad ši:ṣa paad maxabin sja xabis /
交代する 女 取る 米 匿す に 女陰
- ³ mouppa niṣ iduwan auppa maḍ'av iku-
其様に 不 見出される 恥しい
- ⁴ lon kap-kap xabis /
探す 女陰を

返した。それ故に交代して女が米を
取り女陰に匿した。イコシヨンは女
陰を探るのが耻しいから見出されな
かった。

2. minšumma tombe maišinaṣa-
出づ 蚤 の中より

dah xabis
女陰

- ⁸ aiḍa daū uvaḍ maṣṣiṣṣad manawad
有る 子に 女の 美しい
- ⁹ iḍawun bananad pundaan xattaṣ / amos
取られる 男 通される 陽物は 然るに
- ¹⁰ ukka xabis / ka'aun e ukka xabis / auppa
無 女陰 不要 故 無 女陰 そこで
- ¹¹ tuppa tšina to mavivia to ka'aun es ane
云ふ 母 と 何故に 不要 不拘
- ¹² manawad / tuppa bananad to mimmad
美しい 云ふ 男 何にする
- ¹³ ukka xabis / auppa kilim us tšina xai /
無 女陰 されば 探す 母は
- ¹⁴ ukka xabis / amus kulutt us tšina xai /
無 女陰 されば 切る 母は
- ¹⁵ amos maišinaṣada / minšumma tombe /
其時 内より 出づ 蚤
- ¹⁶ amos maṣaṣa mas bananad / aiḍin xabis /
そこで 叫ぶ に 男 有るやうに 女陰

2. 女陰より蚤出づる

話

美しい娘が結婚した。陽物を入れ
たが、女陰がない。女陰が無いから(此
の娘は)嫌ひだ。そこで母は「美しいの
に何故に嫌ひですか」と云つた。「女陰
が無ければどんな役に立ちませうか」
と男は云つた。そこで母は探すと、女
陰がない。そこで母は切ると、其時内
から蚤が出た。そこで男に「女陰が出
来ましたよ」と叫んだ。

1. šiṣoxaisus šiṣoxaišun + aš?

9. iḍawun <šida 取る。

pundaan pun-daan (道)。

11. es 本口授者は is の結辭を問ふ。

16. aiḍin aiḍa の「過去」。

IX

ツ オ ウ 語

語 法 概 説

及 び 本 文

ツオウ語語法概説

I. 分 布

ツオウ[tsoü]語は狭義のツオウ[tsoü]族、即ち臺中州新高郡並に臺南州嘉義郡に住するツオウ族(1,661人)の言語にして、ルフト[duftu]方言と阿里山方言に分つ。

ルフト方言: 楠仔脚蕃[mamahabana]社。

阿里山方言: 達邦[^タtapapu]社, 竹脚[^ツptʂoptʂoknu]社, 頂笨子[^ニnijautʂina]社, 樟脚[^ツtʂoʔtʂoʔsu]社, 繁頭[^フfitfa]社, 殺送[^サsasapo]社, 落鳳[^{ジョ}joʔfuge]社, 勃子[^タtakpjanu]社,²⁾ 獅頭[^ツtsatsaja]社, 知母勝[^トtufuja]社, 角端[^タtaptowanu]社, 石捕有[^ツtsipuu]社, 流勝[^ダdaʔaʔuja]社, 無荖烟[^メmejoina]社, イムツ[imutsü]社, ララチ[daʔatʂi 或は puuu]社。

兩方言の音韻關係は、

ルフト方言	阿里山方言	
	タバン	トフヤ
ʃ	j	j
ʒ	j ³⁾	z/z

調査はルフト方言楠仔脚萬社、阿里山方言の達邦社、知母勝社に於てなせり。

- 註 1. 和社(hosa)は近年楠仔脚萬社に移住併合せられたり。
 2. 勃子社には極少數のアヌン族住す。
 3. 「火」ルフト puzu, タバン puzu, トフヤ puzu の例外あり。

II. 音 韻

1. 母音, [i], [e], [a], [o], [u], [ɤ], [ə].

- [i], [e] [i]は基本母音第一號より極く少し廣く、[e]は基本母音第二號に略等し。他の蕃語と異なり兩者の區別明なり。
- [o], [u] 各々略基本母音第七號第八號に等し。他の蕃語と異なり兩者は明かに區別せらる。達邦社は稍廣き[o]を用ふ。
- [ɤ] [u]なる中間母音ありて[u]と異なる一の素音を形成す。兩音の發音區別は阿里山方言に於て概して明瞭なれどもルフト方言に於て不明瞭なることあり。又終音に於て兩音の別を聽取り難し(終音は弱音化する傾向ある故に)。

4. [ɸ], [ə] 素音[e]の變音 § 16 参照。
2. 子音, 兩唇音[p], [b], [m], 唇齒音[f], [v] 齒音[t], [d], [tʃ], [s], [z], [ʒ], [ts], [tsʰ]. 硬口蓋音[j] 軟口蓋音[k], [ŋ] 聲門音[ʔ], [h].
1. [b], [d] ブスン語と同じく, b, d の調音部位の閉鎖と共に聲門を閉ち, 其の破裂と共に聲門を開く, [d] は兩方言共に [ʔ] に響くことあり。破裂に際し側音的に氣流の流出する爲めか, 阿里山方言の [d] は輕き反轉音的傾向を有するものの如し(トフヤ人の發音に依る)。
2. [f], [v] 上齒と後唇部との唇齒音, 兩唇音 [ɸ], [β] に發することあり。
3. [j] ルフト方言に現る特殊音, 舌尖は齒齦に對し摩擦音 [ɹ] の調音の位置を執り, 發聲と同時に舌は後退し [j] の調音の位置に來り生ずる摩擦音, 二重の調音を有するために話者により [ɹ] の音色の強き者と [j] の音色の強き者とあり, 又舌尖と齒齦接し側音 [j] の發音をなす者もあり。
4. [s], [ts], [tsʰ] [s], [ts] は後部齒齦調音にして輕き [s] の響を有す, [ts] は [i] の前に於て [ts] に口蓋音化する。
5. [z], [ʒ] 兩音は同一素音, [z] ~ [ʒ], [z] の發音をなす者あり(トフヤ), [z] 音は兩方言共其摩擦度弱く, [i] ノ母音的音色に變することあり。
6. [j] 摩擦少なし, 往々母音的になることあり, かゝる發音は [j] を以て記録せり。
7. [h] 軟口蓋摩擦音 [x] に變することあり, [h] は母音間に於て消滅することあり tsuhumu > tsu:nu.
8. [ʔ] 聲門破裂音の多きはツオウ語の一特色。
3. 三重母音 [eio], 急速なる發音に於て [eio] は [əio] に變することあり。(阿里山方言) [eio] は [ɸio] に變することあり(ルフト方言), かゝる [e] 音の中間母音化は後母音 [o] 音の同化に依る。
4. 母音の脱落, 急速なる發音に於て [u], [u] は脱落することあり, suputu > sputu 同質の母音間に [ʔ] 介在する時は前方の母音屢々消失す。ukaʔa > ukʔa.
5. 有氣音, ツオウ語の無聲破裂音は有氣音的にして, 特に揚音のある音節に於て強き有氣を有す。pʰigi, tsʰana (原文音録には記號を附せず)。
6. 終音, ツオウ語は母音を以て終る開音節の形式を有す。終母音の現象を若干記載すれば, 1) 無聲音化することあり。2) [ʔ] の後の涉り (off-glide) 生ずることあり。tjuʰ (タバン社 vojju)。3) [ʔ] の後の涉り生ずることあり。hisiʔ トフ

ヤ社山中)。

7. 揚音, 最後より第二の音節に揚音來るを原則とす。(tsuhumu は一見最後より第三の音節に揚音あり。是は [h] 音弱の音節を形成し難き故ならん。[h] に關し § 14, 參照) ツオウ語揚音は「強き」の揚音 (stress accent) にして, 特に タバン 社の揚音は其氣息強勢なり。

III. 品 詞

1. 冠詞, ツオウ語は複雑にして而も整然たる冠詞の組織を有す。此冠詞と「時相接頭辭」はツオウ語語法の重大なる特性なれば, 概説に於て主として此二項に就き記述す。ツオウ冠詞は他の IN. 語に於ける如く「事物」と「人物」に依る區別無し, 先づ 1) 話者より見ゆる處に在りや否や, 即ち「眼界内」と「眼界外」に分ち 2) 「眼界内」に在る場合に, 話者の近くか, 對話者の近くか或は兩者より離れし處か, 「こゝ」「そこ」「あそこ」の三種の「位置」の區別, 3) 「眼界外」に在る場合は, 話者の知るものなるや否や, 又, 聽手の知るものなるや否や, 即ち a) 話者の「既知」 b) 話者の「未知」 c) 話者の「既知」聽手の「未知」 d) 話者の「未知」聽手の「既知」の四種の區別に依り冠詞を分ち, 加之「格」の概念ありて, 各々は主格と從格を有す。此等に表示せば,

(a) 眼界内		(b) 眼界外	
主格	主格以外の格	主格	主格以外の格
(1) この e	ta	(1) 既知 o	to
(2) その si	ta	(2) 未知 na	no
(3) あの ta	ta	話者既知 } jao	?
		相手未知 }	
		話者未知 } ejo	?
		相手既知 }	

註 1) 「從格」は主格以外の格, 即ち「領格」「與格」「對格」「造格」「處格」等を意味す。

2) 此等の「冠詞」は指示代名詞より發達せしものならん。

3) jao, ejo は阿里山方言に於ては「古めかしき詞」となり, 老人層のみに留保せらる。

2. 從格の用法, 外延的位置に立つものにして, 主なる用法を示せば, (例は ナマカバン)。

1. 所有, na fəmo: ta tsoū 其(或は此)人の家, (人は話者の見ゆる處に居り, 家は話者の見えざる處に在り而も此處に見し經驗無し。假りに家は眼界内の遠き處に在り, 人は話者の知る者なれども話す時に不在なれば, ta fəmo: to

tsou とせざる可からず。

e fuguu no hapu 敵の首, (首は眼前に在り, 敵は見えざる遠方に居るものにして語者は此迄見しことなし)。

2. 屬性, a. ts'ofoha ta tsopeoha 星の河(銀河) b. ts'ofoha to tsopeoha 同上

(a は夜間銀河を見つゝ云ふ。 b は晝間星の見えざる時に云ふ)。

femi no pu:tu 臺灣酒 femo: no pojave 刀の家(鞘)

(位置の確定せる概念の無き場合は no を用ふ)。

3. 對格, mafo no pu:tu 犬を取る fetoku to o'oko 子供達を殴る

(何處より取り來るか不明なれば no, 此處に居らざれども, 知れる子供なれば to)。

4. 造格, 過去分詞の動作主を示す。fo'fotsa ta av'u e fukoi 蛇は犬により咬まるもの, 蛇は犬に咬まる(犬も蛇も眼界内に在り)。

fo'fotsa to av'u e fukoi 意味同じ(但し犬は知れる犬なれども既に逃げ去り姿は見えぬ, 蛇は目前に在り)。

5. 處格, ufu ta patupkuonu 新高山に到着す。(ufu は, “行く” “來る”共に用ふ, ufu ta (= ufta) は“來る” “到着す,”之に反し“行く”は ufu ne (= ufne), ne は眼界外を示す副詞 ne'e と關係す, 見えざる遠方へ行く)。

fon ta mamahabana 此ナマカバンに在す。

3. 時相接頭辭, ツ オ ウ 語動詞は人稱と時を明示する一種の接頭辭を有す。mi'po bonnu 我食す, miko bonnu 汝食す, mo'po bonnu 我食せり, mohusü bonnu 汝食せり。該接頭辭を分解すれば, 二の要素より成立す。即ち時の要素と人稱代名詞なり。例へば, mi'po は mi なる「現在」を示す要素と 'po 「第一人稱單數」の代名詞より成立す。此等の接頭辭を表示す。

時 相 接 頭 辭

	一 人 稱			二 人 稱		三 人 稱	汎 稱
	單 數	複 數		單 數	複 數	單 數	
		含對話者	除對話者				
現在能動 mi-	mi'po (I, II, III)	mimüza (I)	mito (I, II, III)	miko (I, II, III)	mimu (I, II, III)	mita (I, II, III)	mitsü (I, II, III)
		mimza (II)		misü (III)		mihini (I, II, III)	
		mimija (III)					
現在受動 i-	isü'pu (I)	imüza (I)	ito (II, III)	iko (I, II, III)	imu (II, III)	ita (I, II, III)	isi (I, II, III)
	is'pu (II, III) 使用稀なり	imza (II)		ihü (I, II, III)		ihü (I, II, III)	ihini (I, II, III)
	o'pu を以て代用す	imija (III)					

	一 人 稱			二 人 稱		三 人 稱	汎 稱
	單 數	複 數		單 數	複 數	單 數	
		含對話者	除對話者				
過去能動 mo-	mo'po (I, II, III)	momüza (I)		mosü (I, II, III)	momu (I, II, III)	mohini (I, II, III)	motsü (I)
		momza (II)		mosüna (ララウヤ)			
		momija (III)					
過去受動 o-	mosü'pu (I, II, III) 但し II, III 使用稀なり		mohuto (I, II, III)	mohusü (I, II, III)	mohumu (I, II, III)	mohuta (I, II, III)	mohu'(tsü) (I, II, III)
				mohusüna (ララウヤ)			
		omüza (I)		os'ko (II, III)	omu (II, III)	oita (I?)	otsü (I)
第一未來 te-	o'pu (I, II, III)	omza (II)		osüna (ララウヤ)		osi (II, III)	ohi (I, II, III)
		omija (III)				ohini (I, II, III)	
	osü'pu (I, II, III) 但し II, III 使用稀なり		ohuto (I, II, III)	ohusü (I, II, III)	ohumu (I, II, III)	ohuta (I, II, III)	ohutsü (I, II, III)
第二未來 tena-				ohusüna (ララウヤ)		ohisi (I, II, III)	
	te'po (I, II, III)	temüza (I)	teto (I, II, III)	teko (I, II, III)	temu (I, II, III)	teta (I, II, III)	tetsü (I, II, III)
		temza (II)				tesü (I, II, III)	
第二未來 tena-		temija (III)				tehi	tehini (I, II, III)
	tena'po (I, II, III)	tenamüza (I)	tenato (I, II, III)	tenako (I, II, III)	tenamu (I, II, III)	tenata (I, II, III)	tenu'(tsü) (I, II, III)
		tenamza (II)				tenasi (I, II, III)	
	tenamija (III)				tenahi (I, II, III)	tenahini (I, II, III)	

I. ナマカバン社 II. トフヤ社 III. タバン社

4. -hu- 「過去」の接頭辭に -hu- / -xu- 入りしものと, 然らざるものとあり。其意義用法同じ。-hu- のある形は本形にして, 無きは畧形。h の本質上 (§14 参照)。

-hu- 脱落せしものなり。

5. 人稱語尾

	一 人 稱		二 人 稱		三 人 稱	
	單	複	單	複	單	複
'po	-müza	-to	-sü		-ta	-ta
-sü'pu			-süna (ララウヤ)			-hi -hini

一人稱單數の -sü'pu 形 (is'pu, mos'pu, os'pu) はトフヤ, タバンに於て40歳以上の婦人層により使用せらる。ナマカバンは一般に使用す。而してトフヤ, タバンに於て現在受動の is'pu の代りに過去受動 os'pu 使用せらる。一人稱複數に「含對話者」と「除對話者」の兩形の存在は他の IN. 語に同じ。二人稱單數に -ko 形と si, 形の有ることに注意すべし。三人稱は「指示代名詞」「處の副詞」と關係す。si, ta は單複共に用ひられ, hi, hini は複數のみに用ひらる。hi は「眼界外」の見えざるもの, si, ta, hini は「眼界内」而して si, hini は近距離に在るものに指し, ta は遠距離に

在るものに指す。物語等に於て -si 用ひられること多し。人物事物を眼前に彷彿たらしむ。

6. 汎稱、人稱を特に示す必要無き場合或は示し難き場合に人稱語尾を含まざる汎稱形を用ふ、mitsu mütsüfü 降雨す。又、ata, asi, ita, isi, io の指示代名詞と共に三人稱に使用す。

ata mitsu = mita, asi tetsu = tesi

7. 能動と受動、[現在]及び[過去]は各々[能動][受動]の二形を有す。[受動]は[分詞]と共に用ふ。例示せば、

{mĩ'õ bonnũ	我食す	{miko mimo	我飲む
{isũ'õ anna	我に食はる	{iko ima	我に飲まる
{mohutsũ baiuo	見たり	{mosũ optsoi	汝殺せり
{ohutsũ aiti	見られたり	{os'ko optsoza	汝により殺されたり

8. [第一未來]と[第二未來]、te-並に tena-は[能動][受動]共に用ふ。例、te'õ bonnũ 我食せん、te'õ anna 我により食せられん。而して te-は[今より始まる動作]を示し、tena-は[未來の或る時期に於て始まる動作]を示す。te'õ bonnũ 今より我食せん。tena'õ bonnũ 後に(例へば入浴後)我食せん。

tena は >ta と約せらるることあり。

9. tsũ / tsu, 時相接頭辭の總てに tsũ / tsu を後添し得、mĩ'õ tsũ, mo'õ tsũ, te'õ tsũ 等。但し mitsũ, motsũ, otsũ, ohutsũ (?), tetsũ は常に tsũ を附す。tsũ は[完了]を示す。

{mo'õ bonnũ	我食せり
{mo'õtsũ bonnũ	我食し終れり
{tena asonũ ufu tan'e	恐らく歸來せん(將來或る時に)
{tenatsũ ufu tan'e	間も無く歸來せん(明瞭なる將來の時に於て)

[現在][過去]の tsũ は全く[現在完了][過去完了]を示せども、[未來]に於ては[制限的]にして更に近き明瞭なる[未來]を示す。te'õ tsũ mamšino 速刻我入浴すべし。

10. mijo, moso, da, [現在汎稱]は mitsũ にして[完了]にあらざる動作を示すために mijo を用ふ。

{mijo mütsüfü	雨降る(降れる状態)
{mitsu mütsüfü	雨降り出せり(降り出し来る事を示す)

moso は mohu に同じ、moso tsũ の形もあり、da は[繼續][不完成態]を示す。mĩ'õ

da pejajofũ 我歩き續く、da ʔu etamaku 我は喫煙常習者なり。

11. 分詞、[受動]の時相接頭辭と共に用ひらる[分詞]は語尾變化を以て形成せらる。

1. a 變化

{mimo	飲む	{puno	射る	{optsoĩ	殺す
{ima		{puna		{optsoza	
{tšihĩ	捨つ	{majo	取る	{ivaho	再びす
{tšihã		{ja (阿) eia (ル)		{ivaha	
{ptõgusi	泣かしむ	{ptãdũĩ	聞かしむ	{sumũhunu	雇ふ
{ptõgusa		{ptãdũã		{sũkuna	

2. i 變化

{tsotsuvo	笑ふ	{jusuhũũ	座る
{tsotsuvi		{jusuhũpi	
{juhuũũ	泳ぐ	{m-tokũ	投ぐ
{juhuũzi		{tokui	

3. ni 變化

{mofi	與ふ	{p(o)õnnũ	
{faeni		{pa'anni	{pa'teni 見せしめらる

4. 不規則變化

{haito	見る	{bonnũ	食す
{aiti		{anna	

5. 準分詞 語尾變化をせず、接頭辭に依るもの。

{mojojãĩ	作る
{teaĩ (阿) (tajai) (ル)	

12. 代名詞

1. 人稱代名詞 主格としては時相接頭辭の形として現る。領格、一人稱單數 ʔu / ʔo, 一人稱複數除對話者 müza / mza 含對話者 to, 二人稱單數 sũ, 二人稱複數 mu, 三人稱 ta, si, hi, hini.

2. 指示代名詞 eni この, sitšo その, tonoi あの, na 眼界外。

13. 副詞, tan'e こゝ, sitša そこ, ta'e あそこ ne'e 眼界外。

14. 結辭 tšĩ, a) 修飾語と被修飾語を結合す, pepe tšĩ fujũũ 高さ山, umũnũ tšĩ

mamesipi 美女, 修飾語は先行す。b)句と句の接綴詞的に使用せらるることあり。o'a te'o ufu ne toton'u tsi mi'o so tuma'tsoŋu 我病氣なる故に我島に行かず。

1. ルフト方言 (duftu)

1. tütünüma 洪水

- ¹ ina tuŋofoza muso mifofoju / mitsü
(現代)の 蟹は 既に 横向となる (現在)なつて
- ² amakuno tüppü e pühpüñü / aja hotši
其故に 海に (山)の 地は (3)若し-させば
- ³ na uk'a ina foŋo mofosi / texitsü paŋtsü.
無い (現代)蟹が 大 (未来)それだらう 充滿
- ⁴ pütsü ta pühpüñu na tshumu / mohutsu
する (冠従) 地に (冠主) 水は (過去)した
- ⁵ aho:ŋu ahoi mitsipaŋtsüñü / mohutsü
將に(?) 開始 充滿 (過去)した
- ⁶ amuzo uhu ta patuŋkuwonu e foŋo
其の間に 來 へ 新高山 (冠主)蟹が
- ⁷ mofosi / ma temüza sükuna ho patifi.
大 おや (おや) 履ふものために 抓ら
- ⁸ kitsineni txisitsü amuzo se'tsü'hi e
しめる (未来)其 今少しにて 到着する處 (冠主)
- ⁹ patuŋkuwonu / txisitsü afua püna /
新高山は (未来)其物 若し 充つ
- ¹⁰ texitsü atsuhü mutsoi na fatatisikova /
(未来)總て 死ぬ (冠主) 生物は
- ¹¹ mijo putujunu ta ihunu peppe / tsi o'a
避難する(?) へ 最も 高さ處 故に (冠主)
- ¹² isi so se'tsühi / oephü na tuŋofoza tsi
(現在)まで 到着する處 流石に (冠主)蟹は から
- ¹³ mijo so mafazo peppe / oxusi nana auto-
である 同じ 高 (備忘)さうだ やつて
- ¹⁴ homa tifikitsa putsuku no tuŋofoza ho
みること 抓るもの 脚は (冠従)蟹の 面して
- ¹⁵ aiti / ma mijo akeji auto'o / mitsü 'bi'biŋi
見るもの おや 少し 動く (現在) 探す
- ¹⁶ no psoef'efu tsi tejisisi / tenasi akofova
(冠従) 洞穴な (結)の 石欄 (未来)彼の 計劃
- ¹⁷ no simo'usini / ho tenasitsü a'umta tifi-
(冠従) 走り入る處 時に (未来)彼の 事實 挟む
- ¹⁸ kitsa / isitsü tifikitsa tinoza mitsü tamai-
もの (現在) (備忘) 蟹の 抓るもの 強く (現在) 廻轉す
- ¹⁹ zufu mitsümi'ufu e tshumu / ina
(現在)零れる (冠主) 水は 其の

1. 洪 水

怪蟹が横向になつたため、此土地が海になつた。もし巨蟹が居なければ、地は水ですつかり被はれるだらう。[水が]充滿し始めた。充滿しないうちに巨蟹が新高山に來た。我々は[彼を]雇つて其を抓らせよう。[水は]も少しで新高山[頂]につかうとしてゐる。若し上まで來れば、生物はみんな死ぬでせう。[水は最高處まで]やつて來ないから最も高い處へ避難する。怪蟹は[新高山と]同じ高さなんですよ!。[巨蟹は怪蟹の脚を試みに抓つて見ると、オヤ少し動いてゐる!。[巨蟹は]洞穴になつた岩棚を探す。今度本當に抓る時に、逃げ込む場所を考へよう。強く抓られると[怪蟹は]體を廻す。そして水が[彼の體の中に]流れ込む。彼の背は山そつくりで、檜林や素的に廣大な丘陵もある。此の世界の水が一緒

- ¹ fu²uhu mi²aadu fu²ugu / ho fafaha²oi
音は 似てある 山 面して 樹林
- ² na²'no m²oi no hutsu:fu / teha²'o da²iso
葦た 大 (冠従) 丘 (2) する位だから
- ³ mohutu²funi no tshumu ta pūhpū² /
集合 (冠従) 水 於 地
- ⁴ maintsi o²'a² dahtū pa²utsū²tsū / defa-
何故に (2) 決して…せず 充滿 から
- ⁵ šiso imma ko²'ko²'ada no pa²utsū²tsū /
飲まれる それ故に常に… (冠従) 充滿
- ⁶ ho: moso da noana²'o uk²'a tsi pu²zu /
(3) = 昔々 昔々 ない (接) 火の
- ⁷ oxu tsū sukuna e k²oi²isi ho mafo no
(過去受動) 雇はれる者 (冠主) (鳥の名)は ために 取る (冠従)
- ⁸ pu²zu / mox²tsū ma:fo miso o²'a mafa²xe /
火を (過去) 取る (現在完了) (否定) 早い
- ⁹ o²'axusi pahutsuha tan²'e na pu²zu / mitsū
(冠主) 運ばれるもの 此處まで (冠主) 火は (現在)
- ¹⁰ maine² e k²oi²isi / ho jajintsa o²'a isū²'u
代りに来る (冠主) (鳥の名)は 面して 云はれる事であり (現在完了)
- ¹¹ pahutsuha tsi / mitsū hoepū:ñū e sumusu
運ばれるもの 故に (現在) 燃え終る (冠主) 嘴は
- ¹² motso²o isitsū moza t²o²o²asi na pu²zu /
指し 動詞 前の こと 置くもの (冠主) 火は
- ¹³ isi aūsika sukuna o uhu² / tsi moma-
(現在) 代りのもの 雇はれるもの (冠主) (鳥の名)は (結) 速い
- ¹⁴ fa²xe / tesi so hafa meimatso²o isitsū
(未来) すでに 飛ぶ 飛ぶ (現在完了)
- ¹⁵ pahutsuha e pu²zu / mitsū eno ēa pu²zu /
運ばれるもの (冠主) 火は (現在) 漸く 存在 火は
- ¹⁶ e uhu² e mo maxutsuho / te²da puato-
(冠主) (ウツグは 冠主) もの 運ぶ (現在) 中央で
- ¹⁷ taitso no papaji / tsi mo²so max(u)tsuho
食はれる (冠従) 稲田の (結) それに すでに 運ぶ
- ¹⁸ ta pu²zu / av²'a io k²oi²isi / a: tō da
(冠従) 火を 除く (指代) 其 (鳥の名) (否定) (未来) ずっと
- ¹⁹ puato taitso to papaji / a: miso max(u)-
中央で 食はれる (冠従) 稲田の 運ぶ
- ²⁰ tsuho to pu²zu / te: da pa²bonnu atiha
(冠従) 火を (未来) ずっと 食はせる のみ
- ²¹ puao²sasikiti a muso so mafa²xe /
島の縁で 食はせる (否定) すでに 速し
- ²² ne moso da fu²wet²o²fonu ta patu²-
昔々 集合す 於 新高
- ²³ kuwonu nemoso tūppū / mohutsū afe²pū²
山 既でに 洪水 (過去) 終了
- ²⁴ tūppū / mox²tsū atsuhu fu²ovufuji / ne
洪水は (過去) 昔 元に戻る すでに

になつて[彼の中に流入する]位だから
何故に洪水にならないか。[彼に]飲ま
れるからいつも氾濫しない。昔昔は
火がなかつたさうだ。コヨイシ鳥を
雇つて火を取らず事にした。取りに
行つたが[飛び方が]遅く、火を此處まで
[新高山]運べなかつた。こゝに[新高山
に]歸つて来て、云ふやう「私は持つて来
ません。嘴が燃えてしまつて痛くて
仕方なく思切つて火を放したから」代
りにウツグ鳥を雇つた。その鳥は速
く、彼は飛んで運ぶだらう、火を運んで
来た。火がやうやうあるやうになつ
た。ウツグが運んで来た。稲田の中
央へこれからいつも入れてやること
にしよう。火を運んで来たから、コヨ
イシ鳥は除け者、これから稲田の中央
で食べさせてもらへない。火を運ば
なかつたから、食べさせるが速くなか
つたから島の縁だけで食べさる。

昔々洪水の時に(人々は)新高山に集
つてゐた。洪水が終り、皆歸つた。歸
る時は、マーマと西洋人と郡蕃と曹族

- ¹ mitsū vufuji / fupepevai ma²ja ho a²umu
(現在) 歸る 分れる (部族の名稱)及び 紅毛人
- ² ho su²bukunu ho tsoū / muso nana
及び 郡蕃 及び 曹族 既でに ださうだ
- ³ aonu²'ū / a:pa²e no husufu no a:u²'dū /
別れる 分ける (冠従) 弓 (冠従) 竹の
- ⁴ nuta ma²ja e p²o²o²usi / nuta a²umu e
のもの (冠主) 其の根元 のもの 紅毛人 (冠主)
- ⁵ patinso:hasi / nuta sū²bukune e taitso ta
その先端 のもの 郡蕃 (冠主) 中央 (冠主)
- ⁶ patinso:hasi / nuta tsoū e taitso ta
その先端よりの のもの 曹族 (冠主) 中央 (冠主)
- ⁷ p²o²o²usi / mox²tsū uhu ne pesa²usi e
その根元よりの (過去) 行くへ 平地 (冠主)
- ⁸ ma²ja / ho e a²umu / min²'a no²nonuhū²u
及び (冠主) 紅毛人 離れし時 遺留す
- ⁹ e tsoū ho e sū²bukunu /
(冠主) 曹族 及び (冠主) 郡蕃は
- ¹⁰ mox²tsū fupepeahugū²ū ho: jajintsa /
(過去) 相談す 面して 云ふこと
- ¹¹ teto optsoji ta ŋ(u)hoū teto aiti / mi²fo
(未来) 殺す (冠従) 猿を (未来) 見もの である
- ¹² akeji ū:mūnū ho isi aiti ie fu²uu ta
少し 良 時 見るもの 見る この 顔は (冠主)
- ¹³ ŋ(u)hoū / ho tsi na akeji me²o²isi / ntetsū
猿の (3) 少く 大なる だらう
- ¹⁴ a²umtū ūmūnū / ho: teto aiti / teto
本當に 良 面して (未来) 見るもの (未来)
- ¹⁵ auisūfūtū meesi ho mafasūvi / na²'nu
試みる 祭 面して 踊 大いに
- ¹⁶ mofo²u / ho tsi na optsoji ho fatatisi-
美聲 (3) 殺す (冠従) 人間を
- ¹⁷ kova / tetsū so asuhutsū mofo²u / ho mo
(未来) すでに 更に 美聲 時 爲す
- ¹⁸ mafasūvi / teto opsoji ta o²'oko / tetsū
踊 (未来) 殺す (冠従) 子供達を (未来)
- ¹⁹ ko²'oko nanahapa e sū²bukunu /
それ以後 互に反目する (冠主) 郡蕃は

に分裂した。離別した時に、弓を分け
た。マーマは根元を、西洋人は先端を、
郡蕃は第二番目を、曹族は第三番目を
[取つた]。マーマは平地に行つた。西
洋人も[平地に行つた]。曹族と郡蕃は
引つきて留る事にした。
相談して云ふには、「吾々は猿を殺して
見ようぢやないか、猿の此の顔を見る
と、少し面白いね、「も少し大きいと本
當に面白いだらう。[大きいのを]見よ
うぢやないか。祭と踊をやつてみよ
うぢやないか。素的に聲が良くなる
だらうね。もし人間を殺せば、實に美
聲になるだらう踊つてゐる時に云つ
た。「我々は子供を殺さうぢやないか」
それ以後吾々は郡蕃と仲が悪くなつ
た。

2. mamahabana

2. 楠仔脚萬社

- ²⁰ ne: mohutsū nuvofu ta patu²kuwōnu /
既に (過去) 出る (冠従) 新高山より
- ²¹ fupepevai e tapapu ho e tufufa ho e
分裂す (冠主) 達邦社 及び (冠) 知母勝社 及び (冠)

新高山から出て、達邦社、知母勝社、
D社に分れた。グイヨへ行きグイヨ

- 1 fū?du / moso ufu ta vufijo ho fon ta
ル社 既に 行く へ (地名) 及び 居る に
- 2 vufijo / moso fe?ohū na mo foso ho
(地名) 既に 狩に行く (冠主)共 に 共に
- 3 jaintsa / te?o mo?unu ta mija?unu ne?e /
云ふこと (未来)私は 行く へ 向ふ 彼處
- 4 mitsū totafa / ho tsi tsū maine?e / ene-
(現在) 待つ かどうか 歸る (疑問)
- 5 mo?ahū maine?e omūzatsū fe?imma ta
どうして待つ 歸る (過去)我々の 探すもの 於
- 6 fufupu / o?a müza e?düa / imūzatsū ma-
山 (否定) 我々の 見出すもの (現在完了)我々 同
- 7 fa?o mo?unu tan?e / fe?imma tan?e / o?a
じ 来る 此處に 探すもの 此處に なし
- 8 isi tshivi na isi fofoni / temūza tuwotsosi
(現在) 獲る (冠) (冠) 獲る (未来)我々 問はれる
- 9 e mumutsu / o?a xe e?üsuhuta / hoxe:
(冠) (部族の名) (否定)彼等 告げられたる 而して我々
- 10 optsoiza / ixē pe?soveni / ohuke: no opt-
殺されたる (現在完了) 自状されざる 其の實は 殺さ
- 11 soiza / mimūzatsū mōfooxu ta fatu ta
れたる (現在完了)我々 石を倒した (冠) 石 (冠)
- 12 vaaxū / ho jaintsa / temūza hu:pa / ixē
小川 而して 云はれたる (未来) 土地を買ふ (現在完了)
- 13 kutzoa / ho ae?oha o pōfoohōpa neni to
嫌忌さる 而して 押し倒す (冠) 標 其爲に (冠)
- 14 fatu / imūzatsū ibaha aiti / imūza tafai /
石 (現在完了)我々 又 見る (現在完了) 作らる
- 15 inaxe ibaha pōfo?oha / momūzatsū
彼等 再び 押し倒されたる (過去)我々
- 16 sü?ūno / omūzatsū ta?dua / i?ohe optsoiza
怒る (過去)我々 思出さる 彼等 殺されたる
- 17 tšimo foso / momūza fetoku to o?oko / ho
其の 二人 (過去)我々 子供達 (冠) 子供達 (冠)
- 18 pōfoohūpu neni / omūzatsū e?dua e tsū-
標 のために (過去)我々 見出されたる (冠)
- 19 fehu to mo foso / uk?a tsi fupu / maine?e
骨 (冠) 二人 無し 頭 歸る
- 20 na?a ta vufijo / mofofai fanosūfū / temū-
暫く (冠) (地名) 作る 矢 (未来)
- 21 zatsū sufumi o mumutsu / omūza no
我々 戦はる (冠) (部族の名) (過去)我々 (冠)
- 22 potvo?oxa e mo ?boto?onu he / kakutija
殺されたる (冠) その 多数の人 彼等 少し
- 23 e mo p?ka:ko / hafa maine?e ne vufijo
(冠) その 逃がした 持たれた 歸る に (地名)

に住んだ。二人の者が狩獵に出かけ
て云ふやう。「私はあの山の向う側に
行きます。歸るか歸るか、待つてゐた
が、いつまでたつても歸つて来ない。
私達(社の人)は山を探した。私達は發
見しない。私達も同じく此處(二人が
獵に行つた場所)に来た。探したが、彼
等の居た所が知れない。ムムツに問
ふことにしよう。彼等は返事をしな
い。彼等に殺されたのだが彼等は白
状しない、その實は殺されたのだ。そ
して云つた。「此土地を下さい」彼等は
断はられた。そしてその標石が押し
倒された。私達は(それを)も一度見て、
又作つた。
彼等に再び押し倒された。私達は
怒つた。私達は思出した。[ムムツが]
その二人を殺したのだと、私達は子供
達を棒で叩き殺し、グイヨのための標
にした。私達は二人の骨を見附けた
が、頭がない。暫くグイヨに歸り、矢を
作り、私達はムムツと戦ふ事にした。
私達の數より多くのムムツが殺され
た。逃げたものも少しはあつた。ム

- 1 fupu ta mumutsu tōfo?asi e mutsumo /
頭 (冠) (部族の名) 頭 (冠) 其余のもの
- 2 temūza akofova no fuovufija / omūza
未来(我々) 心意 元へ歸れり 我々
- 3 husuofo?dua tsi mo ümünü tsi pūhpū-
探されたる(頭) 歸る その 上等の 地
- 4 hūpū / imūza utšija zo?u / temūzatsū no
(現在完了) 1度し 耕作地 (未来)我々 (冠)
- 5 epotsa e maimespiji ho: e i?ihosa / osini
作つて来た (冠) 女達 及び (冠) 家財
- 6 ta mata?bafana ho mofo?aimo / temūza
(冠) (地名) 耕作地 (冠) 及び 家を作る (未来)我々
- 7 foni muimu?i to fu?ufe moji toton?u /
居る處 種う (冠) 甘蔗 作る 粟島
- 8 imūzatsū atsuha zo?u mata?bafana ho
(現在完了)我々 居-したる 島 (地名) 而して
- 9 tutuhusana ho jaxaimutana ho ti?umapa-
(地名) 耕作地 (冠) 而して (地名) その下流 而して (地名)
- 10 na ho hanuvapana / temūza no sühütsü
而して (地名) (未来)我々 (冠) 前進する
- 11 tamaaxana / mofo?aimo / temūza no go?zi
(石の名稱) 家を作る (未来)我々 耕作する
- 12 e tamaaxana / ho ufu ne fufuv?o /
(冠) (石の名稱) 而して 行く に (地名)
- 13 omūzatsū no fon ta fufuv?o / temūza
(過去)我々 住む (冠) (地名) (未来)我々
- 14 fahuzoo / temūzatsū nona?vi e aimana /
健康無病 (未来)我々 永き間 (冠) 家
- 15 momūza (imi ta fufuv?o / apaevae / ufu
出る (冠) (地名) 別る 行く
- 16 ne hosa / ufu ne mamahabana / tesitsü
に (和社) 行く に (ナマカバン社) (未来)その
- 17 opko na mamahabana tomuzeni ta tama-
地 (冠) (ナマカバン社) 理由に依り (冠) (石、
- 18 axana /
名稱

ムツの頭をグイヨに持つて歸つた。
運びきれなかつた頭は途中に置いて、
引返して持つて来る事にした。私達
はムムツの良い土地が欲しくて堪ま
らなかつた。島を作りたかつた。そ
こで甘蔗を植ゑ粟島を作つた。マタ
バナナ、トット、ホサナ、ヤハイムタナ
をすべて島にした。タマアハナに進
み、家を建てることにした。タマアハ
ナを去つて、フフボに行くことにした。
フフボに住んでゐた。病氣をしない
でせう。永く住んで居れさうだ。フ
フボを出て、別れて、和社に行くものと、
ナマカバンに行くものがあつた。タ
マアハナになぞらへてマカハナ(ナ
マカバン)といふ名をつける事にした。

3. ke?ee 闘

3. 闘 斗

- 21 mi?o (ü?sup?ohu / teto outso: tso: ?u
(現在)我は 女に通ふ (未来)我等は 囁く
- 22 teamūza ta?uji kuzo ho tsi ta?duji tesi
(地名) 戦はる (冠) (部族の名) 聞かれ 悪い 聞か-る (冠) 聞く (未来)我々の
- 23 amakuna tshivi to mofon ta femo: /
其故に(?) 知ること (冠) 居る人の (冠) 家に
- 24 fofohunasi (ü?sup?ohu / tebakotsü me-
毎晩 通ひ續ける (未来)我は 人の

[男曰く]遊びに来たよ。私達は聞か
れないやうに囁いて話さうね。もし
聞かれてそれで家に居る人に話が知
れると拙い、毎晩通つてゐる。「私が歸

- ⁶ etsü:nu uhu ne emo:u / temüza meesi
後(行く)行くへ 我家 (未来)我等は 祭
- ⁷ ho mafasüvi / mifo fo(n) nenu na emo:sü /
及び 踊 (現在)有り 何處に (冠主) 汝の家は
- ⁸ teko eüsühuta na emo:sü / tefoeno me-
未来(汝の)告げるもの (冠主) 汝の家は 後よ
- ⁹ tsunu ho tsi ko eüsühuta / o'a te'o tso-
り行く 若し 汝の 告げること (冠主) (未来) 知る
- ¹⁰ hivi hotsi? ote eüsühuta / te'o eüsühuta /
こと (冠主) (現在) 告げること (冠主) 告げること
- ¹¹ tekotsü uhu ne ts'ofoha / mofo(n) ne
(未来)汝は 行くに 河 有るに
- ¹² ts'ofoha o emo:u / mi'o uhu ne ts'ofoha
河 (冠主) 我家が (冠主) 行くに 河
- ¹³ ho fejimmä ne ts'ofoha / uk'a tsi aimana
而して 探す 於 河 なし (冠主) 家
- ¹⁴ ta ts'ofoha / io tso mu tüppü / oxusi
於 河 其のみ 淵 (過去) 渡す
- ¹⁵ fofoni ta ke'dee / isi tofohuñi ta k(e)'dee
居る處 (冠主) 淵の (冠主) 渡すもの (冠主) 淵の
- ¹⁶ e efofutoña / isü'otsü efa ho eu'ba'ba-
(冠主) 帯は (冠主) 渡すもの 而して 叩きつけ
- ¹⁷ kuneni tsoni o'a mo mimoho süp'ofohu /
るもの 一匹は (冠主) (過去) どうしても 離落
- ¹⁸ isü'o tovu'utša tsiha / mitsü fofohuna
(冠主) (冠主) 渡すもの 捨てるもの (現在) 晩となる
- ¹⁹ mita ibaho uso / o'u jaintša mofo(n) nenu
(現在) 再び 来る (過去) 私云ふこと 有り 何處に
- ²⁰ na emo:sü / ita jaintša tsofo e funuu'u /
(冠主) 汝の家は (冠主) 云ふこと 痛し (冠主) 我の頭は
- ²¹ isü'otsü tsohivi / ho ita jajaintša fofo'baku
(現在) 我の 判ること 而して (冠主) 云ふこと 叩く
- ²² neni nexie / isü'otsü tsohivi / ho ke'dee
此の 晝 (現在) 我の 知ること 而して 淵は
- ²³ isü'o sumofowa? / te'o p'kaku / mita so
(冠主) (冠主) 恐怖のもの (冠主) 渡す (冠主) すでに
- ²⁴ ke'dee / mitsü ufovufui /
淵は (現在) 戻り行く

つた後ですぐ私の家に来て下さい。

我達は祭と踊をやります。[女曰く]「あ

なたの家は何處にありますか。あな

たの家を教へて下さい。云つて下さ

れば直ぐにあなたの後を追つて行き

ませう。教へて下さらなければ私は

判りません。(男曰く)「では云ひませう。

河へ来て下さい私の家は河にありま

す。[女曰く]「私は河に行つて河を探し

たが、河に家が無く淵ばかりあつて、オ

タマジヤクシがゐりました。そのオタ

マジヤクシは帯にくつ附いてゐまし

た。取り上げてはたき落しましたが

一匹だけはどうしても離れません。

私は手で取離して捨てました。晩に

なるとその男が又来た。「あなたの家

は何處にありますか」と私は問ねた。

其の男が云ふやう「私の頭が痛い」[女

曰く]「判つた」その男が云ふやう「晝打

たれたから」[女曰く]「私は良く判りま

した。私はオタマジヤクシが怖い。

私は逃げませう。その人はオタマジ

ヤクシです。[その男は]戻つて行きま

した。

2. 阿 里 山 方 言

1. tufuja
トフヤ

- ⁴ moso ma'hizufu na tupejoza / tappua
既に 横へ向く (冠主) 鯉 返す止められ
たる
- ⁵ na etüppü / kokomoso na: no fo:zu: na
海、湖 其の故 深き (冠主)
- ⁶ tshumu ta fujupu / kokomoso p'ka:ko na
水 (冠主) 山 その故 遠き (冠主)
- ⁷ tsoü / p'ka:ko ufne patuikuonu / ufne
人 遠き 向へ行く 新高山 向へ行く
- ⁸ patuikuonu ho noteojunu / na: no 'bto-
新高山 而して 集合す 多
- ⁹ ponu tsou ho maja / na: no siio uk'a tsi
数 人 及び マーヤ人 飢ゆ 無
- ¹⁰ ana / 'bonü no fuo:u / uk'a tsi pazi 'bonü
食物 食す 鹿肉 無 米 食す
- ¹¹ no fuo:u / na: no nani na u'wa / noteuu-
(冠主) 鹿肉 多数 (冠主) 鹿 一緒に居
- ¹² junu ne patuikuonu / optsoza na mots-
るに 新高山 殺された (冠主) 一部
- ¹³ mosi ho oaznü / mohutsu upw:pecaï ne
而して 食物とす (過去) 分るに
- ¹⁴ patuikuonu / mimimio ho iema na teeio-
新高山 遊ぶ 而して 遊ばれた (冠主) 住場
- ¹⁵ ni / eio ne 'duftu / mohutsu aüpopohao
所 居るに (地名) 暫くして
- ¹⁶ uftan'e / uftan'e ho moiojai emo: / moso
此處に来る 此處に来る 而して 作る 家 既に
- ¹⁷ apepaski na tsoü / oxutsu eohoa ho
分散す (冠主) 人 (過去) 招かれたる 而して
- ¹⁸ teujunu moiojai emo: oxutsu atsüha ehoa
集る 作る 家 (過去) 總て 招かれた
- ¹⁹ oahpu /
同蕃社の人々

1. トフヤ社

鯉が横向きになつた。(河が)賑き止

められて海になつた。それで水は山

を没してしまつた。それで人々は逃

げた。新高山へ逃げた。新高山へ逃

げて集つた。ツオ族とマーヤが澤山

ゐた。食物が無く飢えた。鹿肉を食

つた。米が無くて鹿肉を食つた。多

くの鹿が新高山と一緒にゐた。その

一部を殺して食物とした。新高山に

て分れて、あちらこちらと歩き住場所

を探した。ルフトにゐた。しばらく

して此處に来た。此處に来て家を作

つた。分れた人々も、招かれて集まり

家を作つた。同蕃社の人々はすべて

招かれた。

2. av'e poepoeiusqüsü

2. 馬鹿のアブエ

- ²² oho 'da jaintsa av'e poepoeiuspüsü /
云ふこと (人名)

「馬鹿のアブエ」のお話、茶原を刈り、刈

採録期：昭和七年八月。

口授者：トフヤ(tufuja)社、akoïono pasuja (男、當時55歳)

口授者：トフヤ(tufuja)社、voje tiakiana (男、20歳?)

説明者：口授者と同じ。

- 1 moso na da mo²tou mohtsu nana ²da
既に (冠) 茅原を刈る (過去)
- 2 oemi:mi / na nija ²da t²ot²osi / moso nana
乾燥す (冠) 其刈りし 既に
- 3 ja: evi na taitsō no t²ot²o / ositsu nana
存す 木 (冠) 中央 刈りし處
- 4 homoi na t²ot²o / ho tsapo no evi no
焼かる (冠) 刈りし處 而して 登る (冠) 木 (冠)
- 5 taitsō no t²ot²o / mohtsu nana junzoū na
中央 (冠) 刈りし處 (過去) 燃ゆ
- 6 na isija:joni / mohtsu nana hoetuh na nija
(冠) 火の燃ゆと燃ゆ (過去) 焼く縮む (冠)
- 7 kuhtsū si / ho tetejunu no t²o:na si /
皮衣 而して 集る (冠) 頸高
- 8 mohtsu tsuts²o nana nijate spejohū / moso
(過去) 落下す 既に
- 9 nana ²da mitsiyua phou tsapo no evi /
眞似たし 猿 登る (冠) 木
- 10 ma mitsū tsu²mou na ²evi / ma mohtsu
現在 腐朽す (冠) 木 (過去)
- 11 nana a²ko:tsu na evi / ho speiohū / ho
折る (冠) 木 而して 落下す 而して
- 12 aomane mtsoi / moso nana ²da e²du no
暫時 死す 既に 発見す (冠)
- 13 tejopo na av²e poepoēiusqūsū / o²ante
蜜蜂 (冠)
- 14 nana ahta a²ohi / ositsu nana to²si
登り得る
- 15 toto²hozai / ho to²hu ho pa²eja no tsūsū /
鞆籠を作る 而して 鞆籠を作る 而して 擲る (冠) 金棒
- 16 moso nana ahtu tosvo ho aiti / ma mitsu
既に 休む 而して 見る (現在)
- 17 ts²o nija²te antūpū / ositsu nana noha-
切斷す 中止す
- 18 ²avi /

3. ak²e-jam²um²a
ア²エ²ヤ²ム²ア

- 21 muso nana ma:seu na mamespiñi peo-
網を以て掛る (冠) 女 掛けら
- 22 ²dūa na epūepū / ntesi: nana ja: ho tsiha /
れたる (冠) 流木 取られた 而して 捨てられ
たる

口授者: タパン[tapanu]社, peonsi ucgu (男, 当時61歳)
補助口授者: 同社, tosuku vojju (男, 当時57歳)

つた處が乾燥した。刈つた處の中央
に木があつた。刈つた處が彼に依り
焼かれた。そして刈つた處の中央の
木に登つた。彼の居る處が燃えた。
彼の皮衣は焼け縮み盆の窪に丸まつ
た。すんでの事でおつこちやうとし
た。猿の眞似をして木に登らうとし
たが、オヤオヤ木が朽ちてる。オヤオ
ヤ木が折れて、おつこちで、暫く人事不
省、馬鹿のアブエは蜜蜂を見附けた。
登る事が出来なかつた。ブランコを
作つて付け、前後に振り金棒で搦つた。
休んで見ると、オヤオヤ[ブランコが]切
れかゝつてゐる。[取ることを]止して
しまつた。

3. ア²エ²ヤ²ム²ア

昔々女が網で魚を掛つてゐたところ
が流木が引掛つた。取つて捨て、又

説明者: トフヤ[tufuja]社, jataujūjana jusugu 同社,
bejonsi pasuja

- 1 mijo nana ivaho ma²seu / isinana ivaha
再び 網を以て掛る 再び
- 2 peo²dūa na epūepū / ja: ho psippa no
掛けられたる (冠) 流木 取られ 網し 捨てられたる
たる
- 3 snoeputa ho maine²e / isitsū nana pajoa
帯 而して 歸る (現在完了) 紐を以て
結ぶ
- 4 ho o²ana isi aiti / noanao isitsū nana
而して 見らる 久しき (現在完了) 既
- 5 uniho²ū / mohutsū jajo ho ensūhuju /
孕む 生る 而して 座す
- 6 ihetsū nana tsotsuvi no motsumo / mitsū
笑はれたる (冠) 他の人
- 7 nana maizo tsotsuvo na oko / mitsū
眞似る 笑ふ (冠) 子 (現在)
- 8 nana ja:hisi ja / ho jam²um²a / maitsa
齒生す 而して 毛生す その様に
- 9 homo jam²um²a ihetsū tos²onki ho pōa
毛生す 名づけらる 而して
- 10 ak²e-jam²um²a /

4.

- 13 ne: noana²o e tan²e si moso etūppū /
昔 (冠) 台灣 既に 海
- 14 homijo e tsōū moso eio ne patupkuonu /
其時 (冠) 人 既に 居る 既に 新高山
- 15 moso ²da ²bontū (j)uwanson / homijo moh-
既に 食す 動物 其時 (過)
- 16 tsu uk²a etūppū / moso iupevai na tsōū
去) 無 海 既に 分る (冠) ツオ族
- 17 ho ma:ja / ho so:tsapaja artisika na fusuju
弓 ツオ人 而して 射撃にせられたる 字に引けら (冠) 弓
- 18 no aū²du / moso iupevai na ma:ja ho
(冠) 竹 既に 分る (冠) マ²人 而して
- 19 tsōū e ta tan²e moso ufne map²ana / na
ツオ族 (冠) 此處の 既に 行く (地名) (冠)
- 20 ma:ja moso emo²usunu ne omija / e tsōū
マ²人 既に (東の方へ) 進む (既に) 東 (冠) ツオ族
- 21 tan²e moso imine map²ana ufta tufuja /
此處 既に より (地名) 来る (地名)
- 22 na motsumo ho ufne isikiana / i²po jasi-
他の者 及び 行く (地名) (姓)

4.

掛つたが、又流木が引掛つた。取つて
帯に挟み歸つたが、無くしてしまひ見
えなくなつた。程程で紐結した。生
れたそして座つた。他の人々により
笑はれた。その子は眞似て笑つた。
齒が生えてゐたし、又毛が生えてゐた。
毛が生えてゐたからア²エ²ヤ²ム²ア
[毛のある小父さん]と名づけられた。

昔臺灣は海であつた。其時に人々
は新高山にゐた。魚や獸を食べてゐ
た。海がなくなつた時、ツオ族とマ²
人となつた。そして形見として弓
を半分に分けた。マ²人とツオ族
は分れ此處のツオ族はマ²人へ
行つた。マ²人は東方へ行つた。此
處のツオ族はマ²人からトウフ
ヤに來た。ある者はイシキアナに行
つた。ヤシユグ姓とウツナ姓は平地

口授者: タパン[tapanu]社, jaspe noats-atsuhijana (男,
当時44歳)

説明者: 口授者に同じ。

- ¹ juŋu ho e ʔutsuna moso ufta tsumʔu ta
及び(冠) (姓) すでに 来る 附近 (冠)
- ² pesaŋsi / homijo e ʔutsuna ho jasijuŋu /
平地 其時(冠) (姓) 及び (姓)
- ³ moso ʔda asuŋiŋtsü ēupa-uʔuʔso emo jon
既に 繼續して 互に交通す この 住む者
- ⁴ ta tufuja ho isikiana / homijo namoso
(冠) (地名) 及び (地名) 其時 既に
- ⁵ jonepesaŋsi tsi tsoū pano ihe aiti tsi
平地に居る者 ツオ族 有り 見らる
- ⁶ jatatisikova ne tsumʔu ne etüppü / oʔa
人間 に 附近 に 海 不
- ⁷ isi tsohivi tsi jatatisikova / iʔo pu:tu moso
知られたる 人間 本島人 に
- ⁸ ahoi ufta. tanʔe si / mohtsu ēuʔboʔbaī /
最初 来る 台湾 (過去) 争ふ
- ⁹ iʔo tsoū ukʔa tsi fusuju no puzu / iʔo
ツオ族 銃 (冠) 火
- ¹⁰ pu:tu mohtsu ja: fusuju no puzu a / oʔate
本島人 (過去) 所有す 銃 (冠) 火 決して
- ¹¹ ahtu atapütü no mo ja: fusuju no puzu
せず 勝利す 者 有す 銃 (冠) 火
- ¹² a / hote ehitototo:mu ta pesaŋsi / mohtsu
若し 戦ふ (冠) 平地 (過去)
- ¹³ eiovei ta fujuju na moso jone pesaŋsi tsi
歸來す (冠) 山 (冠) 既に に居る 平地
- ¹⁴ tsoū / mohtsu ʔda süʔüno na tsoū / ho
ツオ族 (過去) 怒る (冠) ツオ族 男して
- ¹⁵ ina ʔdahe aiti tsi pu:tu / ʔdaha atsüha
彼等 見られたる 本島人 全部
- ¹⁶ optsoza / ʔdahe jaintsa no tsoū mo
殺されたる 云はれたる (冠) ツオ族 者
- ¹⁷ nohukhukju: ta xpüxpüŋ to atavei si
邪魔になる (冠) 土地
- ¹⁸ homijo moso tamatsogo no hitsu manʔi
其の時 既に 天然痘 (冠) 多く
- ¹⁹ namo mtsoi / moso tojokukuju:ŋu no hosa
者 死す 既に 驅け廻る (冠) 蕃社
- ²⁰ namo maisa uwa sosomovai / ahoi ho
者 斯の如き 馬 始
- ²¹ mijo oʔa na moso ʔda optsoi no jatatisi-
其時 不 (冠) 既に 殺す (冠) 人間
- ²² ko:va / ho mijo ohe jaintsa to pu:tu / oʔa
其時 云はれたる 本島人 不
- ²³ na temu ʔda optsoi ta jatatisiko:va /
(冠) 殺す (冠) 人間
- ²⁴ temija fi: ta taütsuno tsi fatu / hotsi
與ふ (冠) 丸き 石 若し

の附近へ来た。ウツナとヤシユグは引續き此のトウフヤ及びイシキアナに住む者と互に交通した。其時平地に居たツオ族は海の近くに人間の現はれたのを見た。知らない人間であった。本島人が初めて来たのであった。争があつた。ツオ族は鐵砲を有つてゐない。本島人は鐵砲を有つてゐる者にはどうしても勝てない。平地にゐたツオ族は山へ歸つて来た。ツオ族は怒つてゐた。彼等は本島人を見ると、全部殺した。ツオ族の言ふやうには此の土地に邪魔になる者だと、其の後に天然痘が流行して]死んだ者が澤山あつた。馬のやうなものが蕃社を驅け廻つた。其時から人間を殺さなくなつた。其時本島人が言ふやうには、人間を殺してはならぬ。丸い石を與へよう。若しその石が磨滅したならば、再び人間を殺しても構はないと、其時總督は彼の子分に命じて、ツオの家に十人或は二十人を居らせた。獵をするようにすゝめた。

- ¹ tsu: ʔda a:papajuʔü uʔe fatu / tetsuʔu ʔda
磨滅す 石
- ² ümünü hotši mo ivaho optsoi no jatatisi-
良き もし 汝等 再び爲す 殺す (冠) 人間
- ³ ko:va / homijo ina tsʔamfu moso ʔda su-
其時 既に
- ⁴ muhunu no oʔoko si / ho pūajon ta amo
命す (冠) 子分 彼の 而して 居らす (冠) 家
- ⁵ no tsoū a / ʔda sejomaskü hotšijote tom-
(冠) ツオ 十人 或は 二
- ⁶ puskü / da sumuhunu no pōaja: fo:fou /
十人 命す (冠) 取らしむ 獲物
- ⁷ ho mijo na ʔda ja no tsoū tsi fou /
其時 (冠) 取らしむ (冠) ツオ 獲物
- ⁸ ʔda atsü:ha hafa ufne tsahamu / homo
すべて 運ばれたる 行く (台南)
- ⁹ tonsoha ina tsoū ʔda moiojai tonsoha ha /
一回 ツオ 作る 一回
- ¹⁰ atsühü ufne pesaŋsi / ho ēa ʔboʔbonü si
すべて 行く 平地 而して 御馳走になる
- ¹¹ ho mitsu maineʔe na tsoū tena atsühü
而して(現在) 歸る (冠) ツオ すべて
- ¹² mitotonu no matsutsuma / homijo pano
重き (冠) 荷物 其時
- ¹³ moso oiepu:tu ne kuva tsi foinana tsi
既に 眠る 公廩 若き
- ¹⁴ hahotsuŋu / isi etsuʔüvi no pu:tu / ho
男 (冠) 起されたる (冠) 本島人 男して
- ¹⁵ iaintsa maintši homo hije / oʔa isi tsohivi
云はれたる 何故 太陽 不 (冠) 見られたる
- ¹⁶ no pu:tu / osi ioiotsa no fuzu namo
(冠) 本島人 取られたる (冠) 猪 者
- ¹⁷ oevoci / mosuʔüno namo oevoci / motsogo
寝る 怒る 者 寝る 痛む
- ¹⁸ na osi ioiotsa no fuzu / mo episkü ho
(冠) 咬まれたる(冠) 猪 刀を抜く 男して
- ¹⁹ sauʔtsa na pu:tu / ina pu:tu na motsu-
突く (冠) 本島人 本島人 (冠) 他の
- ²⁰ mosi atsühü pʔka:ko / ho ufne tsahamu /
すべて 逃ぐ 而して 行く 臺南
- ²¹ eueteu-iuiunu na tsoū / ihe jaintsa teto
集合す (冠) ツオ族 云はれたる (冠)
- ²² naso pekʔnüi na pu:tu / teto pōaufne
騙す (冠) 本島人 (冠) 行かす
- ²³ tsahamu o oko to pejoŋsi / ho poaeuteo-
臺南 子 顔目 而して 陳謝せし
- ²⁴ teozu a / hotši tomaʔdu nijate ümünü /
む 若し 承諾す 良好

其時ツオ族の獲つた獲物は、すべて臺南へ運ばれた。一年に一回ツオ族は、すべて平地へ行き、御馳走になりツオ族の歸る時には荷物が重くなる。其時公廩で眠つてゐる若い男があつた。本島人が起して、言ふやうには「何故に晝眠をするか」。寝てゐる者は猪に咬まれたことを、本島人は知らなかつた。猪に咬まれたところが痛かつたから、寝てゐる者は怒つた。刀を抜いて本島人を突いた。他の本島人はすべて逃げて、臺南へ行つた。ツオ族は集合して、本島人を騙さうちやうないかと彼等は言つた。「顔目の息子を臺南へ行かせ、陳謝させようちやうないか。承諾すれば良し。若し承諾せなければ、女達を竹脚まで出迎に出さうちやないか。『男はすつかり新高山

- ¹ hotši o'te toma²du / teto poasuputoneni
若し 不 承諾す 出迎をせしむ
- ² to ma:mespiñi ta ptsoptoknu tehini ja-
女達 (冠) (地名)竹脚 云は
- ³ intsa ta ma:mespiñi / mo atsühü p²ka:ko
れたる (冠) 女達 すべて 逃ぐ
- ⁴ o hahotsuju ho ufne patuñkuonu / uk²a
男 面して行く 新高山 無
- ⁵ tši temu hijowa / ho tšimo ufne hosa /
用事 面して 行く 蕃社
- ⁶ hotši o'te toma²do temu ²da hafa ma:
若し 不 承諾す 謝はれたる 女
- ⁷ mespiñi na fusuju no puzu ho / p²oioto-
達 (冠) 銃 (冠) 火 面して 弾薬
- ⁸ puza / ho temu ²da spih²i temu mesmos-
面して 渡る 轉倒する
- ⁹ moptsu:ku ho / pa²teni o heoihüpi mü
風をなす 面して 見せる 陰部 汝等の
- ¹⁰ ho tufu: i fufuju / ho p²oiotopuza / ho temu
面して 水に没す 銃 及び 弾薬 及び
- ¹¹ tsoetsonu mujo o ma:mespiñi / ho tena
歩く 先行す 女達 面して
- ¹² mi to sijazonu to oi-isi / o²a motsu temu
通過す 瀧 下 不 未だ
- ¹³ ameumeusu / ho temutsu ivaho mi to
急行す 面して 再び 通過す
- ¹⁴ sijazonu to omija si / ina temu uwafeihi
瀧 上 後従す
- ¹⁵ temija ²da tok²i no fatu / homijo na
投ぐ (冠) 石 その時 (冠)
- ¹⁶ temutsu ameomeosu ²boksifoü / temijatsu
急行す 登攀す
- ¹⁷ so süküümüti / homijo ina oko no pejoñsi
柱絶す 其時 子 (冠) 顔目
- ¹⁸ moso uf no tsamfu ne tsahamu / homijo
既に 行く (冠) 總督 既に 臺南 その時
- ¹⁹ tši euteoteozu o²anao si te²dui na tesu-
陳謝す 臺に面して (冠) 戦ふ
- ²⁰ jumo ta hosa no tsoü / isi jaintsa no nija
者 (冠) 蕃社 (冠) ツオ族 (冠) 言はれたる (冠)
- ²¹ tsamfu / o²a nate me'me²du mitsu so-
間に合ふ (現在)
- ²² e²ohü i²o te sujumo / naho aüm²uhu iovei
出發す 兵士 速く 歸る
- ²³ ho aiti / moxtsu mine ptsoktsoknu mo
面して 見る (過去) (地名)竹脚
- ²⁴ toi²so²ü nomo fuhpoja o tsumumu to ts-
濁る 赤き (冠) 水

へ逃げてゐるから、蕃社へ行つても、用事が無いでせう」と、女達が本嶋人に言ふことにしよう。〔本嶋人が承諾せねば女達は〔本嶋人の〕銃と弾薬を運ぶ事にしよう。お前達が河を渡る時に轉倒する風して、お前達の陰部を見せ銃と弾薬を水に浸せよ。歩く時には女達は先になつて行け。下の瀧を通る時はお前達は急ぐに及ばぬ。上の瀧をお前達が通る時に、最後に歩く女に我々は石を投げる。その時お前達は急いで〔瀧の上へ〕昇つてしまひなさい。我々は〔お前達と本嶋人の間を〕遮断しよう。其時頭目の息子は臺南の總督へ行き、陳謝しようとしたが、曹族と戦ふ者は既に出發してゐた。總督が言ふやうには、「兵は出發してゐるから間に合はない。速く歸つて見るがよい。竹脚を通ると河の水が赤く濁つてゐた。獨りで考へ心の中で言ふやうには、河の血は全部味方のものでない。多分本嶋人の血もあるだらう。河を上ると二人の本嶋人に會つた。髪が結附けられてあつた。手を見ると

- ²⁵ ²oeha invonuvo matotohuñu / isijaintsa no
河 自ら 思考す 云はれたる (冠)
- ²⁶ kojunsi / o²a atsünü o²ahapu / hümüjü ta
心 不 全部 味方 血 (冠)
- ²⁷ tsumumu / asonu pu:tu na motšimo / mi-
河 恐らく 本嶋人 (冠) 他の (現)
- ²⁸ tsu ots²o to ts²oeha ²dua namo ioso tši
在 上る (冠) 河 出たみ/見出す) に
- ²⁹ pu:tu / isi pape²tuia na hu²usu / isi aiti
本嶋人 都合せられたる (冠) 髪 見らる
- ³⁰ na emutsu / uk²a tši ²du²duku / mitsu
(冠) 手 無 指 (現在)
- ³¹ aveovoioju mo maitsa na kojuusi asonu
喜ぶ 斯の如く (冠) 心 恐らく
- ³² hijowa no o²ahapu / ina pu:tu moso se-
爲ること (冠) 味方 本嶋人 既に
- ³³ ²tujueva / atsüha optsoza no mo tomtu-
三百人 全部 殺されたる (冠) 三十人
- ³⁴ ihu tši tsoü / moso seomaskü namo uf
人 既に 十人 行く
- ³⁵ no feoño tših²i namoso uf ne tü²ünu ne
(冠) 石洞 一人 行くに 絶壁 に
- ³⁶ ma:mespiñana / ho tonhifi no hipsi tši
(地名) 面して 既に (冠) 薄き
- ³⁷ fatu ina ts²o ka²di na isi aiti / tojohu:pa
石 のみ 踵 既に (冠) 一緒に
- ³⁸ pna no fusuo no aü²du / o²a isi a²taüxa /
射た (冠) (3=)号 (冠) 否定 當てらる
- ³⁹ tših²i namo mavija / namo mu²ho: no
一人 左利 當つ (冠)
- ⁴⁰ ka²di / mitsu eiuiuso namo hipsi tši fatu /
踵 (現在) 共に 薄き 石
- ⁴¹ ho tamaiohü / ina moju no feoño tših²i
面して 轉落す 居る者 (冠) 石洞 一人
- ⁴² namoso optsoi tši tsoü na²no a²do²oñu /
既に 殺す 蕃人 負傷す

指が無い。これだから嬉しいと心の
中で思つた。恐らく味方のした事だ
らう。本嶋人は三百人であつたが、三
十人のツオウに皆殺しになつた。十
人は石洞へ入り一人はマームスビガ
ナの絶壁へ行つた。薄石を前に置き
體を隠したが踵のみ見えた。皆一緒
に弓を射たが、當らなかつた。左利き
の人のみは踵に當てた。薄石と共に、
轉落した。石洞に居る者は蕃人一人
で殺したがひどい負傷をした。

X

サアロア語

語法概説

及び本文

サアロア語語法概説

I. 分 布

サアロア語は高雄州屏東郡管内に住居する四社蕃 [a²aruwa] の言語にして、其方言的差異僅少なり、同蕃はハイセン社 [paitsiana]、タラル社のガニ社 [lilara]、ヒラソ社 [birapana] の四社に分れ、人口 284 (昭和五年調) の小數部族なり。

本調査はハイセン社並にガニ社に於いて行へり。

II. 音 韻

1. 母音 [i], [e], [a], [o], [ɔ], [u], [u].
 1. [i], [e], [ə] と [i] は同類音、[i] は基本母音第一號より稍廣し、[e] は極めて稀なり。
 2. [a] 基本母音第五號に近き後母音的。
 3. [o], [ɔ], [u] 同類音に屬す。
2. 中間母音 [u], 中間母音 [u] 存す [u] と明かに區別せらる、u>i なる音變化生ずることあり。
3. 子音、兩唇音 [p], [b], [m], [w], [β], 齒齦音 [t], [d], [n], [r], [ɹ], [l], [s], [ʃ], 齒齦硬口蓋音 [ʈ], 硬口蓋音 [k], [g], [ŋ] 聲門音 [h], [ʔ].
 1. [l] 輕き反轉音 [r] と區別する要あり、[r] は稀に [ɹ] に變異することあり。
 2. [s], [ʃ], [s] の擦れ音の強きことあり。斯る場合は [s] を以て記せしも [s] 及び [ʃ] は同類音なり。
4. 終母音弱音化、サアロア語は開音節なれども終音の母韻は屢々弱音化することあり [h] を以て弱音化せる母韻を示せり。又屢々脱落することあり。
5. 揚音、強弱の揚音にして概して第一音節に揚音を有す。láboku, tálija|ija (例外あり、例へば接頭辭は揚音を取らず moatsápi)。

III. 形 態

1. 反覆
 1. 部分的反覆, tsutsutsu²o 人々 < tsutsu²o 人, mūasasa|a 歩み續く < mūasa|a 歩む。
 2. 全部的反覆, makopala|alo 一度 < makopala 一度。

3. 反覆せし音節の母音>a. t-un-aboso 橋を架す<tokoso 橋, ts-um-atsuloko 餅を作る>li-tsoloko 餅。
4. 重反覆, k-um-akakaŋi 掘る(進行形)<k-um-aŋi 掘る。k-um-akikita 見る(進行形)<k-um-ita 見る。
5. 終音節の反覆 la:mama 年長者<a:ama 昔昔の人。
2. 接頭辭 ma-, um-, mi-, moa- / mu-, maĩ-, miŋa-, maia-, maŋi-, pa-, pi-, poa- / pu-, paĩ-, piŋa-, muru-, maru-, maŋ-, ta-, ki-, mal(o)-, tali-, la-, tama-, ara-, muto-, li-, pi- 等, 主なる意義を述べれば,
1. ma- の「形容詞」「名詞」「動詞」を形成す, ma-tŋiŋi 熱き, 熱きもの, ma-taŋi 繩にて結ぶ。
 2. um-, mi-, moa- / mu-, maĩ-, miŋa-, maia-, maŋi-, は「動詞」を誘導す。um-aŋa 取る<√aŋa. mi-ibu 小便す<ibu 小便, moa-saŋa 歩く<saŋa?a 道, mai-buturaũ 掃く<buturaũ 箒, miŋa-ma 飲む<mima 飲む, maia-oŋa-oŋa 柔くす<ma-oŋa-oŋa 柔き, ma-li-aŋuaŋu 熱湯を注ぐ<ma?aŋuaŋu 熱き, mi-, moa- は共に「自動詞」にして mirutsu 「(物品)水に落つ」, murutsu 「水に入る」の例に於て前者は「自然的」, 後者は「自意的」の區別ある如く思はる。然れども「小便す」は miibu にして「大便す」 moati <ti?i 大便と言ひ mi-, moa- の區別無きが如し。mi- は一般的の動作にして, miŋa- は「これより開始する動作」を示す。mitopusu は現在祖先祭を執行せる時, miŋa-topusu はこれより始まらんとする祖先祭を言ふ。mima 呑む, miŋama これより呑む。
- m を p に變更せば「使役動詞」となる。pa-aŋa 取らす>ma-aŋa 取る, piŋi 充たす<miŋi 充つ, p- 使役形は a を頭音に有することあり。mima 呑む>apima 呑ます。
3. maru 「除去」 maru-tsarubu 毛布を除る<tsarubu, muru 「出づ」 muru-apoŋu 發火す<apoŋu 火, maŋ 「住人」 maŋ-taipak 臺北の人, ta- 「場所」 ta-ŋaloŋulo 岩の隙間「受身」 ta-aŋa 取らるもの。
- ki- 「變化」 ki-taŋi 縛ふ<li-taŋi 繩, mal- 「移動」 malo-taisa 増大す<taisa 大, tali- 「作る」 tali-parariju 梯子を編む<parariju 梯子, la- 「拙悪」 la-aŋaina やくざ女房<aŋaina 女, tama- 「良好」 tama?ijaru 良く働く人<ta?ijaru 仕事, ara- 「になる」 ara-batsupu 良くなる<batsupu 良き, muto- 「死者」 muto-tsani 一人(死者を數ふ時), pi- 「所有者」 pi-saŋija 家持<saŋija 家。

4. li- 「過去」を示す, li-murutsuka 狩獵に行けり<murutsuka 狩獵す, 述語動詞として用ひられども, 本質的には名詞とす。liumaŋatapoo 割れしもの, 分詞に接頭せば, 受身の意味になる li-umala 取りし人取れり, li-ala 取られしもの, 取られたり。
3. 挿入辭, -um- k-um-aŋi 掘る人, 掘る<√kaŋi 掘る, s-um-ulatu 書く人, 書く<√su-latu
4. 接尾辭, -ala / -la, -ana, -a
例: amiŋa 言へり<ami 言ふ, ta-ti-ala 大便所<ti?i 大便 ain-ana 食事場<a:nu 食物, akaŋi-ana 掘る場所<k-umaŋi 掘る。
tutunuma 洪水<tunumu 海, tsatsapoka 茅原<tsapoka 茅 -ala, -ana, -a は IN- an に對比すべし, 「分詞」及び「場所」を表はす, 而して接頭辭と併用せらることあり。li—a li-kitoŋi-a 繩, li-kaŋi-a 掘りし處, 掘れり。 ta—a 場所 ta-ariŋamu-a 萱置場<riŋamu 萱, ta-ŋusap-a 寢所<maŋusapu 寢る。
5. 複合接辭, paka-, pata-, tapi-, taki-, maki-, mako-, 等。
例: paka- (pa+ka?) paka-paipai 餅を作る。 pata- (pa+ta) pata-rutsu 水中に投込む。 tuma- (t+um+a?) toma-aŋolu 發根す。 tapi- (ta+pi) 方向 tapi-araŋaŋu 岩棚の方向。 tapi-ŋaiŋi 飯る方向「比較」 puwaiŋi 飯る。 takitaki?ijaru 働く, maki-maki-aŋi 呼び返す。 <puwaiŋi mako- makoŋaŋaŋa 尙一度。

IV. 品詞

1. 冠詞, ka, kai, na, ni は冠詞の働をなす。本質的には ka, kai は結辭より, na, ni は指示代名詞 na (眼界内) nai (眼界外) より發生せしものならん。ka 及び na は見えるもの, 眼界内のものを示し, kai 及び ni は見えざるもの, 眼界外を示すものの如し。¹⁾
- taisa ka saŋija ku 私の家は火なり。 uka?a ami kai apoŋoisa 彼の火無し。屬格を示す冠詞なし。
- ka, kai 主格
musaŋa ka ŋaŋima 人五人行く。 ami-ami kai ŋutokolu 魚は云ふ。
- na, ni 與格 ami-ami ni tapulatsugu 猿に云ふ。
對格 kumita ni aŋaŋiamu 蠅を見る。
造格 tumali-parariju ni oŋu ŋutolo 鹿の角を以て梯子を作る。

處格 *malokuwa ni sakuralu* 川へ行く。

屬格²⁾ *salija anaisa* 彼の同名者の家, *sal'a takoļu* 山猫の道。

2. 代名詞

1. 人稱代名詞

	單 數	複 數	
		除對話者	含對話者
一 人 稱	(a) 主 格 <i>ilaku, aku</i>	<i>ilata</i>	<i>ilalamu</i>
	(b) 屬格其他 <i>-ku</i>	<i>-ta</i>	<i>-lamu</i>
二 人 稱	<i>ilau</i>	<i>ilamu</i>	
	<i>-u</i>	<i>-mu</i>	
三 人 稱	<i>ilaisa</i>		
	<i>-isa</i>		

kumakaļi ako 我は掘る *likaļi tsu ko* 我は掘れりの例に於けるが如く、[發動動詞]の主格に *ako* 用ひられ、*li-* 形には *ko* 用ひらる。上記の表には *ako* を主格に分類せり。

-isa の外に *-isana* なる形あり。na は冠詞 na と関係あるものなるべし、眼に見ゆるものを示す (*kani'i "ce"* に na を附し強意する例を比較すべし。 *anuwā kanii ua* 此を食せ) *ilau jāu umuisana* 汝は其を食す、更に実際には眼界内にあらざるものを *isana* を以て示すことあり。眼前に彷彿として表現するものならん。 *uka'a ka salijaisana* 彼の家無し。

2. 指示代名詞, *kani'i* この, *kanaū, kana'a* その, *šikatju* あの(眼界内) *kaļu* あの(眼界外) na は眼界内に存在するものを示し, *naī* は眼界外に存在するものを示す *na:naī, nani, manani* 此處の。

3. 接頭代名詞³⁾

{ <i>tsu ku anuwa</i> 我食せり	{ <i>tsu u anuwa</i> 汝食せり
{ <i>tsu ta anuwa</i> 我等食せり	{ <i>tsu mo anuwa</i> 汝等食せり
{ <i>tsu sa anuwa</i> 彼(等)食せり	
{ <i>sa anuwa</i> 彼(等)食せり	

[分詞]に代名詞(2)接頭せられ、其動作主を示す。 *tsu* は[完了]を示す[助辭]三人稱に於て *tsu* 畧せられること多し。或は分詞の後に來ることあり。 *sa anuwa tsu*。

動作主を繰返し示し、接頭代名詞は先行代名詞となることあり、 *sa anuwa ka tabua* 鳥食せり。

4. 分詞, 品詞分類より見れば[分詞]は動作に關係せる“事物, 人, 處”を示す名詞にして、其機能に於て多くの場合述語者動詞の作用をす。

1. *o, u, u⁴⁾>a*

laļiboro 突き挿す > *laļibora* *marutaubu* 蓋を開く > *arutauba*
kumakurapu 焼く > *likurapa* *maļusapu* 疑る > *paļusapa*

2. *o, u, u, i >oa, ua, ua, ia.*

towaporo 休む > *towapuruwa* *maļaku* 水を汲む > *muļakuwa*
puasipi 燃やす > *puasipia*

3. 語根

kumita 見る > *kita* *tomaļiļau* 切る > *taļiļau*
mima 飲む > *pima* *oaþora* 與ふ > *þora*
maiūlauļa 柔くす > *paiūlauļa*

4. 特殊

umaū 食す > *anuwa, anana, umana* *pa:patši* 殺す > *pa:patšila*
umaļa 取る > *aļa* *tumaļi* 作る > *tamaļiþo*

5. 動詞

1. 時制, [未來]は接頭辭部分の反覆を以て示さることあり、 *moamoasaļa* 行かん < *saļa'a* 語根部分の反覆は繼續的動作を示すもの如し、 *moasasaļa* 歩みつつあり更に *li-* を接頭して[過去]の繼續的動作を示すことあり、 *limoasasaļa* 歩みつつありき、接頭辭 *mija-* は[未來]を示す轉來語を作る(參照 § 13-b)、[現在]及び[未來]は形態の變化無く表現せらること多く、又[歴的現在]の用法も多く、換言せば所謂[現在]形は總ての[時]に通ずる汎時的動詞と考へ得、然れども明瞭なる[過去]を示すには接頭辭 *li-* を用ふ、 *litumaļii* 泣けり < *tumaļii* 泣く。

[完了]を示す *tsu* なる助辭あり、[現在]と共に用ふれば[現在完了]となり、[限定的現在]を表現す、 *moasaļa* 歩く、(時)の概念を離れ歩くといふ動作のみを表現す、 *moasaļa tsu* 今始めて歩き出す(例へばこれまで歩行せざる子供)[過去]の *li-* 形は *tsu* を附すこと多し、[分詞]の時汎時的なれば、特に過去を意味する時は *li-* を接頭す、或は *li-* を接頭し更に *tsu* を用ふ、或は *li-* を畧し *ins* の

みを用ふことあり, saanuwa 彼に食はる, saanwa tsu 彼に食はれたり, lipatapija tsu 泣かしめられたり, patapija tsu 泣かしめられたり。

2. 動態, 他動詞及び使役動詞の「分詞」形は受身なり, [alibora 突き挿さるもの, 突き挿さる, puasipia 燃やさるもの, 燃料, lisumulatu 書けり lisulata 書かるもの <sumulatu 書く likumita 見たる人 likita 見られし人。

3. 命令

1) 發働動詞其儘命令に用ふ, kumita 見よ, matsatsa 笑へ, 語根を用ふ, sulatu 書け分詞を用ふ, anua 或は umana 食せよ。

2) 語根の終母音を o に變ぜし形を以て命令を示す。ka[i]jo 掘る <kuma[i] 掘る, kito 見よ <kumita 見る, imo 飲め <mima 飲む, alo 取れ <umala 取る。

3) ai なる助辭を附す puza ai 買へ, 一人稱複數含對話者 -ta と共に「誘引」を表はす時に ai を用ふ, kumitaita (kumita ai ta) いざ汝等と共に見ん, 英, Let us see!

tuporowaita <tuporo いざ共に憩はん kitotai (kito ta ai) いざ共に見ん「命令」を強意するため助辭 maū, mijo を添加することあり, kumita maū 見よ。

4. 否定, ko, kowa (a は語根の一部とも考へらる)を語根に前接す, ko:saboju 不祈 <sumasaboju 祈る。

5. 禁止, tap mija 或は tapko: tap mija kumita 見る勿れ tapko pa:patši 殺す勿れ, tapko:mu 食ふ勿れ。

6. 形容詞, 形容詞は後置せらる, sa[i]ja taisa 大なる家, 前置せらることもあり, maini sa[i]ja 小なる家, 前置せらる時には ka 或は kai なる結辭を挿入すること多し, maini ka sa[i]ja 小なる家(家小なり)と譯すべきか。

7. 結辭, a) ka, kai

1. taisa ka sa[i]ja 家大なり, (大なる家)。
2. usuwa ka tamusuju 二個の山。
3. sa[i]ja isa ko umau ni [aboku 食砂人の家。
4. mussa[a] ami ka ukui 山羊は行く。
5. isainijata ka apararana:su haanu ami-ami 食物を粗末にする故に要せず。
6. maaru kai ala:ma kai uka?a kai a:nuisa 昔の人ありて彼の腔門なし。

ka, kai の最も多き用法は主語を示すにあり(例4), 稀には接續詞的にも使用

す(例5, 6)。

b) ia / ja

1. matsu ako musa[asa]a ia ma:auju wako 我は歩けば疲勞す。
2. matsu ai malokua n pu:rai ia pu:ra ai n tamaku 寶來へ行くならば烟草を買へ。
3. maatsuwa talaku kani:i ja taisa 此豚は大なり。

條件文の後に附せらる(例, 1, 2), 或は主語を示す(例3)例3の述語を文の始めに置けば, taisa ka talaku na

8. 助辭

a) i 疑問文を示す。

1. ?i:bu u i? 汝の小便なりや。
2. maaru i ka tsutsu?u? 人居るや。

b) ai 「想像」[不確]

1. ?i:bu u ai 恐らく汝の小便ならん。
2. matsi?i tsu ai mai 恐らく死せしならん。

c) tsu 「完了」[決定]

d) na 尙, 未だ

1. ko na: kita 未だ見ず。

9. ami

a) ami 1. 甲の乙に云ひしことを乙の丙に告ぐるときに即ち「甲曰く」と乙云ふ場合は ami 2. 甲の乙に云ふことを乙再び丙に傳へ, 丙更に丁に告ぐる時に, 即ち「甲曰く」と丙云ふ場合は ami-ami 1. の應用として「物語」に於て或る事實を敘述する時に, ami を挿入することあり, puwai[i] ami 歸つたとき 2. の應用として「物語」に於て大昔の人の述べる言葉は ami-ami, ami-ami ka ala:ma 昔の人曰く。

【註】1. 原文の冠詞の區別は正確ならず, 終母音は弱音化され筆録の誤もあり, 又口授者自身も物語を現實的に思考して事實上現在に在る事を現に見つゝあるが如く語ることあればなり。

2. sa[i]jaisa ka umau ni [aboku “食砂人の家”の例に於て屬格の用法の結辭 ka もあり。

3. 接頭代名詞分詞動詞に接頭して筆録せり。

4. 得たる資料中に -i>a の例無けれども恐らくかゝる形あるべし。

5. 「物語」には現在を以て過去, 未來をも示す用法多し。

1. サアロア方言 (la²aruwa)

1. tütünümü 洪水

- 1. matru ami kai tamo bürüpa lipararala / 存する 父 鱈 太古
2. mañulubu ni lalomü / tütünüma / usuwa 堰止める 水な 洪水になつた 二個
3. ka tamsu'u / mussa'a ka tsu'tsu' / tapi- 高山は 行く 人々は 逃ぐ
4. kakowa n tamsu'u lakurapa / la alipapo- 方向 高山 面
5. takolu / uka'a ka apulu isa / patsüpütsü- 無 火 彼等 考ふ人
6. püjü ami / kumita n a[aj]iamu / sumasa- 見る 鱈を 摩る
7. samusu n lamutsu is / pakitoro wami to- 手な 彼の 做ふ
8. mamaloñu ni kijo'o / kupao muruwapolu 作る 木を以て (註) 火生す
9. wami / mu[uj]i ka ma: ni tamsu'u uts- 欲す 存在する者は 山に
10. ani / omolo'o ni 'uku: / pa:la ni apulu / 頼む 山羊に 取らす 火を
11. mussa'a ami ka 'uku: / umaraü muru- 行く 山羊は 不成就 痛し
12. palaü wami n matsitsi kai 熱い 角 彼の

1. 洪水

昔々老鰻がゐた。水を堰止めた[た]め、洪水になつた。二つの高山[があつ]て、人々はシヤクラバ山とアシバボコシユ山へ逃げて行つた。火が無かつた。鱈が手を摩るのを見て、考へて、真似て木で作し、摩ると火が出た。他の山にゐる者はその[火を]欲した。火を取るように、山羊に頼んだ。山羊は行つた。到着しない先に角が熱くなつて痛くなつた。彼は水に浸した。歸つたが、火は無い。羌仔が代つた。[火をもつて]歸る事が出来た。一同は喜

採録期：昭和六年八月。

口授者：ハイセン(pai'siana)註 tabujana u[ij]ana (男、當時3?歳。

口授者自身大意を日本語にて説明す。日本語不完全。昭和七年九月ガニ(Hara)註 pasü'aにつき再調査。[i]と[r]、[u]と[ü]の區別の校合、pasü'aの翻譯と u[ij]anaの翻譯と對照し最も妥當なる和譯を編輯せり、pasü'aの日本語は流暢ならざるも正確。

- 4. ma:ru ami kai tamo bürüpa lipararala / (u[ij]ana) maaru kai aja:ma tamo bürüpa, aja:maは昔の人、祖先なれば不合理 (pasü'aの説)。 tamo bürüpa 巨大なる怪鱈、ツオウの (tuñojoza) に比較。
5. tütünümü <tütünümü 海になる <tünümü 海、洪水 usuwa ~suwa, suuwa.
6. tapikakowa 接頭辭 tapi- (方向)。
7. n ~ni.
8. apulu ~'apu'u.

9. sumasa:samusu s-um-asa:samusu <*V samsu

- 10. is ~isa tomamaloñu <tomaloñu.
11. kupao (u[ij]ana) kuapao 四社舊の古代發火器は長方形木片に穴を掘り、それに木棒を當てがひ廻轉し摩り發火せしむ。「發火器」及び「發火の動作」を kupao といふ、マッチの使用せらるゝと共に pao の意義變遷し現在はマッチを意味す。 muruwapolu muru-apolu <apolu 火、muru- (出る) 參照原文3 第705註8
13. pa:la <um-a[aj]a 取る。
14. umaraü 「不完成」を示す umaraü tsu musa'a 出来上らざるうちに歸る(例へば夕食の仕度中に鳥より人の歸るとき)。 murupa[aj]aa ami n matsitsi 此場合の n (=ni) は理由を示す。
15. matsitsi Vtsi, 比較 aratsi 熱くなる。

- 1. sajarü tsü wami n lalomü / pöwajili 没す 水に 歸る
2. jami / uka'a ka apolu / patalusukasu ami 無 火 代理す
3. ka tauroñu / ama tsü pöwajili / masapa- 羌仔 可能 歸る 喜ぶ
4. sañaru ka laülaübü isa / maiboasu isana 仲間 波の 撫でる 其
5. maimaimai:ni / şina:minitsi ta kijali 'ara- 縮少する 如何しやう 我々 何故 消失
6. kuka ka tünümü / ami ami ka a[um]ulü / する 日 猪
7. musa[aj]a ku ruwajiratü isana / pa:nu wai 行く 私 水を通ぜしめる 食せしむ
8. ka mamaini ko n inta'ñanu la tabülübülü / 子 私の 里芋 及び バナ、な
9. ami ami ka armulü / mussala: mi / ma- 日 猪 行く
10. küpütülü n tamo bürüpa / mata:la'ü kai 咬み切る 老 鱈 流出する
11. tünümü / mualusu ka a[um]ulü / masapa- 洪水 流る 猪 喜ぶ
12. sañaru tsu ka (h)ala:mu la kurii mü:müa / 鳥 及び 獸 總
13. tomamaloñu ni lo:loñu / utsani ka takaü- 作る 河を 一 鱈
14. kaü ka kotalü[ü]ü / matsü ai mima na 手傳はない もし 飲め
15. lalom lo:loñu ja / mamatsi u ai / amila: 水 河 ば 死ぬ 汝であらう 云つた
16. ka laülaübü isa / şina:mini aili miama 仲間 彼の 構はず 飲む
17. ko ai ni işüñürü / ami ami ka takaükaü / 我 水の淵にある 日 鱈
18. matsi mima n loloñu ja mamatsi ami / 若し 飲め 河を ば 死ぬ

び、彼を撫でると、段々小さくなつた。[どうしませう、何故洪水が無くならな]いのでせう)[と一同が云つた]。猪が云ふやうには、「私は水をはかせに參りませう。[その報酬として]私の子供に里芋とバナナを食べさせて下さい」。猪がかく云つて、去り、老鰻を咬み切つた。洪水は流れ出た。猪が流れた。すべての鳥と獸は喜んだ。河を作る事になつたが、鷹だけは手傳はなかつた。「河の水を飲めば、死ぬぞ」と一同が云へば、「構はない私は木の洞穴の滴水を飲むことにするから」と鷹が云つた。[鷹は]河水を飲めば死にます。

- 1. sajarütsü saa-jarütsü saa- 「接頭的代名詞」彼、-ja-rütsü <(mi-)jarütsü 没す。
4. laülaübü <laübü 友人 (一人を指す場合)。
5. maimaimai:ni <maini 小。 şina:mini 比較 原文3 第706頁、6行。 şina:mini-ai 構はない、正反對の用法、後者の意味は原意にして、前者は反語的用法平氣で居れやうか居れない、ドウシヤウか。 kijali 何故 kijali unu? 何故に食せざるや、

- 7. paanu <anu 食ふ、鳥の作物を食せしむ約束をせし故 猪は鳥を荒すことになれり。
9. arumulü (u[ij]ana) arumulü (pasu[a] a[um]ulu / arumulü [] の例多し、語尾の u を ü とすることより、
12. (h)ala:mü (?) の無き類音母音。
14. kotalü[ü]ü ko: + talü[ü]ü k: 否定、V talü[ü]ü > t-um-a[aj]ü[ü]ü 手傳ふ。
15. amila: 云へり。

2. tütünümü
洪水

- 2 miniso:wa: mi kai sa:saruwa na tütü-
土地 海に
- 3 nūma / mitsū:lo wami kai tsu?tsu? / tari-
なつた 逃げる 人々
- 4 šitsūpūtsūpūjū mitsūlo aratsūbutsūbuju
各人 逃げる 集合する
- 5 n ta:tamūšo[owa / ?uka?a: mi kai apolo
高山に 無し 火
- 6 isa kai ma: ni alipapotakolo / omolono
彼等 存する 新高山に 頼む
- 7 ami ni ?oko:e apakijapolo ni tamusu[
山羊 火を燃らす(岩の) 山
- 8 lakurapa / ko ami: pakijama tsū / toma-
高山 不 能 交代
- 9 sokasū ami n taūrogu / anitsiki ai paki-
す 差仔と 辛うじて(岩の) 出来
- 10 matsū / sa:pai?o:asa tsū ami / maimaima-
得る 彼の撫でるもの 小さくなる
- 11 ini / mimisowa: mi omolono ni a[ūmēlu
(か)に 頼む 猪に
- 12 apakūpūtūlū ni ?isisi šūrūpa / anitsiki
咬み切る 尾を 鯉の 辛うじて
- 13 ami / patala?u ka tūnūmū / a[ali tsū
(水のみ)減少す 洪水 出る
- 14 isana ami kai tsu?tso?o / ma:tsu kai
其處より 人々は
- 15 toma:mamarikisala ja / malo:kwa mi ni
行く
- 16 marikisala / ma:tsu kai tomalalasupa ja /
- 17 malokwa ni laisupa / tainatna tsu ka
行く これ許り
- 18 kari ku /
話 私の

採録期: 昭和七年九月。

口授者: ガ=[ijara]st ama[ata:lū [故老年齡?]

説明者: ガ=st pasū[a.

2. miniso:wami minisowa ami 昔々…ありき—説明
の譯 参照原文3註20.

5. ta:tamūšo[owa ta-tamuso[o-a 山々 <tamuso[o ili,

2. 洪 水

地が海になつたから、人々は逃難し
た。たれもかれも高山へ逃げ集つた。
新高山に居る者には火が無かつた。
山羊に高山へ火をもらひに行くよう
に頼んだ。(運んで来る事が出来な
かつた。差仔が交代した。やうやく
にして[運ぶこと]が出来た。彼等に撫
でられたので、小さくなつた。鯉の尾
を咬み切るやうに猪に頼んだから、や
うやくにして、洪水は減つた。人々は
其處を出た。トマーママリキサシヤ
族はマリキサシヤの地へ行き、トマシ
ヤシヤスガ族はシヤスガの地へ行つ
た。私の話はこれだけ。

ta→a「場所」ta:lukija:ja 穂袋置場 <luki 穂袋
?uka?a mi ?uka?a ami.

8. pakijamatsū 比較 makianatsū 書く事能はず。
tomasakū 「適当なる人」を示す。

3. upana ni talijarija

- 2 matsi:tsi jami kai talijarija / [uma]ūmū-
熱し 太陽 植ふる
- 3 kū wami n inta?apa / kwami atapo:ru /
里芋 否定 生える
- 4 amijaniso:wa tso wami / kitali: n pa:alu /
それ故に (繩を)縛ふ 麻を
- 5 kumi[i n o[osu / sasuwā: mi ka tsutsu?u /
結びつける 家の柱に 二人 人
- 6 nussa[a: mi mü[ūbū n [ikatali]ja / urama-
行く (繩を)縛ひて(岩の) 繩を 待射す
- 7 ŋu isana upana / uruwamitana talijarija /
る 射る 出現する 太陽
- 8 murutsara?ū wami / murūtsū wami n
血が出る 入る(水に)
- 9 lalom / matsi?i ami ka tsatsili / matsi:tsi
水に 死ぬ 一人 熱い
- 10 ami ka lalom / ma:tsu wami kai tsatsili
水 一人は
- 11 ja / tapi?ara:paŋu ami šatū? / arasū:sūma
岩棚の中に隠れる 石 暗くなつた
- 12 tsu wai / mü[ūbū tso wami n likitali]ja /
傳ふ 繩を
- 13 puwai[i n sarija / utsani tsu wami tsaila /
歸る 家へ 一年
- 14 kwa tsu ami ka puasipia isa / pu:papipitsi
消滅する 薪 彼の (斧にて)割る
- 15 tsu ami lo:ŋo isa / ma:tsu wami kai papilī
白 彼の 杵は
- 16 sa ja / sa:pusipia tsu wami / ma[a:ami-
杖等により燃やされる 如何し

採録期: 昭和六年八月。

口授者: ハイセン[paitsiana]st tabujana u[igana (男、當
時32歳。

口授者自身大意を日本語にて説明す。日本語不完全。昭和七
年九月ガ=[ijara]st pasū[a につき再調査。[i]と[r], [u]
と[ū]の區別の校合、pasū[a の翻譯と u[igana の翻譯と
對照し最も妥當なる和譯を編輯せり、pasū[a の日本語は流
暢ならざるも正確。

3. kwami atapo:ru kwami = ko ami, atapo:ru 比較
tomatapo:ru (植物)生へる。

4. amijaniso:wa 比較 minisowa 原文3 第706頁、註12.

5. sasuwā 二人、<suwa 二。

6. likitali]ja [i-kitali]ja-a 縛ひしもの、繩 <ki[ai] 縛す。
uramaŋu 自身を隠蔽して敵(獲物)の来るを待ち射撃
す。カナカナブ uramaŋu.

7. uruwamitana uruwamita-na 出現の場所 <uruwa-
mita, murumita 出現す。接尾辭 -na「場所」。uruwa-
mitana talijarija 東 u:[a]ikasana talijarija 日没の

3. 太陽を射る

太陽が熱い[ため]、里芋を植ふる[ても]つ
かない。其故、麻で繩を縛ひ、家の柱に
結び付け、二人の男がその繩を傳つて
行つた。太陽の出る場所で、かくれて
射た。[太陽の]血が出た。一人は水に
入つた[が]、水が熱い[ため]、死んだ。今一
人は、岩窟へ入つた。暗くなつたから、
繩を傳つて、家へ歸つた。一年間暗黒
だつた。薪が無くなつた。白を割り
杵さへ燃した。「どうしませうか、かう
なつちや太陽に性を捧げませうか?」
獸共も性を捧げた。蚯蚓と魚だけは、
太陽に性を捧げなかつた。「私は地に
入るから構はない。」と蚯蚓は云つた。
魚も、「私は水に入るから構はない。」と

處、西 <mu:[a]ikasu 渡す。

8. murutsara?ū muru-tsara?ū <tsara?ū 血, muru-「出
る」、muruwara[ū]ŋa 糞汗す <ra[ū]ŋa 汗。
murūtsū 水に入る, mirūtsū (荷物)水に没入す, pa-
tarūtsū 水中へ(荷物)を投入す。

9. tatsili 人間、動物を示す數詞。

10. ma:tsu ~ja 1.「條件」若し。2.「主題を指示」本例は2.

11. tapi?ara:paŋu tapi-ara:paŋu <ara:paŋu 岩棚(山背葉、あ
ぶき) tapi-「方向」「の方に行く」

arasū:sūma ara-sūsūma <sūsūma 暗 ara-「になる」
ara:ma:la 空腹になる。

13. tsaila tsai'li 「年」の分詞形。「經過」を示す, utsani
tsaila 一年間, tsut-ai'li 來年, kit'saili 昨年。

14. puasipia puasipi 燃やす puasipia 「分詞」燃やすも
の、燃料。

16. ma[a:amimisan'tsita sina:minitsita と意味同じと云
ふ説明, ma[a (取る) ami misani (何) tsū ta (我々)
と分解すべきものか。

- 1 misanitsita / ma:tsi auna:na ja kija[ija]i
 やう 然らば 如何 祭をする
- 2 ja: ta / sumabon ai ta isana / ma:tsu
 我々 牲を捧げる 太陽
- 3 wami kai kuriimü:müa ja / ma:ru wami
 豚類へ 有
- 4 ja ka kusa:bo:pu isana / utsani tsu ami
 禮拝しない者 (太陽を) 一
- 5 ka taparolu / nu:ka: ßutokolu / ko: sabo:pu
 蚯蚓は 及 魚 不 斬る
- 6 na talijarija / şina:mini ai ka moatsu:tsu:
 太陽 構はない 入る
- 7 aku n sa:saruwana / ami ami kai tapa-
 我 水に 曰 蚯
- 8 rolu / ma:tsu wami kai ßutokolu ja / şi-
 蚯 魚
- 9 namini ai ka moatsu:tsu: aku n lajomü /
 構はない 入る 我は 水に
- 10 ami ami kai ßutokolu / ma:tsu ami kai
 曰 魚
- 11 ala:ma ja / pa:patsi jami n talakü / nu:ka:
 昔の人は 殺す 豚を 及び
- 12 tu[ukoka] / sumabono isana / amianisowa
 禮拝する 太陽に それ故に
- 13 tsu wami / murumita ka talijarija / ma-
 出る 太陽
- 14 batsapu takü?ijaru tsü ka ala:ma / ma-
 良く 働く 昔の人は
- 15 sasapari tsü wami ka ala:ma / ni:akuisa
 喜ぶ 昔の人は の時に
- 16 arabatsapu kai talijarija ja muaumu:uma
 良くなる 太陽 鳥を作る.耕作する
- 17 tsu wami / lumümükü ni ?inta:ßapu la
 植える 里芋を 及び
- 18 mai[ap] la übütsüpu ni: akuisa arasilapu /
 高摩訶を 及び 粟を 時 明かとなる

1. auna:na 其様なる, 斯くの如き.
 kija[ija]i 祭事一般.

2. sumabon <sabo:pu 牲, 生ける豚の肝, 耳, 足を振り取り酒と共に神[il:tsu]に供ふ, sabo:pu は其他税金, 罰金をも意味す.

3. ma:ru wami ja ka kusa:bo:pu isana kusa:bo:pu は sabo:pu 牲をすの否定形, 抑揚により全く正反對の意味となる.

A. ma:ruwamijakaku: sabo:puisana
 祈らざるものあらんや一祈る

B. ma:ruwamijakaku: sabo:pu:sana

云つた。昔の人は、豚と雞を殺して、牲をしたから、太陽は出てる。昔の人は良く働いた。昔の人は喜んだ。昔の人は、太陽が良くなった[=出た時に耕作をした。明るくなった時に里芋、甘藷、粟を植えた。

祈らざるものあり一祈らず
 此場合A型にして「豚類皆斬る」の意也.

12. minisowa:mi 1) その故に, かくして 2) 「昔々かくの如き事實ありき」と云ふ場合にも用ふといふ説明を得たり.

16. arabatsapu ara-batsapu.
 muaumu:uma <umo-uma 鳥.

17. lumümükü 1-um-ümükü <ümükü 比較 1-um-a[ü]mükü (705頁2行) lumümükü <ümümükü 母音調和.

18. ni: akuisa の時.

4. laba:usu

- 2 ma:ru kai ala:ma ni: / laba:usu nu:kai
 存在する 昔 人名(女) 及び
- 3 lali?olu / pitsaotsao ka lali?olu / pa:patsal
 人名(女) 嘘を云ふ 投させる
- 4 wai ja talaki: o la tsumoloku malaba
 豚 汝の 及び 餅を作る 持参する
- 5 amila: kai ?ina u / maimatsu ka laba:us /
 云つた 母 汝の 承認する
- 6 pa:patsi ni talakü isa / tsumoloku pilii ni
 殺す 豚 彼の 餅を作り 一匹にする
- 7 parapa: / ma:tsu ka ilau ka mu[ulokoloko]
 背負籠を もし 汝 乗る
- 8 na parapa: ja: / ku: wakita ka tsutsu?u
 籠に 不 見 人々は
- 9 ja / ?itaija tikoru la a[uliju] / ami ami
 奥へよ 上衣 及び 腰衣を 曰
- 10 kai lali?olu ni laba:us / mo:loko[oko] isa n
 入る 彼女は
- 11 parapa: sa:pjapija ka lali?ulu / mussa[ja]:
 背負籠に 背負籠に 乗る 行く
- 12 tupuro wai ta mana ami ami / miama:
 休まう 我々 さて 曰 飲む
- 13 ku lalomü ami ami kai lali?olu / uma[ja]
 我は 水を 曰 取る
- 14 ni ?imaru la litsoloku / matai[i] ni sa[la]a /
 豚の肉 及び 餅を 置く 道に
- 15 sa:patakutsuwa tsu matai[i] ka imaru la
 悉く消失する 置く 肉 及び
- 16 litsoloku / pura:pa: ni tatowaparawa tali-
 餅 連れ行く 休憩場所まで 大
- 17 jarija / patai[ia] ni tsalatsü kai utsani /
 風 置いたもの 風 一
- 18 mussa[ja] tsu ka lali?ulu / puwai[i] / mako-
 行く 歸る 呼びつ
- 19 ?ato ami kai laba:us li?ulo ami ami / o:i
 叫ぶ 曰

4. シヤバウス

昔々、シヤバウスとシヤシウシユが居た。シヤシウシユが嘘を吐いて、「あなたの豚を殺してそして餅を作つて持つていらつしやいとあなたのお母さんがおつしやいました」と、シヤバウスは承諾した。彼女の豚を殺した。餅をついて背負籠に充した。「あなたが籠に乗れば、人々は見ないから、上衣と腰衣を遣はしなさい」とシヤシウシユはシヤバウスに云つた。彼女は背負籠に入り、シヤシウシユは背負つた。「サア休みませう。私は水を飲む事にしよう」とシヤシユが云つた。肉と餅を取つて道に置いた。肉と餅をみんな置いてから太陽の休憩場まで連れて行つた。風を一匹置いて、シヤシウシユは歩き、歸つた。シヤバウスは「シヤシウシユ」と呼んだ。「オーイ」と風

3. pa:patsal wai ja pa:patsi 殺す, 分詞, pa:patsa[ja] 殺さる者, pa:patsal は終音 a の脱落. 助辭 ai の「條件」を示す用例.

4. talaki: <talaku o 汝の豚, o の爲め ü> i.

5. amila ami の過去.
 maimatsu 比較 moamatsu 可能, 出来る, maimatsu 可能にす, 承諾す.

6. pilii 比較 mi[i]i 充てる.

9. ?itaija = itate 人に物を與ふる時に云ふ「それ」而して受取る時には inai / nai と云ふ.

11. sa: pijapija pi:pi 「顔に掛け背負ふ」の分詞, sa: 彼.

12. mana 助辭. 參照. 712頁註1 輕い意味に使用せられたる例.
 miama mima 飲む, miama これより飲む.

14. litsoloku <ts-um-oloku 餅を作る.
 mata[i] 持参せる物を殘し置く.

15. sa:patakutsuwa <matakutsu 既に無くなる. sa:ko-kotsuwa ka tsutsu?u na 彼は食べ盡す, mata[i]ku:tsu ka tsutsu?u isa ka sarija kanii 此の家は皆外出.

16. pura:pa: <murava ...まで行く.
 tatowaparawa <towaporo 休む, ta-a 「場所」.

19. li?ulo lali?ulo の呼稱. 第一音節脱落.

- 1 ami ami kai labaus / murmita: mi ma-
出づ 彼女
- 2 isana ami kai tsa[atsü / sa: pakatupia: mi
は居た 或 彼女に 潰されたもの
- 3 makopalapa[ala makop[aro / oka'a tsu ami
向一回 呼ぶ 無
- 4 kai uma[ia]para[ü / muromita ka talijari-
返事 呼び続ける 太陽
- 5 ja / kumita isana alaisa: maina: tatowa-
見る 彼女を 誰 其處に 休み場
- 6 puruwa: ko a:ni ko ai / ami ami ka
我 食ふ物 我 日
- 7 talijarija / labaus wako / litalisu[ua: ako
太陽 我は 騙されたもの 我は
- 8 jalipulu / matsi auna:nai / maula[ü]a maü
それならば 静止する
- 9 uma[ia] ku manana liku[uta ku lokulu la
取る 我 其處を替わられた 我に 豹
- 10 tsumi'ü la lijapila ku na ilau / mussa[ia
熊 面して 形がれたもの 我に 汝は 行く
- 11 uma[ia] puwai[ia / ma:kari n labausu tsu:
取るため 歸る 話す 行け
- 12 mau anai ju ma:ngkanau / mussa[ia ka
汝 友人 汝の 其處に居る 行く
- 13 labaus / malokwa n [akowa anai isa /
行く 水汲場へ 同名者 彼女の
- 14 sa:ütüwala ami kai ina isa kai anai isa /
熊の形見するもの 母 彼女の 同名者 彼女の
- 15 tsila: mau bü[ü]bü ai ta / malokwa n anai
いすかう 一緒に 行かう 我々は 行く 同名者
- 16 ami ami / marinu waku uk'a ka tikoro
日 恥しい 我 無 着物
- 17 ko / ma:ru wa tikoro anai ju / ami jami
私の 有 着物 同名者 汝の 日
- 18 isana / mu[ü]bü mijopo sarija anai isa /
彼女は 同伴する 到着する 家:に 同名者 彼女の
- 19 kumita ka tsutsu'u / sasua tsu wa
見る 人々 二人

3. makuva:va:u <makuva:u 呼ぶ。
6. a:ni <umau 食ふ。
9. liku[uta <kulutü 皮。
10. lijapila (雨, 日光を)防ぐ。比較. patipi[ia 熱き鍋を
手にて持つために作りし革製の「鍋つかみ」apiji 甲
冑等の防禦用具。
11. tsu: mau
12. anai 或は murijanai 同名者。
ma:ngkanau <kanau 其處, 接頭辭 ma:ng-「住む人」
ma:nglakurutsa 六龜の人々。

は返事した。「あなたは何處へ行きま
したか」とシャバウスは云つた。[籠か
ら]出ると其處に虱が居た。潰しても
一度呼んだ。返事が無かつた。太陽
が出た。彼女を見て「己の休み場に
るのは誰ちや食べるぞ」と、太陽は云つ
た。「私はシャバウスです。私はシャ
シュシュに騙されたんです」。「それ
なら、ちいつとしてゐなさい己は豹と
熊の皮衣を着て[暑くならないやうに]
お前を保護してやらう」取りに行つて
歸つた。シャバウスに云ふやう「行け、
お前と同名の女が向うにゐる」彼女の
同名者の水汲場に行き、彼女の同名者
の母は彼女に見附けられた。「サア御
一緒にあなたの同名者のところに參
りませう」と云つた。「私は著物が無い
から恥しいです」。「あなたの同名者
は著物を持つてゐます」と彼女が云つ

13. [akowa <mu:[aku 水を汲む。
14. sa:ütüwala <mütüwala 發見す。
inaiisa kai anaiisa kai [a inaiisa と anaiisa の結辭と
して用ひられたる例。
15. bü[ü]büaita <mu[ü]bü 參照 709頁註 9。
17. ma:ru a tikoro anaiju ma:ru ka tikoro anaiju に
同じ。
19. sa:uwa tsu (wa) labaus 結辭 a は ka と同じ. sa-
suwa 二人 <suwa 二。

- 1 labaus ami ami ka tsutsu'u / maritsip
日 人々は 嘘
- 2 ami ami ka usuma:nu / ralo:wa tsu wami
日 他の方には 暫時経て
- 3 matsu isa sasua / a:ji ku ai ami ami
誠に 彼等は 二人 取る 我 日
- 4 ka tsutsu'u / matsu nu uma[ia ai isana
人々 もし 汝 貰ふ 彼女を
- 5 ja pataikito n na:ni ka [imogolo mu
挿し立てる 此處に (汝等の)館を 汝の
- 6 mümüa / ma:tsu (w)ai ja uwa[ü]bü ai isa
すべて もし 通過する(館等を) 彼女
- 7 nau:tsapi ja / ilaisa ai piusumanu isa /
降下する 彼女のものを 夫婦となる 彼等
- 8 mata[abau]abau ka [aupari / mataükütu
汝をさす(挿す)にても館になる (男名) 挿した
- 9 n [imogolo isa / mu[ü]bü tsu isana ka
館を 彼女の 傳ひて降る
- 10 labaus / muritsapi sa:aua tsu ka [aupari /
降る (挿す)により、言ふ
- 11 muriusumanu / ralowa ami moasa[ia ami
夫婦となる 往く
- 12 ka [aupari müritsuka buri jaku na labu-
狩 下され度い 悪い弓
- 13 ru ami ami ka labaus / misainija au ami
日 何にする 日
- 14 ami ka [aupari / mumuara ku ami ami
玩弄する 我 日
- 15 ka labaus / uma[ia ni [labouru / ubura
取る 取る 興へた
- 16 isana musa[ia: müritsuka / nisukas (w)a-
彼女を 行く 狩 其後に
- 17 mi ka labaus / mijaukütü isana [alita
挿す 彼女を 外庭
- 18 pokowa ni [alomü / arapusipi ami tuma-
灌ぐ 水 蘇生し來る 根附く

2. ralo:watsuwami matsuisa sasua 一人の labaus
を屋内に匿し置きしが人々は戸の隙間より覗き見し
ため labaus の二人のあること露見せり。(pasü[ia 説
明)
3. a:ikuai >uma[ia 取る a:i-ku-ai「私に取らせて呉れ」
比較. uma[ia ajaina 娶る、「娶る」の同義語多し。例。
towaporon tsutsu'o 人々は座す。muri[ia sumanu
夫婦になる。
5. pataikito <mataükütu (地に)挿し立つ、pataikito は
使役形にして「挿し立てよ」と命令の用法。此際「ü」i
の音韻變化生ず。
7. piusumanu <usumanu 夫婦。
9. mu[ü]bü 1) (柱等を)傳ひ昇降す、2) (橋を)通過す、

た。同伴して同名者の家に到着した。
人々は見た。「シャバウスが人になつ
た。不思議だ」と人々は云つた。「嘘
だ」と細君連が云つた。しばらくする
と本當に二人になつた。「私は娶りた
い」と人々は云つた。「もし彼女を貰ひ
なければ、皆さんの館をみんな此處に
挿し立てて下さい。彼女の傳つて降
りる[館の]持主と夫婦になることに
たしませう」と彼女の同名者の母が
云つた。シャウガリは最後に館を挿
した。シャバウスはこれを傳つて降
りた。シャウガリが貰つて、夫婦にな
つた。しばらくしてシャウガリは獵
に行つた。「悪い弓を私に下さい」と
シャバウスが云つた。「何にするか」と
シャウガリが云つた。「私は遊びます」と
シャバウスが云つた。シャウガリは

3) 同伴す。
10. sa:aua tsu sa:aua 彼の取るもの、sa: 彼、aua <
uma[ia 取る。
11. muri-usumanu <usumanu 夫婦。
12. buri[ia ku 我に興へよ。(我に興へらるもの) buri (他
人へ) 興へよ、ubura isara 其を興ふ(其に興へらる
もの)。
labu:ru bu:ru 弓, 接頭辭 la-「拙悪」なるものを示す。
[alitu 獵砲 [litaku 刀
[alalitu へは獵砲 [alitaku なまくら
[ajaina 女
[ajaina やくざ女
18. arapusipi <isipi 生命。

- ¹ go:ru / matakakuwa n alaina ku ina|u
向けよ 我の兩親 先端
- ² isana ami ami ka labaus / maltaisa ka
彼女を 大きくなる
- ³ ratsu?u / matakakuwa n halaina isa ka
竹の一種 兩親
- ⁴ ina|u isa / matsi ai ma|uŋuŋu ka laŋari
先端 出てくる、見ないで射しがる
- ⁵ ja / ilaku ja umija: kiai sasawana
通る 地面
- ⁶ pa|ija, ŋi|li / matsi ai ku pana ai ja
後に行く 若し 不 射る
- ⁷ tapumija: kiai mutsükü|ü ami ami ka
禁ず 来る 日
- ⁸ labaus / mussa|a tsu mutokusu n ratsu?u
行く 運る(獲、採り等を) 竹
- ⁹ mijuŋu n ina|uisa / kumita ka a|aina
到着する 竹の先端へ 見る 兩親を
- ¹⁰ isa / ilaisa a labaus ta nai ami ami ka
彼女の 彼女は 我々の 日
- ¹¹ mamaini / puwai|i mama ai ka / sa:ri-
子供 歸る 儀上により
- ¹² ukauka lali?u|u nai ami ami ka ?ina isa /
日鹿子に成る 日 母 彼女の
- ¹³ maramasü ka ?ina isa / kumita isana
交代して自命である 母 彼女の 見る 彼女
- ¹⁴ matsu isa labausu masapasaparu tsu ami
眞に 彼 喜ぶ
- ¹⁵ ina isa / mutsapi ka labausu / puwaroma
母 彼女の 降下す 家に入る
- ¹⁶ mijuŋu ami ka laŋari / lipijapi ni pa-
到着する 背負ふ 肉
- ¹⁷ pa?a / ra|o:wa tsu (w)ami ha|opa:|ija, ?a-
な 共同労働をなす

- 1. matakakuwa √kakuwa tapikakuwa (速く行く)方
向 litakakuwa 例へば(磁石の示せし)方向 mataka-
kuwa 或る方向へ向く(例へば木の枝、
alacina alaina 女, alacina 兩親、
- 2. maltaisa <taisa 大、
- 3. halainaisa h は「涉り」
- 4. ma|uŋuŋu 居らざる爲めに懐しく思ふ、ma:rumuku
寵愛す、
- 5. kiai 「と云へよ」「と傳へよ」
- 11. puwa-i|i mana ai mana 「繼續」の意を有す、「尙」「相
變らす」否定と共に「未だ…せず」繼續より轉じて「直
ぐ後に」「又」命令と共に用ふる時は早に命令を強む、
ai 助辭「疑問、不明」 puwa-i|i mana (問も無く、尙
來せん puwa-i|i mana ai 歸來するか歸來せず (ai

悪い弓を取つて、シヤバウスに與へ獵
に行つた。其後でシヤバウスは外庭
へ挿して水を灌いだ。生きて根附い
て来た。「この先端よ父母の方へ向け」
とシヤバウスが云つた。竹は成長し
てその先端は彼女の父母の方へ向い
た。「もうシヤウガリが[私がゐない爲]
淋びしく思ふなら、地上を通つて後か
ら来て下さい」と[シヤウガリ]に傳へて
下さい。もし[獲物を]射てないならば
来ちやいけないと傳へて下さい」とシ
ヤバウスは云つた。竹を渡つて行つ
て先端に到着した。彼女の父母は見
た。「あれは我々のシヤバウスだ」と子
供が云つた。「歸つて来るものか、シヤ
ウシユが行衛不明にしたんですも
の」と彼女の母が云つた。[子供に]代つ

- のために反語的)
saariuka-uka <uka?a 缺く、無、saa 彼、arijapani-
jaku ni sa:sa|litaako nai na ra|ako tsumi?i urtsa-
tsapija nako サルシタの分花島へ熊皮の動物散けよ、
我は降り行く、竹の端に來りし時 labausu (は上記の
歌を歌ひしにより母は labausu となると知れり(ガ=
社傳承)
- 15. puwaroma 比較 rürüman sa|ija 屋内 rürüma ni (?)
sa|ija? rürüma <rüma.
- 16. lipijapi 現、pipapi 顔に掛け負ふ、
- 17. a|opa:|ija, ?arüü 共同労働、數戸の家共同して労働をす
ることあり、laliu| の家と labausu の家は共同労働
を營み、laliu| は labausu の母と共に藪探りに行け
り、

- ¹ rüü tsu na lali?u|u / tarakiju?u tai|üpüp
薪を探る 對る
- ² puwai|i n sarija / tsomulokü ma|ü|ü|ü|ü /
歸る 家 餅を作る 丸める
- ³ pa:|a|uma: ta ami ami ni lali?u|u / kit:
呑み込ましめる 日 見よ
- ⁴ maü pitsu:tsu:ra ni imaru ami ami ni
中に入る 豚肉を 日
- ⁵ lali?ulu / matsu ka pa:|a|uma labausü
呑み込んだもの
- ⁶ ami ja / pitsu:tsu:ra ami n imaru / matsu
中に入る 豚肉を
- ⁷ ka pa:|a|uma lali?ulu ami ja / pitsu:tsu:ra
呑み込んだもの 中に入る
- ⁸ ami n likürapa ?atu?u / ma:ruaru ka
焼けた 石 先になす
- ⁹ labausü ma:|umü / kitsuŋu|u ka lali?ulu
呑み込む 次になす
- ¹⁰ ma:|umü / ma?a|ulu n matsi?i aratsi ka
呑み込む (熱きものを呑む) 熱き 熱くなる
- ¹¹ tsibuka isa / matsi?i saapa|üsapa ami la
腹 彼女の 死す 彼の寝させるもの 害して
- ¹² apatsarü?a / uma|a ni loapo / la ikuwa
布圍をかける 取る 日 而して入れたもの
- ¹³ isana ka übütsü|ü / la ija|uku|ukuwa n
彼の 粟 而して (長きものを)入る
- ¹⁴ pap|i| / puwai|i ka ina isa litaraki /
杵を 歸る 母 彼女の 薪を探る
- ¹⁵ tarutsuboŋ ai ta ami ami ni lali?ulu / ku
出會ふ 日 不
- ¹⁶ wami arija, ?a: ?arüü / miuŋu ami kai ina
返事する 到着する 母
- ¹⁷ isa / umarutsarutsaku uma|a ni pap|i|
彼女の 怒る 取る 杵を
- ¹⁸ maritükü isana / ku tsu kuwabi:biki /
打つ 彼女を 不 動く
- ¹⁹ sa:rutaüba / limatsi?i tsu wami / lita?jara
或るの蓋を取り除くもの 死んだ 如何して

て母が見ると、本當にシヤバウスだ母
は喜んだ。シヤバウスは降りた。シ
ヤウガリも到着して家へ入つた。肉
を背負つて来た。シヤシウシユは[シ
ヤバウスの家と]共同労働をしてゐた。
薪を探り割つて家に歸つた。シヤバ
ウスは餅を作つて丸め「あなたと私の
二人で呑み込まうぢやないか」とシヤ
シウスに云つた。「御覽なさい豚肉が
中に入れてありますよ」とシヤシウシ
ユに云つた。シヤバウスの呑み込ん
だものは、豚肉を中に入れてあつた。
シヤシウシユの呑み込んだものは、焼
石を入れてあつた。シヤバウスは先
きに呑み込み、シヤシウシユは次に呑
み込んだ。熱いもの[を呑んで]焼け彼
女の腹は熱くなつた。死んだ[から]彼
女は横たへて布圍を掛けた。日を取
り、彼女は粟を入れた。杵を日に入れ

- 1. tarakiju <kiju?u 薪、節音 u は脱落、
- 2. ma|ü|ü|ü|ü 比較, mari|ü|ü|ü 丸き、
- 3. pa:|a|uma: <maa|a|umü <ma:|umü 呑み込む、pa-
a|a|uma 「使役」の「分詞」、
kit: maü maü は命令の助辭、
- 4. pitsu:tsu:ra <tsu:tsu:ra 中、
- 8. likürapa 焼けしもの、<kumakürzü 焼く、
- 9. ma?a|ulu 知らず熱したる物に觸れ熱を感ず、(熱湯
を呑み)熱を感ず、ma|ia|ulu 熱きもの(例へば湯)を
注ぎ掛く、

- 10. matsi?i 熱き(もの)、aratsi 熱くなる、√tsi.
- 11. saapa|üsapa <ma|üsapa 寝る、
- 12. apatsarü?a <tsarü?ü 掛物、布圍、
- 13. ija|uku|ukuwa <ija|uku|uku 語根 *|uku 比較、
mata|uku|uku.
- 14. litaraki 現、tarakiju, ju 脱落、
- 15. tarutsuboŋ... ガ=社傳承に依れば、少し雨降り始めし
故に「干物を取り入れて下さい」と母云へり、
- 19. sa:rutaüba sa-arutaüba <marutaübü (蓋を)取り
開く、maru- 類例、marutsarü?ü 布圍を取り除く、

- ¹ isa matsi'i / magusipi manani kitsobana-
彼女は死ぬ 生きてゐた 尙 少し以前に
- ² na amiami ka labaus / tsumapi tsu ka
注々
- ³ ina isa /
母 彼女の

た。彼女の母は薪採から歸つて来た。
「途中で出會ふんだよ」と母はシャシウ
シユに云つた。返事がなかつた。母
は到着した。怒つて杵を取つて打つ
た。動かない。彼女は布圍を取り除
けると、死んでゐた。「どういふわけで
死んだんでせう。ついさつきまだ生
きてゐたんですが」とシャバウスは云
つた。彼女の母は泣いてしまつた。

5. tapulatsüpu la ?arümü

- ¹² jimürütsüka liuma]a butolu / mussa]a
狩獵せられた 取られた 鹿 行く
- ¹³ pila]opu / pupagu n papa?a / umija n
釣る 釣針に魚を掛す 肉 通る
- ¹⁴ lika?a ka ?arümü / kaitaütaü]üpü / uma-
下 穿山甲 水に入る 繰返し
- ¹⁵]a]a n pa] tapulatsüpu / p]aba]abaü n
取る 餌 猿 最後に行ふ
- ¹⁶ ?ara?ü / umatsuka ka ?arümü a]ali n
内臓 起立する 穿山甲 より
- ¹⁷]alom / arakitsa tsü ami ka tapulatsüpu /
水 驚く 猿
- ¹⁸ mitsulu tapija]i / pa]ija]i]i ka ?arümü /
逃ぐ 歸る 従ふ、後を追ふ 穿山甲
- ¹⁹ tsu u mu]akuwa ami ami ni tapulatsüpu /
汝 水を汲め 云ふ 猿
- ²⁰ mussa]a ami ka tapulatsüpu / mu]aku
行く 猿 水を汲む

5. 猿と穿山甲

猿は獵に行つて鹿を獲つて、釣に行
き(鹿の)肉を[針に]つけた。穿山甲は水
を潜り、猿の餌を取つてゐた。最後に
はらわたをつけると、穿山甲は水の中
から立ち上つた。猿は驚いて、逃げ歸
つた。穿山甲は後から従いて来た。
「水を汲んで呉れないか」と猿に云つ
た。猿は行つた。水を汲みに行つて
彼の水汲竹筒に小便をした。(猿は)歸

1. manani mana ni mara 尙、未だ参照707頁、註12. ni
指示代名詞、比較。mana na magusipi mana ni
kü]a 「昨日も尙生命を保てり」、magusipi mana na
「今尙生く」mana ni は眼界に存せざるものに就き
云ふ時、mana na は眼前に見つゝ云ふ時。

12. jimürütsüka 現在 müürütsüka.
liuma]a 現在 uma]a.

13. pila]opu <]a]opu 釣針。
pupagu <]apagu 餌。
14. uma]a]a uma]a 「取る」の「反覆」。
18. tapija]i]i 比較。puwa-]i]i 「歸る」 tapi- 「方向」 tapija]i
n sa]ija 家の方へ版る。
19. tsu u mu]akuwa mu]akuwa は mu]aku 「水を汲む」
の「分詞」。「汝により水汲まる」。

- ¹ miibu ni]alapu isa / puwajiji mima ami
小便す 水汲竹筒 彼の 歸る 飲む
- ² ka arümü / a]a]ija ami ?i:bu u jau ami
穿山甲 臭氣を有する 小便 汝の 云
- ³ ami ka ?arümü / tsu u]upala man] /
ふ 穿山甲 汝 尙一回
- ⁴ mussa]a ami]opala / omiga]a]a]a ami
行く 尙一回 尙一回す
- ⁵ miibu ni]alapu isa / puwajiji jami / ma-
尿す 竹筒 彼の 歸る 尙
- ⁶]alapa]a ka arümü mima isana / hilaisa
一回 穿山甲 飲む 其を 其
- ⁷ ami iibu / maritsipi ju i]au / mara nana:ni
小便 嘘をつく 汝 居る 此處
- ⁸ kitoo butoku]u / maramasü aku mu]aku /
見よ 魚 交代す 私 水を汲む
- ⁹ miskas ami kai tapulatsüpu / umi ni
留守をなす 猿 食ふ
- ¹⁰ butoku]u / uma]a ni]ipasü ?arümü / upa-
鹿 取る 矢 穿山甲 數回
- ¹¹ napana ni]atu?u / puwajiji ka ?arümü /
發射す 石 歸る 穿山甲
- ¹² tsu u wanuwa ajaü butoku]u nai / uka?a-
汝の 食へたもの 魚 無
- ¹³ a / saanuwa ka tabua / kito mau]ipasü
彼の 食へたもの 鳥 見よ 矢
- ¹⁴ u nai / la]ijarumi jaku isana upana / ku
汝の 而して使用したる 私 其 射る 不
- ¹⁵ wako kuritüwa]u / matsi jau na:na]i pilisi
私 命中す 猿 拭ふ
- ¹⁶ ai ta na tanü?ü ami ami ka arümü / pilisi
我々 刺木 云ふ、 穿山甲 拭ふ
- ¹⁷ ka arümü / matija]a]u n papa?a / pilisi
穿山甲 附着する 肉 拭ふ
- ¹⁸ ka tapulatsüpu / matija]a]u n uripi / tsija: /
猿 附する 魚骨
- ¹⁹ hilau i]au umu isana ami ami ka arümü /
汝 食へる 其 云ふ 穿山甲
- ²⁰ matsi jau na:na]i / tsija aruka]au]amar
焼く

つた穿山甲は飲んだ。「臭いね君の小
便だね」と穿山甲が云つた。「も一度行
つて呉れ給へ」も一度行つた。も一度
竹筒に小便をした。歸つた。も一度
穿山甲は飲んだ。「これは小便だ。君
は嘘をついてゐる。此處にゐる魚を
見てゐてくれ給へ。僕が代つて水汲
をしよう」。猿は留守居をしてゐる、魚
を食べた。穿山甲の矢を取つて、石に
幾度も射つた。穿山甲が歸つた。「君
は此處にあつた魚を食べたにちがひ
ない。「無くなつたんだよ。鳥が食
べたんだよ。その君の矢を見たまへ、
僕は其で射つたんだけど、當らな
かつた。「それならお互に刺木で(お
尻を)ふかうぢやないか」と穿山甲が云
つた。穿山甲が拭くと、肉を附けてゐ
た。猿がふくと、魚の骨を附けた。「ソ
ーレ、それを食べたのは君だよ」と穿山
甲が云つた。それぢやさあ焼きあひ

2. ?i:bu u jau jau 感嘆詞「確定」の意を有す。例。
umau:uma na jao 君はまた食へてゐるんだな！

3.]opala 比較。makopa]a 一回 omiga]a]a]a ma:ga]a-
]a]a.

7. i]au =jau
mara <maru.

12. tsu u (wanuwa ajaü anuwa >umau 食す。ajau=
jau.

18. uripi 魚の骨 uripi 人間眼解の骨 tsü]a].
tsija 感嘆詞。本當の事を發見せし時に使ふ。それか
か！。

- 1 ai ta / pa|uwa|u waku ami ami ka
我々 先に爲す 私 云ふ
- 2 ?arümü / mussa|a ami ka ?arümü / mu-
穿山甲 行く 穿山甲
- 3 tsuutsu: n tsatsapoka / kuma|i / saa|amara
入る 茅原 掘る 彼の焼いたもの
- 4 tsu ami ka tapulatsü|u / mussa|a ami
行く 行く
- 5 mutsuutsu: n lika|i isa / marika?u|u ka
入る 掘ったもの、穴 其の 燃やす
- 6 apulu / murumita ami tükü|ü|u / mutsu-
火 出る 座る 起きる
- 7 kulu ami kai tapulatsü|u / lita?ijara u
行く 何故 汝
- 8 ka ku wätsulu / ami ami kai tapulatsü|u /
不 燃焼する 云ふ 猿
- 9 uma|a kija n kumukumu na marisobo-
取る 茅の枯葉 集む
- 10 sobo la / utsuwutsu: wa / ku u kija
而して 入る 不
- 11 uwatsulu / a?u ami ami kai tapulatsü|u /
燃焼する はい 云ふ 猿
- 12 umulija aku lamaru waku ai / a?ü ami
交替する 私 焼け 私 はい 云
- 13 ami ka arümü / saalamaru ami ka ?a-
ふ 穿山甲 彼の焼いたもの
- 14 rümü / muatsulu ka tapulatsü|u / musu-
穿山甲 火傷する 猿 焼死
- 15 patši|i / saporapitsija ka tsibuka isa /
する 彼の切つたもの 腹 彼の
- 16 uma|a ka atši isa / aba:bu ni u:|u /
取る 肝 炊く 飯
- 17 aritsukaa ka tapulatsü|u / pau isa n
牙の食されたもの 猿 食はす 彼
- 18 a|uwa ka atši|i apatsamai isana / lipana
取つたもの 肝 副食物にする 其を 射したもの
- 19 isa ka la?upa|i / mitsa|ü|ü|ü kiitsubanana /
彼の (人名) 家の前を通る 小時間前
- 20 ami ami ka ?arümü / saakukutsuwa ka
云ふ 穿山甲 彼の食へ終へたもの

1. pa|uwa|u <mu-a|oa|o 先に爲す *V|a|o
3. aruka|aa|amar|ü|ü <oamaru 焼く、開墾の山焼。
tsatsapoka <tsapoku 茅。
5. lika|i <k-um-a|i 掘る。
marika?u|u <mi?u|u 到着す山焼をして頂上迄焼け
る事を marika?u|u と云ふ。

をしよう。僕を先に焼いてくれ給へ]
と穿山甲が云つた。穿山甲が行つて、
茅原に入つた。(地を)掘つた。猿は火
をつけた。(穿山甲は)穴に入つて行つ
た。火は(茅原を)焼拂つた。(穿山甲は
穴から)出て座つてゐた。猿は来て、何
故に君は焼けないのかと猿は云つた。
[茅の枯葉を取り集めて、入ると、焼けな
いさうかいと猿は云つた。[僕が替る
から僕を焼いてくれ給へ]宜しいと穿
山甲が云つた。穿山甲は焼いた。猿
は火傷し、焼け死んだ。彼の腹を切り
開き、肝を取り、飯を炊いた。猿は呼び
起された。取つた肝をおかづにして
彼に食はせた。[シャウガリが射つた
んだ。今し方家の前を通つて行つた
よ]。と穿山甲が云つた。猿は肝を平
げた。[自分の肝を食べたよ]と穿山甲
は云つて、彼の穴に入つて行つた。猿
は穴を石で詰めた。穿山甲は掘つて、

8. ku (w)atsulu muatsulu 燃焼す。
9. kija 話手の考、希望、警告を示す。maruamija kija n
kani?i 寧ろ此を使用せられよ、maga|ai kija umu 何
としても食ふつもり(話手の希望)。
14. muatsulu 火傷す |amaru 點火す。
18. apatsamai <tsamai 副食物。

- 1 tapulatsü|u ka atši|i / kuwajili ju n atši|i
猿 肝 自己の肝を食ふ 汝 肝
- 2 ju ami ami ka ?arümü / mussa|a ami
汝の 云ふ 穿山甲 行く
- 3 mutsuwutsu: ni lika|i isa la: / saawü|u-
入る 穴 而して 彼の詰め
- 4 wupa n bato?o ka tapulatsü|u ka talu-
たもの 石 猿 穴
- 5 wuru isa / kuma|i ami kai ?arümü / pi-
彼の 掘る 穿山甲 通
- 6 ja|ibatu ni tükülü / puwajili taku|i:|ijonu
引抜け出る 他の場所 歸る 誰かに来る、誘はする
- 7 ni tapulatsü|u / lita?ijara u pakuwajili ni
猿 何故に 汝 自己の體を食ふ
- 8 ilaku ni atši|i ku / ku waku wa tsai|ija /
汝 肝 私の不 私 知る
- 9 lijapali jaku n tükülü ami ami ka ?aru-
より来る 私 他の場所 云ふ 穿山
- 10 mü / puwajili manai ka / üpüwü|a tsu
甲 歸る 詰められた
- 11 ka ilaku na ?atu?u matsi i tsu wai
私 石 死ぬ
- 12 manai ami ami ka tapulatsü|u /
云ふ 猿

6. umaü ni |aboko
食ふ人 砂

- 13 ma:ru kai a|ama / umaü ni |aboko /
有る 昔の人 食ふ人 砂
- 14 ma|okwa ni sakuraju ta|a |aboko / ku-
行く 河 運ぶ 砂
- 15 mita kai a|aina |iuma|atopo: tapirasu /
見る 女 破裂した 岩
- 16 omolono ni takalatsa?a pa:|a ni arisaputa
依頼する 臺灣島 取らせる 帶
- 17 ta|a: |aboko / aparuka ami / taraba:barüü
運ぶ 砂 紛失する 見廻はす
- 18 kumita isana ma: ni tapirasu / mussa|a
見る 有る 岩 行く

1. kuwa-|i 自己に歸る、自己の内を食す。比較 puwa-|i
類例、kuwa-|i n ti?i 自身の糞を食す。
5. pijalibatu 通抜け出す。
6. puwajili manai manai >manai 参照原文4註。
10. üpüü|ü umaüü|ü|ü 詰める、塞ぐ。
16. ta|a 比較 uma|a “取る” t-a|a

7. 食砂人

他の處へ抜け出した。猿を訪ねて歸つ
た。[何故に君は僕に僕の肝を食はせ
たのだ]。[僕は知らない。僕はよそか
ら来たものだから]と穿山甲は云つた。
[あいつは歸れやしないよ。己は石を
詰めたから死んでゐるだらうから]と
猿は云つた。

昔々、食砂人が居た。河へ砂を取り
に行つた。岩が破れて(現れた)女が見
てゐた。(女は)臺灣島に砂を取つてゐ
る人の帶を取つて来いと頼んだ。(帶
が)見當らない。(食砂人は)見廻すと共
が岩の處にあるのを見た。登つて行

17. |iuma|atopo umaratopo? 1) 銃聲 2) パチンコ音を
立て破裂す。3) 羅の卵を破り出づる。
18. pa:|a 比較 uma|a p-a|a。
20. kumita isana isana (は)帶、對格?
ma: 比較 ma:ru 存す ma: ni 向うに存す、ma:isana
其處に存す。

- 1 mibararū kumita isana ma: isana ka
登る 見る 彼等 有る 其處
- 2 sasūwa ka halaina / pi:mapatsi ami /
二人 女 酒を有する
- 3 saapima ami / muʔubu tsu wami malo-
彼女の飲ませた 共に行く 行く
- 4 kuwa ni saʔija isa umaū ni [aboku /
家 食ふ 砂
- 5 a:laiša ka kanii ami ami / maiʔuturau ni
何 此 掃く
- 6 [aboku / puwajilī ami kai la:ma:ma isa
砂 歸る 年長者
- 7 umarutsarutsakū isainijata ka aparaina:
怒る 不要 必要ないことをする
- 8 sū ha:nu ami ami / miʔupisi ami kai ha-
食物 云ふ 憤慨す
- 9 laina la: musaʔa puwajilī / makutalamū
女 而して行く 歸る 試食する
- 10 ami kai umaū ni [aboku ni ūʔūrau po:si-
食ふ 砂 白米 糶
- 11 jam kusaau musaʔa ami mitsuʔutsuʔulu
美味 行く 跡を追ふ
- 12 halaina / makiailī / marowaro tsu wami
女 戻す 居る
- 13 ni sarija / matši kijarijamū / umaʔa ni
家 壺を取る 取る
- 14 utsani / umiikuwa ni tarijamuwa mijaʔi
一 置く 壺置場 充滿する
- 15 jami / umaʔa ami ni utsani ka ūʔūrau /
取る 白米
- 16 umiikuwa ni ta:ʔūra mijaʔi jami / aʔaina
置く 米入籠 光つ 女
- 17 apūū[ajūmū ami ami ka tsutsoʔo /
奇蹟をなす人 人々

つて見ると二人の女が居た。酒をも
つてゐて、飲ませてくれた。(女は)食砂
人の家へ従って行つた。「此は何です
か」と(女は)云つて、砂を掃き出した。年
寄が歸つて怒り「食物を粗末にするか
ら(此の女は)要らない」と云つた。女は
憤慨して歸つて行つた。食砂人は白
米を試食すると美味だつたので女の
跡を追ひ、連れ戻つた。(男の)家に引續
き居ることになった。彼女は壺を切
り取るには、一本を取つて壺置場に置
く、すると一杯になつた。一粒の米を
取つて米入籠に入れると充滿した。
「奇蹟をする女だ」と人々は云つた。

1. mibararū <bararū 上, mi-.
2. pi:mapatsi <mapatsi 酒-接頭辭 pi-「所有者」pi-
saʔija 家持, pi:alaina 妻帯者.
3. saapima sa-apima <mima 飲む.
5. maiʔuturau 反覆形, maiʔaʔuturau 同義, 比較. si-
ʔaʔuturau / sipaiʔaʔuturau 等.
6. la:ma:ma <al:ma 昔の人, 最後の音節反覆せる例.
7. umarutsarutsakū marutsakū 怒り易き人の反覆.
isainijata / misainijata.
9. la:musaʔa 比較. la:umau 食べごこなふ, 接頭辭 [a-

12. maki-aiʔi 比較. pu-a-ʔi 歸りし者を再び元へ戻す.
marowaro ma:ru 存す, の反覆.
13. kijarijamū <arijamū 壺.
14. tarijamuwa <arijamū ta-wa 参照, 707頁註16.
mijaʔi 比較. miʔi 充てる, mija-「今後…になる」mi-
「現在…なり」, mijaʔi これより次第に充つ.
16. ta:ʔūra <ūʔūrau.
17. apūū[ajūmū 奇蹟, …をなす人, 動詞 mi[ajūmū.

7. 地 界

1. orti
- 2 ma:ru kai ala:ma kai / ukaʔa ami kai
有 昔(の人) 無
- 3 a:nu isa / kumaʔi (j)ami ni talibaku[alāi /
食物 彼等の 測る 山羊を
- 4 kiʔaʔuili ni urti / tumali-parariju ni o:ʔo
測られる 地界に 編む 角を
- 5 ʔotolo / moʔtsapi ni urti / tak[i:ʔijoppu /
鹿の 降る 地に 遊ぶ
- 6 kumita ami n pi:anu / masapa:sa:paru
見る 食物を有する人を 喜ぶ
- 7 (w)ami / omo ni liʔsoloku koʔatsoku /
食ふ 餅を 満腹する
- 8 matši tšumoloku ka / tsutsuʔu urti ija /
もし 餅を作る 人々は 地の
- 9 umaʔaʔi n palo isa ka liʔsoloku maʔat-
呼ぶ 湯氣 共 餅の 満腹す
- 10 suku ami / kumita ami ni mijaan ni
る 見る 搗くを
- 11 ubutsoʔpu / kumita aku ami ami / mai-
粟を 見せよ 我に 曰 手で
- 12 kaūru isana hapoʔaluʔalu n aloku isa /
搗ぶ 彼等は 狭き間に挟む 爪の 彼の
- 13 umaʔa ami n risaʔu / umiikuwa n puloku
取る 豆を 置く 腕に
- 14 isa / umaʔa ami ni laʔomi / umiikuwa n
彼の 取る (鼻息)をアツラ 入る
- 15 tsariʔa isa / matʔari: n lo:polo mairap /
耳に 彼の 頭に寄りつく 粟 甘藷を
- 16 iʔipiku ni talijarija ami ami / maʔatsoku
日陰となす 太陽を 曰 満腹する
- 17 tso ami / mutiʔi (j)ami / kumita ami ka
脱糞する 見る
- 18 tsotsoʔo orti / saapaū[auʔa ami / muʔoilī
人は 地の (標にて取れる)標とする 欲する
- 19 n piʔiuso / taiša ka [iuso isa / tamalūʔo
肛門 大なる 肛門 彼の 作られる
- 20 ka [iuso lamu ami ami / saaruwamija
肛門 我々の 曰 彼の道具となす
- 21 ami ni tatuʔu kai usuma:nu kuʔijojiosu /
誰か 他人 肛門の穴が明けられる

昔々、食物がなかつた。山芋を掘つ
てみると、地界まで穴があいた。鹿角
を梯子に編み、地界へ降りて、遊びに行
つた。食物を持つてゐる人々を見た。
喜んだ。餅を食べて満腹になつた。
地界人は餅を搗くと、餅の湯氣を嗅い
で満腹した。粟を搗くのを見た。「私
に見せて下さい」と云つた。共を手で
すくひ爪の間に挟んだ。豆を取つて
腕に入れた。麻豆を取つて、耳に入れ
た甘藷の蔓を頭にのせ、日の光を避け
た。腹がくちくちくなつて脱糞した。地
界人は見て、(指で)捏ねた。大きな肛門
が欲しくなつた。「私達の肛門を作つ
て下さい」と云つた。雑を以て、(頭目)
以外の者の肛門が作られ、頭目の肛門
は斧を使つて、割り明けられた。「寝て
下さい。夜具を被せた。「もう歸りま
す」と云つた。「私が(地上へ)到着したら、
取除けて下さい」。歩き歸つて到着し

1. orti 地の裏にも一つの世界あり, 是を orti と名づく.
2. ma:ru kai ala:ma kai 第一の kai は「冠詞的」の用
法, 第二の kai は「結句詞的」の用法.
4. kiʔaʔuili 比較. miʔaʔuili 貫通せる穴を明く, taʔaʔuili
トンネル.

- tumali-parariju <taliparariju 梯子を編む.
12. hapoʔaluʔalu h は「滑り」, 比較. moʔaʔaloʔalo 狭き
間隙を滑り抜ける taʔaloʔalo 岩の破目の間隙.
18. saapaū[auʔa <mai-ʔaʔa 柔くす.
21. kuʔijojiosu <ijosu 肛門.

- ¹ ma:tsu (w)ami kai / kapita:nu isa ja /
其のもし 願人 彼の
- ² saarumija ni arija / ma:pitsi kai liusu isa
彼の道具 斧を 斧にて割る 肛門 彼の
- ³ la / apa[usapa / apatsarübü / moasa[a tsu
而して 寝かす 渡船を渡らしめる 行く
- ⁴ (w)aku ami ami / ma:tsu (w)ako ?ai miu[pu
我 目 其の 我 到着する
- ⁵ tsu ja arutaibu tsu ai / musa[a tsu ami
取除く ものをさける 歩く
- ⁶ powajili mijopu tsu / saapapitaa tsu ami
歸る 到着する 船の切られるもの
- ⁷ kai / lita[jiki isa o:pu /
梯子は 彼の 角の

8. liusümanu ni a[ümülü

- ¹⁰ ma:rü ami kai ala:ma kai limu:ijiu-
存す 昔の人 夫婦になつ
- ¹¹ sumanu ni a[ümülü / ma:tsi ami msa[a
た 猪 行く
- ¹² mariinta[apu ja / ko (w)ami pa:tsa[itsa[i]i
里芋を探る 不 通過させる
- ¹³ n mariainta[apu / ma:tsi (j)ami mariainta[apu
里芋を探る 里芋を探る
- ¹⁴ ja / ara:raü[üü ami n ramuru isa kai /
それのみをす 子
- ¹⁵ pata:ku isa (a)mi n tsatsapuka: kai ina?
捨てる 彼女 茅原 親芋
- ¹⁶ inta[apu / pau ni usümanu isa a[ümülü /
(八頭) 食はせる 夫或は妻 彼女の 猪
- ¹⁷ litajara ilalau ami ami kai lalusa isa /
爲した 何 云ふ 夫
- ¹⁸ ma[a[a[i[i[i[isana / komita ami n a[üm-
隠して従ふ 彼女を 見る 猪
- ¹⁹ ülü sa:panua ami sa:la[a ami / marikako-
彼に射られた 鼠に刺はれたる 来る

1. kapita:nu 外来語(オランダ語) kapitan.
3. apa[usapa 参照 原文4 第711頁 註11.
5. arutaibu arutaübu 正.
6. saapapitaa <ma:pitau 切る.
9. limu:ijiu:sümanu li-murija-usümanu, li-「過去」,
murija- になる, usümanu 夫或は妻.
12. mariinta[apu <inta[apu 里芋, mari- を探る.

た。角梯子は彼等に切られてしまつた。

8. 猪と契る

昔々猪と夫婦関係を結んだ(女)がゐる。里芋を採りに行く時には、他人を里芋採りに行かせなかつた。里芋を採る時には、子芋のみを採つて、親芋は茅原へ捨てた。彼女の夫なる猪に食はせた。「どうしたのだ」と彼女の夫が云つた。隠れて彼女をつけた。猪を見たので射留めて運んで、家へ来た。割かれて其肝が分け與へられた。女の分前は刀の先に突き挿されて渡さ

pa:tsa[itsa[i]i 比較. mitsa[i]i 先に通過す, 超過す, 先に爲す.
14. ara:raü[üü ある事のみを爲す.
15. pata:ku <mata:ku 投げ捨つ.
17. litajara 現在 taijara 仕事.
19. sa:panuai <uapana 射る.
sa:la[a <ma:la[a 運ぶ.
marikakowa 物を選び入る, malokowa 行く, 入る.

- ¹ wa ami n sa[ija la / paüüa po:susua kai
家 而して (船が) 分配せられた
- ² atsi isa / parobe:re sajatusü:ka ami n
肝 渡す 彼に突き刺された
- ³ ina[u kitaku / kai iiri alaina la / iaka-
端 刀 分配せられたもの 女 而して 差
- ⁴ kuwa isana / ko (w)ami paimatsu matia[u
出す 不 承諾する 受取る
- ⁵ isana / la[ibora ami tuma[alal[usu / a[ali
突き刺された 其儘 より来る
- ⁶ ami n tsibuka isa / tarapasü[üü kai ramu-
腹 別る, 分裂する 子
- ⁷ ru isa / ma:tsu (w)ami kai tapikakuwa n
逃げた方面
- ⁸ piligana i[a[ü ja mara[üa[ümülü ami /
家の側面 山の方向 猪になる
- ⁹ ma:tsu ami kai tapikakua ni ta:lukija: ja
行く方面 報置場
- ¹⁰ mara: talatalakü ami / taina:na tsu ka
豚になる これ許り
- ¹¹ kari ku tutu:ru /
話 私の 本當の

れた。其を差し出したが受取らうとはしなかつた。(肝をつけた)まゝで突きさした。彼女の腹から彼女の子が出た。山側の家の横へ逃げたものは猪となつた。報置場へ逃げたものは豚になつた。私の話は本當にこれだけ。

1. paüüa oapüü の「分詞」.
pa:susua posusu の「分詞」.
2. sajatusü:ka jatusü:ka <mijatusü:ükü.
4. matia[u (手にて)受取る.
5. la[ibora i-um-a[iboro の「分詞」刀を以て突き刺す.
tuma[alal[usu 比較. moala[usu moala[ul[usu
直接的に(途中に於て道寄りせず)に行くこと云ふ意味に

用ふる事あり).
6. ramuru 人間の子, 豚の子, mama:i 人間の子 (<maini 小 豚の子なるもの).
8. piligana 家の側面の山手に向けるものを piligana i[a[ü (上の横), 谷に面するものを piligana rikaa (下の横)と名づく.
9. ta:lukija <[uki 報置.

XI

カ ナ カ ナ ブ 蕃

語 法 概 説

及 び 本 文

カナカナブ語語法概説

I. 分 布

カナカナブ語は高雄州旗山郡に住するカナカナブ[kanakanaβu]蕃(人口189.昭和五年調)により使用せらる。同蕃は現在タカヌワ[tapanuwa], ランツルガ[rantsuruga], マガツン[ʔaɣatsunu], ナギサル[nagisaru]に小聚落を作る, 部落間の方言的差異無し。

II. 音 韻

1. 母音, [i], [e], [ɛ], [æ], [a], [ɔ], [o], [u], [ʊ], [ə].
 1. [i] 基本母音第一號より稍廣し。
 2. [e] 重母音 ai 屢 e に單音化する。
 3. [ɛ], [æ] 重母音 ai 稀に ei 或は æi に轉位す。ia > ε なる例あり。tanijaru > tanieru.
 4. [ɔ] puwaai > poi の例の如く ua > ɔ 或は au > ɔ と單音化することあり。
 5. [o] 稀なり。u の同類音か或は au > o.
 7. [ə] kau / kəu > kəü / kəu u / u のために a は中音化する例あり。特に k 子音の後に於て此變化あり。kaüna > kəüna.
2. 素音, 變異音を除けば, カナカナブ母音は [i], [a], [o], [ʔ], [u], [ʊ].
3. 子音, 兩唇音 [p], [β], [w], [m], 齒齦音 [t], [s], [ts], [r]ʰ, 硬口蓋音化齒齦音 [s], [ts], 齒齦硬口蓋音(反轉音) [l], 硬口蓋音 [j], 軟口蓋音 [k], [ŋ], 聲門音 [ʔ] 有聲破裂音存在せず, 流音は [r] と [l] の區別あり。
4. 頭音母音ʔ, 頭母音に聲門破裂音[ʔ]先行するものと然らざるものとあり, 後者は「わたり」として有聲聲門摩擦音[h]現はることあり。ʔapuru 石灰, ʔapu|u / ʰapu|u 火, [ʔ]を有する語の例,

ʔakija	無	ʔasamu		ʔuma	鳥
ʔausija		ʔaβu	灰	ʔanijatsapa	屑
ʔaβiki	檳榔	ʔanuka	爪	ʔau u	竹
ʔaparatu	電	ʔaβapu	舟	ʔatimoo	蚤
ʔutsu	鬼	ʔatopu		ʔunai	地

[?]の無き語の例,

aļuḅu	屋根	uru	飯	aka	悪
utsu	雲	aratsakanu	狩	utsanu	雨
aļakuratsu	怒	uruḅu		aļu	八
umutsa	喉	anu	蜜蜂	iku	我
ananu	右	isa	彼	aļuḅu	松
uratsu	血管	ukunāi	豹	itsi-isi	
iji	左	ilipi			

- 母音弱音化, 母音は弱音化し音節的效果を失ひ或は脱落せらるることあり, [-]を以つて標示せり。終母音に於て此傾向甚し。カナカナブ語は開音節の構造を有す。原文中子音にて終る語は終母音の脱落せるものなり。
- 母音の省略, 代名詞 ini を後添せらる時は終母音省略せらるることあり。
例, ḅuru+ini>ḅurini
- 特殊の音變化, i にて終る名詞に母音にて始まる添加辭,例へば所有代名詞 -aku “私の” 及び命令の助辭 au を添加する時には i は r/ʃ に變ず。
例, ḅanai+aku>ḅanaraku 私の名, tsumai+aku>tsumaraku 私の熊,
paipatsai+aū 殺せよ >paipatsaļā.
- 揚音, 二音節語は第一音節に(例外 tsumāi 熊),多音節語は最後より第二或は第三の音節に来る。例, tanijāru 日, pakikija 本嶋人,揚音は高低並びに強弱を併用す,強きを特に大にする時は意義内容上の變化を來たし[強大]を示す。

āka 悪 >ākka 極悪 tatiija 多 >tattija 巨多,

註 1) 日投者 aḅija は (r) を (R) にて發音せり。
註 2) 原文には頭音 (?) を表示せず。

III. 形 態

- 反覆
 - 部分的反覆, ra-ta-taomay-a 細竹藪 <taumay 細竹 ka-kaputsa 大空 <kaputsa 大空。
 - 全部的反覆, ma-kari-kari 相談す <mā-kari 話す。
 - 重反覆, tan-tan-tanijaru 毎日 <tanijaru 日 [u]u[u]uwana 毎夜 <nu]uwana 夜。
- 接頭辭, ma-, mi-, mōa-, um-, mai-, ka-, mija-/me-, ki-, kia-, i-, tōa-/to-, si-, masi-,

masu-, pasu-, ara-, mari-, (a)pa-, maka-, paka-, mu]u-, pu]u-, tuma-, ni-, ta-, taka-, ra- 等。

主なる用語を例示すれば,

- ma- [形容詞] mapituu 暗き。
 - mi-, mōa/ mu-, um-, mai-, ka- は發動動詞の接頭辭に mi-ḅa]u 泥になり流る, mōa-tsanu 歩む >tsanu 道, um-a]a 取る, mai-patsai 殺す ka-oma-oma 耕作す >owa 畠。
 - mija-/me-, meitsuuru 産卵す <itsuru 卵。
 - ki- [採取] ki-tana]ai 落花生を採る。
 - kia- ki- と同じきか? kia-umuḅa 芭蕉の芽を取る <umuḅa 芭蕉の芽, kia-ta]iḅi 繩を縛ふ。
 - i- [受動] ikaru 使役せらる <makaru 雇ふ。
 - tōa-, to- [變化] to-aḅu-aḅu 灰になる <aḅu 灰 to-tsumatsumai, toa-tsumatsumai 熊になる <tsumai 熊。
 - si- [道具] si-japana 銃 <mōapana?u 射撃す si-jakəunu 食器 <kəunu 食物。
 - masi- masiputsu 乳を搾る <uputsu 乳。
 - masu-, pasu- [挿入] masu-ḅuḅu 頭に鬘す <ḅuḅu 頭, pasu-ḅuku 帯に挟む <ḅuku 帯。
 - ara- [になる] ara-pituu 暗くなる <ma-pituu 暗黒なる。
 - mari- mari-suuatu 字を書く <sunatū 字。
 - (a)pa- [使役] apa]a 取らしむ <ama]a 取る。
 - maka- maka-matsu?u 粟を搗く <matsu?u 粟。
 - mu]u-, pu]u- pu]u-topatopu 口琴を吹く <topatopu 口琴。
 - tuma- [發生] tuma-ḅuḅaḅuḅu 花咲く <ḅuḅaḅuḅu 花。
 - ni- [過去] ni-mukusa 行けり <mukusa 行く ni-ja]a 取りしもの <ama]a 取る。
 - ta-, taka- [場所] ta-tauwapuruwa 休憩所 <tauwapuru 休憩す taka-tatanasa 建築地 <tanasa 家 taka-tsau-wana 人の居る處 <tsau 人 -a, -ana, 接尾辭と併用せらる。
 - ra- [多數] ra-ḅatuḅatu-wa 石の多くある處,河原 <ḅatu 石。
3. 挿入辭, -um-, -in-,
- um- [動詞] k-um-aunu 食す <kaunu 食物]-um-a]iḅai 毘を仕掛く <]iḅai 毘。
 - in- [物] s-in-iḅina 燃やせしもの <siḅina 燃やす i-in-uaḅuḅu 灰になりしもの

<aβu 灰。

4. -a, -ana,

1. -a 1) [處] raβatuβatuwa 石の多き所 <βatu 石, 2) 分詞物[者] ni-pana?a 撃たれしもの <pana?u 撃つ。
2. -ana [處] tsatsauwana 村 <tsau 人。
3. -unu? 参照 § 「分詞」。

IV. 品 詞

1. 冠詞, suwa / sa “其”は冠詞の作用をなすもの本質的の冠詞にあらず。四社, maitsuwa に對比すべきものにして, 指示形容詞と看做すべきものか。

2. 代名詞

1. 人稱代名詞

	單 數	複 數	
		除對話者	含對話者
一人稱	主 格	iku, aku	ikimi, kimi, kija (?) ¹⁾ (ikita?) kita
	屬格其他	-maku -naku -ku	-mija (?) numija (?) -mita -tai,
二人稱	單 數	複 數	
	主 格	ikasu, isuwa, kasu	ikamu, kamu
	屬格其他	-musu, -nusu, -su	-numu, -mu
三人稱		kiai ²⁾ 彼, 彼等.	
		isa 彼, 彼等 (?)	
		-ini 彼の, 彼等の, 其の.	

2. 指示代名詞

inija 其の, 其を。

3. 動詞

a) 分詞

1. -a 類 ni-pana?a 撃たるもの, 撃たる <pana?u 撃つ ni-uβu 脱ぎしもの <um-auβu 脱ぐ t-in-uupa 賑かれたるもの, 賑かれたる <t-um'uupu taina 捨つもの <t-um-ataini 捨つ賑かる ara 取るもの <um-aβa 取る。
2. -unu (-unu) 類 語根に unu の添加せられたる形あり, 其作用は分詞に類せる故に準分詞として分類せり。unu は「被働」を示し, ツォウ, -neni に比

較すべきか, taimaku pana-unu tanijaru 太陽は我に依り射らるものならん。

ijatsu-unu kani kijai 其は指示せらるもの, tsuuβa 見る >tsuuβa-unu 見らるもの taniura?u 騙す >taniura-una 騙さるもの moaβuwa 與ふ >βua-unu 與ふもの。

b) 時制

1. 未來, 1) [反覆]形 ma-matsai 死せり <matsai 死す 2) tai / te + 代名詞 taiku aratsukanu 我出獵せん, taija umaβa 彼等は取らん。比較 ツォウ te [未來]

taiku	一人稱單數
taikimi, taikija (?)	一人稱複數 除對話者
taikita (?)	一人稱複數 含對話者
taikasu	二人稱單數
taikamu	二人稱複數
taija	三人稱 汎稱

ta: に添加せられ代名詞主格に働く時は動詞の發働形來り, 造格(により)に働く時は -unu の分詞形來る。(参照 §)

2. 過去, ni-, -in-, 誘導形を以て示す, ni-mukusa 行けり <mukusa 行く nijaβa ku 我の取りしもの, 我取れり, <umaβa 取る t-in-aini maku 我の捨てられしもの, 我捨てたり <t-um-a taini 捨つ mija [既に]を以て[過去]を示すことあり, mija mima ku- 私に既に吞めり。

3. tsu, [現在][過去][未來][命令]と共に用ひ[完了]を示し, “既に” “今直ちに” の意を表はす。

nimatsai tsu tsau isa あの人は既に死せり — 過去完了。

makuuβu tsu 寒し(今)。

puwaβia tsu 歸れ(今直ちに)。

tsu の後に代名詞 kija 來る時は tsi kija と音變化す。

c) 命令

1. a puwaiβia 歸れ <puwaiβi 歸る。
marisunata 書け <marisunatu 書け。
pukarikaria 話せ <makarikari 話す。
2. aū pepatsaβaū 殺せ <patsai 殺す。
tsuurau 見よ <tsuuru 見る。

3. maū mutsana maū 歩め <mutsana 歩む。

d) ai 「不確定」「想像」を意味する助辭にして「想像法」を作る, kani と共に「物語」に於て屢々使用せらる, 命令法と共に用ふ時は「未來」の意生ず。

kuma²una tsu 今食せ kuma²una ai 後に食せ。

4. 結辭

a) 形容詞と被修飾語を結ぶ結辭なし。

b) 結辭 ia / ja 主語(主題)述語(説明句)に先行する時には ia を以て結合す。

takai ku 我はタカイなり。

suwa iku ja takai 同上

suwa tsau ja liponu 其人は日本人なり。

5. 助辭

tsu 「完了」「決定」

ai 「不確定」「想像」

pa 「繼續」向

kaanu 「否定」にあらすして…なり

ko 「否定」不

akija 「否定」無欠く

akuni 「禁止」する勿れ

kara 「疑問」

itumuru kara pa²itsi 酒多量なりや?

lipu²u kara kasu 汝は日本人なりや?

註 1) kimi に相對する屬格の形態は調査に現れず「我々」の意味の場合に kija 形現る。恐らく「除對話者」と思はるる, kija を單數形に用ひたる一例あり。

註 2) kiai の「人稱」を特示せざる場合に用ひらる數例あり。汎稱?

1. カナカナブ方言

(kanakanaβu)

1. pana²u tanijaru

1. 太陽征伐

⁴ sua nannakū ja nana[^a kani / akija
冠詞 女 結辭 孤獨な なし

⁵ kani ikarini apa:[^a ma[aku]aku]apu tsa-
彼女の雇人 取らせる 毛物 彼女

⁶ maini / mukusa kani tsakūrunu [umiju²u /
の副食物 行く 河 刺漁する

⁷ [uma]iju²u kani akija kani ara ini vutu-
ない 取る 魚

⁸ ku[u / paratuwanai kani inija sanapisapi /
捕られた 其 流木

⁹ tainai kani inija / maraūnaūna kani umi-
捨てる 其 幾回もする 刺で漁

¹⁰ ju²u / paratuwanai kani inija su^a sana-
する 捕られた 其 流

¹¹ pisapi / arai kani inija / pasuvuku ai
木 取る 其 帯に挟む

¹² kani inija / sisiina maku (w)ai misakanii /
其 たきもの 私の 曰く

¹³ puwai²i kani tanasa / taijauma:[^a inija
歸る 家 取る 其

¹⁴ akija kani / atsowawa maku wai (i)inija
なし 確かに 私の 其

¹⁵ ripana / mijanaū kani / pivura kani /
紛失する 永く 孕む

娘は孤兒であつた。彼女の副食物
の毛物を獲らせる雇人がなかつた。

網で魚を探りに河へ行つた。取らう
としたが何遍やつても採れなかつた。

流木が其に掛つた。捨てた。幾回も
魚を網で取らうとした。流木が其に

掛つた。其を取つた。帯に挟んだ。
私の薪木にしようと云つた。歸宅し

た。其を取らうとしたがなかつた。
確かに私は無くした。暫くして、身も

ちになつた。子供が生れた。大きく
なつた。智慧がついて來た。鳥を見

採録期：昭和六年八月。

口授者：ナギサル社[napisaru] voro voruwana (男、當時
36歳)

説明者：タガマツ[taganuwa]社 apnai vuruwana (男、當
時29歳) 説明者は善童教育所卒業後六年間警手と
して勤務せし經歷を有す。

4. sua ~ suwa 參照、概説 IV. 1.

ja 主語と述語を結ぶ結辭、參照、概説 IV. 4.

kani 自己の直接經驗にあらざる事を示す。「他人より
聞きし事」「噂」「昔物語の記述」に用ふ、比較、サア
ロア、ami.

5. ikarini ikaru+ini i-karu 使役せらる人、<maqaru
(仕事に人々)使ふ、雇ふ、ini 彼の、
apa:[^a <um-a:[^a 取る。「使役」。
tsamaini tsamai+ini.

7. [uma]iju²u [-um-iju²u]の反覆。「動作の繰返」を示す、
akija 存せず、…を欠く。

ara um-a:[^a の語根 a:[^a a:[^a ara. akija は語根と
結合す、ara 取らるもの「受身」?

8. paratuwanai paratuwana + ai. paratuwana <
√tuana, muatuana 見附ける(人)、助辭 ai 「不確
實」を示す、物語は自己の直接經驗せざる事柄なれば、
kani 及び ai を屢々使用す、「といふことです」
sanapisapi 性器の fetish と解釋すべきものか。

9. tainai taiui+ai. taini, tumataini 「捨つ」、
inija 其處、其、刺を指示す。

11. arai ara+ai
pasuvuku <vuku 帯、比較、masu-navu²u 頭に挿す
<navu²u 頭。

12. sisiina <si²ina, sumasi²ina 燃焼す、接頭辭 si- は
「道具」を示す、sisiina 燐やす道具、燃料、uma[^a 取
る >sia[^a 取る道具、pana²u 糞射す >sija-pana²u
銃器。

13. tai^a ooteja tai- せんとす、「意圖」「未來」參照、概説
IV. 3. b.

15. pivura pi- 比較、サアロア、pi- 「所有」、四說、vura-
vurakū 子。

- ¹ ka:manumanu ai kani inija / aratatija
出産する 其 成長する
- ² kani / arapa:kanag / tsüüja ünü kani kijai
伶俐になる 見る
- ³ tapijanagai ijatsuunu kani kijai / mata-
鳥 指さす 落ち
- ⁴ pari'i kani / aratatija kani / pana'un kani
る 成長する 射る
- ⁵ suwa anuka vutunu vavuru / nimatsai
足跡 猪 鹿 死せり
- ⁶ kani / naumani panai (ini) siaja'i ni suwa
何 名 捕獲の道具
- ⁷ mara kürakurapü / taniuraü nu pa mita
毛物 罽す 我々
- ⁸ ai misakani(i) / suwa kukunag ini / mu-
外の人々 彼の 行
- ⁹ kusa kani rümüra / mutsanuma pa kisai
く 山 水を汲む 云ふ
- ¹⁰ kani suwa kükünagini / mtsanumu kani /
他の人々
- ¹¹ arai kani suwa kükünagini su'a paü ini /
取る 他の人々 冠詞 彼の
- ¹² putuvurüka / tsumüüja suwa vurini /
蓋を開く 見る 彼の弓
- ¹³ vavakan tutui / suwa kani rupatsü ini
肋骨 豚 矢 彼の
- ¹⁴ taijsiki kani / poi:kan tanasa / natsina
肩骨 降る 家 亡母
- ¹⁵ ini / tšinuru'u tsaü pau moku tšina misa
彼の 笑はれた 人 革袋 私の 母 云ふ
- ¹⁶ kani / uma[a ka:]u mata uripi misa kani /
取る 木 及び 鬼茅 云ふ
- ¹⁷ teanaumanj ka:]u misa kani tšina ini /
何にする 木 云ふ 母 彼の
- ¹⁸ tai maku panaün tanijaru / numakasu-
私の 射る 太陽

た。指さした。落下した。成長した。
指さすと、鳥と鹿と〔死んだ〕鹿と猪の足
跡を射ると〔死んだ〕獲物を獲る道具の
名は何か。我々は騙さうぢやないか。
と他の人々が〔相談した〕。山へ行つた。
〔水を汲みなさい〕と他の人々が云つた。
水を汲んだ。他の人々は彼の革袋を
取つた。蓋を開いた。彼の弓を見た。
豚の肋骨〔で出来てゐた〕。矢は豚の肩
骨であつた。家に歸つた。母に云ふ
やうには、〔お母さん、皆さんは私の革
袋を笑ひました〕と云つた。〔薪と鬼茅
を取つて下さい〕と云つた。〔薪は何に
しますか〕と母が云つた。〔私は太陽を
射ます〕と云つた。〔友人と共に行きま
す〕と云つた。縄を作つた。其を家に
結びつけた。縄を引いて行つた。太
陽の休み場に到着した。隠れた。太

1. ka:manumanu ka-manu-manu, manu 子,
aratatija <tatija 大, ara- になる。
2. arapa:kanag ara-pa:kanagy pa:kanagy 智慧,
tsüüjaünü <tsüüja, tsumatsü'ura 見る,
kijai 〓kijai 彼, 彼等, 鳥を指示する代名詞か?
3. ijatsuunu <mijatsu'u 指にて示す。
4. pana'un pana'ü+ini?
5. nimatsai <matsai 死す。
7. taniuraü <v taniura'ü だます,
pa 尙, 未だ。
8. mukusa rümüra 「出獵」を「山へ行く」と云ふ。
9. mutsanu mtsanumu 「水を汲む」, <tsanumu 水。
12. vurini vuru+ini, vuru 弓。

14. poi:kan puwa-ai kanj の急速なる發音,
natsina tšina 母, na- 「死人」例, natsuma 亡父,
namacu 亡息。
15. tšinuru'u tš-in-uru'u 笑はる者, ts-um-uru'u 嘲笑す。
比較, matsatsa 笑ふ,
moku maku?
17. teanaumanj taija naumani, taija 729頁, 註. 13.
naumani 「何」
18. taimaku 或は taiku 参照概説 IV. 3. b.
pana-ün <pana-ü 射撃す。
numakasuinja 「それなら」と云ふ説明を得, 比較, nu
umpana ku nija 731頁, 註5。

- ¹ ninja maratsotsowa kita ai [avai / kiata-
同行する 我々 友人 繩を掛
- ² [i]ši kani / ki]iaei kani'inija tanasa ini /
ふ 結合する 其 家 彼の
- ³ nasai kani inija / makatsüküna tataü-
其 到着す 休み
- ⁴ puruwa tanijaru / uramapai kani inija /
場 太陽 隠れる 彼
- ⁵ a]a]akaü kani suwa tanijaru / nu umpana
現る 太陽 若し 射る
- ⁶ ku nija [avai ja musutavuru kita ai /
私 共 友達 水に入る 我々
- ⁷ a]a]akaü kani suwa tanijaru / u]u]pai
現る 太陽 脱ぐ
- ⁸ kani inija takuišini tsumai / maritupuku /
彼 彼の皮衣 熊 はたく
- ⁹ naumani kasu ai]i totopuruwa maku
誰 汝 に於て 私の
- ¹⁰ misakani / pana ai kanj sa naparamatši
云ふ 射られたる
- ¹¹ tanijaru / mustavuru kani tsotsonumu /
太陽 水に入る 水溜
- ¹² ko: kanj pakisapatü suwa vali ini / pana
なし 速かに、間に合ふ 友人 彼の 射られた
- ¹³ ai kanj sa tsara'ü tanijaru / powai'i kani
血 太陽 歸る
- ¹⁴ matisapüsapü / arapitüü kani mija]anaü /
暗い處を手探りに歩く 暗くなる 永く
- ¹⁵ mi'aranasu kani suwa tsaü karanana /
困る 人 外の
- ¹⁶ akija kanj tsu sisi'ina ini / mata kaüna
なし 燃料 彼等の 及び 食物
- ¹⁷ ini / namarunü kanj tsu k]ai tanüavini /
彼等の 焼く 鳥小屋
- ¹⁸ šinagini kitami / kai]i]iaei kani su'a tsaü
彼等の光明 芋を困る 祭る 人

陽が出た。〔友人よ私が射つと私と共
に水に入りませう〕。太陽が出た。彼
は熊の皮衣を脱いで〔地面を〕はたいた。
〔己の休み場にゐる奴は誰れぢや〕と云
つた。太陽はナバラマチに射られた。
水滴に入った。友人はのろかつたの
で、太陽の血で射られた。手探りして
歸つた。久しく暗黒になつた。外の
人々は難澁した。たきものが無かつ
た。食物も、彼等は鳥小屋を焼いた。
明くして芋を掘つた。人々は太陽に
供物を捧げて祭をした。太陽が来た。
太陽が一寸と来て歸つた。段々と西
に入った。西に入つてしまつたから
好くなつた。昔の太陽は二個であつ
た。ナバラマチが射つたから、一つだ
けになつた。

1. kiata[i]ši <ta[i]ši 繩, kia-
2. ki]iaei ki]i+ai, ki]i <k-um-aki]i 結合す。
3. nasai nasü+ai mari-nasü (繩, 電線等)を牽引しつゝ
進む。
inija 繩を指示す。
tataüuruwa <taüuru (座して) 休息す, ta-a 「場
所」 「太陽の休み場」 「太陽の出現する處」
4. uramapai uramaga+ai, uramaga 隠れつゝ射撃す。
5. nu umpana ku nija =nu moapana'ü ku inija nu
は「條件」若し, の時。

7. u]u]pai u]u]u+ai umau]ugu 脱ぐ。
8. takuišini takuiši+ini takuiši 皮, 皮衣。
9. totopuruwa =tataüuruwa
10. naparamatši 此物語の主人公の名。
11. tsotsonumu <tsanumu 水。
12. pana <moapana'ü
14. arapitüü 比較, mapitüü 暗き。
17. namarunü <namaru 焼く。
18. šinagini šinagu+ini,
kitami <tami 芋, ki- 「採取」。

- ¹ suwa tanijaru sumavug / ivatu kani suwa
太陽 供物を捧げる 来る
- ² tanijaru / mua[ivatu kani] ivatu suwa ta-
太陽 短時間来る 来る
- ³ nijaru / puwai'i kani / ipanaini aramata[ai
太陽 帰る 段々 西に没する
- ⁴ kani / mija kani mata[ai tsija mamanug
既に 西 好
- ⁵ kani tsu / suwa kani na tanijaru mijana
太陽 昔
- ⁶ na: urut[ini] kani / pana ai kani sua
二個 射られた
- ⁷ naparamat[si] / utsani kani tsu mazmija /
一個 のみ

2. mi[pi] tsanumu

- ¹⁰ nivatu vuruga kulisivatü / tumüüpü
来た 鱈 側面に向く 堰く
- ¹¹ tsakuranu a[atumuru tsanumu] / umapuru
河 溜る 水 逃げる
- ¹² tsau / nuknsa tinum[umu]u ti'ipai / ivatu
人 行く 高山 少し 来る
- ¹³ tsanum umunüüpü inija / mutsanu tsau
溜る 其 行く 人
- ¹⁴ a[ava]i / mukusa tinmu[umu]u naüsü-
移す 高山 藤包
- ¹⁵ rana / mu'una tsu inija / maunapu arau-
山 居る 其處 泊る 一緒
- ¹⁶ kukunu mata marakürakürapü / ka'anu
に 及び 毛物 不
- ¹⁷ tavara'ü kumaünü akija apu[u] / mi'ara-
可能 食す 無 火 困却す
- ¹⁸ nastu tsu taama:karikari nmikaru apa[ai
る 相談する(未来) 雇ふ 取らせる

1. sumavug <savugu 供物。
3. aramata[ai <mat-lai 西。
4. tsija =tsu ja 比較, tsu kija> tsikija。
5. na, na: 過去の意義を有する? 比較, 接頭辭 na-「故
人, 死人」指數代名詞 na 其處。
mijana mija に同じ, -na も 60 の na と同性質か?。

採録期: 昭和六年八月。
口授者: タガマワ(tapanuwa)君, avija naupana (男, 當時
51歳), 同社, pu[ato apuwana (男, 當時57歳)。
説明者: ランツルガ(rantsuruga)君, pau nautsupana (男,
當時23歳), 説明者は毒薬教育所卒業生。

2. 洪水

鱈が来て(河を)横切つて臥した。河
を堰きとめたから水が溜つた。人々
は逃げた。稍高い山に行つた。水が
来てそれを覆うた。人々は移つて、藤
包山に行つた。其處に居た。毛物と
一所に泊つてゐた。火がなかつたか
ら食べられなかつた。困却して(誰か
を)雇つて火を取らせる相談をしよう
といふことになつた。山羊だけが出

10. nivatu ivatu 来るの過去。
kulisivatü <sivatü 側面, 接頭辭 kuji- 用例 ku[ia-
[autsu 河の下流へ向く <ama[autsu 下流。
tumüüpü t-um-üüpü。比較 ツオウ (e)tiüpü 淵。
11. a[ai: tumuru tumuru 水溜, 湖, a[ai- (他の例は ara-
になる。
13. umunüüpü 溜る, 例へば筒に水を充滿せし場合, 水のみ
に用ふ。
mutsa:nü <tsa:nü 道。
18. umikaru um-ikaru ikaru 雇人。
apak[uni:je apakaünau ini ai の略形, kaunau 食せ。

- ¹ apu[u] / inimamija ta'uru[u] tavara'ü /
火 のみ 山羊 可能
- ² makanapu[u] mutsa:nü mukusa tanu'ü-
泳ぐ 歩む 到着する 新高
- ³ p'intsu / una apu[u] / puwai'i ta'uru[u]
山 有 火 帰る 山羊
- ⁴ umavit[si] apu[u] / iva:tu tinmu[unu]u
運ぶ 火 来る 高山
- ⁵ naüsürana / matsapatsaparü tsu tsaü /
藤包山 喜ぶ 人
- ⁶ aranaï inija pautsipitsu kəuna / a[anaï
後 其 炊く 食物 後
- ⁷ inija makarikari tsaü mata maraküra-
共 云ふ 人 及び 毛物
- ⁸ kürapü / marivari vavuru / mōatsa ku:
返事す 猪 行く 私
- ⁹ ai mukusa inija maipatsai vuruga / pu-
赴く 其處 殺す 猪
- ¹⁰ karikari vavuru / apak[uni:je mamanu
云ふ 猪 食はず 子
- ¹¹ maku nimukü mu / maatsunu ku e /
私の 種点たもの 汝の 渡る 私
- ¹² mutsa:nü mukusa inija / kumaünü ku-
歩む 行く 其處 食す
- ¹³ türükü / kipapa inija maatsunu / aranaï
切る 一緒に 其 流れ 後
- ¹⁴ inija araakija tsanumu / aranaï inija una
其 無くなる 水 後 其
- ¹⁵ tsu [aitawatawanuka / una ma[ugutsai
土地の凸凹 高い
- ¹⁶ ünai / si nimiva[u ünai / mija aranaku
土 泥になつた 土 既に 干上る
- ¹⁷ tsu tsanum ja / aranaï inija tsaü ma-
水 後 其 人
- ¹⁸ avōavōaru mata marakürakürapü / ma:
分離す 及び 毛物
- ¹⁹ karikari kimi ai / tsaü kimi ai / mara-
云ふ 我々 人 我々
- ²⁰ kürakürapü kamu ai / ma:karikari ma-
毛物 汝等 云ふ
- ²¹ rakürakürapü / mariaka kimi ai / kamu
毛物 喫ぐ 我々 汝等

来る。泳いで行つて「タヌウインツ」
山にいつた。火がある。山羊は火を
運んで歸つた。藤包山に行つた。人
々は喜んだ。その後飯を炊いた。そ
の後人々は毛物と相談した。猪が返
事をした。「私が鱈を殺しに共處へ行
かう」猪が云ふ。「私の子供にあなた方
の作物を食べさせて下さい。私は[水
に流れる]。共處へ行つて[鱈を]食ひ切
つた。一緒に流れた。それから水が
なくなつた。それから[土地の]凸凹が
出来た。高い土地も出来た。土地が
泥になつた。水が乾いてしまつたか
ら、其後で人は毛物も分れた。我々は
云ふ。「我々は人になる。御前達は毛
物になりなさい」。毛物は云ふ。「我々
は嗅ぐ。あなた方の臭ふのを[それ
でも御前を射つつもりだ]と人が云つ
た。それから[毛物は人を]みると恐い。
射たれるかも知れない[から]。それか
らナツガに行つた。其處で鼎を作つ

10. mamanu manu 子の反復。
11. nimukü 現在, moamukü.
e = ai
14. araakija ara-akija ara- になる。

16. si 「條件」(?)。
nimiva[u miva[u 泥になるの過去。
aranakuru nakuru 干地。

- ¹ wa marisovu / apatsuaija te kamu pana-
奥 其れにも物ほらす 欲する 汝等 射
- ² ūnu / aranaī inija nu: tsumūūraīni ja
る 後 共 若し 見れば
- ³ ma'itsūpūtsu / sii taī tsu panaūnu / aranaī
怖しがる 射る 後
- ⁴ inija mukusa natsūpa / mu'una tsū inija
共 行く (地名) 居る 共處
- ⁵ kaumauma / matsapatsaparu tsu tsau
耕作する 喜んでゐる 人
- ⁶ uuna tsū kōūna / miaisuwa ja makapūtsū
有る 食物 其時 少
- ⁷ uma a:patsuaija / ittomuru kōūna / ka-
島 それにも拘らす 多 食物 な
- ⁸ anu kuwavanūvanūni utsani'i tsainana /
い 總て 一 年
- ⁹ miaisuwa ja paera:pa matsapatsaparu /
其時 引續き、常に 喜んでゐる
- ¹⁰ ittamuru kōūna / kaanu pa masukuwa-
多く 食物 不 引續き 病氣
- ¹¹ mū / mija[anaū pa muuna natsūpa ara-
永く 引續き 居る (地名) 増加
- ¹² katsauwa pa tsau / mamūmūkūtsū akija
する(人口) 引續き 人 困却する 無
- ¹³ tsu takamanūpa uma / aranaī inija a[ā-
開墾すべき地 島 後 共 移住
- ¹⁴ va[ī napatana / kaumauma makapūtsū
する (地名) 耕作する 少
- ¹⁵ kipapa inija tatsa:uini nipivura muuna
共に 彼等 彼等の犬 孕む 有る
- ¹⁶ inija kamanumanu / te pa poi'i natsūpa
共處 仔を生む 欲す尙 歸る (地名)
- ¹⁷ ši aiši pa inija kōūna ini a'ūne inija /
故に 於てまだ 共處 食物 彼等の 彼等の
- ¹⁸ manu tatsau / ivatu t[ina ini / [umaapan
仔 犬 来る 母 彼の 働ふ
- ¹⁹ manu ini / ai'i napatana / pariivini sa
仔 彼の 持ち歸る (地名) 跡をつける
- ²⁰ tatsau ini / uma'unu kōūna ini / mu'una
大 彼等の 背負ふ 食物 彼等の 居る

1. wa 接辭 (?)
apatsuaija apatsu ai ja (?)
3. ma'itsūpu ma'itsūpū ?
sii si 此の用法は「理由」を示す。
5. kaumauma <uma 島, ka-
6. miaisuwa ~meisuwa <isuwa, suwa 其、比較 サア
uア ma:tsuwa.

てゐた。食物があるから人々は喜ん
だ。其時島は少かつたがしかし、食物
は澤山(あつた)。一年間で盡きる事が
なかつた。その時にはづつと喜んで
ゐた。食物は澤山あつた。病氣もし
なかつた。永い間引續きナツガに
ゐる人も相變らず増えた。開墾すべき
島がなかつたから困つた。それから
ナバタサキへ移つた。少し開墾した、
彼等の犬も一緒に來てゐた。共處で
孕んで仔を生んだ。又ナツガに歸り
たい食物がまだ向うにあるから。犬
の仔を背負つて行つた。親犬が來た。
仔を睡へて、ナバタサキに持つて歸つ
た。犬について行つた。食物を背負
つて、其處に[ナバタサキ]居て家を作つ
た。それから人々が來た。すべての
人達は家を作つた。すべての人達は
共處に久しくゐて總てのものは島を
作つた。其時には蕃人はまだ病氣に

11. arakatsauwa ara-ka-tsau-a <tsau 人, katsau 人の
多き事。
13. aravari a[ava]i 732頁, 14行。
16. kamanumanu <manu 子 ka-
17. a'ūne a'unai, uma'unu 背負ふ。
19. ai'i <puai'i (?)

- ¹ inija ka:manūgū tanasa ini / aranaī inija
共處 作る 家 彼等の 後 共
- ² ivatu tsu tsau / kaavavuvavu kaamanūgū
来る 人 總て 作る
- ³ tanasa ini / kaavavuvavu muuna tsu inija
家 彼等の 總て 居る 共處
- ⁴ mija[anaū / ka:umauma kaavavuvavu /
永く 耕作する 總て
- ⁵ mijaisuua ja kaanu pa masukuwamu
其時 不 未だ 病氣
- ⁶ tsau / arakatsauwa mu'una inija mija[a-
人 人口増加する 居る 共處 永く
- ⁷ nau / aranaī inija katsauwa tsau / aranaī
後 共 人 後
- ⁸ inija a:katsupū:gini pakisija ivatu parita-
共 性質の悪い 本島人 来る 戦ふ
- ⁹ nasū / maa'unūpu arupakapatsai / nima-
たいきあふ 殺し合ふ 死
- ¹⁰ tsai tsau mukumapitunu / kau tsu avunai
人 人 七十八 無 埋める
- ¹¹ tsau nimatsai / aranaī tsu inija umapuru
人 死んだもの 後 共 逃ぐ
- ¹² a[ava]i ūmūmūru mija[anaū / aranaī
移住する (地名) 永く 後
- ¹³ inija / mukusa tavarana tsūtsūma ini /
共 行く (地名) 残りもの、一部 彼等
- ¹⁴ nimukusa ap'uwana tsūtsūma ini / ara-
(地名) 紅花仔 残りもの 彼等
- ¹⁵ naisuwa taniura ai sa pakisija / paka-
其後 傳染する 本島人 病氣に
- ¹⁶ sukuwamū / matsai kavavuvavu tsau /
する 死ぬ すべて 人
- ¹⁷ kanairatsu kōupai matsai / aranaī inija
少人数 未だしな 死す 後 共
- ¹⁸ a[ava]i tani'ūtsū mu'una tsu inija / ka-
移住する (地名) 居る 共處
- ¹⁹ aumauma mija[anaū / ivatu kananavuru /
耕作する 永く 来る 大埔(臺中州)の住民
- ²⁰ ma'unūpu tsau akija nimatsai tsau / itto-
争ふ 人 無 死んだ 人
- ²¹ muru nimatsai kananavuru / aranaisuwa
多く 死んだ 大埔の住民 其後
- ²² akijatsū tanasa / ninamaru kananavuru /
無 家 焼かれた 大埔の住民

ならなかつた。共處に永い間ゐる人
數が増した。その後蕃人は澤山にな
つた。其後悪い本島人が戦争をしに
來た。なぐりあふ殺しあふ。死人は
七十名(あつた)。死人を埋葬しなかつ
た。其後ウムムルへ逃げ移つて永い
間居た。其後一部はナバラナに行き、
一部は紅花仔に行つた。それから本
島人から病氣が傳染して、病氣になつ
た。澤山の人が死んだ。死なない人
は少い。其後にタヌウツへ移り、そこ
に居た。永い間耕作した。大埔の人
が來た。蕃人と闘つたが蕃人には死
人がなかつた。大埔の人は多く死ん
だ。其時から家がなくなつた。大埔
の人に焼かれたから、それからナウブ
アナに行つた。家を作つた。それか
ら開墾をした。永く共處に居た。開
墾地が悪くなつたので、その後河表湖
へ移住した。

8. a:katsupū:gini. a:ka 悪 -tsupū:gu 考 -ini 共。
10. avunai umavunu 埋める。
11. aranaisuwa aranaī isuwa.

17. kōupai kau pa ai kōupai mukusa 未だ行かず。
22. nipamaru <namaru.

- ¹ aranaisuwa mukusa na²uvuana / kama-
其後 行く (地名) 作る
- ² nūpū tanasa / aranajisuwa kaumauma /
家 其後 耕作する
- ³ muuna inija mija[anaū / a:ka tsu takau-
居る 其處 永く 悪い 開墾す
- ⁴ mauma / aranaī inija a[ava]i rantsuru[pa /
べき地 後 其 移る (地名)河表湖

3. miļii tsanumu

- ¹ nimurisivatu tsakūranu suwa vuru[pa /
側面へ向く 河 鱈
- ² ivatu suwa tsanum tatija / mattatsuvu-
来る 水 大 集合する
- ³ tsuvu[pa suwa tsa:u / nimu²una tanu²up²-
人 居れり (地名)關
- ⁴ intsu / karanana nimu²una nausūrana /
山(?) 他の 居た (地名)藤包山
- ⁵ mamūmūkü akija apu[lu / pukarikari kani
難論する 無 火 話す
- ⁶ una intsu / ivatu suwa ta²urup / kaanu
有 先祖 来る 山羊 不
- ⁷ ma²utsūpū tsanum / matsanu mukusa
恐怖する 水 歩く 行く
- ⁸ naūsūrana / umavitši apu[lu / matsapatsa-
(地名) 運ぶ 火 喜ぶ
- ⁹ ŋaru tsaū / pukarikari una intsu / ivatu
人 話す 来る
- ¹⁰ suwa vavuru kumaunu vuru[pa / akija tsū
猪 食ふ 鱈 無
- ¹¹ tsanumu / pukarikari suwa vavuru / voū
水 話す 猪 與へよ
- ¹² ku kauna / vuənu inija nakūvu / pi[la
私に 食物 與ふ 彼に 品物 與ふ
- ¹³ vaŋuvənu / nuwari ja kata[ai]aū ku: ai /
すべて 後に 愛撫す 我
- ¹⁴ apakaūnu nīmūka /
食はず 植ふたもの

3. takaumauma ta-ka-uma-uma, 類別, takatanasa 家
にてな建築する場所。

採録期: 昭和六年八月。

口授者: マガツン(vapatsunu)社, puntau navilaŋana (男,
推定40歳)。

3. 洪水

鱈が河を横切つて臥したので、大水
が出た。蕃人は集つた。「タヌウイン
イツ山にゐた。「ナウストラナ」にゐた人
もあつた。火がないので難論した。
先祖は話した。山羊が来た。水が恐
くない。「ナウストラナ」へ歩いて行つた。
火を運んで来た。蕃人は喜んだ。祖
先は話した。猪が来て鱈を食べた。
水はなくなった。猪は話した。食物
を私に下さい。彼に品物を與へた。
全部與へた。後で私を可愛がつて下
さい。作物を食べさして下さい。

説明者: 同社, avija ikauwana (男, 當時19歳)。説明者は
蕃童教育所卒業。當時河表湖警察駐在所警手勤務。
17. vouku vuwau ku の略形。moavuuwa 與ふの命令形。
13. vuənu vuwa-ūnu の略形。<moavuuwa
pi[la 取らせる(?) <uma]a 取る(?)。

4. arakuruturuvu

4. 人薄に化す話

- ¹ nikamanumanu kani kiai / aratatija
出生した 成長する
- ² kani / muru²utsapū tsu ku tšina / komo
妻帯する 母 待つ
- ³ pa kopemusutuwa tsainana musu / arana-
尙 不足する 年 汝の 今
- ⁴ [apaisija makatsukūna pe na anijatsapū
後 達する 對しまで 肩
- ⁵ sū vūkūsū sū / makatsukūna kani ani-
髪も 汝の 達す
- ⁶ janijaatsapini vukūsini / ka²anū pa ku
彼の肩 彼の髪 勿れ 未だ 我
- ⁷ muru²utapu tšina / makatsukuna paina
妻を娶る 母 達す 對しまで
- ⁸ kükū musū vukūsi sū / mu[²utsapa tsu
髻 汝 髪 汝の 髪れよ
- ⁹ ?ai / makatsukūna kani na kükū ini
達す まで 髻 彼の
- ¹⁰ suwa vūkūsini / muru²utsapū tsuku mi-
彼の髪 娶る 我
- ¹¹ sakani²i / ka²anu kasu muru²utsapū / kisai
云ふ 勿れ 汝 娶る 云ふ
- ¹² ?inija / a[aku]a tsu / umara pa[aru /
其 怒る 取る 箱
- ¹³ mukusa tatapini[pa / tso:manu kasū tsu
行く 屋外 汝
- ¹⁴ u[utšina / tsumatsū²u[pa paai ikuwa / ara
母 見る に對し 我 取らぬ
- ¹⁵ inija pa[aru / matatsükūtsükū tatapini[pa
彼 箱 地に挿す 屋外
- ¹⁶ mutširi / aratimū kani tsu una atšipin
立てる 出る その 彼の足
- ¹⁷ ramiši tu[uvu / aranaī kani inija / pa-
根 薄 後 其
- ¹⁸ ratsani /
歌ふ

piū²ūna

ピウウナ調

採録期: 昭和六年八月。

口授者, 説明者: マガツン社 avija ikaruwana.

3. muru²utsapū utsapū 妻 muru-

komo “待つ”といふ説明, 原形不明。

4. kopemusutuwa ko pa ai musutuwa (?)

6. vukūsi sū vukūsi sū, ū>i 音の異化?

anijanijaatapini anija-anijaatapū-ini.

7. vukūsi ai vukūsi-ini

9. mu[²utsapa tsu ai mu[²utsapū の命令, 助辭 ai も
命令に屬々附加せらる。

15. tsumatsū²u[pa 1. 見る 2. 世話す。

17. una atšipin una “存す” “其” atšipi-ini.

20. piū²ūna 歌謡の一形式, 粟收穫祭に於て歌はる, 收穫
と招魂の關係深く, 此 piū²ūna には祖先の靈を招ふ
内容のもの多し, 歌謡の言語は日常語と異なる歌謡, 雅
語にして彼等自身も其意味を詳かにせざること多し。

- ¹ tšina tsuma ma[atu]utu[uvu] tšī kimi いざさらば父母よ、薄尾花にわれは
母 父 薄に化す 我々
² nija[iku] vaninaku vūnūtū / なる、つまを乞へどもわが母は、許し給
妻 震應する
はず悲しくて。

5. nimatapa[ī] kaḡutsa
落ちた 天

- ⁶ nimatapa[ī] kaḡutsa mijana / nimusu- 昔天が落ちて、高い山にひつかゝつ
落ちた 天 音 引掛る
⁷ [a]nu tšimatsima²uru / nivatu kani ku- た。獸は皆来た。揚げられなかつた。
高い山 来る
⁸ rakurakurāi kavapuvapu / kaanu kani ビビクライを呼びにやつた。「私は體
獸類 絶て 不能
⁹ takunañū kieī / pukari jaī kani inija が小さいから勿論駄目でせうよ」と云
揚る 呼ぶ 彼等
¹⁰ viviku[ai] / ipakija ai akuoi tipēi tsaū つて、押上げかゝつた。ビビクライビ
(鳥の名) 勿論 私 小 身
¹¹ misakani / mitakitšī kani inija / viviku[ai] ビビクライと云つて、天界まで[押して行
云ふ 取りつく 其 (鳥の名)
¹² viviku[ai] misakani / tumakusa kakapu- つて]、ビビクライは地上に落ちて來
云ふ まで 空
¹³ tsa / matapa[ī] kani / ūna²ūnai viviku[ai] / た。
落下する 地上 (鳥の名)

6. tunupukaḡkaū

- ¹⁶ voūku tutu taputapu tšina / makina[ā] [お母さん南瓜の種子を私に下さい]。
我に與へよ 種子 南瓜 母 買ふ
¹⁷ tsomu su / makina[ā] vai su / akija vua [お父さんに貰ひなさい。兄さんに貰
父 汝の 買ふ 兄弟 汝の 無²へるもの
¹⁸ kasu wa / nu makasuweni ja / ḡkaū ひなさい]。「お前にやらない」。「それな
若し それならば 猿
¹⁹ kuje / a[ainija] ka[lu] / sūtsūḡn tatai[sa] ら、私は猿になります」。薪を取つて、尻
私 取られる彼 木 掃す 尻
²⁰ ini / mupa[ra] tsu / mupara ka[lu] ka[lu] / に挿し入れた。登つた。木から木へ
彼の 登る 登る

1. tsikimi tsu kimi

採録期：昭和六年八月。
口授者：avija naūpana 及び pu[ato] apuwana。
説明者：aggai voruwana 及びタガマツ社 takai。
7. kurakurakurāi 同義、marakūrakūrapū。
10. viviku[ai] 上方へ高昇する習性を有する小鳥。
ipakija²ai 勿論出来ず、どうしても出来ず。例。

5. 天が落ちた話

昔天が落ちて、高い山にひつかゝつた。獸は皆来た。揚げられなかつた。ビビクライを呼びにやつた。「私は體が小さいから勿論駄目でせうよ」と云つて、押上げかゝつた。ビビクライビビクライと云つて、天界まで[押して行つて]、ビビクライは地上に落ちて來た。

6. 猿に化す話

[お母さん南瓜の種子を私に下さい]。「お父さんに貰ひなさい。兄さんに貰ひなさい」。「お前にやらない」。「それなら、私は猿になります」。薪を取つて、尻に挿し入れた。登つた。木から木へ

ipakija²ai ikuwoi mukusa inija 如何にしても我は其處へ行く能はず。

12. kakaputsa kaḡutsa 天の反覆。
13. una²ūnai unai 地の反覆。

16. makina[ā] 比較, p[ā]a, uma[ā]
18. makasuweni maka-suwa-ini (?)

- ¹ tumpa[ā] pa[aku] / ḡkaū tsū / と登つた。キーキーと鳴いて、猿にな
(猿の叫聲) 猿の
つた。

7.

7. 父のない兄の話

- ⁵ utsani ma[mija] nanakū nipivura / akija 昔々、女獨りで孕み、夫なしに子を
— 音 女 孕んだ 無
⁶ utsapini kamanumanu / pukarikari manu んだ。その[ててなし]子が[石に對し]云
彼の連合 子を生む 云ふ 子
⁷ ini / a[avija] vatu / mukusa inija tanasa ふ、「割れなさい」。彼の家へ行き石の内
彼の 割れたもの 石 行く 彼の 家
⁸ ini una aravaḡ vatu / a[apapini] suwa に入つて住んだ。その子は外に出て
彼の 居る 内 石 外に出る
⁹ manu tsumū²ūja unai ka[ā] ita²itanu / 見ると、土地はすべて断崖であつた。
子 見る 土地 絶て 崖
¹⁰ akija touna tsaū / patapapi ai inija unai 蕃人の住む處がない。杵で[土地]を一
なし 住む處 人 搗く 低地
¹¹ matanumamija / masukumanūḡu tsu ma- 度搗くと、半分は平らになり。残りは
一回のみ 半分
¹² [inu²ū] / ita²itanū pa tsutsuma ini / 相變らず断崖であつた。
平らなる 断崖 相變らず 残り 其の

採録期：昭和六年八月。
口授者：avija naūpana 及び pu[ato] apuwana。
説明者：pau naūtsupana。
5. utsani 1. — 2. のみ。

6. utsapini utsapu+i
8. a[apapini] <pi-pigini 外. tata-piniḡa 屋外。
10. touna taūuna <(mu)²puna 居る。
11. matanumamija mamija のみ。

XII

ヤ　　ミ　　語

語　法　概　説

及　び　本　文

ヤミ語語法概説

I. 分 布

ヤミ語は紅頭嶼に住むヤミ族約1,600人の言語にして、同族は七部落に聚落すれども殆ど方言的差異無く、東海岸の部落と西海岸の部落間に微細なる方言的差異あるのみなり、ヤミ語は臺灣本土の蕃語よりは、寧ろバタン語に近く、言語系統上より觀れば、ヤミ語をバタン語の一方言に位せしむを可とす。

II. 音 韻

1. 母音 [o], [u], [ɔ] u-音は基本母音第八號より可なり廣く嚴正に示せば [ɔ] 記號を使ふべきものなれど、原文書換に於て [u] 記號を用ひたり。[o] は略基本母音第二號に當るものにして、u-音は此 [o] に屢々變位する。原文 3 に [ɔ] を使用し [u], [ɔ], [o] と三様の書別を試みたり。而して其の場合の [ɔ] は [o] に近似せる音を示す。要するに語原的には [ɔ] 記號一個とを以て示せば充分なるも、[ありのまゝ] に示す本調査の主義よりして聽きしままに [o], [u], 或は [o], [ɔ], [u] と書別けしものに過ぎず。

1. [i] 基本母音第一號より廣く [i] に近し、屢々 [i] 或は [e] に變位することあり。

2. [i] 中間母音 [i] 存在す。バタン語の pēpet 音なる i/e に相對す。ヤミ [anim] 四 < バタン anim 四, 比較, チャソ nem. ヤミ [pusid] 躰 < バタン pusid 躰, 比較, チャソ pusēr 躰, ヤミ [agib] 夜 < バタン axep/axip 夜. ヤミ [atip] 屋根 < バタン atip 屋根, 比較, チャソ atēp 屋根。

2. 子音 β 兩唇音

1. l 齒裏或は齒齦の側音。ヤミ [l] < バタン y. 例, ヤミ [kawalan] 竹 < バタン kawayan, ヤミ [tatala] 舟 < バタン tataya 舟, 但し ヤミ [j] < バタン y の場合もあり。例, ヤミ [ujat] 血管 < バタン uyat 血管, IN. ur.at, ヤミ [βaju] 新 < バタン vayu 新, IN. bar.u. 而してバタン y は IN. r₂ に相對す。故に IN. r₂ > バタン y > ヤミ [l, j], 例, [l]; IN. bar.at 西 > バタン ka-vayat-an 西 > ヤミ ka-βalat-an 西, IN. bara 燠 > バタン mi-baya 赤 > ヤミ miβala 赤. [j]; IN. jar.om 針 > バタン dayem / rayem > ヤミ lajom 針, IN. niur₂ 椰子 > バタン nioy > ヤミ anjuj(i).

2. [d], [l], [s] 反轉音 (cacuminal, retroflex) [t] も若干反轉音的傾向あるも, 原文書換には反轉音の記號を附せず, [d], [l] の調音部位は前硬口蓋, 而して [l] は舌尖を用ふ, 稀に轉音 [r] に變ずることあり, ヤミ [l] < バタン r, d. ヤミ [d] < バタン d 例, ヤミ [ala 血 < バタン raya 血, ヤミ [likud^o 背 > バタン dichod 背, [d] は主として終音に現はれ, 頭音に現る場合は du, da の冠詞, 代名詞, 中音に現る場合稀なり [mumu[an] 鼻。
3. g 摩擦の度少く屢々摩擦を失ひ [u] の響をなす。kagašan > kaŋašan. この [g] はバタン語の [x] 音 (h 或はイスパニア風にて記せられる) に相對す。例, ヤミ [kagašan] 森 < バタン kaxasan 森, ヤミ [məgakai] 男 < バタン maxakay 男, IN. l (i 音を後に有するものを除く) > バタン x > ヤミ g の音韻法則を見出す。IN. lanit 天 > バタン hañit [xarit] > ヤミ [gañit], IN. jalan 道 > バタン rarahan [raraxan] > ヤミ [a[agan, IN. ulu 頭 > バタン oho [oxo] > ヤミ ogo, IN. balay 家 > バタン vahay [vaxai] > ヤミ [əgai, IN. puluh + > バタン poho [poxo] > ヤミ [pogo] / [poŋo]
3. 硬口蓋音化, IN. [kali] 掘る > バタン kadi > ヤミ [kaŋi], i 音前の IN. l は側音的硬口蓋音なる [ʎ] となる。語原的には [l] なる音も i 音を従ふ時は屢々 [ʎ] に變ず。バタン語に於て IN. yi > pi の硬口蓋音化の現象あり: IN. lanit > バタン hañit [xapit] ヤミ語に於ては [ŋ] を保留す ([pi] 音を用ふ人もありと後藤氏より聞く) 類例, IN. anin 風 > バタン anin [apin] > ヤミ mikapin 風, バタン miñin 痛 > ヤミ mipin 痛。フィリピン語 ki > バタン chi > ヤミ tʃi, バタン chi の硬口蓋音化はヤミに於て留存在す。例, tagalog kidlat 雷光 > バタン chiŋat > ヤミ ʎtʃi[at, ilocano takki 糞 > バタン tachi > ヤミ tatsi 尿, tagalog kita 見る > バタン chita 見る > ヤミ ʎtʃita 見る。
4. 終音, 母音は聲門閉鎖音を伴ふ, mata^o 目 patu^o 石, 破裂音及び鼻音は[入聲] 即ち[破裂の無き破裂音]となる。anak^o 子 kanin^o 食物 mapap^o 取る (原文書換には^o及び^oの記號を畧せり。但し繼續せる語は終母音の後の^oは消え breath-group の最後の語の終母音のみに^oを従ふ。
5. 「わたり」音, 語根の終音母音なる時 -in の接尾辭來れば, 「わたり」音として [g] 音發生す。tuđu 指す > tuđugin 指す物, matsita 見る > tsitagin 見る物 頭子音に發聲の a を冠することあり。バタン mian 有 > ヤミ mijan / amijan バタン tud > ヤミ atud^o。

6. 無氣音的破裂音, [p], [t], [k] は無氣音的なり。
7. 揚音, 最後の音節にあり。

III. 態形

1. 接頭辭 ka-, ma-, map-, mi-, ŋi-, i-, pa-, paŋ-, pi-, matʃi-.
1. ka- 状態, 抽象名詞. ka-pai 行進, ka-busui 満腹, ka-tau-tau 體 < tau 人。但し ka-lijus 助産婦 < ma-lius 水浴す。
2. ma- 形容詞. ma-ŋuŋu (川)の淺き, ma-lalaŋ 偽, ma-taŋa 太き, ma-kai-kai 早朝, ma-ŋarauŋau 涼しき < ŋarauŋau 微風。
動詞. ma-patʃi 言ふ, ma-kulit 皮を剥ぐ < kulit 皮, ma-nakimnakim 考ふ < nanim 心。
3. map- 動詞. mapoŋoŋ 錐にて穴を明ける < oŋoŋ 錐, manakaŋ 盗む < takaŋ 泥坊, mapaju 採薪す < kaju 薪, map-mata 生肉を食す < mata 生肉。
map- の ŋ 鼻音と語根の頭音と音の同化のために音韻變化を起す。
a) 母音及び g の前には map-, g は脱落, map-oŋoŋ, mapap < map + gap.
b) p の前には mam-, p は脱落, mamun < punun 充つ。
c) b の前には mam-, b は脱落することあり, mamokbok 開花す, < bok.
d) s, t, l の前には man-, s, t, l は脱落, manawud 編む < sawud 綱, manakaŋ 盗む < takaŋ 盗人, manama 和合す < mi-lama 和合す。
e) k の前には map-, k は脱落, mapaki < kaki。
4. mi- 動詞
a) 「にす」 mi-ŋatip 屋根を葺く < atip 屋根, mi-jakan 副食物にす, mi-tatala 造船す < tatala 舟, mi-ŋatik 畫く < ŋatik 紋様。
b) 「になる」 mi-koŋuŋ 夫婦になる < koŋuŋ 夫婦, mi-ŋalan 名づけらる, 名になる < ŋalan 名, mi-anak 生る < anak 子。
c) 「を使ふ」 mi-ŋuŋapat 銀帽を被る < ŋuŋapat 銀帽, mi-ŋakop 傘を被る < ŋakop 傘, mi-ŋijaŋ 掃除す < ŋijaŋ 箒, mi-taxiki [衣服を]著す < taxiki 着物, mi-tanatana 土器を作る < tana 土。
5. ŋi- 過去
ŋi-mijan 存在せり < mijan 存在す。ŋi-mapai 行けり > mapai 行く, ŋi-atip 葺きし 屋根, 屋根を葺けり < atip 屋根, ŋi-ŋawud 編みし物 < ŋawud 編む。

6. i-

- a) 道具. i-lu'ai 搖籠, i-lu' 匙。
 b) 位置. 其處に位する人 i-laud 沖, 海外の. i-manila マニラ人, 紅毛人。
 i-patan バタン島, バタン人。 i-mo'ud イモロッド村。
 c) 受身. i-kaši 愛せらる, i-kamijin 笑はる > mamijin 笑ふ, i-patsi-pinapina 賣らる。

7. pa- 使役.

pa-ušok-in 降さるゝもの <√ušok 降る, pa-ka'luwan 引去る <ka'luwan 外の。

8. paŋ-

paŋap 取らしむ, 持たしむ <paŋ+√gap 取る, maŋ- と同様の音韻變化を起す。

9. pi- 使役.

pi-kušup-in 夫婦にせられし[結婚せし人] <košup 夫婦。

10. matsi-

- a) 欲望. matsi-japat 欲す。
 b) 相互. matsi-k-i'xi-an 同村人 <i'xi 村, matsi-pina-pina 交易す, matsi-βuŋui 殺し合ふ。

2. 複合接頭辭

1. ika- (i+ka)

[受身] ika-mijin 笑はる, ika-t'lu 第三番目, ika-pija 良くせらる。

2. ipi- (i+pi)

[受身] ipi-βitβit 除草具 [mitβitβit 除草す], ipi-puwa 棄てらる。

3. ipaŋ- (i+paŋ)

ipam-bətbət 毛抜き <bətbət 毛を抜く, ipananawar 網 <mitawar 編む。

4. ipatsi- (i+patsi)

ipatsi-pinapina 賣る。

5. maka- (ma+ka)

maka-pi-pija 改良す <pija 良, maka-ala 上陸す <ala 陸, mak-amuŋ 漁る <amuŋ 魚, maka-(a)ša 一回 <aša 一。

6. mika- (mi+ka)

miku-aju 増水す <aju 河。

7. mipa (mi+pa)

mipa-laku 増大す <laku 大。

8. ma-, maŋ- は複合接頭辭となる時は -pa-, -paŋ- に變ず。

√lama > manama > matsipanama.

3. 挿入辭, -um-, -in-.

1. -um- 動詞

t-um-inun 織る > tšinun-an 織機, t-um-ita 見る, ū-um-a'əŋ 花咲く <ša'əŋ 花, -um- は接頭辭としても用ふ。 um-ratši 踏る, um-ušok 降る, um-la'βi 泣く。

2. -in- 完了

m-in-a'akak 死せる[もの], p-in-atojun 招待せられし人 <ma-patojun 招待者。

4. 接尾辭, -an, -in.

1. -an,

a) [場所] kal-an 穴 <mika'xi 掘る。

b) [道具, 物] tšinun-an 織機, ū-um-lep-an 入口 <s-um-lep 入る。

2. -in, 動作を受け或は關聯する[者, 物]を示す。

rakatin 殺さる[人] > ma'akak 死す, tšitaŋin 見らる人 或は物, ašin-in 鹽漬, a'βi-ja'βiŋin 命を有するもの, 生物 <βiŋai 命。

5. 接頭辭接尾辭併用

1. ka-an 場所

k-anitowan 墓場 <anitu 魂, ka-lataj-an 平地 <lataj 平なる, ka-βatu-βatu-wan 石原 <βatu 石。

2. -in は各種の接頭辭と併用さる。

pi-pa'it-in 交換物 <pa'it 交換す。

6. 反覆, 部分反覆と全部反覆とあり。[強意][繼續][多種][類似][道具][數量]を示す。

1. 部分反覆

強意: -pi-pija 極良 <pija。

繼續: -matsitatsita 探す <matsita 見る。

多種: -toko-tokon 山々 <tokon 山。

類似: -a'βa-βaŋ 玩具の舟 <a'βaŋ 舟。

道具: -inu-inun-an 水壺 <minum 飲む。 pa-patok 槌 <patok 叩く。

數量: -da-luwa 二人 <luwa 二, ta-t'lu 三人 <t'lu 三。

2. 全部反覆,少数の例あり。
mi-ta-taṅ-taṅ 叩く <taṅ mi-ku-kum-kum 握る。
7. 終音節の反覆の特殊の例あり。
paṅa-pa 壺一杯の分量 <paṅa 壺, 比較 pa-paṅa 土器類。

IV. 品 詞

1. 冠 詞

普通冠詞	主 格 (は) u	比較, Batan	u
	屬 格 (の) nu		nu
	處 格 (に,へ) ḍu		ḍu
	其他の格 su		su
人稱冠詞	主 格 si	比較, Batan	si
	屬 格 ṅi		ṅi
	處 格 ḍzi		ḍi
	其他の格 si		si

2. 冠詞の用法に不一致なる例あり。

(j)abu u kujiṣ 山羊は無し, abu nu mamaṣiṅ ṣu kanin 饗宴をせず, abu ṣu kanin 食物を欠く, (a)mijan は或は u, 或は ṣu, 或は nu の冠詞をとる。

3. 處格冠詞 ḍu は接頭辭 i と結合し, ḍzi- となる, i-tanaṣai 火燒島, ḍzi-tanaṣai 火燒嶋へ。

4. 代名詞

	格	單 數	複 數	
			除對話者	含對話者
一人稱	主 格	jako, jakin	kami, jamin	jatin
	屬 格	ko	namin	ta, ta-kamu
	處 格	ḍzakin	ḍzamin	ḍzatin
	其他の格	jako, jakin	kami, jamin	jatin
二人稱	主 格	imu	kamu, injo	
	屬 格	mu	njo	
	處 格	ḍzimu	ḍzinjo	
	其他の格	imu	kamu, injo	

三人稱	格	單 數	複 數	
		主 格	sja (sjaṅawau 彼等八人 sja 複數に用ふる例もあり)	ṣiḷa
		屬 格	na	ḍa
		處 格	ḍzija	ḍziḷa
其他の格	sja	ṣiḷa		

5. 二人稱單數 ka は命令法疑問文にのみ用ふ。

maī ka ḍzija! 汝此處に來れ, ano maṅa maṅai ka? 何時汝は行くか。

6. 時相, 嚴格なる意味に於て IN. 動詞は名詞にして, 動詞的名詞の明瞭なる時相は ṅi- を以て示さる。[過去完了]形のみなり。

語根 $\sqrt{\text{gap}}$ 取る。

- maṅ- maṅap 取る者,取る, 現在,未來。
ṅi- ṅimaṅap 取りし者,取れり, 過去。
-in agapin 取る者,取る, 通時(現在,未來, 過去)。
ṅi-an ṅipaṅapan 取りし處,取りし物,過去。

maṅap ko ṣu panai 我は茶碗を取る。 ṅimaṅap ko ṣu panai 我は茶碗を取れり。 agapin ko u panai 茶碗は我に取らる。

語根 $\sqrt{\text{tsita}}$ 見る

- ma- maṣita 見る人,見る。 現在,未來。
ṅi- ṅimaṣita 見し人,見たり。 過去。
-in ṣitaṅin 見らるもの。 通時。

反覆形 maṣitaṣita 探す(人) 繼續。

語根 $\sqrt{\text{inom}}$ 飲む

- minom 飲む人 現在,未來。
ṅiminom 飲みし人 過去。
inomin 飲まるもの,飲用水,飲まる, 通時。
ṅinomin 飲まれし飲料,飲まれたり 過去。

語根 $\sqrt{\text{kan}}$ 食す。

- um- koman 食す人,食す。 現在,未來。
ṅikoman / ṅijakan 食せしもの,食せり。 過去。
kanin 食物,食せらる。 通時。

7. 命令法,語根或は -in 形を用ふ。

inom 飲め, akan 食へ,
agapin 取れ, tsitagin 見よ,

8. 結辭

1. a 形容詞と被修飾語とを結合す。

例, [aku a βaŋa 大なる壺, malaβaŋ a poŋso 白嶋,
niasin a ašiši 鹽肉, manakaū a tau 盗人,
a の代りに冠詞 nu を用ふ例あり、(彼等の説明に依れば良き用法にあらずと)
(apija nu kanin 良き食物, maβalaŋ nu a|au 熱き太陽,
kaβuwan nu i|iki 外の村々, ikapitu n a|au 七日目,

2. ka 數詞と共に數量を示す。

aša ka tau 人一人, aša ka amuŋ 魚一尾,

9. 助辭

1. am 主題となる語或は句と述語或は述語的句との中間に來り兩者を結合す。ある表現の次にそれに關聯する表現ある時は頻繁に用ひ句と句と結合する(而して)の輕き意味に用ふることあり。

u nitomunton am βunitan u nijakan da / mika|akala|a šila (am) makatsita šu a|iki
a šu|ī 原文779頁1行、次は百合が彼等の食物となり、彼等は探すと小さな水芋を見出す。

2. ta 接續詞的助辭にして理由を示す。

ta maŋap ku šu kašū|iq 私は山羊を取る故に。

3. |ana 副詞的助辭にして動詞と共に用ひられ「完了」を示す。

ŋimaka|ala |ana 上陸せり(過去完了), amijan |ana du tokon 山に在り(現在完了)。

1. ヤミ方言

(jami)

1. イモルツ社傳承洪水神話

- ⁴ umjut u (w)awa maŋtsi / ŋimutau
退潮になる(冠) 海水は 潮干になる 海岸へ行った
⁵ mami|ī šu kanin / maŋai du ilawud /
(3) 孕女は (冠) 行く (冠) 沖へ
⁶ βalikudūn u gagan / tumamuno u (w)a-
副種(冠)の(冠) 白石は 出る (冠) 海水
⁷ wa / mipa|a ku u (w)awa? / maŋai |ana
は 増大する (冠) 海水は 来る すでに
⁸ du šikišiki nu i|ī? / to mipignip |ana
(冠) 端に (冠) 村の 此處 充てる すでに
⁹ maŋai du kagašan / maŋai |ana du
行く (冠) 森へ 行く すでに (冠)
¹⁰ tipato / mipa|aku u (w)awa / tu rana gnip
山頂へ 増大する (冠) 海水は 此處 すでに 被ふ
¹¹ du tokotokon / abu |ana no mavijai u
(冠) 山々に於て 無 すでに (冠) 生きる(者)(冠)
¹² kujiš kanu kagušiq kanu manok kano
豚 及び 山羊 及び 雞 及び
¹³ ka|am |uŋ-soŋ |ana marakat / abu no
鼠 總て すでに 死ぬ 無 (冠)
¹⁴ kanin no tau? |uŋ-soŋ marakat |ana u
食物 (冠) 人の 總て 死ぬ すでに (冠)

1. イモルツ社傳承洪水神話

潮が退いて潮干になった。孕女が
海岸へ行つた。沖へ行つて、白石を顛
覆すると、潮が湧き出た。潮は増して
來て、村の端まで來てしまった。[潮は]
充ちて山に來てしまった。山頂に來
てしまった。潮は増して來る。山々
は[潮に]被はれてゐる。豚も山羊も雞
も鼠も生きてゐない皆死んでしまつ
た。人類には食物が無い、皆死んでし
まった。一年過ぎたがまだ潮干にな
らない。二年目が過ぎた。三年目が

採録期：昭和三年八月採集

口授者：imu|ud šit saman-dzaga[it (當時推定年齢50)

説明者：當時紅頭嶼警察駐在所勤務後藤武雄氏(パイワン族出身)。

日常語には巧なるも未だ語彙不完全にして傳説の通譯には少なからず困難を感じたる模様なり、日本語前完全、口授者は好意と忍耐力を缺き口授の反覆を肯ず、止を得ず多くの部分に於て説明の復誦により筆録せり。筆録後口授者に讀み聞かせ發音語句を訂正せしめ、口授者の原口授に近からしめたり。

昭和六年九月再調 原口授者 saman-dzaga[it 及び其他數名の土人につき後藤武雄氏の通譯を以て發音語句の再訂正意義の再調査をなせり。土人以外の者の説明を其儘信するは危険なれば後藤氏の説明は出來得る限り Batan 語との校合により確認する方法を執り以て正確を期せり。されど am, ta, a の結合辭缺如し多少「復誦」の奧を窺得する處あり。後藤氏は結合辭 a の代りに nu を用ひる癖あり、但しこの用法は誤にあらざれば訂正せず。

4. umjut 干潮, mantš 海, 河の水干上る。

ŋimutau 現在, mutau 比較 Batan tao 海。

5. mami|ī šu kanin 「食物を選ぶ者」即ち「選阻せる者」

i|aud i+|aud 比較 Mal. laut 海 i-參照, 文法 III.

1. 6. 山手に對する海手, 沖, 海の向, 外國, 北 (kai|audan) 比較 Batan ilaud 北。

6. gagan 白色の珊瑚礁類。

tumamuno tu mamuno 或は t-um-amuno 疑存。

7. mipa|aku mi-pa|aku <|aku 大。

8. to mipignip to < uito それ、そこ? 「其處に充つ」

場合によりては「斯くして」と譯すべき程輕き意味となり一種の接續詞的用法となる。to の次に a) mi-

ma- の能動動詞形 (to mi|oŋ|oŋsoŋ), b) 語根 (to ŋai), c) da, |ana. (to da muŋot, to |ana mišararakat) の介存する三種の形態あり。

10. tipato 比較 Batan ato 上 ti- 位置を示す。

tu rana gnip 參照, 註 8. to gnip < mipignip (水の) 充滿, 滿潮。

11. tokotokon < tokon 山。

- 1 tau / tumpaŋ makaša kawan abu pa nu
人は 過ぎる 一 年 無 未だ (冠)
- 2 maŋši / tumpaŋ ɖu ikaɖuwa na kawan /
潮干 過ぎる (冠) 二番目 其の 年
- 3 tumpaŋ ɖu ikatuɖu na kawan / tumpaŋ
過ぎ (冠) 三番目 其の 年に於て 過ぎ
- 4 ɖu ikapat na kawan / [a]uwa [ana u tau
(冠) 四番目 其の 年に於て 二人 すでに(冠)人は
- 5 ɖu makaɭan no tokon dzipigapin / kanu
(冠) 高い (冠) 山に於て (地名) 而して
- 6 dzitsakuɭman / [a]uwa [ana u tau / ma-
(地名) 二人 すでに(冠)人は
- 7 kapat [ana kawan abu pa nu maŋši /
四 すでに 年 無 未だ (冠) 潮干
- 8 ikaɭima na kawan / kanu ikanim na
五番目 其の 年 而して 六番目 其の
- 9 kawan / ikapitu na kawan / ikawau na
年 七番目 其の 年 八番目 其の
- 10 kawan / aɭu [ana nu kunu kanu karab²
年 多 すでに (冠) 疎礁貝 及び 夜光貝
- 11 ɖu kaqasan / ikašijam na kawan / nipa-
(冠) 森に於て 九番目 その 年 投ぜら
- 12 šalap ɖu wawa u kaɭam / umujut [ana
れたもの(冠) 海に (冠) 鼠は 退潮する すでに
- 13 a mantši u wawa² / makaɭatip šu (w)a-
(結) 干上る (冠) 汐は 十回す (冠)
- 14 wawan / amijan [ana nu kawuvijan /
年年を 有 すでに (冠) 山芋島
- 15 pitujajan nu (w)awan / aša kawan nu
十 (冠) 年 一 年 (冠)
- 16 pitujajan nu (w)awan / amijan [ana no
十 (冠) 年 有 すでに (冠)
- 17 kakitanan / ikaɖuwa na kawan nu pitu-
里芋島 二番目 其の 年 (冠)
- 18 jajan nu (w)awan / ikatuɖu na kawan nu
十 (冠) 年 三番目 其の 年 (冠)

1. makaša 一回 <aša 一「一年」 makaša kawan, aša ka kawan, aša kawan の三種の音方あり。
2. ikaɖuwa na kawan ika- 順序数詞を示す接頭辭。參照, ikatuɖu 三番目, ikapat 四番目, na はこの場合結合辭の如き働をなすが本質として三人稱單數の代名詞と見るべきであらう。
3. ikatuɖu <atuɖu / atɖu 三。
4. ikapat <apat 四。
[a]uwa <[uwa 二, 二人, 二匹, 人, 動物の數を示す。
類例: - tatuɖu 三人 papat 四人 [a]ɭima 五人, 語根の部分的反覆をなし母音は a に變ず。
[a]uwa [ana u tau …… 「二人の人が高い山のデビ

過ぎた。二人の人が高い山のデビガ
グン及びデチャクルマンに居た。二
人だけだつた。四年過ぎたがまだ潮
干にならない。五年目、六年目、七年目、
八年目、疎礁貝と夜光貝が山の森に深
山あるやうになつた。九年目に、鼠が
海に投げられた。すると潮は退き干
上つてしまつた。十年目には山芋島
があるやうになり、十一年目には里芋
島があるやうになり、十二年目、十三年
目には竹があるやうになつた。十四
年目に、磯が現れて來た。山に木が深
山あるやうになつた。

ガグエ及びデチャクルマンに居た」 dzipigagun に居りし人は男, dzitsakulman に居りし人は女にして彼等は夫婦になり、その子孫は後に「竹部」「石部」の子孫と雑婚せりと。
12. umjut [ana a mantši u wawa mijan / amijan 存在す, tapi / atapi 板 の例に見る如く發聲の a- あり。其と結合辭 a とを判別すること困難なる場合あり。この場合は結合辭と解せり。
14. kawuvijan ka-uvian <uvi 山芋 ka-an 「場所」を示す。
17. kakitanan ka-kitan-an <kitan 里芋,

- 1 pitujajan nu (w)awan / amijan [ana no
十 (冠) 年 有 すでに (冠)
- 2 kawalan / ikapat na kawan nu pitujajan
竹 四番目 その 年 (冠) 十
- 3 nu wawan amijan [ana nu pututin [ana
(冠) 年 有 すでに (冠) 現れた(?) すでに
- 4 ɖu kišaka(n) na / aɭu [ana no kaju no
(冠) 磯に於て その 多 すでに (冠) 木 (冠)
- 5 kaqasan /
森
- 6 tsiɭibana no tau-ɖu-to ɖu karatajan /
彼は見る (冠) 神 (冠) 平地へ
- 7 tšimman no poŋšo no jami kuwana /
良い (冠) 鴨 (冠) (ヤミ) の 日く
- 8 maŋkaš šu [ā'ku no vatu dzipaptok /
落す (冠) 火 (冠) 石を (地名) へ
- 9 migtak u catu / mijanak šu tau u catu /
割れる (冠) 石は 生む (冠) 人を (冠) 石は
- 10 kanin (na) nu tau u paptok / abu šu
食物 彼の (冠) 人の (冠) [草の名] 無 (冠)
- 11 kanin / umušok ɖu ilawud / umiɭiɖa u
食物 下る (冠) 海の方へ 芽生する (冠)
- 12 kawalan ɖu ilawud / migtak u kawalan
竹 (冠) 海の方へ 割れる (冠) 竹
- 13 mijanak šu tau u kawalan / umšok ɖu
生む (冠) 人を (冠) 竹は 下る (冠)
- 14 kaɭatajan u anak no vatu / tumanap u
平地へ (冠) 子は (冠) 石の 登る (冠)
- 15 wanak nu kawalan umlaci / mišimmu
子は (冠) 竹の 泣く 出會ふ
- 16 šila akanu anak no vatu ɖu vutsiq / šinu
彼等 及び 子 (冠) 石の (冠) 芽に於て 誰
- 17 paɭan ta kuwana / tau ta kuwəna / um-
名 我々の 日く 人 我々 日く 經
- 18 šivun / nimaŋai ɖu ilatai u nimigtak ɖu
廻す 行けり (冠) (地名) へ (冠) 現れ出でし者 (冠)
- 19 vatu² / nimaŋai ɖu dziɖašinu u nimigtak
石に於ける 行けり (冠) (地名) へ (冠) 現れ出でし者

神が平地を見て、「善きヤミの島よ」
と申された。デバブトクへ巨石を落
された。石が割れ、石は人を生んだ。
食料は無く、其人はバブトク草を食物
とした。海手へ下りた。海手に於て
竹が芽生した。竹が割れて竹は人を
生んだ。「石の子」は平地へ下り、「竹の
子」は登つて泣いてゐた。茅原で「石の
子」と出會つた。「我々の名は何と云ふ
か」と問うた。「我々は人だ」と答へた。
廻り歩き、石より割れ出た者はイラタ
イへ來た。竹より割れ出た者はイバ
リスへ來た。カサビルガンに居た時、
「竹の子」は銀(貨)を獲た。イラタイへ

3. pututin 觀明者の譯「磯の石が見えるやうになる」「元の通りになる」原意不詳。
6. tsiɭibana = tsiɭiban na 比較 Batan tiban 觀る。-si- の入りし理由不明。
tau-ɖu-to 「天の人」 to 天 比較 tipato 上 Batan ato 上, 天界に種々の神達の住むことを彼等は信ず。神々は下界の人を天界より監視し、若し下界の人凶暴を爲せば罰を與へ、若死、山に於て墜死、海上に於て難

船の現象となり現はると彼等は信ず。
karatajan ka-ratajan <[atai 平なる。
9. mijanak mi-anak anak 子「生む」他動詞の用法。參照 mijanak 「生る」自動詞 754頁 12行, 13行。
14. tumanap (山を) 登る, 比較 kumarat (木を) 登る。
18. nimaŋai ni-maŋai 過去, 行けり maŋai 現在, 行く, nimigtak ni-migtak 過去, 割れたり, 割れたるもの現在 migtak 割れる。

- 1. *ɖu kawalan / ɳimijan ɖu kaʃa:ɖilugan /*
(冠) 竹に於ける 有(過) (冠) (地名)に於て
- 2. *maɳap ʃu tamitamik u (w)anak nu ka-*
取る (冠) 銀貨を (冠) 子は (冠)
- 3. *walan / ɳimaɳai ɖu ilatai ɳimijan dzima-*
竹の 行つた (冠) (地名)へ 存(過) (地名)
- 4. *ʃapau maɳap ʃo vagalan u (w)anak nu*
獲る (冠) 鐵を (冠) 子は (冠)
- 5. *vatu / maɳai ɭana ʃila ɖu vaɳai ɖa*
石の 行く すでに 彼等は (冠) 家へ 彼等の
- 6. *dzika:ɖutsiɖan taɳtaɳin u matsiguɭan a*
(地名) 叩かれる (冠) 堅い (冠)
- 7. *vagalan / taɳtaɳin u tamtamik / migmig-*
鐵 叩かれる (冠) 銀 柔い
- 8. *ma a tamtamik /*
(結) 銀
- 9. *ana'ɭu a gutai nu ɭaluwa / ɭamaɭa-*
長い (結) 陽物 (冠) 二人の 交合せら
- 10. *magin ɖu tuɖ na? / marabtik? u tuɖ?*
れたもの (冠) 膝にて 彼の 大きくなる (冠) 膝頭は
- 11. *na makati / u ɳimigtak ɖu kawalan a*
彼の 痒い (冠) 割れたもの (冠) 竹に於ける (結)
- 12. *tau / mijanak nu wanan na no toɖ na*
人 生れる者 (冠) 右より 其の (冠) 膝頭の 彼の
- 13. *gagakai / mijanak no uri na no toɖ na*
男 生れる者 (冠) 左より 其の (冠) 膝頭の 彼の
- 14. *vavakis / u ɳimigtak ɖu watu a tau /*
女 (冠) 割れたもの (冠) 石に於ける (結) 人
- 15. *mijanak nu wawan na no toɖ na*
生れる者 (冠) 右より 其の (冠) 膝頭の 彼の
- 16. *gagakai / mijanak no uri na no toɖ na*
男 生れる者 (冠) 左より 其の (冠) 膝頭の 彼の
- 17. *vavakis / mijauʃoɳ ʃila mikti miɭama*
女 結婚する 彼等 兄弟姉妹 和合する
- 18. *ʃila mikti mijanak mavuta / pipaɭitin u*
彼等 兄弟姉妹 生れる 盲目者 交換せられたもの (冠)
- 19. *kusuɳ na / u kusuɳ na no anak nu*
妻は 彼の (冠) 妻の 彼の (冠) 子の (冠)

1. ɳimijan ni-mijan 現在 (a)mijan 存在す。
2. maɳap <maɳ/alɳap 比較 agapin 取られるもの。
Batan maɳap 取る ag は ɳ に完全同化せらる。
tamitamik 廣義には「財寶」換義には「銀」同義語：
pijaʃkuɭit, ヤミ人は銀を最上の寶とす、銀 pilak 銀
貨 nirpi。
6. taɳtaɳin taɳtaɳ-in 比較 mitaɳtaɳ 叩く者、鐵治屋。
9. ana'ɭu ana'ɭu 長き ana:ɭu 非常に長き、形容詞の強

行き チマサバウ に滞在した時に「石の
子」は鐵を得た。彼等は チカブチダン
の彼等の家へ歸つた。堅い鐵を叩い
た。柔い銀貨を叩いた。

二人の陽物は長い。自分の膝頭と
交つた。膝頭は太くなり痒くなつた。
竹から割れ出た人の右の膝頭から男
が生れ、左の膝頭から女が生れた。石
から割れ出た人の右の膝頭から男が
生れ、左の膝頭から女が生れた。兄と
妹が結婚して和合すると盲目の子が
生れた。妻を交換した。石から割れ
出た者の子の妻は竹から割れ出た者
の子に妻された。竹から割れ出た者
の子の妻は、石から割れ出た者の子に

形の最後より第二の音節は長音になり高音になる或
は更に反覆せらるることあり。類例: [aku 大] [ã:ku
甚だ大] [aɭã:ku 極めて大]。
[ama]amagin <miɭama 和合す。
13. gagakai / magakai
14. vavakis / mavakis
17. mijauʃoɳ <*uʃoɳ 比較 kuʃoɳ 夫或は妻、連合。
18. pipaɭitin <mamaɭit 交換す * / paɭit

- 1. *ɳimigtak ɖu watu / pikusuɳin ɖu (w)anak*
割れ出た者の (冠) 石に於ける 妻はされたもの (冠) 子に
- 2. *nu ɳimigtak ɖu kawalan / u ausuɳ no*
(冠) 割れ出た者の (冠) 竹に於ける (冠) 妻 (冠)
- 3. *(w)anak no ɳimigtak no kawalan / piku-*
子の (冠) 割れ出た者の (冠) 竹の 妻はせ
- 4. *suɳin ɖu anak no ɳimigtak ɖu watu /*
たもの (冠) 子に (冠) 割れ出た者の (冠) 石に於ける
- 5. *mijanak ʃila mipalu ɭana atulu ɭana ʃila*
子を生む 彼等は 増加する すでに 三 すでに 彼等
- 6. *tapilan /*
重ねたもの
- 7. *mitatala ɭana ʃila / ipanuɳ ʃu kaju /*
造船する すでに 彼等は 切る (冠) 木を
- 8. *masajisaji u tamitamik ɖu kaju? / pi-*
屈曲する (冠) 銀は (冠) 木に於て
- 9. *tupil(i)sun ta agapɳn mu u tamtamik*
交換したもの 我々の 取らるものは 汝の (冠) 銀
- 10. *agapin ku u vagalan /*
取らるものは 私の (冠) 鐵
- 11. *itsakura ku u vugawan /*
欲するもの 私の 銀
- 12. *abu jakuma ʃu vagalan aija /*
無 の如き (冠) 鐵 此(?)
- 13. *ipanijatsijaj ta ʃu kaganan /*
切るもの 我々の (冠) 森のある山
- 14. *ibalatak ʃu wapoapug? nu kaju /*
切り倒す (冠) 太い (冠) 木
- 15. *mapabusbuʃ / tika ɭana u tatala /*
造船祭の祝宴をする 終了する すでに (冠) 舟は
- 16. *taɭunuʃin ɭana pauskin ɭana / manijagib*
逆水をするもの すでに 下されるもの すでに 横木を附す
- 17. *ɖu ɭikuɖ no tatala no ɳimigtak ɖu*
(冠) 舟の外側に (冠) 舟の (冠) 割れ出た者の (冠)
- 18. *kawalan / manijagib ɖu sagad nu tatala*
竹に於ける 横木を附す (冠) 舟の内側に (冠) 舟の

妻された。彼等は子を生み増加し既
でに三代となつた。

舟を造つた。木を切ると、銀は木に
當つて曲つた。「互に交換しませう君
は銀を取りたまへ、私は鐵を取ります」。

白金は我ののぞみぞ
黒金の無きぞ悲しき
山行けば木々をうち伐り
太き樹は伐られ倒れむ
造船祭の祝宴をした。舟は出来上
つた。舟おろしをした。竹部の舟の
外側に横木を附けた。石部の舟の内
側に横木を附けた。竹部の舟はバラ

1. pikusuɳin pi-kusuɳ-in.
6. tapilan tapil-an <*tapil, 比較 pi-tapil 重ね, t-om-
apil 併列す。
7. mitatala tatala 一人乗或は二人乗の小形ボート、詳しく
言へば一人乗は pikataɳijaj 二人乗は pikavagan-
tʃinakuɭan 十人乗の大形ボート。avap, sakajan (イ
ブヨ方言) (汽船其他一般の舟。比較 Batan tataya,
chinengeran, abang, sakayan。
11. 歌謡(特に祭に關係ある古典的のもの)には歌のみを用
ひらる語或は意義不明の語あり、中には歌全體の意味
すら不明の歌あり、彼等の歌謡と稱するものは バタン

語に近くヤミ語の古形ならん、歌謡 itsakura = 現代
語 ikakura 比較 Batan ichakeɳ 好愛。
vugawan は「銀」を意味する歌謡 Batan vuxawan
「金」に比較し得。Batan vugawan 金 > ヤミ歌謡
vugawan 銀、Batan pulak 銀 > ヤミ日常歌 pilak 銀。
12. aija 比較 uija これ Batan aya これ。
16. taɭunuʃin < mata[unuʃ (舟)水面を滑り進む。
pauskin <um-uʃok 降る pa-uʃk-in。
manijagib <jagib / iagib 舟の内側の横木 maɳ-iagib
> manijagib i 母音前の maɳ- は maɳ に變ず、比較
Batan maɳ-iguang 戸を開く。

- ¹ nu nimigtak ðu watu / miwuwak u tatala
(冠) 割れ出た者の(冠) ぼらぼらなる(冠) 舟は
- ² nu nimigtak ðu kawalan / ñimakava² /
(冠) 割れ出た者の(冠) 竹 破壊した
- ³ matalunuş u tatala nu nimigtak ðu
滑る (冠) 舟は (冠) 割れ出た者の(冠)
- ⁴ watu² mañai ðu wawa / magatagatau ðu
割れ出た者 行く (冠) 海へ 浮ぶ (冠)
- ⁵ wawa² / miginip² u ñipak / mañagit²
海に於て 充滿する (冠) 途は 巡しき
- ⁶ kuwana / mañap şu ñalok nu kuñap
日の 取る (冠) 綿を (冠) [草の名]
- ⁷ siksikan u tatala şu valok nu kuñap /
詰めたもの (冠) 舟は (冠) 綿にて (冠) (草の名)
- ⁸ tsimman ñana kuwana / iñiña na u kaju
良好 すでに 彼曰く 木
- ⁹ a ñalok /
(結)の 綿は
- ¹⁰ lima tapilan ðu jipato² u miñalan su
五 重ねしもの (冠) 上に於る (冠) 名とする者(冠)
- ¹¹ tau / umusok takamu dziminavujid² /
人 下る 我々は (地名)へ
- ¹² mijanak ðu ilawud dziminañujid² ñujit u
子を生む (冠) 海の方角に於て (地名) 背地(冠)
- ¹³ kaktib na tau u kkaktib na / umiñiñun
半分は 彼の人 半分 彼の 巡回する
- ¹⁴ ðu guñuk u nimigtak ðu watu / matsita
(冠) 海岸へ(冠) 割れ出た者は(冠) 見る
- ¹⁵ şu mikuşkuş a kujis / ikonno paļu mu
(冠) 鼻で土を掘る (結) 豚を 何 (助) (汝)
- ¹⁶ akañ / agapin mu pala ipatsita mu dzija-
祖父 取るもの 汝の (助) 見せるもの 汝の 私に
- ¹⁷ kin kuwana no (w)akai na / agapin u
曰く (冠) 祖父 彼の 取るもの(冠)
- ¹⁸ (w)anak na nu kojiş / uito (w)akai aku
子は 彼の(冠) 豚の 此 祖父よ 私は
- ¹⁹ niñakib kuwana nu apu na / tsitagin no
捕へたもの 曰 (冠) 孫 彼の 見るもの(冠)

2. ñimakava 現在. makava 組立てしものを破壊(家、椅子等). mañpi 聖きものを破壊(石、硝子等).
3. magatagatau ma-gata-gatau? 比較 magatau 嶋. < Batan tao 海? >
8. isiva mişiva のぞき見る > i-ñiña のぞき見られるもの i- は「道具」の外に受身の意味を有す、寫真を撮ることな mişiva と云ふ、撮影の際にセント板のぞくことより生じたる意義變化。
10. miñalan mi-ñalan <ñalan 名.

バラになり、破壊した。石部の舟は滑つて海へ行き、海に浮んだ。然し途が一杯になった。「駄目だ」と云つた。草綿を取り草綿で舟を詰めた。「素的だ」と云つた。木綿を見つけた。

人といふ名を持つものは上に於て(即ち石の子孫)五代になつた。「ヂミナブイドに降りよう」。海手のチミナブイドで半分は青鳩半分は人間の子を生んだ。石部は海岸をめぐり歩いた。鼻で土を掘る豚を見た。「お祖父さん、何ですか。「取つて私に見せなさい」と祖父は云つた。豚の仔を取つた。「お祖父さん、此は私の捕へたもので」と彼の孫が云つた。祖父さんは見

15. mu akai 呼掛には mu (汝) を附すことあり。類例: mu ama 父さん! mu ina お母さん!
paļu 疑問文に用ひる助辭、「それぢや」「では」位に譯すべきか。比較. Batan paru 疑問文に用ひ疑問の輕き勢を附ける助辭。
16. pala 命令に用ひる助辭 kanin mu pala 食せよ pa (尙)+ [a (すでに)より發せぬものか? >
19. tsitagin <matsita 見る(人)

- ¹ (w)akai na / kuiş mo apu ku kuwana no
祖父により彼の 豚 汝 孫よ 私の 曰彼 (冠)
- ² (w)akai na / añijañijain ta abu no kujis
祖父 彼の 育てられるもの 我々の 無 (冠) 豚
- ³ ta / kuwana no (w)akai na / mañai pa
我々の 曰 (冠) 祖父 彼 行く 續け
- ⁴ siña ðu guñuk matsita şu manok / muñi
彼等 (冠) 海岸へ 見る (冠) 雞を 歸る
- ⁵ ñana ðu ñagai ikonno paļu mu akai aku
すでに (冠) 家へ 何 (助) 汝 祖父 私の
- ⁶ ñimatsita jok-jok kuwana nu apu na /
見たもの (鳴聲) 曰 (冠) 孫 彼の
- ⁷ mañai kamu pala agapin tsitagin ku
行け 汝 (助) 取るもの 見るもの 私の
- ⁸ kuwana no (w)akai na / mañai agapin nu
曰 (冠) 祖父 彼の 行く 取るもの(冠)
- ⁹ (w)apu na / muñi ñana siña / ujito (w)akai
孫により彼の 歸る すでに 彼等は 此 祖父よ
- ¹⁰ aku niñakib² tsitagin mu kuwana no apu
私の 捕へたもの 見るもの 汝の 曰 (冠) 孫
- ¹¹ na / tsitagin no (w)akai na manuk ija
彼の 見るもの (冠) 祖父の 彼の 雞 此は
- ¹² mu apu ku pipaluwun ta kuwana no
汝 孫 私の 増加せるもの 我々の 曰 (冠)
- ¹³ (w)akai / mañai siña dzimañamai / maka-
祖父 行く 彼等は (地名) 見出
- ¹⁴ tsita şu kaguliñ / ikonno paļu (j)aku ni-
す (冠) 山羊を 何 (助) 私の
- ¹⁵ matsita kuwana nu apu na / agapin mu
見たもの 曰 の 孫 彼の 取るもの 汝の
- ¹⁶ pala tsitagin ku kuwana no (w)akai na /
(助) 見るもの 私の 曰 (冠) 祖父 彼の
- ¹⁷ mañai agpin no apu na / ujito akai tsita-
行く 取るもの(冠) 孫の 彼の 此 祖父よ 見る
- ¹⁸ gin mu kuwana no apu na / tsitagin no
もの 汝の 曰 (冠) 孫 彼の 見るもの(冠)
- ¹⁹ akai na / kaguliñ ja mu apu ku / pipalu-
祖父の彼の 山羊 此 汝 孫よ 私の 増加せら
- ²⁰ wun ta u kaguliñ kuwana nu akai na /
nagaの 汝の(冠) 山羊は 曰 (冠) 祖父の 彼の

た。「私の孫よ、豚だ」と祖父は云つた。「我々には豚が無いから育てませう」と祖父は云つた。彼等は海岸へ續進して雞を見た。家へ歸り、私の見たヨクヨクと鳴くものは何でせう。「取つて来て私に見せなさい」と祖父は云つた。孫は取りに行つた。歸つた。「お祖父さん、私の捕へたのは此です、御覽下さい」と孫は云つた。祖父は見た「私の孫よ、此は雞だ、殖やすことにしよう」と祖父は云つた。彼等は ヂマラマイ へ行つた。山羊を見た。「私の見たものは何ですか」と孫は問うた。「取つて私に見せなさい」と祖父は答へた。孫は取りに行つた。「お祖父さん、此です、御覽下さい」と孫は云つた。祖父は見「私の孫よ、此は山羊だ。山羊を殖やすことにしよう」と祖父は云つた。飛魚漁期が来た ヂマラマイ で飛魚を取つた。

2. avijavijain avi-javijai-in <viñai 生命ある。比較. ñin-ñai 生物、接尾辭 -ia は前行の i 音のため前母音化し >-in.
3. pa 尙、未だ、引續き等の「繼續」を示す助辭。

12. pipaluwun 増加せらるもの pi-paļu-un <pa-aļu <aļu 多. -in は前行の u 音のため後母音化 i >-un
19. ja <ija 此.

- 1 milijun siła maḡap lana siła šu ašibapḡap
飛魚漁期来る 彼等の 取る すでに 彼等 (冠) 飛魚を
- 2 ezimaḡamai /
(地名)
- 3 palai dzipaptok a tšinagitakan nu
此處 (地名) 割れた處 の
- 4 tau /
人
- 5 minušok ḡu kanatajan ḡu iḡaud /
下れり 平地へ に 海
- 6 minapaiḡanua sja dzimaḡamai /
飛魚漁開始祭をする (地名)
- 7 ujaku niragpit dzitsakawalan /
私 上つた (地名)
- 8 šušugḡin a minauḡuḡap nu rijar /
松明に點火する 魚 火
- 9 lima tapilan / musok lana siła ḡu
五 重れ 下る すでに 彼等 冠
- 10 iḡawoḡ / mijanak ḡu iḡawoḡ / u matsipu
海の方向へ 子を生じ (冠) 海手に於て (冠) 孕む
- 11 a tau / lima siła tapilan nmusok ḡu
(冠) 人 五 彼等は 重れ 下る (冠)
- 12 katiḡ-tiḡan kanu dzilaḡui na / maḡai siła
(地名) 及び (地名) 其の 行く 彼等は
- 13 ḡu maḡagim nu (w)ajuḡ dzilaḡuḡ /
(冠) 深い (冠) 水へ (地名)
- 14 makaḡala u [a'ku nu aḡap nu iḡana nu
上陸する (冠) 大の (冠) 舟は (冠) 見知らぬ(冠)
- 15 tau ḡu iḡawoḡ / maḡunug ḡu (w)ajuḡ /
人の (冠) 沖に於ける 渉る (冠) 水な
- 16 maḡai uamin dzinuḡ kuwana / bikin ku-
行く 我々 汝等の處へ 日 物れ

1. mišijun 飛魚漁期来る mi-šijun <šijun 飛魚漁期 普通
漁の魚介の漁期は任意なるも、彼等の最も珍重し且つ
漁獲量の多き飛魚 (ašibapḡap) の漁期には厳格なる
戒律存す、panonib (太陽暦の四-五月間)の月の期の
夜 (imuḡud 社) 或は望の夜 (imuḡud 社以外)に開始
し、pikaukauḡ, papatau, pipilapila の月の間即ち四
ヶ月間飛魚漁を行ふ、飛魚漁に關し參照「民俗學」II-1
東京昭和五年一月淺井：紅頭嶼民俗資料(3)。
3. palai 此處、歌語、日常語 dzija 此處。
tšinagitakan 割れた處、k-in-agitak-an 比較、migitak
<割れる。
6. minapaiḡanua m-in-apai-vanua <mi-vanua 飛魚漁
開始の際の「魚呼び」の儀式。
8. šušugḡin 松明に點火す、šu-sugu-ḡin <šugu 松明、
rijar apui「火」の歌語。
šimaḡaon (imuḡud 社) 日授に依れば、

石の人ヂバブトクより、
綿津海へ山を下りて、
大原のヂマラマイに
漁の始を祭る
「竹崎」に舟をつけ
暮たき飛魚を漁る
五代(經て)、海手へ下つた。腹の細い
人間が生れた。五代(經て)カトドトダ
ン及びヂラグイへ下りた。深い河の
あるヂリブンへ行つた。

不詳の海外の大きな舟が到着した。
水を渉つた。「我々はあなた方の處へ
行きます」と(彼等は)云つた。「来ては

palai dzipapok a tšinagitakan /
minušok ḡu kaḡatajan ḡu iḡawoḡ /
minapivanua sja dzimaḡamai /
ukatidiḡan kaḡuvatu vataḡadziḡitupui šu šavilak /
šu jaku niragpit dzitsakawalan /
šoşoguna minawuḡap no rijar /
aḡiḡuš a maḡai wajuḡ ūjat /
「石の人」バブトクを出て
平地に下り チマラマイにて
魚呼びの 祭をなせり
石多き 磯より舟にて
「竹の地」に すなどりに出づ
松明は 魚を點ます
大魚は 力強く引く
14. makaḡala 上陸す ma-ka-ḡala <ḡala 陸地。

- 1 wana / manuwoḡ siła miḡawoḡ siła /
日 歌ふ 彼等は 歌ふ 彼等
- 2 aša ka mijalapalaḡ makojuḡojun /
一 見晴臺 集合
- 3 dzijaminaiḡana dzimailanijug /
? ?
- 4 tabunaiḡaḡibuk taminalamaḡ lana /
? ? すでに
- 5 šitša maimamuluḡ ainagaḡurugaḡ /
? ?
- 6 abu maḡi kamu ta manakaḡi kamu
無 来る 汝等 (接)故に 盗む 汝等は
- 7 kuwana no jami ḡaḡakan no tau no
日 (冠) やみ人 嘯鳴られる (冠) 人に (冠)
- 8 iḡana / abu ḡana no umalam / niḡamaḡi
見知らぬ 無 すでに (冠) 歩く 行つた
- 9 siła ḡu tokan / niḡikararakat ḡana siła
彼等は (冠) 山へ 死んだ すでに 彼等
- 10 ta abo kanin ḡa / [a]ḡaḡku a kadaji
(結)故に 無 食物 彼等の 巨大 (結) 粟
- 11 kakumai gaḡu u ḡijaḡ no kadaji / ḡaḡakan
類似 林投の糞(冠) 糞 (冠) 粟の 嘯鳴られる
- 12 ḡana no tau no iḡana to mipaḡik(ə)i u
すでに (冠) 入にまゝ (冠) 見知らぬ 死なす (冠)
- 13 ḡijaḡ no kadaji ḡana /
糞 (冠) 粟の すでに
- 14 aḡimagaḡana siła u niḡimḡtak ḡu kawa-
六十人) 彼等 (冠) 割れ出た者 (冠) 竹に於
- 15 lan / matsita siła ū ḡaḡaku no (w)amaḡuḡ /
ける 見る 彼等は (冠) 大へん大きい (冠) 魚を
- 16 maḡap siła ū ananaḡuḡ a wuḡiḡ / magna
取る 彼等は (冠) 大へん長い (結) 網を 釣る
- 17 ḡana siła ū ḡaku a amaḡ / kanin ḡa u
すでに 彼等 (冠) 大 (結) 魚を 食ふもの 粟の (冠)

いけないと[我々は]云つた。彼等は歌
つた。

歌意不明

「お前達は泥坊をするから来ちやい
けない」とヤミが云ふと、外國人は嘯鳴
つた。[歩かずに]彼等は山へ行つた。
食物が無く死んでしまった。[昔は]巨
大な粟であつて粟の穂は木の實の様
だつたが、外國人が嘯鳴つたために粟
の穂は段々小さくなつてしまった。

「竹部」は六十人居た。彼等は大き
な魚を見た。長い網で漁つた。彼等
は大きな魚を釣つた。大きな魚を食
べた。大きな釣竿を上げた。大きな

1. 歌語及び其の旋律には種類あり： anuwuḡ (動詞、
manuwuḡ) 祭典及び日常に用ふ、男のみ mikarijak
男女合唱一定の時期に夜間歌ふ、maganam 舞踏歌、
女のみ、miḡawuḡ 古典的歌謡、祭事に用ふ、男のみ、
<iḡaud 外國?>
2. 此歌は海外人の歌を真似しものにして意味知らずと彼
等は云ふ、恐らく古き時代の歌の傳承せられしものな
らん。Batan 語を以て解し得べきも後日の研究に俟
つ。
6. manakaḡi 盗む maḡ- *takaḡi > manakaḡi 比較、Batan
takaḡo 泥均、接頭辭 maḡ- 1. 鼻音 ŋ は語根の頭音と
同化し同種の鼻音に變ず音韻變化あり、mamatok 値

にて叩く <*patok, papatok 値、manawuḡ 値、
<šawuḡ 値、manama 交合す <[ama, mi-]ama
交合す、但し i 以外の母音の時 i ḡ は獲る (i の場
合、參照註) 而して k の場合は k は脱落す。ma-
ḡoşoş 値にて穴を開く <oşoş 値、maḡaḡi 値 < *
kaḡi, miḡaḡi 値 kakahi 土俵棒。
9. niḡikararakat 死せり、ni-mi-ka-ra-rakat <*rakat
比較、maḡakat, rakatin
10. [a]ḡaḡku 甚だ大なる [aku 「大」の強形。
11. kakumai 類似 k(a)-akumai <akumai 類似せる。
12. mipaḡik(ə)i 小さくなる mi-p(a)-aḡik(ə)i <aḡik(ə)i 小。
16. ananaḡuḡ 甚だ長き anaḡuḡ の強形。

- 1 [aku nu amon / pagurin u [aku nu ka-
大 (冠)の魚は 上へ擧げらる(冠)大の (冠) 竹
- 2 walan / agapin da u [aku nu amon /
釣竿は 取るもの 彼等の(冠)大の (冠)の 魚は
- 3 ikuppu ja mu akai kuwana / tsilat ija
何 此は 汝 祖父よ 曰 (魚の名)此は
- 4 mu mapapu ku² / mapai pa sila magna /
汝 孫(達)よ 私の 行く 尙 彼等 釣に
- 5 makamup sila su pawuju² / ikupu ja mu
漁す 彼等は (冠) (魚の名)を 何 此は 汝
- 6 (w)akai kuwana no apu na / pawuju ja
祖父よ 曰 (冠) 孫の 彼の (魚の名)此は
- 7 mu apu ku kuwana no akai na / mapai
汝 孫よ私の 曰 (冠) 祖父の 彼の 行く
- 8 pa sila magna makamup so pura² / ikup-
尙 彼等 釣る 漁す (冠) (魚の名)を 何
- 9 pu ja mu (w)akai kuwana no apu na /
此は 汝 祖父よ 曰 (冠) 孫の 彼の
- 10 pura ja² mu apu ku kuwana no (w)akai
(魚の名)此は 汝 孫よ 私の 曰 (冠) 祖父の
- 11 na / mapai pa magna makamup sila su
彼の 行く 尙 釣る 漁する 彼等は (冠)
- 12 a[aju / ikoppu ja mu (w)akai kuwana nu
(魚の名)を 何 此は 汝 祖父よ 曰 (冠)
- 13 apu na / a[aju ja mu apu ku kuwana nu
孫の 彼の (魚の名)此は 汝 孫よ私の 曰 (冠)
- 14 (w)akai na / paminiminikan palana so
祖父 彼の 命令せられる 其の名 (冠)
- 15 kaju-kaju / gagu ja / palinu ja / gaju ja /
樹木に 此の 此の 此の 此の
- 16 putsid² ja / sapilug-no-manuk² ja / kuwas²
ケキノコグチ
- 17 ja / gu[²u ja / ka[alapi ja / sagapid² ja /
竹の一種
- 18 balapoon ja / apatsi ja / kasijai ja / ka-
戯
- 19 lapbut² ja / [aji ja / paga[i ja / pipija-tamik
此
- 20 ija / pagtak ija / maba[asinujat² ja / taji[as

魚を漁った。「お祖父さん、此は何です
か」と問ねた。「孫達よ、此はチラ、トだ」と答へた。彼等は引續き釣に行つた。彼等はパウユを取つた。「お祖父さん、此は何ですか」と孫は問うた。「孫よ、此はパウユだ」と祖父は答へた。彼等は相變らず釣に行きブラを漁つた。「お祖父さん、此は何ですか」と孫は問ねた。「孫よ、此はブラだ」と祖父は答へた。彼等は相變らず釣に行きアラユを漁つた。「お祖父さん、此は何ですか」と孫は問ねた。「孫よ、此はアラユだ」と祖父は答へた。祖父は種々の樹木に名前を附けた。此は林投、此はグンバイヒルガホ、此はトキハススキ、此は[グテッ、此はケキノコグチ、此は[クソシ、此は[グル、此は[カララギ、此はオホデントワ、此は戯、此は[アバチ、此は[カシヤイ、此は[カラッブ、此はヘクソカヅラ、此は[バガリ、此は[ビビヤタムク、此は[バ

4. mapapu 孫(達)よ map-apu 類例, map-anak map-は「多数を示すといふ説明者の説明、難信、比較 Batan map-anak むすこ、むすめ(単複共に)
5. makamup 漁す, mak(a)-amon < amon 魚。
6. Batan apu 祖父 < ya mi apu 孫, Batan inapu 孫、> ya mi inapu 祖先、全く逆の意義、變遷あり。

14. paminiminikan 命令せらる, pa-mini-minik-an < maminik 命令す, palana 其の名 palan na
15. 植物の和名(かなかき)は臺灣總督府中央研究所佐々木舜一氏の示教に依る。

- 1 ja / anuki ja / papogin ja / minasuvai ja /
- 2 ipi ja / tapi[²o ja / aga[an ja / valitsivit² ja /
- 3 ligai ja / savau ja / akumaji-kadaji ja /
カタバミ
- 4 minatakurus ja / minaubut-no-manuk ja /
- 5 agsigsum-no-kurakuran ja / agisum ja /
コクワレウ
カイダウ
- 6 manakawui ja / kaliliknun ja / kamana-
オホバハマ
- 7 nawa² ja / pagutak ja / pasasapagin ja /
アサガホ
- 8 lunus² ja / kagpa² ja / ka[isid² ja / gag-
コウトウ
イセシテ
- 9 sid² ja / lawun ja / gaipa² ja / kapup
- 10 ja / magaga-so-alamai ja / kakapun ja /
- 11 vananai ja / vararavar ja / lipawu ja /
コウトウ
キツ
- 12 tavalai ja / parsik ja / aptus ja / makoto-
葉
- 13 ršovuwon ja / ragarag ja / avuwa ja /
ヒヨケヘゴ 檳榔
- 14 gawud ja / tualan-avuwa ja / tagtagrap
葛の一種 檳榔の一種 マルバオ
- 15 ja / minajilus ja / ugui ja / upi-nu-vijau ja /
水芋の一種
- 16 maviririgga-a-upi ja / annjui ja / talibatsib
椰子
- 17 ja / aumananjui ja / tamik-no-kavijawan
- 18 ja / tamik-no-kaju ja / vagin ja / avaka
胡蝶蘭 芋
- 19 ja / njaga ja / vinuvi ja / minavatan ja /
芭蕉 芭蕉の一種
- 20 aninipala ja / minai[oko² ja / jipusan ja /
芭蕉の一種 芭蕉の一種 芭蕉の一種
- 21 gujud² ja / kitan ja / miniililau-a-kitan ja /
里芋 里芋の一種
- 22 mijaka suxi ja / ma(va)vawin-a-kuitan ja /
水芋の一種 里芋の一種
- 23 xin-xin ja / ma[alagid-a-kuitan ja / map-
水芋の一種 水芋の
- 24 bara ja / uvan ja / soxi ja / kanato-a-soxi
一種 水芋の一種 水芋 水芋の一種

タ、此は[マバラシスヤ、]此は[タイラ、]此は[アスク、]此は[バゴグ、]此は[ミナスウバイ、]此は[イブ、]此は[タギロ、]此は[アガラ、]此は[ヅリチビ、]此は[リガイ、]此は[カタバミ、]此は[アクマイカダ、]此は[ミナタクルス、]此は[ミナウブ、]ノマス、]此は[アグスス、]ノクラクラス、]此は[コウトウシウカイダウ、]此は[マナカウイ、]此は[カリリ、]ス、]此は[オホバハマアサガホ、]此は[バグタ、]此は[バサバグ、]此は[コウトウスキゼンジナ、]此は[カッパウ、]此は[カデムデ、]此は[ガシセ、]此は[ラウ、]此は[ガイバ、]此は[カーブ、]此は[マガガノアラマ、]此は[カカブ、]此は[コウトウグツキツ、]此は[ブララヴ、]此は[リバウ、]此は[タヅライ、]此は[アブト、]ス、]此は[マコトルンブウ、]此は[ヒヨケヘゴ、]此は[檳榔、]此は[葛、]此は[檳榔、]此は[マルバオニウツギ、]此は[ミナイル、]此は[ウグ、]此は[ウビスグ、]ヤウ、水芋ノ一種、]此は[マブルブルガアウビ、]此は[椰子、]此は[タリバチ、]此は[アウマナニユイ、]此は[タム、]ノカヅヤツ、]此は[胡蝶蘭、]此は[ヅ

- ¹ ja / paton ja / kala[u ja / minapajat ja /
水芋の一變種 水芋の一變種 クレ),此はコウトウアヅカ,此は[ニヤガ]
- ² lunoš ja / luiui ja / šaviu[ug ja / tšipogo?
クサヤバナ モモタマナ バンの水 此は[グイヌヅ,芭蕉の一種],此は[ミナ
- ³ ja / (a)tšaji ja / pa[ki ja / nato ja / kanigin
タイトウユウ カナフ タイトウケル 此は[イブナ,芭
- ⁴ ja / jijaš ja / anu[gu ja / jilak ja / minopaü
ヒメユヅリハ 此は[ミラカスリ,水芋の一種],
- ⁵ ja / paraka ja / wawanan ja / vanigajui
此は[マワウイッアキイタ,里芋の一種],
- ⁶ ja / mi[akamugid ja / mavagupp-a-kaju ja /
カキバイヌサクラ 此は[リュリ,水芋の一種],此は[マララ
- ⁷ aninipra? ja / anam ja / išiš ja / urjaš ja /
グアキイタン,里芋の一種,此は[マシ
- ⁸ agagatin ja / mararawa ja / vatsi[au ja /
ゾウゲボク 此は[ウバ,水芋の一
- ⁹ vasa[gu ja / avugui ja / ma[ab[du ja /
クワシヤウマモ 種,此は水芋,此は[カナトアスリ,水芋の
- ¹⁰ vinuwa ja / wanatši ja / vasago ja / vaniša
アカテツ 一種,此は[バト,水芋の一種],此は[カ
- ¹¹ ja / mavi[ad ja / kamati[dui ja / mara-
コウトウヤフフ ラル,水芋の一種,此は[ミナバヤ,]此は
- ¹² buwa ja / ašijuk ja / tapa ja / kamala ja /
ハマガウ ケガキ ケサヤバナ,此は[ルイ,ルイ],此はモモタ
- ¹³ papa[išu ja / avugui ja / vanaji ja / va-
黒柿 此は[バンノキ,此は龍眼,此は[バリ,
- ¹⁴ natpil ja / papowun ja / šapijin ja / uvak
クワツツ 此はオホバアカテツ,此はタイトウウ
- ¹⁵ ja / apnuwanam ja / galtagit ja / nušo ja /
ルシ,此はイガ,此は[アスグ],此はイラ
- ¹⁶ [abnui ja / pija-šo-pa[an ja / moru[pi ja /
黄楊 此はヒメユヅリハ,此はバラカ,此は
- ¹⁷ kama[šoju ja / toba ja / apatut ja /
コバンノアシ ヤトヤアツキ ワワナ,此は[ワニガユ],此は[ミラカ
- ¹⁸ pa[ki[da ja / a[lijau? ja / tabanju ja / aga-
コウトウギヨ クワシヤウ 此はカキバイヌサクラ,此は(ア
- ¹⁹ gap[itan ja / a[li[paša[au ja / tajutu ja /
ニブラ],此は[アナム],此は[イシ],此
- ²⁰ ta[gtaj[an-no-anito? ja / [agajin ja / tigii
アカギ は[ウヤ],此は[アガガテ],此は[アラ
- ²¹ ja / pu[au ja / apnu[gau? ja / malaša[gu ja /
マルパチシヤノキ ヤナギヤブ ラワ,此はゾウゲボク,此はタチバナア
- ²² aninibrawun ja / va[uk ja / vavagitin-no-
デク,此は[アグワイ],此はクワシヤウダ
- ²³ jaju ja / anajup ja / manavarok ja /
セシヤウモモ モ,此は[グイヌヅ],此は[ワナチ],此は[ワサ
- ²⁴ maratšigi ja / varatšinuk ja / kaširu? ja /
蜜柑 ヒラミレモン ゴ],此はアカテツ,此はコウトウヤツデ

- ¹ ragalap ja / kama[širi[pan ja / arunuk
朱槨 マクバグミ 此は[カマテ,グイ],此は[マラブリ],此
- ² ja / jita[pa ja / va[kiši ja / tabu[di ja / uriš
ハビロドキ 榕樹 榕樹 は[アリユ],此はハマガウ,此は毛柿,此
- ³ ja / gagugagu-no-kura[gu ja / mara[da[gu ja /
タカサゴシマタマ 此は[バガリス],此は黒柿,此は[ブナイ],此
- ⁴ tir-tir ja / paropu ja / ganut ja / ananaru-
タイソ 1ツガシビ ヤアヤ フヨウ は[ブナチ],此は[バゴウ],此は[サギ
- ⁵ ju[gu ja / la[ptak ja / pa[pa[gu[un ja / a[amai
イ,此はクワツツ,此は[アブスワナム],
- ⁶ ja / avjuš ja / tala[gu ja / nunuk ja /
フカノキ 此は[ガムタギ],此は[スソ],此は[ラブ
- ⁷ ši[gu[ba[gu ja / varit ja / monaš ja / liwaš
シマツツ 此は黄楊,此は[モルギ],此は[カマラ
- ⁸ ja / kavau ja / u nimi[gtak [du kawalan
割に出た者は(冠) 竹に於ける ソユ,此はゴバンノアシ,此はヤヘヤマ
- ⁹ am / nima[pai dži[lanumiruk [du raku a
(結) 行つた (地名) (冠) 大 (結) アラキ,此は[バリダ],此はコウトウギヨ
- ¹⁰ pašalan / kapi[pa[u [ana ši[la /
山に近き平地へ 増加 すてに 彼等は クシンクワ,此は[タバニユ],此は[アガガ
- ニタ,此は[アリバサラ],此は[タ
- ユト],此は[タタランノアニト],此は
- [ラガイ],此はアカギ,此は[ブラウ],此
- はマルパチシヤノキ,此はヤナギヤブ
- マラ,此は[アニブラウン],此は[ブル],
- 此は[ワグテ,ノヤユ],此は[ヤナユ],
- 此はセンダンキササゲ,此は[アラチギ],
- 此は蜜柑,此はヒラミレモン,此は朱槨,
- 此は[カマナシリガ],此はマクバグミ,
- 此はハビロドキ,此は榕樹,此は榕樹,此
- は[ウリ],此は[ガググノクラ],此は
- タカサゴシマタマ,此はタイソニイチ

10. kapi[pa[u 増加 ka-pi-pa[u <pa[u 多, 接頭語 ka-形 は「状態」を示す名詞なるも, 述語として用ひらる場合

は動詞の如き役目をなす. 類例. kapi ko 「私の行くこと」即ち「私は行く」.

ゴ,此はミツガンビ,此はヤマアサ[又は
フヨウ],此は[アナナルユン],此は[ラ
タ],此は[バルバグ],此は[アラマイ],
此は[アツユ],此は[フカノキ],此は[ス
],此は[スグバ],此は[シマトウブル],
此は[モナス],此は[リソ],此は[カズ].
「竹部」は海岸に近い広い平地のイラ
スミルクへ行つた。彼等は増加した。

「石部」は「我々はデトガに行かう
ちやないか」と云つた。其處で木に附
著してゐた水芋を取つた。斯くして
水芋が創つた。

歌意不明

- 9. nimigtak du vatv a tao mapai takamu
割れ出た者 (冠) 石に附着する(結) 人 行く 吾々
- 10. dzitopna kuwana / uli nipapapan su suai
[地名] 日 昔々に 取つた處 (冠) 水芋な
- 11. nimijan du kaju / uli nipupajanan su
有つた (冠) 木に 昔々に 有るやうにした處 (冠)
- 12. suai /
水芋な
- 13. anu pamitsukuna su kawui
時 釣り上げる (冠)にて 竹
- 14. akumaji malarad nu karamana
同じ ? 常に行く
- 15. akumaji vandzan nu malalanjau
同じ 竹の節 ?
- 16. vinatovato lalawan [a sinavon /
? 魚の干場 子供
- 17. dzimaka[okat jamatsiloko /
魚が来ない(?) ?
- 18. kasanivan nu mapawud nu pinala-
? 滑ぐ
- 19. dziwan /
?
- 20. nimirakat [ana u ama nu nimigtak du
死んだ すでに(冠)父は (冠) 割れ出たものの (冠)
- 21. vatu dzitopna / a kapai [ana džiwaokunon /
石に於て [地名] (結) 行く すでに [地名]

9. takamu ta (一人稱複数含對話者形) + kamu (二人稱
複数 なる代名詞複合形, ta のみにてすでに含對話者
形なるしかく重複したる形式もあり。
10. nipapapan 取りし處, ni-p-apap-an <mapap 取る。
11. nimijan 存せり(過) <[a]mijan 有(現在),
nipupajan 有るやうにせし處, <[a]mijan 有? 比較。

topajan 住む處。
13. pamitsukuna (釣り)上り(歌語)現代日常語 vagurin
16. vinatovato ? v-in-ato-vato <vato 石?
sinavon / sisinavon (歌語) 日常語は sisivugun 祖先よ
り子孫まで代々。
21. kapai 行くこと <mapai 行く。

- 1. mijanak sila vawoknuq u kaktib na /
生む 彼等 [魚の名] (冠) 半分 共
- 2. tau u kaktib-na / nimigtak du kaju nu
人 (冠) 半分共 割れ出る (冠) 木より (冠)
- 3. tigii u tau dzimuwasik / mapai takamu
[木の名] (冠) 人 [地名] 行く 我々
- 4. dzida no tau dzipilatajan kuwana / tu-
彼等へ (冠) (人) [地名] 日
- 5. malilis takamu amapai dzilaggitan kuwa-
下る 我々は 行く [地名] 日
- 6. na / mijanak sila mipalan su sirmagpit /
生む 彼等 名附く (冠) [人名]
- 7. mapai takam du tilagim / mijanak am
行く 我々は (冠) 下の地へ 生む (結)
- 8. mipalan su sipaligig / kaluwan takamu
名附く (冠) [人名] 出る處 我々の
- 9. mapai ta dzimaliwudwud / mapai takamu
行く 我々 (地名) 行く 我々
- 10. du (w)alu a tau dzimasik / majanak am
[冠] 多く (結) 人へ [地名] 生む (結)
- 11. siminalsoquvai /
[人名]
- 15. nimakas dzijakumai-molon u tarak /
落下した [地名] (冠) 神は
- 16. niagap da no tau dzimasik u tarak /
取つた者 彼等の(冠) 人 [地名] (冠) 神は
- 17. niagap da no tau dzivatan u tarak /
取つた者 彼等の(冠) 人 バタン (冠) 神は
- 19. mijanak siminalsoquvai papat nu anak /
生む [人名] 四人 (冠) 子
- 20. siminamawawa u laki / mijanak u laki
[人名] (冠) 總領 生む (冠) 總領
- 21. siminamatod / matsivusui sila / nirakat
[人名] 互に殺す 彼等は 死んだ

等は半分はゾクノンといふ魚であ
り,半分は人間である子を生んだ。デ
ムアシワクに於てトグイの木から人
が生れ出た。「デビラタヤンに住む人
達の處へ我々は行かうちやないか」と
云つた。「我々は山を下つてデラグビ
タンへ行かうちやないか」と云つた。
彼等は子供を生んだシルマグビット
と名付けた。「下の地へ行かうちやな
いか」子供が出来たシガリググと名付
けた。「我々は此處を出てデマリウド
ウドへ行かうちやないか」。「我々は多
くの人の居るデマシクへ行かうちや
ないか」。シミナルソグバイを生んだ。
タラク神がデクマイモロンへ落
下した。神はデマシクの人に補へら
れた。その神はバタン人が来て連れ
て行つた。
シミナルソグゾイは四人の子を生
んだ。その總領がシミナマワワであ
る。シミナマワワは子を生みその總

3. tigii の tstem (?) は saman-manapat の家系なりと云
ふ。
16. tarak 神 tau-du-to 「天の人」の異名(?)或は一部族。
17. niagap 取りし者 ni-agap (取る)。

21. matsivusui 互に殺す, 戦ふ, matsi-vusui 比較. Batan
busui 敵. 接頭辭 matsi- 「相互に」類例. matsi-gina-
gina 交易す。

1 [ana šiminamawawan / miławud no pa-
すてに (人名) 歌 (冠) 彼の

2 maŋai [ana pavujuŋ ɖu malanu /
行く すてに 投入する (冠)に 海中
3 iŋajuwanu ku pasa[awa]aku /
情しい 私 (註)
4 [umu]umu[u luiik ɖa malalamau
[木の名] 幸にある 其 行方不明
5 ravurak /
[人名]

12 miro[o si]a su uvai / pija [ana nu
興ふ 彼等 (冠) 耳飾を 良い すてに(冠)の
13 nakinakim ta / mama[in ta su kanin /
心 我々の 作る (冠)を 食物
14 mivagai ta kuwana / tika [ana nu mivagai
造屋する 我々 日 終了 すてに 造屋する
15 mama[in [ana su kanin / mapatujun ta
作る すてに 食物 招待する 我々
16 [ana su ripuŋ ta milijun ta [ana ta
すてに (冠) 親戚を 故に 我々 すてに 故
17 lijun [ana / marakat [ana u (w)ama na
すてに 死ぬ すてに (冠) 父は 彼の
18 šimina[soguvai / šiminamawawan / akanu
[人名] [人名] 及び

2. pausoŋina 彼の同居人 pa-uŋ-in na <*uŋon 比較 kuŋon 夫又は妻. kuŋon <*uŋon? kuŋon は「俱に住む者」といふ原義か?
4. malanu 海 (歌語) 日常語 awa
7. ravurak は šimina[soguvai].
13. nakinakim 心 <nakim 思考, 憶出す.
14. mivagai 造屋す <vagai 家.
18. šimina[soguvai]の子 šiminawawan と šiminawawan の子 šiminamatod は不和になり遂に決闘まで達み, 其結果 šiminawawan は非業の最後を遂げ, 父なる šimina[soguvai] は子の死を悲み自殺せんとし己の uvai (鬘形の銀或は貝製の装身具の總稱, 狭義には耳

飾はシミナマツッドであつた。親子二人が戦ふ事になり、親のシミナマツッドは死んだ。彼の同居人は歌つて曰く。

海に捨てよと言はれしも
珍のウヰイは惜しければ
岩目に挟み歸りけり
捨てしウヰイを探れども
いづち失せけむ行方なし
岩に生えたる木を抜けば
不思議やあはれ木の下に
輝き渡り現れぬ。

彼等は[シミナマツッドとシミナマツッド]ウヰイを交換した。「伸直りが出来た。饗宴を催し、家を造りませう」と云つた。家が出来上り饗宴を催した。「我々の親戚を招びませう、既に飛魚漁期が来たから飛魚漁祭をしませう」父なるシミナマツッドが死ん

飾)を捨てんことを彼の同居人に依頼せり、同居人は惜しく捨て得ず岩の上に置き歸れり、šimina[soguvai] と šiminamatod は和解することとなりその和解の印として uvai を互に交換することになり、然るに šimina[soguvai] は uvai を所持せず困却せり、彼の同居人は其の捨てず岩の上に置き置きしを告げし故に同居人と共に探しに行けり、uvai の置きし處に木生じ uvai の姿なし、如何せんと思ひしが木を抜きしに木の下より uvai 現れたり、と云ふ故事を歌ひしものと云ふ。
šimina[soguvai] si-mina- は故人の人名冠詞。

1 šiminatod / šiminapunumaŋitsu / šimina-
[人名] [人名]
2 punumanaŋad anak na /
[人名] 子 彼の

4 ŋimai u tau ɖu iławud ŋimatsiŋanaŋana
来れり (冠) 人 (冠) 海向の 知己になつた
5 su tau ɖu jami / ŋimaŋai ɖu iławud u
(冠) 人と (冠) 行く 行けり (冠) 沖へ (冠)
6 kaŋanaŋana a tau ɖu iławud ŋimai u
知己の (結) 人 (冠) 沖に於ける 来た (冠)
7 amata[uka tau ɖu iławud / a mipigitakin
外の 人 (冠) 沖に於ける (結) 鉄を有つ
8 ma[al]aŋat a ɖi[aw / ŋi[ak]at ɖa u ka-
悪しき (結) 外国人 死んだ 彼 (冠)
9 ŋanaŋana a jami / akaŋai [ana nu ma[al]-
知己の (結) やみ人 行く すてに 悪い
10 [aŋat a ɖi[au] ɖu iławud / mai [ana u
(結) 外国人 (冠) 沖に於ける 来る すてに (冠)
11 kaŋanaŋana a tau ɖu iławud / adzindza u
知己の (結) 人 (冠) 沖に於ける 何處へ (冠)
12 kaŋanaŋana ku a jami kuwana no tau
知己の 私の (冠) やみ人 日 (冠) 人
13 ɖu iławud / jaba [ana ta ŋipigitakin [ana
(冠) 沖に於ける 無 すてに 故に 射られた すてに
14 nu tau ɖu iławud kuwana no jami / maŋai
(冠) 人に (冠) 沖に於ける 日 (冠) ヤミ人 行く
15 ku ɖu iławud ma[si]ŋiman namin kuwana
私 (冠) 沖へ 喧嘩する 我々 云ふ
16 no kaŋanaŋana a tau ɖu iławud / ka-
(冠) 知己の (結) 人 (冠) 沖に於ける
17 pi[si]ŋiman ɖa nu tau ɖu iławud /
喧嘩する 彼等 (冠) 人 (冠) 沖に於ける
18 maji no ivatan dzimwasiik mi[ts]akajun
来る (冠) バタン人 (地名) 求婚する
19 so koŋon a vavakis inapowan ŋijapunma-
(冠) 逢合を (結) 女 先祖 (人名)
20 nagad / maŋai [ana si]a ɖu iławud /
行く すてに 彼等 (冠) 沖へ

だ。彼の子シミナマツッド、シミナトツド、シミナブヌマニチ、シミナブヌマナガツッドである。

外国人が来てヤミ人と知己になつた。其知己になつた外国人は歸つた。他の外国人がやつて来た。鐵砲を持つてゐる悪い外国人だつた。知己のヤミ人は[殺され]死んだ。悪い外国人は歸つた。知己の外国人が来た。「私の友人のヤミの人は何處へ行つたか」と外国人は問ねた。「外国人に撃たれて既に居ない」とヤミの人々が云つた。「私は海の向うへ行き其人と喧嘩しませう」と知己の外国人が云つた。外国人達が喧嘩した。

バタン人がデムアシクへ来て祖先の女であるシヤブヌマナガツッドに求婚した。彼等は海向へ行つた。バタ

4. ŋimatsiŋana 知己になれり ŋi-matsi-ŋana-ŋana
6. kaŋanaŋa 知己 ka-ŋana-ŋana
7. mipigitakin 鐵砲を有つ <pigitakin 鉄 (同義語), paobun 鐵砲.
8. ɖi[au] / ɖi[i]ŋ 外国人, 他國の, (ヤミ以外の)比較 iławud 主としてフィリッピン方面の人, i[batan] バタン人, imani[ia] マニラ人, フィリッピン人主として多ゴロダ人及び一般の西洋人, pairaŋ 本嶋人, itanasai 大嶋嶋

住人.
11. adzindza 何處へ dzinu (何處)+dzija (此處)? 又「何れ」といふ場合に用ひらる。
13. jaba / abu
17. kapi[si]ŋiman 喧嘩, 比較 ma[si]ŋiman 喧嘩す <*si-man Batan mai[si]man 喧嘩す, Batan mai->ヤミ ma-

- ¹ mijanak d̄u ivatan / laɬuwa u wanak d̄a /
生む (冠) 二人 (冠) 子は 彼の
- ² maktsip̄ s̄ila abts̄il / mamirin d̄a s̄itorijaū
空腹 彼等は 食料缺乏 聞く 彼等 (神の名)
- ³ d̄u to / maɬai takamu dzitorijaū ta
(冠) 天に於ける 行く 我々 「シトリヤウ」へ故に
- ⁴ mabus̄i kuwana / maɬai s̄ila mans̄iksi
食料豊富 日 行く 彼等 水平線の處
- ⁵ kiɬ / tomokagu u analasap̄ d̄a am akiti-
へ行く 引掛る (冠) 帆柱は 彼等の 切られ
- ⁶ ban / j̄ipilima d̄a aktiban / masas̄naɬ d̄a
たもの 五回 彼等 切られたもの 到着する 彼等は
- ⁷ d̄u pon̄so no j̄ivovos / s̄inu mats̄ikiɬijan
(冠) 嶋に (冠) 「イボボス」の 誰 同村人
- ⁸ dz̄ituɬijaū / kuwana no ivatan / jakin u
(冠) シトリヤウの正掛ける 日 (冠) バタン人 私は (冠)
- ⁹ mats̄ikiɬijan dz̄itoɬijaū kuwana no tau
同村人 「シトリヤウ」の 日 人
- ¹⁰ d̄u ivovos / maɬai nam̄on kuwana no
(冠) (地名)に於ける 行く 我々は 云ふ (冠)
- ¹¹ ivatan / ano kamap̄ai agap̄ kamu uja aša
バタン人 若し 行く 取る 汝等 此 一
- ¹² ka ɬap̄ai anu kanin d̄a inju nu gulu /
(結) 芋の葉を煮若し 食ふもの 彼等の 汝等 (冠) 豚
- ¹³ itoɬo mu (u)ja ts̄inap̄ai ta ikakura ka-
與ふ 汝等 此の 芋の葉を 故に 好愛
- ¹⁴ palalajun amap̄ai /
走る 行く
- ¹⁷ dz̄imu (w)avaɬ d̄a minipanananad̄ /
汝等に於る 舟 共 進行した
- ¹⁸ akumakaj̄iapup̄ nanaɬan
軽く滑る 通過する處
- ¹⁹ ɬagaɬau ats̄inamap̄ no aguju /
雨のため上下する 破壊す 大浪うねり
- ²⁰ kad̄z̄itsanaɬasaɬa amanarasar d̄u
磯かに 崩壊する

2. s̄itorijaū 六界の諸神の内の最高の女神。
3. dz̄itorijaū s̄itorijaū の所格。
4. mans̄iksiɬid̄ 水平線の處へ行く <ɬikiɬid̄ 天界、天と海と接する處、maɬ- の ɬ は完全同化をせず逆の同化をして >n
7. mats̄ikiɬijan 同村人、mats̄i-k(a)-iɬi-ɬijan <ɬiɬi 村。

ン島に於て、二人の子を生んだ。食料
 缺乏して彼等は飢えた。天界のシト
 リヤウ神のことを聞いた。「食物が深
 山あるからシトリヤウの處へ行きま
 せう」と云つた。空と海と接する處へ
 至ると、帆柱が引掛つたから切つた。
 五回彼等は切つた。彼等はイボボス
 の嶋に到着した。「シトリヤウの同村
 人は誰か」とバタン人は問ねた。「私は
 シトリヤウの同村人です」とイボボス
 人が答へた。「私達は行きます」とバタ
 ン人は云つた。「もし行くなら一本の
 芋の葉と莖を持って行きなさい、もし
 豚があなた達を食べようとした時に、
 豚の好物だから芋の葉を與へて走つ
 て行きなさい」とイボボス人は云つた。

船は輕げに滑り行く

或は高く又低く

振れつゝ進む其時に

大浪來り船傷み

12. gulu は s̄itorijaū を守護する怪獣にして侵入者あれば喰ひ殺す。
14. kapalalajun 走ること、ka-pa-la-laju-(i)n <ma-laju 走る。
17. minipananad̄ 進行せり、m-in-i-pa-nanad̄ <nanad̄ 通過す、比較 nanaɬ-an 通過する處。

- panuniɬan /
海底
- mupats̄itanab d̄u wawa² agarawagaū /
同じ高さ 海 深い
- ² kap̄ai ɬana d̄u ip̄ato d̄u tau d̄u tu² /
行く すでに (冠) 上へ (冠) 人へ (冠) 天に於ける
- ⁴ kainum ɬana s̄u inuinanman nituɬijaū /
飲む すでに (冠) 水入を シトリヤウの
- ⁵ kauɬi ɬana u anak na / rakatinam̄on
歸る すでに (冠) 子は 彼の 我々の殺す者
- ⁶ kuwana nu anak na niturijaū / tauša ta
日 (冠) 子 彼のシトリヤウの 物に 故に
- ⁷ n̄iminum ɬana s̄u inuinanman no kuwano
飲んだ者 すでに (冠) 水入を 私の 日
- ⁸ niturijaū / kapats̄ijausoɬ ɬana / makasa
シトリヤウの 同居する すでに 一
- ⁹ βugan / makaduwa βugan s̄ila / makateɬu
月 二 月 彼等 三
- ¹⁰ βugan s̄ila / makapat a βugan s̄ila / ma-
月 彼等 四 (結) 月 彼等
- ¹¹ kalima βugan s̄ila / makanim a βugan
五 月 彼等 六 (結) 月 彼等
- ¹² s̄ila / makapitu a βugan s̄ila / makawaū
彼等 七 月 彼等 八
- ¹³ a βugan s̄ila / makas̄ijam a βugan s̄ila /
(結) 月 彼等 九 (結) 月 彼等
- ¹⁴ makasa kawan ɬana / makaɬuwa kawan /
一 年 すでに 三 年
- ¹⁵ makateɬu a kawan / makapat a kawan /
三 (結) 年 四 (結) 年
- ¹⁶ makaɬima kawan / maɬai s̄ila s̄umibu /
五 年 行く 彼等は 山へ行く
- ¹⁷ d̄u taki u tau d̄u ivatan akanu apu na
(冠) 島へ (冠) 人は (冠) バタン 及び 孫は彼の
- ¹⁸ niturijaū / mats̄ita s̄u kaguliɬ / jujauna
シトリヤウの 見る (冠) 山羊を 彼の追ふもの
- ¹⁹ nu apu na / mats̄ita u tau d̄u ip̄atu d̄u
(冠) 孫に 彼の 見る (冠) 人は (冠) 上に於ける (冠)
- ²⁰ ikaɬd̄uɬ / ikon̄go agapan mu kuwana /
(地名) 何 取るものは 汝の 日
- ²¹ jakin nu kaguɬin kuwana / abu agapin
私 (冠) 山羊 日 無 取るもの

嶋は崩れて水底に

船端までも水充てり

天界の『天の人』の處に行つて、シトリ

ヤウ神の水壺から水を飲んだ。彼の

子が歸つて來た。「殺すぞ」とシトリヤ

ウの子が云つた。「私の水壺から飲ん

だから殺しちやいけない」とシトリヤ

ウ神は云つた。一緒に住んだ。一ケ

月間、二ケ月間、三ケ月間、四ケ月間、五ケ

月間、六ケ月間、七ケ月間、八ケ月間、九ケ

月間、一ケ年間、二ケ年間、三ケ年間、四ケ

年間、五ケ年間、バタン人とシトリヤウ

の孫が山の耕作地へ行つた。山羊を

見て、彼の孫は追ひかけた。天界のイ

カルドン人は見た。「何を取りますか」

と尋ねた。「私の山羊を」と答へた。「取

らずに私達と一緒に上へ行きませう。

私の踵を見せてあげませう」と云つた。

晩になつて彼等は踊つた。イカルド

ンの踵が始つた。

4. kainum 飲むこと ka-inum <*inum, minum 飲む。
inuinanman 水入(冠) inu-inum-an <*inum
niturijaū s̄itorijaū の生格。
5. rakitinam̄on rakatin nam̄on

- 同じ水を飲みし者を殺すことは tabu なり。
16. s̄umibu 山へ行く、s̄um-ibu <ɬibu 山。
18. jujauna 彼の追ふ者、jujaun na

- ¹ mu ta mapai ta du ipato² / tsitagin mu
汝の(結)故行く我々(冠)上へ 見るもの 汝の
- ² maganam ku / magib [ana maganam] ana
踊 私の 晩 すでに 踊る すでに
- ³ si[la / itbok [ana u ganam nu ikardog /
彼等 (語彙の)用す(冠) 踊は (冠) (地名)
- dzija katsimui ta gajugajugun ana
不 降雨 (結) 枯れる
- imo /
汝のもの
- tarokok du ipato maisakog su
〔鳥の名〕(冠)於る 上 (笠を)被る
- lapanai /
茶碗
- ⁴ ipantsi da [ana / mapai takamu tsitagin
語す 彼等の すでに 行く 我々 見られる
- ⁵ u maganam du ipato kuwana nu ivatan /
(冠) 踊は (冠) 上に於ける 日 (冠) バタン人
- ⁶ samsaman takamu si[la / agapin takamu
盛まる者 我々の 彼等の(もの) 取るもの 我々の
- ⁷ u ika[ima na vinaga / amijan ku du
(冠) 第五の (其) 窓 居る 私 (冠)
- ⁸ vagai / amijan ka du (a)supanid / amijan
家に 居る 汝 (冠) 家の第二の入口に 居る
- ⁹ ka du sisi[pan / amijan ka du pantaui /
汝 (冠) 家の第一の入口に 居る 汝 (冠) 外に
- ¹⁰ amijan ka du rarak[apan / amijan ka du
居る 汝 (冠) 石垣の階段に 居る 汝 (冠)
- ¹¹ du au[ud / apitoto[agan takamu / malaju
石垣の上の 棟梁に 手渡される 我々 走る
- ¹² takamu [ana / misogogogo takamu kuwa-
我々 すでに (點火して)探す 我々 日
- ¹³ na nu ikardog / tsitagin ta u tamtamik
(冠) イカルドン人 見るもの 我々(冠) 寶物は
- ¹⁴ ta ni[samsaman da jatin jabu ikalima na
我々 盛まれたもの 彼等の 其のもの 無 第五の 其
- ¹⁵ vinaga / jujaun takamo si[la ta pugusun
窓 追跡するもの 我々の 彼等は 故 取返[anaの

4. katsimui 降雨, ka-tsimui <tsimui 雨.
gajugajugun 枯れるもの gaju-gaju-g'un <ma-gaju
枯る.
6. 天に〔tarokok〕と稱する鳥ありて、その鳥現れば晴天と
なる。
maisakog 被る mai-sakog >sakog 笠。 獸に接頭辭
mai- が殘留す。
7. lapanai 茶碗。 =panai 茶碗。
11. vinaga 大形の素燒密にして裝身具貴金屬を收藏す。
12. supanid ヤミの家屋の構造は大略玄關の間と奥の間

雨なくて草木枯れ調む
天ツ鳥椀を被れよ

「他の人に話してから天界の踊を御
一緒に見に行くことにいたします」と
バタン人は答へた。「彼等のものを盗
まうぢやないか。第五番の壺を取ら
うぢやないか。私は家に入る。お前
は家の第二の戸口に居れ、お前は第一
の戸口に居れ、お前は石垣の段の處に
居れ。お前は石垣の上の憩場に居れ。
私達は手渡しをするんだぞ。私達は
走るんだぞ。〔とバタン人は仲間に
命令した〕。「火を點して探さうぢや
ないか」とイカルドンは云つた。「我々

に別れ、玄關の間の戸口を sisi[pan と名け、玄關の
間と奥の間との間の戸口を supanid と名く。
14. rarak[apan ヤミの家屋は石垣を以て周圍を圍み、石
垣の上は家と家との交通路にして、石垣上の比較的廣
き處〔au[ud〕は遊場、休憩場にして、家より石垣の上に
出るには階段〔rarak[apan〕を上る。
16. misogogogo 松明に點火す、點火して探す、<ogogo 松
明。
17. ika[duq には海を見ることは tabu なり。

- ¹ ta / jujaun da si[la malalaju si[la du
我々の 追跡するもの 彼等の 彼等は 走る 彼等は (冠)
- ² ilawud³ u tau du ivatan / matsita su
沖へ (冠) 人 (冠) 沖へに於ける 見る(人) (冠)
- ³ wawa u tau nu ika[duq / marakat si[la /
海を (冠) 人は (冠) イカルドン 死す 彼等は
- ⁴ u nimakatsita su wawa / u tawn nu
(冠) 見た人 (冠) 海を (冠) 人 (冠)
- ⁵ ika[duq abu [ana nu agapin u tamitamik
(地名) 無 すでに (冠) 取らるもの(冠) 寶物は
- ⁶ da pa[avajan takamu kuwana / makanim
彼等の 呪詛 我々 日 六
- ⁷ a kawan si[la / makapito a kawan si[la /
(結) 年 彼等 七 (結) 年 彼等
- ⁸ makawau a kawan si[la / anu ujud kamu
八 (結) 年 彼等 若し 眞實に 汝
- ⁹ anak nu minakim / avija[an mu u:bun
子 (冠) 富人 掃除する處 汝の内は
- ¹⁰ nu a[is[an / ta (a)mijan da[ag atigi nu tam-
(冠) 倉の (結)故に 有 多分 根元 (冠) 寶
- ¹¹ tamik namon kuwana / pi[sitsjugun nu
物の 我々の 日 撫て廻[anaの (冠)
- ¹² gulu / tu mikavuguvugus u pijasuku[is /
竹(冠) 此處 出現する (冠) 寶は
- ¹³ vurnutin nju kuwana / tu manu[is[is[is
眞直に引抜くもの 汝等の 日 此處 引抜く
- ¹⁴ simina[duwan / makoroto[u vonog na
(人名)の 切れる (冠) 分前 彼の
- ¹⁵ niminika[alapan / makorto[u ika[duwa
(人名)の 切れる (冠) 第二回の
- ¹⁶ na nu vonog na niminavuwan / ika[sijam
其 (冠) 分前 彼の (人名)の 第九
- ¹⁷ na kawan / mapai ta [ana ta jaku ikapaui
其 年 行く 我々 +acc (結)故 私は 懐かし
- ¹⁸ si[la du ponso no jami / mamilij[sitorijau
彼等 (冠) 嶋に於ける(冠) ヤミの 聞く (神の名)
- ¹⁹ anu mapai [ana milu[lu[son takamu ipan-
もし 行く すでに 總て 我々 興へ
- ²⁰ ta takamu su kanin / anu mapilub[ubt[un
る 我々 (冠) 食物を 時 集めたもの

の寶物を見よう我々のものは盗まれ
た。第五の壺が無い。取返しに奴等
を追跡しよう」〔イカルドンの言葉〕イ
カルドン人はバタン人を追跡した。
バタン人は海の方へ走つた。イカ
ルドン人は海を見た。海を見た者共は
死んだ。イカルドン人は彼等の寶を
取られなかつたから我々は詛ふと云
つた。第六年目、第七年目、第八年、目も
し誠に富裕の子であれば、倉の内を掃
除すれば、多分最高の寶が現はれるだ
らう」とイカルドン人が教へた。竹で
はたくと、寶が出現した。「眞直に引抜
きなさいと〔イカルドンが〕云つた。シ
ミナブワンは引抜いた。シミナイカ
サラカンの分前は切れた。シミナブ
ワンの二回の分前は切れた。第九年
目、私には紅頭嶼の人達が懐しいから
私達は行かうぢやありませんか」〔紅
頭嶼生のイバタンの女が云つた〕。シ

6. pa[avajan 呪詛 呪術を以て人を病氣又は死せしむ
ること、呪術の方法は赤石、硝子、箭草、を乾かせる茅を
結へ墓場の端に置き呪文を唱へ海を漕り歸す。他の
法は pijasuku[is (裝身具)は鷄の首と頸の中央の頸髪
を一本取り結へ海中に捨つ。
9. avija[an 掃除する處 (a)vija[an <vija[an, vivija[an 箭
草 mivija[an 掃く。

12. gulu gulu no kawalan 極めて巨大なる節體的竹、
比較 gulu 怪塚。
13. manu[is[is[is 引抜く、man[is[is[is 水掌を抜くか如
く引抜く? <su[is 永年?
19. milu[lu[son 總て mi-lu[lu[son <lu[son すべて、
南方支那語體總〔lu[lu[son〕と相通すれど偶然の暗合、
ヤミ語には本島語の移入語無し。

- ¹ ɖa / gunagunajin takamu vaɣai no manok
彼等 捕るもの 我々の 家は (冠) 雞の
- ² ta dzisijapan ŋu pinigatajan nu manak
故 此を食ふべし (冠) 通つた跡を (冠) 雞の
- ³ kuwana no ivatan / dzikamuwagan ɲuɖ-
日 (冠) バタン人 汝等食ふ勿れ 觸れた
- ⁴ ɲuɖ atšitsip u pinigatajan nu manuk /
もの(?) 不潔 (冠) 通つた跡は (冠) 雞の
- ⁵ (a)dzikamawagan ŋija / a kuman kamu
汝等食ふ勿れ 此 (結) 食ふ 汝等は
- ⁶ kuwano no ivovos / nun kuwana no iva-
日 イボボス人 然り 日 (冠) バタ
- ⁷ tan anu kuman kamu a:pin nju ta vaiwaũ
人もし 食す 汝等は 取るもの 汝等の 故 惜しき
- ⁸ kuwana' no ivovos / nun kuwana no iva-
日 (冠) イボボス人 然り 日 (冠) バ
- ⁹ tan lup-ŋon aɣapin ɖa no ivatan / kaɣap
タン人 皆 取るもの 彼等の(冠) バタン人 取る
- ¹⁰ [ana ŋija maɣai [ana ŋija / pakagigipin
すでに 此を 行く すでに 彼等 夜にせられる
- ¹¹ takamu / aɣapin takamu u ininoman
我々の 取るもの 我々の (冠) 水入は
- ¹² ɲituɕiaũ kuwana no ivatan / kaɣai [ana
シトリヤウの 日 (冠) バタン人 行く すでに
- ¹³ maɣap ŋja ɖu maɣip / kajukai kamu
取る 此を (冠) 夜に於ける 起きよ 汝等
- ¹⁴ maɣanako ta / aɖa nijaɣap u ininuman
私の子 故 恐らく 取られたもの(冠) 水入は
- ¹⁵ ku nu ivatan / maɣai takamu juɣawun
私の (冠) バタン人に 行く 我々は 追はれる者
- ¹⁶ ŋimanin takamu ŋija u maɣagit / mi
殺される者 我々の 彼等 (冠) 悪漢 行く
- ¹⁷ takamu [ana / maɣai takamu ɖu jami ta
我々 すでに 行く 我々 (冠) ヤミへ 故
- ¹⁸ aɣu kanikanin kuwana no vavakis nu
多 食物 日 (冠) 女 (冠)
- ¹⁹ jami /
ヤミの

2. dzisijapan 此を食す勿れ dzikamuwagan 汝等食す勿れ、<dzi-ŋija-(ma)ɣ-(k)an? <dzi-kamu-(m)ɣ-(k)an? / *kan 食、比較 k-um-an 食す、kan-in 食物、kan と関係ある、dzi は「否定」を示す。

トリヤウ神は聞いて「もし行くんでしたら我々みんなで食物を上げませう。」「彼等が集めた時、我々は鶏小屋を掃り動かさうぢやないか。雞が通れば食べないから」とバタン人は云つた。「雞に觸れたものは食べちやいけない雞の通つた食物は不潔だ。此を食べちやいけない。あなた達[=バタン人]は食べますか」とイボボス人が云つた。「はい」とバタン人は答へた。「もし食べるなら惜しいからあなた達は取りなさい」とイボボス人は云つた。「はい」とバタン人は云つてバタン人は總てを取つた。「夜になつたら我々はシトリヤウの水壺を取つてやらう」とバタン人は云つた。夜此を取りに行つた。「私の子等よ、起きなさい。私の水壺がバタン人に取られたやうだ、あの悪漢共を追かけて殺したやらうよ」とシトリヤウ神が云つた。「さあ行かう。食物が多いから紅頭嶼へ私達は行きませう」とヤミの女が云つた。

7. a:pin <aɣapin
10. pakagigipin 夜にせられる、夜になる pa-ka-gi-gip-in <ma-gip 夜。
18. kanikanin 種々、食物 <kan-in 食物。

- ¹ maɣari ɖa ŋu (w)asa ka maɣatau /
発見する 彼等 (冠) 一の (結) 嶋を
- ² gumtšin takamu kuwana / manutun ta-
上陸する 我々 日 炊事す
- ³ kamu kuwana / tuɖuginip no maɣataũ /
我々 日 満潮になる 嶋
- ⁴ maɣagit kuwana rumagupit ŋija ɖu tata-
悪い 日 乗る 彼等 (冠) 舟に
- ⁵ la / kaɣai ɖa [ana / maɣari ɖa ŋu asa
行く 彼等は すでに 発見する 彼等 (冠) 一
- ⁶ ka maɣatau / gumtšin takamu kuwana /
(結) 嶋を 降下する 我々 日
- ⁷ umariɖaɣap tuɣiniɖ ɖu ikaruwa na ma-
熱き (海水に)沈む(冠) 第二 共
- ⁸ aataũ maɣai takamu kuwana / rumagpit
嶋に於て 行く 我々 日 乗る
- ⁹ ɖu tata / maɣai takamu [ana ɖu ilala /
(冠) 舟に 行く 我々 すでに (冠) 陸へ
- ¹⁰ amijan ŋija dzikbalat / aɣu mananaũ ɖu
有 彼等は (嶋の名)に 多く ナナウを取る人(冠)
- ¹¹ kisakan u tau / maɣai namon dzinu
海岸に於て (冠) 人 行く 我々は 汝等の處へ
- ¹² kuwana no ikbalat dzikamupai kuwana
日 (冠) イボボス人 汝等来てはならぬ 日
- ¹³ no ivatan / ta dzitamumaka[awa mama-
(冠) バタン人 故 我々は出来ない 漕ぐ
- ¹⁴ koɣ / tšaga ta maka[awa nam:n kuwana /
構はない故 可能 我々 日
- ¹⁵ mai [ana ŋija ɖu jami / maɣasunad ŋija
来る すでに 彼等 (冠) ヤミに 到着する 彼等は
- ¹⁶ dziktib / maɣannjaũ kamu kuwana / ma-
(地名) 初漁せよ 汝等 日
- ¹⁷ kamu ŋu ilik kanu tovo-tovo / maɣai
漁す (冠) [魚の名]及び [魚の名] 行け
- ¹⁸ kamu pala dziakai mu dzi[alalal kuwana /
汝等 (助) 祖父へ 汝等の イララに 日
- ¹⁹ maɣai ŋija dziakai / ikonno annjaũ nju
行く 汝等は 祖父の處へ 何 初漁 汝等の
- ²⁰ kuwana / tovo-tovo kanu ilik kuwana /
日 (魚の名) 及び (魚の名) 日

彼等是一個の嶋を発見した。「上陸しませう」と云つた。「飯を炊きませう」と云つた。潮が満ちて嶋は隠れた。「駄目だ」と云つて舟に乗つた。彼等は行き、一個の嶋を発見した。「上陸しませう」と云つた。第二の嶋は熱いから海水へ入つた。「行きませう」と云つた。舟に乗つた。「上陸しようぢやないか」。彼等はイクバラット嶋に到着した。海岸で澤山の人がナナウを取つてゐた。「我々は君達の處へ行く」とイクバラット人は云つた。漕げるなら構はないんだが漕げないから君達は同乗しちやいけない」とバタン人が云つた。

彼等はヤミ族へ来た。彼等はデクタブへ到着した。「皆さん初漁をなさい」とヤミ生れのバタンの女が云つた。イルクとトボトボを漁した。「イララライのあなたの御祖父さんとどこへ行きなさい」と云つた。「お前達の初漁

3. tuɖuginip 満潮になる、満潮 mi-ginip to ɖa ginip の筆録誤か?
10. mananaũ ナナウを取る人、nanaũ 一種の食料具。
12. dzikamupai 汝等来る勿れ、dzi-kamu-pai <maɣai 同

例: dzi-takamu-maka[awa 我々は出来る。
17. maɣannjaũ (小供を)始めて生む、始めて漁す、(袋共他の器具を)始めて使用する。

- ¹ dzikamupai / asiinin njo sija maJan nju
彼等来てはならぬ 押し除ける者 彼等の 叔父は 彼等の
- ² kuwana / abu [a]aun na jatin nijakai
日 無 許可せられる 彼に 我々は 祖父に
- ³ kuwana / mapai takamu [ana mapanak
日 行く 我々は すでに 子
- ⁴ ko kuwana / mapai takamu maplut su
私の 日 行く 我々 抜取る (冠)
- ⁵ gumut dzikanjuai kuwana / mapawud
若布を (地名) 日 漕ぐ
- ⁶ vavakis / dzinu ja kuwana / dzimavunut
女は 何處 (助) 日 (地名)
- ⁷ kuwana / ijawawavaXi uvigivik kuwana /
日 思出される 砂濱は 日
- ⁸ mapaxipaxit mapawud pa ninagoton /
交代する 漕ぐ 向 (人名)
- ⁹ ijawawavaXi ko uvigivik kuwana / dzinu
思出される 私に 砂濱は 日 何處
- ¹⁰ ja kuwana / dzika[agim kuwana / ijawa-
(助) 日 (地名) 日 思出
- ¹¹ wavaXi ko uvigivik kuwana / gumtsin sija
さる 私に 砂濱は 日 降る 彼等
- ¹² du kiskan / maplut sija so gumut /
(冠) 海岸に 抜取る 彼等 (冠) 若布を
- ¹³ kanu pusipit / mi[up]up[so] sija agapin
及び (海草の一種)を すべて 彼等 取られた
- ¹⁴ kanu katsitsimos / asa inapan u katsitsi-
及び 貝類は 一舟の仕切 (冠) 貝類は
- ¹⁵ mus du avag da / asa inapan u gumut /
(冠) 舟に於て 舟の 一 仕切 (冠) 若布は
- ¹⁶ mi takamu [ana / mapai sija du [ak]da-
行く 我々 すでに 行く 彼等 (冠) 石段へ
- ¹⁷ pan / tausia ta mapai takamu dukuwap /
不要 我々 行く 我々 向へ
- ¹⁸ mapai takamu dxišomarap / mapai sija
行く 我々は (地名) 行く 彼等は
- ¹⁹ dxišomarap / a]u no manupit tausia ta
(地名) 多 (冠) 然い 不要 我々
- ²⁰ ka]owan takamu / mapai takamu dzivaXi-
他の處 我々 行く 我々 (地名)
- ²¹ nu? / to [ana nijan sija u [ako a vanuwa
共處 すでに 立住する者 彼等の(冠) 大 (結) 平地

1. asiinin 押し除ける者 <masiXin 例へば他人を
押し除けその場所を占める、他人を妨害する、他人の
権利を侵害する。
maJan 兩親の兄弟のみならず、妻の父、母が再婚した

は何かと[祖父が]云つた。「トボトボと
イルクです」と[孫達が]云つた。「お前達
は来ちやいけない。お前達の叔父さ
ん達の生活を苦しめるから」と[祖父が]
云つた。「お祖父さんは私達を許して
くれませんか」と云つた。「私の子供よ、さ
あ行きませう」と云つた。女も漕いだ。
[何處だらうね]と云つた。「デマブス
ト」と云つた。「此の砂濱を憶出します
と[ヤミ生れのバタン]の女が云つた。
シナゴトンが交代して漕いだ。「私
は此砂濱を憶出す」と云つた。「何處で
すか」と問ねた。「デカラグン」と答へた。
「私は此砂濱を憶出す」と云つた。彼
等は海岸へ降りた。彼等は若布とブ
シグトを抜取つた。彼等はみんなで
貝類も採つた。貝は彼等の舟の一仕
切あつた。若布は一仕切あつた。「皆
さん一緒に出掛けませう。彼等は石
垣の階段へ行つた。「此處へ来ちやい
けない向うへ行きませう。ヂソマラ

場合の新しい父。
15. inapan 船の内側は横木(jagib)を以て兩側板を保持せ
しむ。横木と横木間の仕切を云ふ。

- ¹ dzivaXinu / to [ana [ijan sija mivagai /
(地名) 共處 すでに 立住する者 彼等は 家を作る
- ² mipa]u [ana sija / mivagai [ana sija
増加する すでに 彼等は 家を作る すでに 彼等
- ³ dzivalinu /
(地名)
- ⁴ mijanak nu inapu namon sapun-]atu-
生まる (冠)より 先祖 我々の (人名)
- ⁵ nan / manijagui nu vušui / anak [ana
恐しい 殺人 子 すでに
- ⁶ siapun-managat niapun-]atunan / mianak
(人名) (人名) 生まる
- ⁷ niapun-manapat anak na šiminarivu aka-
(人名)より 子 彼の (人名) 及び
- ⁸ nu si]ajup / [a]uwa sija nu anak na /
(人名) 二人 彼等 子 彼の
- ⁹ mijanak ni]iminagajon asa ka anak na
生まる (人名)より 一 子 彼
- ¹⁰ šikipas / mijanak nikipas tato]o nu (w)a-
(人名) 生れる (人名)より 三人 (冠) 彼の
- ¹¹ nak na / u ikatato]o na anak nikipas
子 彼の 第三番目の 彼の 子 (人名)
- ¹² mijanak so [ak]ima / inapo na njapon-
生む (冠) 五人を 祖先 彼の (人名)
- ¹³ muakal u asa ka tau / inapo ni]aman-ma-
(冠) 一 (結) 人 先祖 (人名)
- ¹⁴ gato u ika]a]uwa na / inapo njamanribu
(冠) 第二番目 彼の 先祖 (人名)
- ¹⁵ u ikatato]o na / inapo na njamandzagalit
第三番目 彼の 先祖 彼の (人名)
- ¹⁶ u ikapat na / šiminavilivilitin u ikala]ima
第四番目 彼の (人名) (冠) 第五番目
- ¹⁷ na / abu nu mijanak šiminavilivilitin /
彼の 無 (冠) 子を生む (人名)
- ¹⁸ mijanak no inapu namon s]aman itša]a]u? /
生まれる (冠) 祖父より 我々 父 亡

1. to]anap]ian to [ana nijan と切るべきものか nijan.
<amijan 居る?。
8. ヤミの命名法は「子稱」或は「孫稱」にして s]aman-

ッブへ行きませう。彼等はヂソマラ
ッブへ行つた。「大變熱い此處は良く
ないから他處へ行きませう。イゾリ
スへ行きませう。彼等はイゾリスの
廣い平地に住んだ。共處に住んで
て家を作つた。彼等は増加した。彼
等はイゾリスで家を作つた。
我々の祖先から恐しい人殺のシヤ
ブンラトナンが生れ、シヤブンラトナ
ンの子はシヤブンマナガットであつ
た。シヤブンマナガットはシミナリ
ブとシガユンの二人の子を生んだ。
シミナガヨンは一人の子シキガスを
生んだ。シキガスは三人の子を生ん
だ。シキガスの第三番の子は五人の
子を生んだ。其一人はブンムアカル
の先祖であり、第二番目の子はシヤマ
ンマガトの先祖であり、第三番目の子
はシヤマンリブの先祖である。第五
番目の子はシミナにブルブルトウン
の先祖です。シミナブルブルトウン
には子が無かつた。亡き父[シヤマン

dzagalit は「si-dzagalitの父」saman <si-ama-nu.
sapun-]atunan は「si-]atunanの祖父」sapun <si-
apu-nu.

- ¹ [a]uwa nu gagakai papat no vavakis
二人 (冠) 男 四人 女
- ² nanim si]a miktikti / mianak sjaman
六人 彼等 同胞 生む 父
- ³ itsa]anū papat namən a gagakai / nima-
亡 四人 我々の (結) 男 死んだ
- ⁴ rakat aša kakti namən / tato]u namən
一 同胞 我々の 三人 我々の
- ⁵ [ana mavijai a gagakai / papat no kakti
すでに 生きる (結) 男 四人 (結) 同胞
- ⁶ namən a vavakis nima]akat na u tato]o
我々の (結) 女 死んだ すでに (冠) 三人は
- ⁷ asa [ana u mavijai a vavakis / u kakti
一 すでに (冠) 生く (結) 女 (冠) 同胞
- ⁸ ko a gagakai ma]pai si]a dzitaiwan / ni-
私の (結) 男 行く 彼等 小紅頭嶼
- ⁹ mapagpag aka]inaū na ni]a nu pagpag
強風が吹いた 漂流する すでに 彼等 (冠) 強風に
- ¹⁰ nima]pai [ana du ilawud / abu [ana no
行つた すでに (冠) へ 沖 無 すでに (冠)
- ¹¹ nimaji du dzija du pupsu namən /
歸來した (冠) 此處へ (冠) 嶋へ 我々の
- ¹² nimijan [ana si]a du ilawud / mai u
居た すでに 彼等 (冠) へ 沖 来る (冠)
- ¹³ paira]p si]dzinsij u na]ana / nipantsi dzakin
本嶋人 (人名) (冠) 彼の名 話した 私に
- ¹⁴ amijan u kakti mu du ilawud / ta
在す (冠) 同胞 汝 (冠) 海外に (結)
- ¹⁵ nimijanak [ana tsitsakuwaja [a]uwa u
生んだ すでに 今 二人 (冠)
- ¹⁶ (w)anak na no [ak]aki / tatolo u anak-na
子 彼の (冠) 兄 三人 (冠) 子彼の
- ¹⁷ nu ananak /
(冠) 弟

2. u a]aū
太陽

- ²⁰ mavivi u a]aū / ika]i na u anak na
低き (冠) 太陽は 照らすに 彼の (冠) 子は 彼の
- ²¹ mava]a]p du a]aū tu]gin na u (w)a]aū
照らすに 照らす (冠) 太陽に 彼等の 彼の (冠) 太陽は

2. miktikti 同胞全部 mi-kti-kti <mi-kti.
11. du dzija 此處へ dzija にてすでに處格なるも、位置を
示す冠詞 du を重用することあり。

ヂ・カガリットの祖父は子を生んだ。
男二人女四人六人の同胞であつた。
亡き父[シャマンヂ・カリットの父]は
四人の男を生んだ。兄弟の一人は死
んだ。三人の男は生きてゐる。同胞
に四人の女がある。三人は死に一人
の女は生きてゐる。私の兄弟は小紅
頭嶼へ行つた。強風に吹き流されて
海のかなたへ行つてしまつた。此の
我々の嶋へ戻つて来ません。彼等は
既に外國へ行つた。ジンシンといふ
名の本嶋人が来て「お前の兄弟は外國
に居る兄は二人の子を弟は三人の子
を生んだ。」と私に話した。

2. 太陽傳説

太陽が低い[ため]子供は太陽に照さ
れて可哀いそうだ。彼の母は太陽を

20. mavivi / mavivig 後者の形良きか? i の後の g は
歴々開洩することあり。

- nu ina na / marakat u a]aū mipipa]it u
(冠) 彼の 死す (冠) 太陽は 交代する (冠)
- ² (w)agib akanu (w)a]aū / iru na u gapit
夜 と 晝は 照らすに 彼の (冠) 天は
- ³ nu [aku nu tau / maka]a]p [ana u gapit /
(冠) 大きな (冠) 人による 高い すでに (冠) 天は

突き刺した。太陽は死に夜と晝が交
代するやうになつた。巨人が天を押
上げたから天は高くなつた。

3. イララライ社傳承洪水神話

- ⁶ nimika]a su namisil u mami]i su ka-
探した (冠) 食料を (冠) 運ぶ(者)は (冠) 食
- ⁷ nin / ma]pai du ilawud / ni]a]iki]id na u
物を行く (冠) 沖へ 行くものは (冠)
- ⁸ gagan / to da manušot lakc no wawa /
白色の頭 其處 すでに 中から出る 多くの (冠) 海水
- ⁹ nima]ka]a]a [ana / malalaju ama]pai du
上陸した すでに 走り 到る (冠)
- ¹⁰ il]ala / to]ai [ana u wawa du pamušana /
陸に 其處 来る すでに (冠) 海水は (冠) 海岸の砂地に
- ¹¹ mu]si si]a du i]i / agapin da u prapra-
歸る 彼等は (冠) 村へ 取るもの 彼等の (冠) 荷物は
- ¹² tan / a ka]pai [ana du tokon / to mipa]a-
(結) 行く すでに (冠) 山へ 此處 増加する
- ¹³ ku [ana u wawa / ma]pai [ana du tokon
すでに (冠) 海水は 行く すでに (冠) 山へ
- ¹⁴ u wawa / nima]ap su (w)a]sin / amijan
(冠) 海水は 取つた (冠) 鹽を 居る
- ¹⁵ [ana du tokon / abu su kanin am / a]inin
すでに (冠) 山に 缺く (冠) 食物 (結) 照らすに
- ¹⁶ [ana u paputok / a kakan [ana si]a / to
すでに (冠) [草の名]は (結) 食ふ(に) すでに 彼等は 此處

3. イララライ社傳承洪水神話

ナミシルを探した。孕んだ女が沖
へ行つた。珊瑚をひつくりかへした。
海水が澤山出た。走つて陸へ行つた。
海水は濱まで来た。彼等は蕃社へ歸
つた。荷物を取つた。山へ行つた。
海水は増加した。海水は山へ行つた。
鹽をもつて行つた。山に居た。食物
が無かつたから、バプトクに鹽をつけ
て、彼等は食べてゐた。ジビガグンに
多数の人が集つた。食物が無くて彼
等は飢ゑのために、残つた者は十人で

2. gapit 天 比較 Batan xanit 天 IN. lapit 天 i の前
の g は Batan に於て n [n 或は p] に變ず。ヤミに
於て gapit なるも Batan と同じく gapit と發音す
る人もあり。

採録期：昭和六年九月。
口授者：i]a]alai 社 si]anui (男、當時35歳)。
説明者：後藤武雄氏。
原文3及び4は口授者より直接筆録す。[o],[u],[u]は[u]
音の變異に過ぎざるも聞きしよ、書き別けたり。

紅頭嶼地名
dzipigajin イラヨミル社社の南方の高地。
dzitsaku]man ヤニ社附近の山。
dzima]apau イラタイ社の西北の地。
dzikavntsi]an dzipaptok の下方。
dzisibuy 南嶺角。
dz]a]ju dzisibuy の附近。
dzimuwa]sik イモル社社東南の平地。

dziktib イララライ社の附近。
dzika]ajin イララライ社とヤニ社の中間。
[ak]dapan イラヨミル社とイワギヨ社の間
dzisomarap イワギヨ社の西南。

原文に出づる其他の地名は現在不詳のものあり又實地踏
査せざれば説明し難きものもあるに依り除けり。現在ヤミ
族は七社に聚落す：imu]ud (イモル社、地圖にはイマ
ウルと表す)、i]atai (イラタイ社)、ivata]s 社(イワタス社)
jo]u (ヤニ社)、i]a]alai 社(イラライ社)、i]amumi]sik 社
(イラヨミル社)、iva]sinu (イワギヨ社)。

7. niva]iki]id 願置せしめられしもの (niva]iki]id 正しき
か?) <va]iki]id 完了、受動の名動詞、比較 va]iki]id in
(行) 受動の名動詞なるも時は不定なり、即ち過去に
も現在にも未來にも用ふ。
10. i]ala 陸に i]ala i- 場所を示す接頭辭、比較 ni-ma-
ka-]ala 上陸せり(行) V* [ala Batan ka-i-]apa
海岸>ヤミ i-]ala. Batan rapa 山>ヤミ [ala.
to]ai to<uito と解し to]ai と分けたり。

- ¹ miŋonŋonŋon [ana ūila / dzipigagun u a] 集合する すでに 彼等は (地名) (冠) 山の
- ² a tau / to [ana mitsararakat ūila u (結) 人は 共處に すでに 共に死ぬ 彼等は (冠)
- ³ kaŋuwan nu tau / ta maktsin ūila ab 他の (冠) 人 故に 空腹 彼等の 無し
- ⁴ kanin ɔa / u nimaɔuruɔ [ana aŋa pa- 食物 彼等の 後に残つた者は すでに 十
- ⁵ paŋanan a tau / makapugu (w)awawan 人 人 十になる 年
- ⁶ maŋtsi [ana u (w)awa / maŋai [ana ūila 退潮になる すでに (冠) 海水は 行く すでに 彼等
- ⁷ umosok ɔu tiŋagun / maŋai [ana ūila 降る (冠) 下に 行く すでに 彼等
- ⁸ kaŋagin u paŋaɔagai ɔa / nikaɔa no 探される (冠) 家々は 彼等の 破壊された (冠)
- ⁹ (w)awa / nimaŋai [ana patsiununupan ɔu 海水に 行けり すでに 各々自己に關することなす (冠)
- ¹⁰ ixi ɔa / maŋai ūila u karuwan no tau 村に 彼等の 行く 彼等は (冠) 外の (冠) 人は
- ¹¹ dzilanumilik / maŋai dzipaɔsinu u kaŋu- (地名) 行く (地名)へ (冠) 他の
- ¹² wan ɔa / maŋai dzimuɔuɔ / maŋai dziratai 者は 彼等の 行く (地名)へ 行く (地名)
- ¹³ u kaŋuwan ɔa / maŋai dzipataŋ u kaŋu- (冠) 他の者は 彼等の 行く (地名)へ (冠) 他の
- ¹⁴ wan ɔa / maŋai dzijaju u kaŋuwan ɔa / 者は 彼等の 行く (地名) (冠) 他の者は 彼等の
- ¹⁵ maŋai dzilaŋai u kaŋuwan ɔa / to 行く (地名)へ (冠) 他の者は 彼等の 此處
- ¹⁶ miɔuak [ana ūila / miixi / paŋu pa maŋtsi 分裂する すでに 彼等は 村を作る 新しく 尙 退潮する
- ¹⁷ u wawa / ab ɔu pa no kanikanin / u (冠) 海水は 無 未だ (冠) 食物類は (冠)
- ¹⁸ nimanuma kanin ɔa ɔuwon no aɔutan / 始められた 食物は 彼等の 葉 (冠) [草の名]
- ¹⁹ niasin [ana a kakan [ana ūila / u]i 食べた すでに (結) 食す (結) すでに 彼等は 山の

1. dzipigagun イラミルク社の後方の山。
 2. mitsararakat 共に死す, mitsa-ra-rakat <V rakat 死, 接頭辭 mitsa- 互に, 共に。
 5. makapugu 十回 maka-pugu <pugu 十, IN. 系統の pugu (<IN. puloh) は數を數へる時に用ふ。數量(品物の數, 人數)を示す時には aŋa paŋanan を用ふ。paŋanan は「十」單位を示し, 例へば 20 は [uwa paŋanan. awawan 年 aw-awan <awan 年。
 8. kaŋagin 探されるもの, <mikaŋa 探す, vagayagai 家々 <vagai 家。

他の人は一緒に死んだ。十年経てから海水が退いた。彼等はしたへ降りて行つた。彼等は自分の家を探しに行つた。海水に壊されてゐた。各自が自分の村へ行つた。一部はイラスミルクへ行き一部はイワラスへ行き、一部はイモロドへ行き、イラタイへ行つた。一部はイワタスへ行つた。一部はヤユへ行き、一部はイララライへ行つた。かくして彼等は分裂した。蕃社を作つた。海水は退いたばかりだつた。まだ食物は無かつた。彼等の最初の食物はアプタンの葉であつて、鹽をつけて彼等は食べた。そのやうにして昔の人の命をつないだ。次の食物として百合が食べられた。彼等はあちこちと探すと、小さな水芋を見出した。見つけた水芋を地面に埋めた。それから彼等は植ゑた。それ

9. patsiununupan 各々自己に關することなす, 比較, mapunup 道のみ通り道以外を通らずに行く, unupan 自分の所持品を取る場合共取られる物, ɔ/*unup > patsi-unu-unup-an patsi- は matsi- の使役形。
 16. miixi 村を作る, 聚落をなす, mi-ixi <iixi 村。
 18. nimanuma 始められたもの ni-manuma <manuma 最初の, 第一の。
 19. niasin/nigasın 鹽漬にせしもの <asin 鹽 比較, asinin 鹽漬になるもの, 同義語 gana. kakan 食事, ka-kan

- ¹ nikaɔiai [ana u tau no kakuwa / u 生命があつた すでに (冠) 人は (冠) 昔の (冠)
- ² nitomunton am ɔunitan u nijakan ɔa / かにせられたものは (結) 百合 (冠) 発見した 彼等の
- ³ mikaŋakaŋa ūila (am) makatsita ū a a:iki 探す 彼等は (結) 発見する (冠) 小なる
- ⁴ a suxi / niɔoɔo ɔa u nimatsita ɔa a suxi / (結) 水芋を 買つたもの 買つた (冠) 発見した: 買つた (結) 水芋は
- ⁵ a kamuga [ana sija / a kauɔaŋ nja su (結) 植ゑ(る事) すでに 彼は (結) 買つた (結) 彼の
- ⁶ kitan / mipaŋo [ana u kitan / matsita ū 里芋を 増加す すでに (冠) 里芋は 見る (冠)
- ⁷ lanum am / mugagin u pina ɔu lanum / 水 (結) 植ゑられた: (冠) 葉は (冠) 水に
- ⁸ kanin u (w)asina / u nimoga ɔu lanum / 買られる (冠) 球根は (冠) 植ゑられた (冠) 水に
- ⁹ laŋaku [ana u (w)asina / mabuŋui [ana 買つた (結) すでに (冠) 球根は 満腹する すでに
- ¹⁰ ūila u tau / ab ɔu ipitsibtsib ɔa a ɔagalán 買つた (結) 人は 無し 農具 (買つた (結) 鐵の
- ¹¹ ɔu tau no kakuwa / maŋap ūila ū ɔato / (冠) 人に (冠) 昔の 取る 彼等は (冠) 石を
- ¹² piŋaŋin a kaŋuɔaŋ [ana sija / ipitsiptsip 割られた (結) 研ぐ(こと) までに 彼等は 開墾する道具
- ¹³ [ana ɔu taki / muŋunai [ana maŋai u aŋa すでに (冠) 山に取れる 暫時経て すでに 行く (冠) 一
- ¹⁴ ka tau ɔu kiŋakan / makatsita ū nipa- 人は (冠) 海岸に 発見する (冠) 漂着
- ¹⁵ laŋau / atapi a rijon / tsitaŋin [ana / a] 物を 板 (結) 漂着物 見られた すでに 多くの
- ¹⁶ no ɔagalan / niuŋai ɔa ū aŋa ɔa ɔu (冠) 旗 旗に取れる 買つた (冠) 舟を 彼等の (冠)
- ¹⁷ tau ɔu iŋauɔ / kagap [ana sija ɔu ixi / 人に取れる (冠) 海の向うの 取る(こと) すでに 彼は (冠) 村に
- ¹⁸ kakaɔa [ana sija / a katapŋaŋ [ana sija / 買つた(こと) すでに 彼は (結) 叩く(こと) すでに 彼は
- ¹⁹ a kapaŋuŋ [ana sija ū (w)asai / akanu (結) 作る(こと) すでに 彼は (冠) 斧 及び

から里芋をこゝに植ゑた。里芋は増加した。水を発見して、水に葉が植ゑられた。芋が食べられた。水に植ゑたものは、芋が素的に大きくなった。人は満腹した。昔の人には鐵の農具がなかつた。彼等は石を取り、割つて研いだ。山で開墾に使つた。しばらくしてから一人の人が海岸へ行つた。流れ着いた漂着板を発見した。多くの鐵が見られた。外國人が舟を組立てたものである。村へ持つて来た。彼は壊して、叩き、それから斧と芋掘棒を作つた。研いで、山へ木を探りに行つた。彼の家の柱を切るに使つた。それから廣い板を切つた。それから多くの人を呼び歸つた。手傳人に大きな豚と水芋を御馳走することにし、て手傳つた人に澤山食べさせた。板がすつかり揃つたから、家を作ること

1. nikaviai 生命ありき, ni-ka-viai <viai 生命。
 2. nitomunton 次にせられたもの ni-tomunton 或は ni-t-om-un-ton 比較 tomonton 第二。
 nijakan 食物となりしもの ni-jakan <jakan 菜 <i-akan
 3. mikaŋakaŋa 幾度も探す, mi-kaŋa-kaŋa 比較, mi-kaŋa 探す。
 5. nja sija の生格と解すべきか?
 10. ipit-ibtsib 農具, 除草に使用する物, <mi-ibtsib 鳥

の除草す, 接頭辭 i- の「道具」を示す用例なり。 類例, miŋuŋai 捨る > iŋuŋai 捨置。
 12. kaŋuɔaŋ 紙ぐ ɔ/*uɔaŋ 比較, uɔaŋun 紙さしの, 普通單物を紙ぐは taŋimin <*taŋim Batan tarem. taŋimin と kaŋuɔaŋ の區別不明。
 14. nipaŋaŋau 漂着物, <maŋadau 漂流す。
 18. kakava 破壊の状態, </*kava 比較, mikava 破壊す, ka- は接頭辭。